

SYLLABUS 2022

講義要綱

2022 年度

経営学部
経営学科

東京富士大学



講 義 要 綱

SYLLABUS

2022年度

経営学部

経営学科

東京富士大学

— シラバスの利用について —

このシラバスは、2022年度の春学期・秋学期に経営学部経営学科で開講する全授業についてその概要を示してあります。学生の皆さんが1年間の学習計画を立てるための手助けとなるはずです。

シラバスには、授業内容とその達成目標、授業で使用するテキストや参考書、さらに成績評価法、履修条件、授業計画などを記してあります。

履修の際には必ず、「学生要覧」と「授業時間割表」とあわせて参照するようにしてください。また、授業期間中は、「授業計画」のどの部分を学習しているのかを常に確認して、復習および予習の参考にしてください。

※シラバス (syllabus) は、ギリシャ語の *sittuba* すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」または「標題紙」という意味の言葉が語源です。

目 次

履修対象：経営学部経営学科

《総合教育科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
基礎演習Ⅰ	1	2	半期		1
基礎演習Ⅰ（再履修）	2～4	2	半期	浮谷 秀一	3
基礎演習Ⅱ	1	2	半期		5
基礎演習Ⅱ（再履修）	2～4	2	半期	浮谷 秀一	7
社会学	1～4	2	半期	難波 俊樹	9～12
法学Ⅰ（憲法含む）	1～4	2	半期	坂入 遼 長岐 郁也	13 15
法学Ⅱ	1～4	2	半期	坂入 遼 長岐 郁也	17 19
心理学Ⅰ	1～4	2	半期	伊波 和恵 浮谷 秀一	21 23
心理学Ⅱ	1～4	2	半期	伊波 和恵 浮谷 秀一	25 27
哲学	1～4	2	半期	弓削 隆一	29
文学	1～4	2	半期	網本 尚子	31～42
文章表現法	1～4	2	半期	網本 尚子	43～46
生命科学	1～4	2	半期	古田 玲子	47～50
国際関係論	1～4	2	半期	黒澤 愛美	51～54
統計学	1～4	2	半期	松本 勇樹	55～58
就職特講	3～4	2	半期	野沢 牧子 宮地 由夏	59 61
就職特講（留学生対象）	3～4			塩谷由美子	63
コンピュータ・サイエンス	1～4	2	半期	江崎 和夫 黒木 弘司	65 67
コンピュータ概論	1～4	2	半期	江崎 和夫 黒木 弘司	69 71
情報学	2～4	2	半期	鬼木 一直	73～76
情報処理Ⅰ	2～4	2	半期	江崎 和夫	77
情報処理Ⅱ	2～4	2	半期	江崎 和夫	79
多文化理解Ⅰ	1～4	2	半期	黒澤 愛美	81
多文化理解Ⅱ	1～4	2	半期	黒澤 愛美	83
多文化理解Ⅲ	1～4	2	半期	清水 俊樹 池田 盛也	85
多文化理解Ⅳ	1～4	2	半期	隅田 浩司	87
多文化理解Ⅴ	1～4	2	半期	小林 寛典	89
多文化理解Ⅵ	1～4	2	半期	小林 寛典	91

《総合教育科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
健康と運動Ⅰ	1～4	1	半期	井上 航人 田島外志美	93 95
健康と運動Ⅱ	1～4	1	半期	井上 航人 田島外志美	97 99
健康と運動Ⅲ	2～4	1	半期	井上 航人 田島外志美	101 103
健康と運動Ⅳ	2～4	1	半期	井上 航人 田島外志美	105 107
日本語Ⅲ（留学生科目）	2～4	2	半期	糸川 優	109
日本語Ⅳ（留学生科目）	2～4	2	半期	糸川 優	111
日本の社会としくみ（留学生科目）	1～4	2	半期	糸川 優	113
インターンシップⅠ	1～4	1	認定	認定	115
インターンシップⅡ	1～4	1	認定	認定	117
インターンシップⅢ	2～4	1	認定	認定	119
インターンシップⅣ	2～4	1	認定	認定	121
自己開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	1～4	各1	認定	認定	123

《外国語科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
英会話Ⅰ	1	1	半期	木村 直樹 Janet Johnson 菅原 千津 Brent Fialka 渡邊きみ代	124 126 128 130 132
英会話Ⅰ（再履修／留学生対象）	2～4	1	半期	木村 直樹	134
英会話Ⅱ	1	1	半期	木村 直樹 Janet Johnson 菅原 千津 Brent Fialka 渡邊きみ代	136 138 140 142 144
英会話Ⅱ（再履修／留学生対象）	2～4	1	半期	木村 直樹	146
基礎英語Ⅰ	2～4	2	半期	阿部 牧子 北田 敬子 木村 直樹 宍戸カール 高畑 一路 渡邊きみ代	148 150 152～155 156 158 160
基礎英語Ⅰ（再履修）	3～4	2	半期	阿部 牧子	162
基礎英語Ⅱ	2～4	2	半期	阿部 牧子 北田 敬子 木村 直樹 宍戸カール 高畑 一路 渡邊きみ代	164 166 168～171 172 174 176
基礎英語Ⅱ（再履修）	3～4	2	半期	阿部 牧子	178
日本語Ⅰ（留学生科目）	1～4	2	半期	塩谷由美子	180
英語Ⅰ	1～4	1	半期	阿部 牧子	182
英語Ⅱ	1～4	1	半期	阿部 牧子	184
英語Ⅲ	2～4	1	半期	阿部 牧子	186
英語Ⅳ	2～4	1	半期	阿部 牧子	188

履修対象：経営学部経営学科

《外国語科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
TOEIC I	1～4	2	半期	伊藤 満里	190
				宍戸カール	192
TOEIC II	1～4	2	半期	伊藤 満里	194
				宍戸カール	196
フランス語 I	1～4	1	半期	野口 恵子	198
				三富 祐子	200
フランス語 II	1～4	1	半期	野口 恵子	202
				三富 祐子	204
中国語 I	1～4	1	半期	井上 良雄	206
				賽音 吉雅	208
中国語 II	1～4	1	半期	井上 良雄	210
				賽音 吉雅	212
ビジネス英語 I	2～4	2	半期	北田 敬子	214
				宍戸カール	216
ビジネス英語 II	2～4	2	半期	北田 敬子	218
				宍戸カール	220
日本語 II (留学生科目)	1～4	2	半期	塩谷由美子	222

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
経営学	1～4	4	通年	円城寺敬浩	224
				小川 達也	226
				藤森 大祐	228
				山口 善昭	230
経済学Ⅰ	1～4	2	半期	清水 良樹	232
				松田 岳	234
経済学Ⅱ	1～4	2	半期	清水 良樹	236
				松田 岳	238
マーケティングⅠ	1～4	2	半期	上條 典夫	240
				花尾由香里	242
				広瀬 盛一	244
				深澤 琢也	246
				山川 悟	248
マーケティングⅡ	1～4	2	半期	上條 典夫	250
				花尾由香里	252
				広瀬 盛一	254
				深澤 琢也	256
				山川 悟	258
経営心理学Ⅰ	1～4	2	半期	佐藤 恵美	260
				外島 裕	262
経営心理学Ⅱ	1～4	2	半期	佐藤 恵美	264
				外島 裕	266
会計学Ⅰ	1～4	2	半期	石塚 一彌	268
				土井 充	270
				福山 倫基	272
				光澤 美芽	274
会計学Ⅱ	1～4	2	半期	石塚 一彌	276
				土井 充	278
				福山 倫基	280
				光澤 美芽	282
入門簿記Ⅰ	1～4	2	半期	北井不二男	284
				鶴岡 清司	286
				福山 倫基	288
				光澤 美芽	290

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
入門簿記Ⅱ	1～4	2	半期	北井不二男	292
				鶴岡 清司	294
				福山 倫基	296
				光澤 美芽	298
企業論	2～4	2	半期	円城寺敬浩	300～303
				清水 太陽	304～307
経営戦略論Ⅰ	2～4	2	半期	小川 達也	308
				寺部 優	310
経営戦略論Ⅱ	2～4	2	半期	小川 達也	312
				寺部 優	314
経営組織論Ⅰ	2～4	2	半期	高橋 正泰	316
				山口 善昭	318
経営組織論Ⅱ	2～4	2	半期	高橋 正泰	320
				山口 善昭	322
経営情報学	2～4	2	半期	鬼木 一直	324～327
環境経営学	2～4	2	半期	藤森 大祐	328
				山口 豊	330
経営倫理	2～4	2	半期	山口 善昭	332～335
ミクロ経済学	2～4	2	半期	清水 良樹	336
金融論	2～4	2	半期	清水 良樹	338
ファイナンス論	2～4	2	半期	松田 岳	340
会社法Ⅰ	2～4	2	半期	隅田 浩司	342
会社法Ⅱ	2～4	2	半期	隅田 浩司	344
民法Ⅰ	2～4	2	半期	長岐 郁也	346
民法Ⅱ	2～4	2	半期	長岐 郁也	348
経済法	2～4	2	半期	隅田 浩司	350
消費者法	2～4	2	半期	隅田 浩司	352
広告論Ⅰ	2～4	2	半期	荒井 誠	354
				広瀬 盛一	356
広告論Ⅱ	2～4	2	半期	荒井 誠	358
				広瀬 盛一	360
社会心理学Ⅰ	2～4	2	半期	薮 理津子	362
				佐藤 恵美	364
社会心理学Ⅱ	2～4	2	半期	薮 理津子	366
				佐藤 恵美	368
認知心理学	2～4	2	半期	佐藤 恵美	370
リスク・マネジメント論	2～4	2	半期	三好 陽介	372
財務会計論Ⅰ	2～4	2	半期	小森 秀人	374

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
財務会計論Ⅱ	2～4	2	半期	小森 秀人	376
管理会計論Ⅰ	2～4	2	半期	福山 倫基	378
管理会計論Ⅱ	2～4	2	半期	福山 倫基	380
専門演習Ⅰ	3～4	4	通年	石塚 一彌 伊波 和恵 円城寺敬浩 鬼木 一直 佐藤 恵美 清水 良樹 隅田 浩司 土井 充 花尾由香里 広瀬 盛一 深澤 琢也 藤森 大祐 松田 岳 光澤 美芽 山川 悟	382 384 386 388 390 392 394 396 398 400 402 404 406 408 410
専門演習Ⅱ	4	4	通年	石塚 一彌 伊波 和恵 鬼木 一直 佐藤 恵美 清水 太陽 清水 良樹 隅田 浩司 高橋 哲也 土井 充 花尾由香里 広瀬 盛一 深澤 琢也 藤森 大祐 光澤 美芽 山川 悟 山口 善昭	412 414 416 418 420 422 424 426 428 430 432 434 436 438 440 442
プロフェッショナル・セミナーⅠ	2～4	2	半期	石塚 一彌 伊波 和恵 円城寺敬浩	444 446 448

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
プロフェッショナル・セミナーⅠ	2～4	2	半期	小川 達也	450
				鬼木 一直	452
				木村 直樹	454
				清水 良樹	456
				長岐 郁也	458
				花尾由香里	460
				広瀬 盛一	462
				深澤 琢也	464
				藤森 大祐	466
				松田 岳	468
				光澤 美芽	470
山川 悟	472				
プロフェッショナル・セミナーⅡ	2～4	2	半期	石塚 一彌	474
				伊波 和恵	476
				円城寺敬浩	478
				小川 達也	480
				鬼木 一直	482
				木村 直樹	484
				清水 良樹	486
				長岐 郁也	488
				花尾由香里	490
				広瀬 盛一	492
				深澤 琢也	494
				藤森 大祐	496
				松田 岳	498
				光澤 美芽	500
山川 悟	502				
プロフェッショナル・セミナーⅢ	2～4	2	半期	石渡 正人	504
				北原 隆	506
				隅田 浩司	508
				養音 吉雅	510～513
				原 晶子	514
				三好 陽介	516

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
プロフェッショナル・セミナーⅣ	2～4	2	半期	出原 隆史 神渡 良平 佐野 孝行 難波 俊樹 堀口 弘治 明珍 令子	518 520 522 524～527 528 530
プロフェッショナル・セミナーⅤ	3～4	2	半期	緒方 義人 濱松 敏廣	532 534
プロフェッショナル・セミナーⅥ	3～4	2	半期	北原 隆 針谷 和昌	536 538
プロフェッショナル・セミナーⅦ (就職)	3～4	2	半期	野沢 牧子 宮地 由夏	540 542
プロフェッショナル・セミナーⅦ (留学生_就職)	3～4	2	半期	塩谷由美子	544
プロフェッショナル・セミナーⅧ	3～4	2	半期	宇田川素子 大山 利栄	546 548
中小企業論Ⅰ	2～4	2	半期	坂本 高士 山岡淳一郎 山川 悟	550 552 554
中小企業論Ⅱ	2～4	2	半期	青山 和正 山岡淳一郎 山川 悟	556 558 560
ベンチャービジネス論	2～4	2	半期	青山 和正 片山源治郎	562 564
新事業創造論	2～4	2	半期	青山 和正 片山源治郎 野澤 弘宗	566 568 570
経営史	2～4	2	半期	清水 太陽	572～575
人的資源管理論Ⅰ	2～4	2	半期	高橋 哲也 洪 聖協	576 578
人的資源管理論Ⅱ	2～4	2	半期	高橋 哲也 洪 聖協	580 582
キャリア発達心理学	2～4	2	半期	伊波 和恵	584～587
メンタルヘルス・マネジメント	2～4	2	半期	伊波 和恵	588
経営心理学研究法	2～4	2	半期	伊波 和恵	590
知的財産法	2～4	2	半期	高丸 涼太	592
労働法	2～4	2	半期	黒岩 容子	594～597
流通論Ⅰ	2～4	2	半期	深澤 琢也	598

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
流通論Ⅱ	2～4	2	半期	深澤 琢也	600
商品論	2～4	2	半期	田口 冬樹	602～605
消費者行動論Ⅰ	2～4	2	半期	花尾由香里	606
消費者行動論Ⅱ	2～4	2	半期	花尾由香里	608
商業簿記Ⅰ	2～4	2	半期	鶴岡 清司	610
商業簿記Ⅱ	2～4	2	半期	鶴岡 清司	612
工業簿記Ⅰ	2～4	2	半期	福山 倫基	614
工業簿記Ⅱ	2～4	2	半期	福山 倫基	616
原価計算	2～4	2	半期	福山 倫基	618
経営分析論	2～4	2	半期	坂入 遼	620
財務諸表論	2～4	2	半期	光澤 美芽	622
租税概論Ⅰ	2～4	2	半期	三関 公雄	624
租税概論Ⅱ	2～4	2	半期	三関 公雄	626
税務会計論Ⅰ	2～4	2	半期	石塚 一彌	628
税務会計論Ⅱ	2～4	2	半期	石塚 一彌	630
法人税	2～4	2	半期	田中 俊久 我妻 純子	632 634
所得税	2～4	2	半期	田中 俊久 我妻 純子	636 638
論文指導（卒業論文）	4	2	通年		640
簿記技能Ⅰ（日商3級対策講座）	1～4	2	集中	福山 倫基	642
簿記技能Ⅱ（日商2級対策講座）	1～4	2	集中	福山 倫基	644

科目末尾の表記（Ⅰ・Ⅱ）について

Ⅰ：基本的にⅡの科目と連携しており、Ⅱの科目の基礎になります。

Ⅰ・Ⅱの科目を履修することが望ましい。

Ⅱ：基本的にⅠの科目と連携しており、Ⅰの科目の履修を前提とする（Ⅰの上級レベル）。

Ⅰの科目を履修した学生、もしくは同程度の知識を持つ学生が履修することが望ましい。

配当年次について

履修することのできる学年を表します。

1：1年生が履修できる科目です。

2：2年生が履修できる科目です。

3：3年生が履修できる科目です。

4：4年生が履修できる科目です。

1～4：1年生・2年生・3年生・4年生が履修できる科目です。

2～4：2年生・3年生・4年生が履修できる科目です。

3～4：3年生・4年生が履修できる科目です。

(注)「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」、「日本の社会としくみ」は、留学生科目です。

総合教育科目

2022年度

経営学部経営学科

東京富士大学

基礎演習 I	
Foundational Seminar I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業は、高校とは異なる大学での学び方、たとえば、授業の受け方や、授業の内容を理解するのに必要なこと、さらにレポートの書き方や、自分の研究成果を発表するプレゼンテーションの方法等について学びます。

とくに、大学では、自分の知識を組み合わせ、情報を整理し、それを分析することが求められます。そこで必要となるのが「考える力（思考力）」です。今後、生きていく上で最も大切なこの「考える力」を身につけること、これがこの授業の目標です。

また、大学の授業では、一人で勉強するだけでなく、同級生や先輩と一緒に勉強するグループ学習も重要となりますが、最初はあまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、この「基礎演習 I」では、グループで一緒に作業するやりかたについても学習します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心を整える3つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	「心を整える3つの実務IQ」とは、「突破力」（物事に前向きに取り組む力）、「自制力」（自分をコントロールする力）そして「忍耐力」（失敗してもあきらめず、努力する力）です。 授業では、演習や課題に前向きに取り組む姿勢や、自分をコントロールして難しい課題に対しても簡単にあきらめない姿勢、そして課題でうまくいかないことがあっても、それを学びとして前進する姿勢を評価します。	30%
個性を伸ばす2つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	個性を伸ばす2つの実務IQとは「思考力」と『創造力』です。この2つは課題やレポート、そして授業の発言の中で、適切に考え、安易な結論に飛びついていないかどうか、いろいろな情報を整理し、それを組み合わせて新しい発想を生み出しているかどうかを評価します。	30%
仲間や組織で活かす2つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	仲間や組織で活かす2つの実務IQとは、「協働力」と「主張力」です。この2つは、グループ学習での学習姿勢を通じて、グループ学習に前向きに取り組む、周囲に良い影響を与えているか、自分の意見が他の人の意見と違っていてもきちんと自己主張できているかどうかを評価します。	30%
社会常識を身につけることができたか？	授業を受けるに際しての最低限のマナー、社会常識を身につけているか、あるいは授業を通じて、そのような社会常識やマナーを身につけることができたかどうかを評価します。	10%
評価の方法	課題、レポート、授業への参加姿勢を総合的に評価します。 『学生要覧』記載事項に準拠し、単位習得に必要な授業への出席率は3分の2以上を前提とします（この出席率は「単位取得を保証する」というものではありません）。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大学での学びとは？	入学式後のフレッシュマン・オリエンテーションへ参加
2	学び方、考える力を身につける	・ 成果の出る学び方（学習方法）について学びます
3		・ グループワークの基礎を学びます
4		・ 意見を述べる際の議論の組み立て方について学びます
5		・ 意見を整理する方法について学びます
6		レポートを書く
7	レポートを書く	・ レポート作成の基本技術、アウトライン作成を学びます
8		・ 参考文献リストと文献の活用方法について学びます
9		・ 計画的な執筆について学びます
10		・ 効率的なレポートの書き方について学びます
11		プレゼンテーション
12	をする	・ 自分の意見を伝える技術について学びます
13		・ プレゼン資料の作成方法について学びます
14		・ 実際にプレゼンテーションを体験します
15		総括・達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：必須のテキストは特に設けないが参考図書を参照することが望ましい。

◇参考図書：狩野 光伸（著）『論理的な考え方 伝え方:根拠に基づく正しい議論のために』慶應義塾大学出版会、2015年 1,944円

福澤 一吉（著）『議論のレッスン』NHK 生活人新書、2002年 680円

慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員（著）『学生による学生のためのダメレポート脱出法』慶應義塾大学出版会、2014年 1,200円

【履修条件等】

◇1年生全員履修します（選択必修科目です）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習課題が提示された場合は、次回の授業までに確実に課題をこなしてください。

【その他の注意事項】

◇入学式直後に行われるフレッシュマン・オリエンテーションから1回目の授業がスタートします。

担当者	網 本 尚 子	井 上 航 人	小 川 達 也
	木 村 直 樹	塩 谷 由美子	志 塚 昌 紀
	清 水 太 陽	清 水 良 樹	賽 音 吉 雅
	田 島 外志美	長 岐 郁 也	松 田 岳

基礎演習 I (再履修)	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Foundational Seminar I	選択科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

この授業は、高校とは異なる大学での学び方、たとえば、授業をどのように受ければいいのか、そして授業の内容を理解するためにはどのようにすればいいのか、そしてレポートや自分の研究成果を発表するプレゼンテーションの方法等について学びます。

とくに、大学では、いろいろな知識を組み合わせ、自分で情報を整理し、それを分析することが求められます。そこで必要となるのが「考える力（思考力）」です。今後、生きていく上で最も大切なこの考える力を身につけること、これがこの授業の目標です。そして、大学の授業では、一人で勉強するだけでなく、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで一緒に作業するやりかたについても学習します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心を整える3つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	「心を整える3つの実務IQ」とは、「突破力」（物事に前向きに取り組む力）、「自制力」（自分をコントロールする力）そして「忍耐力」（失敗してもあきらめず、努力する力）です。 授業では、演習や課題に前向きに取り組む姿勢や、自分をコントロールして難しい課題に対しても簡単にあきらめない姿勢、そして課題でうまくいかないことがあっても、それを学びとして前進する姿勢を評価します。	30%
個性を伸ばす2つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	個性を伸ばす2つの実務IQとは「思考力」と『創造力』です。この2つは課題やレポート、そして授業の発言の中で、適切に考え、安易な結論に飛びついていないかどうか、いろいろな情報を整理し、それを組み合わせて新しい発想を生み出しているかどうかを評価します。	30%
仲間や組織で活かす2つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	仲間や組織で活かす2つの実務IQとは、「協働力」と「主張力」です。この2つは、グループ学習での学習姿勢を通じて、グループ学習に前向きに取り組む、周囲に良い影響を与えているか、自分の意見が他の人の意見と違っていてもきちんと自己主張できているかどうかを評価します。	30%
社会常識を身につけることができたか？	授業を受けるに際しての最低限のマナー、社会常識を身につけているか、あるいは授業を通じて、そのような社会常識やマナーを身につけることができたかどうかを評価します。	10%
評価の方法 課題、レポート、授業への参加姿勢を総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大学での学びとは？	入学式後のフレッシュマン・オリエンテーションへ参加
2	学び方、考える力を身につける	・ 成果の出る学び方（学習方法）について学びます
3		・ 適切な思考法として、論理の基礎を学びます
4		・ 意見を述べる際の議論の組み立て方について学びます
5		・ 意見を整理する方法について学びます
6	レポートを書く	・ レポート作成の基本である文章執筆について学びます
7		・ レポート作成の基本技術、アウトライン作成を学びます
8		・ 参考文献リストと文献の活用方法について学びます
9		・ 計画的な執筆について学びます
10		・ 効率的なレポートの書き方について学びます
11	プレゼンテーションをする	・ プレゼンテーションとは何か、について学びます
12		・ 自分の意見を伝える技術について学びます
13		・ プレゼン資料の作成方法について学びます
14		・ プレゼンテーションを体験する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：初回の授業で指示する。

◇参考図書：狩野光伸著『論理的な考え方 伝え方：根拠に基づく正しい議論のために』
慶應義塾大学出版会、2015年（1,944円）

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回、予習課題が提示されますので確実に予習課題をこなしてください。

【その他の注意事項】

◇入学式直後に行われるフレッシュマン・オリエンテーションから講義がスタートします。

基礎演習Ⅱ	
Foundational Seminar II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義は、自分の将来設計、すなわち「キャリア・デザイン」の基本的な考え方について学びます。講義では、キャリアとは何か、そして、職業を選択すること、組織や企業で働くことの意味を考え、その上で、最終的には自分のキャリアをデザインすることができるようになるよう指導します。この講義を受講することによって、自分のキャリア・デザインを踏まえて、大学で何をどのように学ぶべきかがはっきりと理解できるようになり、大学での学びが深まります。そして、さらには、将来への準備に早期に取りかかることができるので、4年生の時の就職活動にも役立ちます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリア・デザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う 自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法 授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	キャリア・デザイン総論	講義の概要について解説
2	大学生活を充実させる①	大学生活に目標やスケジュール。PDCAサイクルを考える
3	大学生活を充実させる②	海外留学・インターンシップについて解説
4	ライフプラン	大学卒業後の進路選択、30歳までのライフプラン
5	働くとは何か	できること、やりたいことを基礎に働くことを考える
6	働く人の権利	労働法の基礎について解説
7	労働と収入	給与とは何か。奨学金と生涯賃金について解説
8	自己分析	価値観と雇用のミスマッチについて
9	資格取得	キャリア形成と資格取得の意義について解説
10	大学生活を充実させる③	ゼミ発表大会に参加しレポートを作成
11	企業分析・業界分析	キャリア・デザインに必要な企業分析調査
12	就職試験総論	SPI試験など就職に関する試験について解説と体験
13	就職試験体験	内定者報告会：4年生による内定報告とレポート作成
14	就職試験体験	ビジネスマナー（服装・ビジネス文書など）について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇キャリア・雇用に関する時事問題について指示された内容を新聞・雑誌等で調査する
事前課題が出る場合があります。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

担当者	網本尚子	井上航人	小川達也
	木村直樹	塩谷由美子	志塚昌紀
	清水太陽	清水良樹	賽音吉雅
	田島外志美	長岐郁也	松田岳

基礎演習Ⅱ（再履修）	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Foundational Seminar II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義は、自分の将来設計、すなわち「キャリア・デザイン」の基本的な考え方について学びます。講義では、キャリアとは何か、そして、職業を選択すること、組織や企業で働くことの意味を考え、その上で、最終的には自分のキャリアをデザインすることができるようになるよう指導します。この講義を受講することによって、自分のキャリア・デザインを踏まえて、大学で何をどのように学ぶべきかがはっきりと理解できるようになり、大学での学びが深まります。そして、さらには、将来への準備に早期に取りかかることができるので、4年生の時の就職活動にも役立ちます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリア・デザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う 自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法 授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	キャリア・デザイン総論	講義の概要について解説
2	大学生活を充実させる①	大学生活に目標やスケジュール。PDCAサイクルを考える
3	大学生活を充実させる②	海外留学・インターンシップについて解説
4	ライフプラン	大学卒業後の進路選択、30歳までのライフプラン
5	働くとは何か	できること、やりたいことを基礎に働くことを考える
6	働く人の権利	労働法の基礎について解説
7	労働と収入	給与とは何か。奨学金と生涯賃金について解説
8	自己分析	価値観と雇用のミスマッチについて
9	資格取得	キャリア形成と資格取得の意義について解説
10	大学生活を充実させる③	ゼミ発表大会に参加しレポートを作成
11	企業分析・業界分析	キャリア・デザインに必要となる企業分析調査
12	就職試験総論	SPI試験など就職に関する試験について解説と体験
13	就職試験体験	内定者報告会：4年生による内定報告とレポート作成
14	就職試験体験	ビジネスマナー（服装・ビジネス文書など）について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇キャリア・雇用に関する時事問題について指示された内容を新聞・雑誌等で調査する
事前課題が出る場合があります。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

社会学（春学期）	ナンバ トシキ 難波 俊樹
Sociology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

インターネット・人工知能・民主主義

私たちの社会を取り巻く事象を、社会学を通じて考察します。受講者が自らの視点と判断基準をもって事象をとらえることができるようになることを目的とします。

また、社会情勢にあわせて適宜内容を変更して、最新の社会情勢の考察に取り組むことがあります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 社会への理解を深める	自分の視点をしっかり持って社会の事象をとらえることができたか。	40%
2) クリティカルシンキング	クリティカルシンキングができるようになったか。	30%
3) 基礎知識の習得	社会事象を理解するための基礎知識が習得できたか。	30%
評価の方法 講義中の参加状況20%、課題提出20%、最終確認小テスト60%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入講義	本講義の目的と概要の説明
2	視点を持つ	視点を持つとはどういうことか 多様な視点を持つことの重要性
3	コミュニケーション	コミュニケーションとは何か 自己と他者 認知科学の視点から、私たちの「バイアス」について考える
4	インターネットとは何か?	インターネットの歴史 インターネットの特性
5	ジャーナリズム論①	ジャーナリズムの歴史
6	ジャーナリズム論②	報道を考える
7	情報社会論①	デマの心理学・社会学 ネット上の様々なフェイク情報を考える 人はなぜフェイクニュースを信じるか
8	情報社会論②	都市伝説と社会の変化
9	情報社会論③	陰謀論の歴史
10	民主主義	民主主義のジレンマ ネット社会の民主主義とは
11	個と公	これからの時代の個人と社会の関わりを考える
12	ビッグデータ社会	ビッグデータとは何か ビッグデータとプライバシー
13	人工知能とは何か	人工知能とは何か? 人工知能は社会をどう変えるか?
14	ワークショップ	ビッグデータの行き過ぎた未来を考える 人工知能の発展した未来を考える
15	総括・達成度の確認	

【使用教材】

- ◇教科書：オリジナルテキスト
その他の資料は随時配布します。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇課題等は極力出さないようにしますが、事前に何らかのメディアの視聴を課す場合があります。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

社会学（秋学期）	ナンバ トシキ 難波 俊樹
Sociology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

メディアと社会

私たちの社会を取り巻く事象を、社会学を通じて考察します。受講者が自らの視点と判断基準をもって事象をとらえることができるようになることを目的とします。

また、社会情勢にあわせて適宜内容を変更して、最新の社会情勢の考察に取り組むことがあります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 社会への理解を深める	自分の視点をしっかり持って社会の事象をとらえることができたか。	40%
2) クリティカルシンキング	クリティカルシンキングができるようになったか。	30%
3) 基礎知識の習得	社会事象を理解するための基礎知識が習得できたか。	30%
評価の方法 講義中の参加状況20%、課題提出20%、最終確認小テスト60%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	メディアとは何か？	本講義のガイダンス メディアとは何か？
2	メディアの歴史	メディアの歴史－ハードウェアとしてのメディア マスコミの誕生
3	メディア論①	映画、ラジオ、テレビ①
4	メディア論②	映画、ラジオ、テレビ②
5	情報社会論①	フェイクニュース・都市伝説①
6	情報社会論②	フェイクニュース・都市伝説②
7	情報社会論③	フェイクニュース・都市伝説③
8	メディア社会論①	雑誌・コミック・メディアミックス①
9	メディア社会論②	雑誌・コミック・メディアミックス②
10	メディア社会論③	雑誌・コミック・メディアミックス③
11	メディア社会論④	JPOPから考える若者文化と音楽①
12	メディア社会論⑤	JPOPから考える若者文化と音楽②
13	メディア社会論⑥	JPOPから考える若者文化と音楽③
14	ワークショップ	
15	総括・達成度の確認	これまでの達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：オリジナルテキスト

その他の資料は随時配布します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題等は極力出さないようにしますが、事前に何らかのメディアの視聴を課す場合があります。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

法学 I（憲法を含む）	サカイリ リヨウ 坂入 遼
Law I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

法学の基本を理解し、そして身近な社会現象を法的に考える力を磨いてもらう。これが本授業の目的である。具体的に本授業では、まず、社会における法の役割、裁判の位置付け、法の解釈といった基本的な法学の要点を押さえることを目指す。そして、代表的な法分野について、身近な社会現象を法的に捉えていくことを通じて理解を深めていく。

社会には、さまざまな法的問題があふれている。複雑な世の中を自立して生きていく上では、法的思考力は重要であり、この基礎を身につけるための場が本授業となる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 法に関心をもち、法学の基本を理解する	社会における法の位置付け、裁判制度、法の解釈といった法学の基本を理解できているかを、授業中の議論への貢献度や定期試験の結果にもとづき評価する。	30%
2) 学習した各法分野の基本事項を説明できるようになる	定期試験において、半期を通じて学んださまざまな法分野に関し基本事項を説明できるかを問い、その結果にもとづいて評価する。授業中の議論での有意義な発言も評価上考慮される。	30%
3) 身近な問題を法的に考える	授業では、身近な社会現象を取り上げ、それらを法的に考えるトレーニングも行う。こうした実践への取り組み状況に加え、その到達度を図るための定期試験の結果も評価上考慮される。	30%
4) 国内法と国際法の基本的な違いを理解し、説明できるようになる	国内法と国際法の基本的な違いを理解することは、法の可能性と限界を把握することにもつながる。これに関する到達度も、授業中の議論への貢献度、定期試験の結果により評価する。	10%
評価の方法	成績評価に占める割合は、授業中の議論への貢献度が30%、期末の確認テスト（定期試験）の点数が70%である。ただし、出席回数が全回数の3分の2以上であることが、成績評価を受ける条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、成績評価方法に関し説明する
2	法とはなにか	社会における法の役割について学ぶ
3	法と裁判	裁判の役割、裁判制度、訴訟手続に関する原則について学ぶ
4	裁判の基準となるもの	法律、裁判例などの位置付けについて理解する
5	法の解釈	事実の認定と法の解釈、法の解釈の性質・方法について学ぶ
6	憲法(1)	日本国憲法の特徴、基本的人権に関する規定について学ぶ
7	憲法(2)	統治機構に関する規定について学ぶ
8	情報と法	情報の流通に関するや法律上の論点を学ぶ
9	犯罪と法	刑法、刑事手続と刑事訴訟法について学ぶ
10	家族生活と法	家族関係に関する民法の規定について学ぶ
11	財産関係と法	財産関係に関する民法の規定について学ぶ
12	労働と法	労働に関する法分野について学ぶ
13	経済活動と法	独占禁止法を中心とした経済法について学ぶ
14	国際法と国内法の違い	国際法が国内法と異なる点、その理由を学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、教員が配信する教材にもとづいて授業を進める。

◇ただし、自学自習の参考となる文献として次のものを挙げておく。

伊藤正己・加藤一郎編著『現代法学入門』（有斐閣、第4版、2005年）

【履修条件等】

◇「法学Ⅰ」では、身近な社会現象を手掛かりにして、法を学ぶ上での基本、憲法を中心とする法の体系を広く理解してもらうことが中心となる。本授業で得た基本的理解をもとに、法学への理解を一層深めたい学生の皆さんには、「法学Ⅱ」をあわせて履修することをおすすめする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業では、身近なニュースなどを素材にして法的思考力を養うトレーニングを行う。事前のアナウンスに応じて新聞などを読み、問題となる社会現象の基本的理解を得ておくこと。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。その他、授業態度は成績に影響することとなる。

法学 I（憲法を含む）	ナガキ イクヤ 長岐 郁也
Law I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

初めて法律学を学ぶ学生諸君に法律学に対する興味や関心を持ってもらい、基本的な法原則・法概念、そして法の適用（解釈）などを習得してもらうことが本講義の目的である。

法律学は、初めて勉強する人にとっては取っ付きにくい学問であり、勉強の最初の段階で違和感や苦手意識を感じてしまう学生も多い。

そこで本講義では、いくつかの身近で具体的な事例を出発点として法の基礎知識を学ぶとともに、法の解釈とはどのようなものかを学生諸君と考えていくこととしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法律学に対する興味・関心を持つこと	身近な事例を用いることで、まずは自身の感覚や勘を頼りに考えてもらいながら、徐々に法的思考に基づいた見方ができるかを講義中の発言に基づいて評価する。	10%
憲法を中心とした法体系を理解すること	確認テストにおいて法の成立、公布、施行の一連の流れを踏まえて上で、法の役割を問うことで評価する。	30%
法に与えられている役割を理解すること	確認テストにおいてそれぞれの法律の分野に関する問題を設け、理解の程度を評価する	30%
日常において発生する法律に関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができるかを評価する。	30%
評価の方法 毎回の確認テスト(65%)、定期試験(35%)の結果をもって評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	
2	憲法	憲法の役割と意義
3	憲法	基本的人権（平等権）
4	憲法	基本的人権（自由権）
5	憲法	基本的人権（社会権）
6	憲法	基本的人権（受益権）
7	憲法	統治機構論（内閣、国会、裁判所）
8	行政法	地方公共団体の組織
9	行政法	地方公共団体の手続き
10	民事法	日常生活の中の法の役割、権利と義務の関係
11	民事法	会社の組織、取引関係における法の役割
12	刑法	罪刑法定主義
13	刑法	刑罰について
14	訴訟法	裁判所の種類と役割及び裁判の手続き
15	まとめ	

【使用教材】

◇教科書は使用せず授業を進める。

なお、参考文献は以下のとおりです。

五十嵐清著『法学入門（第3版）』悠々社、2006年

星野英一著『法学入門』有斐閣、2010年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に配布するレジュメの内容を確認すること。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

法学Ⅱ	サカイリ リヨウ 坂入 遼
Law II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本授業では、法学に関する基本的な理解にもとづき、経済活動と深く関係する法分野を中心に学ぶことを通じて法的思考力を磨いてもらう。

具体的に本授業では、民法（国内の取引の基本ルール）、国際取引法（私的取引に関する国際ルール）、経済法（経済の公法的規制）、国際経済法（国際経済についての公法的規制）を扱う。

ビジネスの世界では法的問題に直面することが常である。本授業を通じて、受講生は、経済活動との関わりがある法への理解を得るとともに、より深い法的思考力を身につけることができる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 学習した法分野に関する基本事項を説明できるようになる	民法、国際取引法、経済法、国際経済法を学習した上で、基本事項を説明できるようになったかどうかを問う。評価は、授業中の議論への貢献度、定期試験の結果にもとづいて行う。	20%
2) ビジネスに関する身近な問題を関連する法との関係で説明することができる	授業では身近なビジネス上の問題を取り上げ、それらを法的に考えるトレーニングも行う。こうした実践への取り組み状況に加え、その到達度を図るための定期試験の結果も評価上考慮される。	30%
3) 代表的な法的論点を裁判例などとの関係で理解し、説明することができる	学習した法分野の代表的な論点に対し、裁判例などとの関係を踏まえつつ、整理された説明ができるかを問う。評価は、授業中の議論への貢献度、定期試験の結果にもとづいて行う。	20%
4) 与えられた問題に対し法をどう適用できるかを説明することができる	代表的な裁判例を踏まえ、与えられた問題に対して法をどのように適用できるかを考え、決められた時間内に解答することができるかどうかを問う。授業中の議論への貢献度、定期試験の結果にもとづき評価する。	30%
評価の方法	成績評価に占める割合は、授業中の議論への貢献度が30%、期末の確認テスト（定期試験）の点数が70%である。ただし、出席回数が全回数の3分の2以上であることが、成績評価を受ける条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容、進め方、成績評価方法に関し説明する
2	民法(1)	契約をめぐる民法上の論点について学ぶ
3	民法(2)	物権をめぐる民法上の論点について学ぶ
4	民法(3)	不法行為をめぐる民法上の論点について学ぶ
5	国際取引法(1)	国際的な売買の取引条件に関するルールについて学ぶ
6	国際取引法(2)	貿易代金の決済に関するルールについて学ぶ
7	国際取引法(3)	国際取引紛争を解決するための裁判、仲裁の手続を学ぶ
8	経済法(1)	カルテルなど不当な取引制限に関する規制について学ぶ
9	経済法(2)	私的独占に関する規制について学ぶ
10	経済法(3)	企業の買収などに関する規制について学ぶ
11	経済法(4)	不公正な取引方法に関する規制について学ぶ
12	国際経済法(1)	関税、国内規制、数量制限に関する基本ルールを学ぶ
13	国際経済法(2)	貿易救済制度に関する規制について学ぶ
14	国際経済法(3)	世界貿易機関(WTO)の紛争解決制度について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず、教員が配信する教材にもとづいて授業を進める。
- ◇ただし、自学自習の参考となる文献については、適宜授業の中で紹介する。

【履修条件等】

- ◇本授業では、「法学Ⅰ」で学んだ基本的な内容にもとづき、より深く法学を理解するための取り組みが行われる。そのため、「法学Ⅰ」をあわせて履修することをおすすめする。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業では、身近なニュースなどを素材にして法的思考力を養うトレーニングを行う。事前のアナウンスに応じて新聞などを読み、問題となる社会現象の基本的理解を得ておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇講義中の私語は厳禁とする。その他、授業態度は成績に影響することとなる。

法学Ⅱ	ナガキ イクヤ 長岐 郁也
Law II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

日常生活を営む上では法律を意識する機会は多くないものの、多くの法律が関わるものである。とくにその中心には民法が置かれており、それに付随するさまざまな法律が存在している。本講義では、民法に定められる基本的なルールを学習するとともに、日常生活のトラブルにどのようにあてはめられ、解決が試みられるのかを学習する。時としてそのルールが修正されることもあるので、この点についても適宜触れていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活における法の関わりを理解すること	民法を中心とした私法が日常生活にどのように関わるのかをイメージすることができること。	20%
法律の制度の趣旨を理解すること	ルールを理解するためには法律に定められる制度の立法趣旨を理解することが必要であるため、これについて試験において評価する。	30%
法律に定められるルールを事実にあてはめることができること	実際の出来事にどのような法律の制度を当てはめることができ、その結果としてどのように処理することが可能であるのかを試験において確認する。	40%
日常において発生する法律が関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の見点とはどのような差異が生じるのかを認識することができるかを評価する。	10%
評価の方法 毎回の確認テスト(65%)、定期試験(35%)の結果をもって評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容及び授業方針の説明
2	不法行為(1)	バイクで人身事故を起こしたら
3	不法行為(2)	ネット上で中傷されたら
4	契約(1)	買った物が壊れていたら
5	契約(2)	スーパーで食品を買ったら
6	契約(3)	ネット通販で靴を買ったら
7	契約(4)	友人に貸した自転車を取り戻したい
8	契約(5)	お金を貸したら
9	契約(6)	アパートを貸したら
10	抵当権	親が家を新築したら
11	婚姻	友人の結婚
12	離婚	親が離婚したら
13	扶養	家族同士の助け合い
14	相続	家族が亡くなったら
15	まとめ	近代市民法の原則とその修正、民法改正

【使用教材】

◇潮見佳男・中田邦博・松岡久和編『18歳からはじめる民法（第4版）』法律文化社、
2019年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前にテキストを読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

心理学 I	イナミ カズエ 伊波 和恵
Psychology I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

科学の領域で、心理学は「人間の心理と行動」の法則や原理に関する学問として発展してきました。この授業では、人間の心理を理解するうえで必要となる、以下のような基礎的な知識の理解を目標とします：（１）人間の心理社会的発達、（２）心と脳との関係、（３）人の知覚（とくに視覚）のメカニズム、（４）欲求と適応行動、（５）学習行動と記憶のメカニズム。

なお、授業は講義形式で行いますが、適宜、課題の提出を求めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生涯発達心理学の基礎知識の習得	試験および講義時の課題にて評価。発達メカニズム、発達心理学の概念理解、発達段階等の基礎理論の理解が十分であること。	25%
心と脳に関連性についての説明が、ある程度可能	試験および講義時の課題により評価。神経系や脳の構造と機能について、基本的知識を理解し、説明できること。	15%
人の知覚（とくに視覚）に関する基礎知識の習得	試験および講義時の課題にて評価。錯覚・社会的知覚・運動視等のメカニズムについて理解し、説明できること。	20%
欲求と適応行動について、基本的な事柄が説明可能	試験・講義時の課題にて評価。欲求と葛藤、防衛機制等の一連の適応行動について理解し、適切に説明ができること。	20%
学習と記憶のメカニズムに関する知識の習得	試験・講義時の課題にて評価。学習と記憶、忘却に関する知識を整理して理解し、適切に説明できること。	20%
評価の方法 （上記、試験には、中間テストを含めます。） ①平常点20%（授業内課題提出）②中間テスト20% ③定期試験60%（一切持込不可）なお、対面以外の形式で講義を行う場合には、評価の配分を若干見直す。（修正版を受講者に通知する。）		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法の説明 行動科学としての心理学
2	発達心理学①	心身の発達のメカニズム・発達モデル・発達段階説
3	発達心理学②	乳児期・幼児期・児童期
4	発達心理学③	青年期・成人期・老年期
5	生理心理学①	神経系の構造と機能・大脳の構造と機能
6	生理心理学②	心身相関論
7	知覚心理学①	知覚・視覚・錯覚
8	知覚心理学②	社会的知覚・美術的表現・仮現運動
9	テスト	中間テスト
10	認知心理学①	欲求と欲求不満・葛藤・欲求五階層説
11	認知心理学②	適応(防衛)機制・適応行動
12	学習心理学①	学習のメカニズム・学習のプロセス・学習性無力感
13	学習心理学②	記憶・忘却のメカニズム・メタ記憶
14	学習心理学③	記憶にまつわる心理的問題(記憶障害・記銘障害・認知症)
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト(範囲は全体)を実施する

【使用教材】

- ◇テキスト：岡村一成(編)『心理学—行動の科学—』東京教学社
- ◇その他、講義中に適宜紹介する。

【履修条件等】

- ◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。
- ◇「心理学Ⅱ」(秋学期開講)も併せて受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇翌週の内容をテキストで確認しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇中間テスト・確認テストには必ず出席し、受験すること。(中間テスト日程は、進行によってずれることがあるので、授業内に再度指示する。)
- ◇授業に関するあらゆる不正、ゲーム機・スマートフォン等の不適切な使用を禁じます。受講停止等、厳格に対応することもあります。

心理学 I	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Psychology I	選択科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学が、今日まで解明してきた人間の心理と行動の特徴についてわかりやすく解説し、身近な学問として正しく理解してもらうことをねらいとしています。そのねらいの実現のために、人間の心理を理解するために必要な基礎的な領域（発達心理・生理心理・認知心理・適応心理・学習心理）を解説します。主に講義形式で授業を進め、適切な時期に、必要に応じて各種心理検査などを紹介する実習などを組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発達とその特徴について理解すること	発達に影響する要因を理解することと発達段階の特徴を理解できているか評価する。	45%
生理心理のメカニズムを理解すること	生理心理のメカニズムを理解できているかで評価する。	5%
認知心理の特徴を理解すること	認知心理に関連する人間の特徴を理解できているかで評価する。	20%
適応心理の特徴を理解すること	適応するということがどのようなことかを理解できているかで評価する。	30%
評価の方法 出席は3分の2以上が単位認定の条件。 中間試験40%、最終試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	心理学の成立ち	(1)心理学とは
2	発達心理	(1)発達とは (2)発達の特質
3	発達心理	(3)遺伝と環境[1]
4	発達心理	(3)遺伝と環境[2]
5	発達心理	(4)発達段階の特徴[1]
6	発達心理	(4)発達段階の特徴[2]
7	発達心理	(4)発達段階の特徴[3]
8	発達心理	(4)発達段階の特徴[4]
9	生理心理	(1)神経系について
10	認知心理	(1)感覚器官 (2)知覚の一般的特徴
11	中間試験	解説を含む
12	適応心理	(1)欲求とは? (2)欲求五階層説 (3)葛藤
13	適応心理	(4)欲求不満と欲求不満耐性
14	適応心理	(5)適応機制
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

【履修条件等】

◇知的好奇心が旺盛であること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次週に取り上げることを提示するので、教科書の該当箇所を読むこと。

【その他の注意事項】

◇欠席をしないこと。

心理学Ⅱ	イナミ カズエ 伊波 和恵
Psychology II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、「心理学Ⅰ」をベースとし、応用心理学の以下の各論について学習します：
 (1) パーソナリティ（性格）と知能、(2) 人間理解の方法（心理アセスメント）、(3) 臨床心理学（とくにメンタルヘルス領域）、(4) 社会心理学（とくにコミュニケーション）。
 具体的には、自分の性格や心の状態の測定についての基礎的な知識を得るとともに、心理テストやワークシートを使って実習をすることで、自己理解を深めます。主に講義形式で授業を進めますが、適宜、心理テストやワークシートを用いた実習を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
性格と知能に関する基礎知識の習得	試験・講義時の課題による評価。性格と知能の概念について理解し、説明できるとともに、知識を用いて自己分析できる。	30%
人間理解の方法（アセスメント）の基礎知識の習得	試験・講義時の課題による評価。心理アセスメントの方法と考え方について理解する。	20%
臨床心理学・メンタルヘルスの基礎知識の習得	試験・講義時の課題による評価。ストレスと心理的ケア、メンタルヘルス、精神疾患とその心理的ケアに関する基礎知識について理解する。	30%
社会心理学（コミュニケーション論）に関する基礎知識の習得	試験・講義時の課題による評価。対人認知、印象形成・援助行動・集団心理等、コミュニケーションにかかわる社会心理学の知識について理解する。	20%
評価の方法 ①平常点20%（授業内課題提出） ②中間テスト20% ③定期試験60%（一切持込不可） なお、対面以外の形式で講義を行う場合には、評価の配分を若干見直す。（修正版を受講者に通知する。）		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 性格心理学①	授業の進め方・評価方法の説明 パーソナリティ（性格）とは
2	性格心理学②	類型論・特性論
3	性格心理学③	知能の理解
4	人間理解の方法①	心理アセスメント（作業検査法・質問紙法）
5	人間理解の方法②	知能検査
6	人間理解の方法③	面接法・観察法
7	臨床心理学①	ストレス・メンタルヘルス・ストレスコーピング
8	臨床心理学②	メンタルヘルス不調・心身症・精神疾患・心理的ケア
9	臨床心理学③	カウンセリング・心理療法
10	臨床心理学④・テスト	中間テスト
11	社会心理学①	コミュニケーション論
12	社会心理学②	対人認知・対人魅力・対人コミュニケーション
13	社会心理学③	自己開示・自己呈示・恋愛
14	社会心理学④	集団行動・群集心理・流言・流行
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇テキスト：岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社
- ◇その他、講義中に適宜紹介する。

【履修条件等】

- ◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。
- ◇「心理学Ⅰ」（春学期開講）も併せて受講していること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇翌週の内容をテキストで確認しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇中間テスト・確認テストには必ず出席し、受験すること。（中間テスト日程は、進行によってずれることがあるので、授業内に再度指示する。）
- ◇授業に関するあらゆる不正、ゲーム機・スマートフォン等の不適切な使用を禁じます。受講停止等、厳格に対応することもあります。

心理学Ⅱ	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Psychology II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、基礎的な分野を学んだ「心理学Ⅰ」を踏まえて応用的な分野を中心に学ぶこととなります。解説する分野は、性格心理・臨床心理・社会心理・産業組織心理などです。主に講義形式で授業を進め、適切な時期に、必要に応じて各種心理検査などを紹介する実習などを組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
学習心理の特徴を理解すること	学習の理解および学習過程のメカニズムを理解できているかで評価する。	20%
性格心理の特徴を理解すること	性格の理解および性格を測定する方法を理解できているかで評価する。	20%
臨床心理の特徴を理解すること	心の病および心理療法について理解できているかで評価する。	20%
社会心理の特徴について理解すること	社会における人間行動について理解できているかで評価する。	20%
産業組織心理の特徴を理解すること	職場における人間関係について理解できているかで評価する。	20%
評価の方法 出席は3分の2以上が単位認定の条件 レポート40%、最終試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学習心理	(1)学習とは
2	学習心理	(2)学習過程のメカニズム〔1〕
3	学習心理	(2)学習過程のメカニズム〔2〕
4	学習心理	(2)学習過程のメカニズム〔3〕
5	性格心理	(1)性格とは (2)性格の見方
6	性格心理	(3)性格の測定法〔1〕
7	性格心理	(3)性格の測定法〔2〕
8	性格心理	* 性格検査実習
9	性格心理	* 動画視聴
10	臨床心理	(1)心の病
11	臨床心理	(2)心理療法〔1〕
12	臨床心理	(2)心理療法〔2〕
13	社会心理	(1)対人認知 (2)対人関係の認知
14	社会心理	(3)社会的影響 (4)流言 (5)流行
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

【履修条件等】

◇知的好奇心が旺盛であること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次週に取り上げることを提示するので、教科書の該当箇所を読むこと。

【その他の注意事項】

◇欠席をしないこと。

哲学	ユゲ リュウイチ 弓削 隆一
Philosophy	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

「知識とは何か?」、「科学とは何か?」、「科学的知識の限界」などをめぐる哲学的考察を題材にして、哲学的なものの考え方を理解し、受講者が自ら哲学的にものを考え、またそれを表現できるようになることを目標とします。受動的に話を聞くだけの態度ではなく、議論に積極的に参加し、「共に考える」姿勢が求められます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
問題点の理解	哲学のさまざまな議論で、そもそも何が問題になっているというこの理解。授業中の質問・発言やリアクションペーパーで評価します。	20%
諸説の理解	対立する諸見解の内容と、それらの対立点の理解。授業中の発言やリアクションペーパー、期末レポートなどで評価します。	20%
議論への参加	哲学的問題について自分で考え、議論する練習。授業中の発言やリアクションペーパーで評価します。	20%
文章での表現	哲学的問題に関する自分の意見をまとめ、文章で表現すること。期末レポートなどで評価します。	40%
評価の方法 全体的には、授業中の積極性が30%、リアクションペーパーが30%、期末レポートが40%程度の配分で評価する予定です。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	哲学を勉強するときの心構え
2	知識とは何か？	「知っている」と言えるのはどういう場合か？
3	知識の源泉	合理主義と経験主義
4	科学的知識とは何か？(1)	論理実証主義の考え方(1)
5	科学的知識とは何か？(2)	論理実証主義の考え方(2)
6	科学的知識とは何か？(3)	論理実証主義の問題点
7	科学的知識とは何か？(4)	K. ポパーの反証主義
8	相対主義的な科学観(1)	T. クーンと「パラダイム」
9	相対主義的な科学観(2)	パラダイムの転換は反証によって起こるのか？
10	科学革命の実例	近代科学の誕生の前後の世界観の転換
11	科学的説明の領域の拡大(1)	ダーウィンの生物進化論
12	科学的説明の領域の拡大(2)	科学的世界像の中の「心」
13	「道徳」の問題(1)	近代の倫理学の2つの説：功利主義と義務論
14	「道徳」の問題(2)	非認知主義と道徳的实在論
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用しません。
- ◇必要に応じてプリントを作成します。

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予習が必要な回については、講義の中で指示します。

【その他の注意事項】

- ◇授業に積極的に参加し、講師とともに授業を作っていく姿勢が必要です。

文学（現代文学）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、日本の現代文学における何人かの重要な作家の作品を取り上げ、そこからどのような作者の思いが読み取れるかについて考える。それぞれの作者の文章の特徴や、表現の傾向を分析したり、作者の生活した土地や、交友関係、生い立ちなどが作風にどのように影響を与えているかについて考えたりしてみたい。また、お互いに、自分の好きな作家の作品を紹介し合い、各自の読書の世界を広げるような試みも行いたい。

この授業をきっかけに、読書の楽しみ方を学び、読書習慣を身につけてもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本文学の歴史	明治時代以降の日本文学の歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
芥川龍之介の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	芥川龍之介の作品の内容や、表現の特徴、芥川の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
太宰治の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	太宰治の作品の内容や、表現の特徴、太宰の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
村上春樹の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	村上春樹の作品の内容や、表現の特徴、村上の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文や発表の内容、受講態度等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	日本文学の歴史	明治以降の日本文学の歴史について。
3	日本文学の歴史	昭和以降の日本文学の歴史について。
4	さまざまな作家の作品	重要な作家とその作品の内容・特徴について。
5	芥川龍之介の文学	芥川龍之介の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、芥川の生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
6	芥川龍之介の文学	
7	芥川龍之介と古典	芥川が影響を受けた古典作品を読む。
8	太宰治の文学	太宰治の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、太宰の生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
9	太宰治の文学	
10	太宰治の文学	
11	村上春樹の文学	村上春樹の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深める。また、海外で起こった村上春樹ブームや、村上の政治や社会問題に関する発言などについても考える。
12	村上春樹の文学	
13	村上春樹の文学	
14	ブックレビュー	薦めたい本のブックレビューを書く。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇読書が好きな人、今は苦手でも読書してみたいと思っている人など、積極的に授業に参加できる学生に履修してもらいたい。

◇日本語で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作家や作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇わからない言葉が出てきたら、積極的に辞書を使って調べること。

文学（源氏物語）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

『源氏物語』に描かれている女君たちのなかでもとくに印象深い、紫の上、葵の上、六条御息所、藤壺女御、そして光源氏の母である桐壺更衣らを取り上げ、それらの女性がどのように描かれているのかに着目しながら『源氏物語』の本文を読み進めていく。

古語や文語文法の知識を深めるというよりも、私たちと同じ日本人が、1000年前にはどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知り、現代日本の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
『源氏物語』の作者や物語執筆の背景などについて理解する	歴史的な人物について答えられるだけでなく、漢字で正しく書けるようにすること。設問に対する回答、試験によって評価。	20%
授業で読むテキスト本文が、現代語訳のどの箇所にあたるかを理解し、正しく読む	テキストの音読を指名された時に、正しく読めるかどうか。	20%
本文に描かれている平安時代の風俗や習慣、考え方などについて理解を深める	授業で説明を受けた語句の意味等を正しく理解できているかどうか。また、漢字で正しく書けるかどうか。設問に対する回答、試験によって評価。	40%
『源氏物語』の登場人物について	本文に登場する人物について、お互いの関係を理解し、正しく系図にまとめられるかどうか。設問に対する回答、小テスト、試験によって評価。	20%
評価の方法 3分の2以上の出席で、受講態度・小テスト等20%、試験80%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイドンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	桐壺更衣	「桐壺」の巻を中心に講読し、平安時代の後宮や平安貴族の考え方、当時の結婚観等について解説する。
3	桐壺更衣	
4	桐壺更衣	
5	藤壺女御	藤壺女御に関する記述をピックアップして読み、光源氏の生涯に藤壺が与えた影響について考察する。
6	藤壺女御	
7	葵の上	「葵」の巻を中心に講読する。とくに「車争い」前後の葵と六条の心理を読み取り、この悲劇の原因をさぐる。
8	葵の上	
9	六条御息所	車争いの後に六条御息所の身に起こった現象を考察し、平安時代の人々の思想について理解を深める。
10	六条御息所	
11	六条御息所	
12	紫の上	光源氏と六条のその後を、テキストで読み味わう。
13	紫の上	
14	紫の上と女三の宮	
15	総括・達成度の確認	授業の総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇秋山虔、他（編集）『源氏物語読本』筑摩書房

【履修条件等】

- ◇日本語のテキストを音読する能力があること。
- ◇日本の伝統や歴史に興味があること。
- ◇日本の古い言葉で作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前回までに登場した人物について整理し、理解しておくこと。
- ◇前回までの授業で説明を受けた古語の意味を理解しておくこと。また習った漢字を読むようにしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇テキストを持参しない場合は欠席と見なすので、必ずテキストを購入し、毎時間持参すること。

文学（歌舞伎）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

江戸時代から演じられ続けている日本の伝統芸能、歌舞伎を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、歌舞伎の成立や歴史、特徴、他の古典芸能との関連、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
歌舞伎の歴史について正しい知識を身につける	歌舞伎成立以前の芸能の歴史に始まり、江戸時代から近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の特徴について正しい知識を身につける	歌舞伎が演じられる舞台の構造、歌舞伎の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフなど、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の演目について自分の意見や感想を述べる	ビデオで鑑賞した歌舞伎の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
歌舞伎が現代とどのようにつながっているかについて考える	歌舞伎が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	歌舞伎の歴史	江戸時代から現代に至る歌舞伎の歴史について。
3	歌舞伎の特徴	歌舞伎と他の演劇との違い、歌舞伎らしさとは何か、等という点から、歌舞伎の特徴を学ぶ。
4	歌舞伎の特徴	
5	歌舞伎の登場人物	歌舞伎の登場人物の種類や特徴について。
6	歌舞伎の舞台	歌舞伎の演じられる舞台の構造と特徴について。
7	時代物と荒事	歌舞伎の時代物や荒事に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
8	時代物と荒事	
9	時代物と荒事	
10	世話物	歌舞伎の世話物に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
11	世話物	
12	歌舞伎の音楽	歌舞伎で演奏される音楽の特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	授業の総括及び学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

文学（古典文学）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、現代に生きるわれわれにも少なからず影響を与えている代表的な古典文学作品や、古典文学の影響を受けて書かれた近現代の小説を取り上げ、あらすじを知るとともに、その一部については原文で読み味わう。さらに、そこに描かれる昔の風俗や考え方についての講義を通して、日本人としての常識を身につけ、教養を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
和歌の歴史や用語について正しく理解する。和歌の現代語訳	和歌文学の歴史や用語を理解し、和歌を自分の言葉で現代語訳できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『今昔物語集』の特徴や説話の内容について正しく理解する	説話のあらすじや語句の意味、漢字の読み、説話のおもしろさのポイントなどについて正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『平家物語』のあらすじを正しく理解する。『平家物語』をもとにした芸能の特徴について考察する	『平家物語』の主な登場人物や事件について正しく答えられるかどうか。『平家物語』と関連深い芸能である平曲や狂言などの特徴を説明できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
江戸時代の文学作品のあらすじ、特徴を正しく理解する	江戸時代の文学の特徴や、あらすじ、登場人物について正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、レポートを提出すること。 レポート30%、試験50%、感想文などの内容・受講態度20%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて。
3	百人一首の恋歌	百人一首の恋歌を読み味わい、昔の人々と現代人との共通点や相違点について考察する。和歌を題材に作られた漫画や歌など、現代に与える影響について考える。
4	百人一首の恋歌	
5	百人一首の恋歌	
6	今昔物語集	『今昔物語集』の説話を読み、現代人との共通点や相違点について考察する。
7	今昔物語集	
8	今昔と芥川龍之介	『今昔物語集』所収話と、それをモチーフに書かれた芥川龍之介の小説『藪の中』を比較する。
9	今昔と芥川龍之介	
10	平家物語	『平家物語』のあらすじや人物関係を理解する。那須与一などの有名な場面をいくつか読み、さらに平家琵琶や『平家』の一場面を基にした狂言などの芸能を鑑賞する。
11	平家物語	
12	平家物語	
13	曽根崎心中	『曽根崎心中』のあらすじや人物関係を理解する。文楽の「曽根崎心中」をビデオで鑑賞する。
14	曽根崎心中	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

- ◇高校時代に古典を選択していなかった人も十分受講可能だが、少なくとも文学に興味関心のある人に履修してもらいたい。
- ◇日本の古い言葉で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。
- ◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇レポートを一回課すが、何でもインターネットで調べて済ませようとせず、本で調べて勉強するようにしてほしい。

文学（能・狂言）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

600年以上前から演じられ続けている日本の伝統芸能、能・狂言を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、能・狂言の成立や歴史、他の文学作品への影響、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
能・狂言の歴史について正しい知識を身につける	能・狂言以前の芸能の歴史に始まり、形成期、大成期、近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の特徴について正しい知識を身につける	能・狂言が演じられる能舞台の構造、能・狂言の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフ、謡、舞など、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の演目について感想や意見を述べる	ビデオで鑑賞した能・狂言の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
能・狂言が現代とどのようにつながっているかについて考える	能・狂言が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	能・狂言の歴史	能・狂言誕生以前の芸能から近現代にいたるまでの能・狂言の歴史と特徴を学ぶ。
3	能・狂言の特徴	
4	狂言の登場人物	狂言の登場人物の種類や特徴について。
5	狂言の笑いの特徴	狂言の笑いの特徴と分類について。
6	狂言面や小道具	狂言面や小道具の種類や使い方について。
7	狂言の分類	狂言の曲柄による分類について。
8	能の登場人物	能の登場人物の種類や特徴について。
9	能の謡と舞	能の謡と舞の特徴と種類について。
10	能面や小道具	能面や小道具の種類や使い方について。
11	能の分類	能の曲柄による分類について。
12	能の楽器	能の楽器の種類と特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考図書：網本尚子（訳）『角川ビギナーズクラシックス 謡曲・狂言』角川文庫
『狂言ハンドブック』三省堂
野村萬斎（著）・網本尚子（監修）『What is 狂言？』檜書店
『能って何？』新書館

【履修条件等】

- ◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。
- ◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

文章表現法（基礎）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習したり、新聞に出てくるレベルの漢字を練習したり、敬語の使い方を実践練習したりといった、基礎的な内容の学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。小テスト・宿題・試験で評価。	25%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方・小テスト・試験で評価。	25%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。小テストと試験で評価。	25%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙で評価。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、課題提出や小テストの点数30%、受講態度20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	書き言葉と話し言葉の違い、正しい文体の選び方、助詞の使い方、語句の対応のさせ方、明確な修飾語の書き方、正しい読点の打ち方など、文章を書く上での基本事項を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	正しい文章の書き方	
6	日本語の知識	
7	日本語の知識	
8	日本語の知識	
9	敬語の使い方	敬語の種類や使い方の基本的な知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。さらに、具体的な日常の場面における敬語の使い方の実践的練習を行う。
10	敬語の使い方	
11	敬語の使い方	
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（実践）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、主に「書く」ことに重点を置き、さまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習問題を通して身につけ、その知識、技術を踏まえて、描写文、エッセイ、小論文、レポートなどを書いていく。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
読みやすい文章の書き方を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力しているかどうか。また、小テストや宿題の問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せるかどうか。小テスト、提出課題の内容、試験で評価する。	25%
明確な文章が書けるようになる	何を述べたいのかが、読者に明確に伝わるように文章が書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	30%
それぞれの文章の特徴を踏まえた、適切な文章が書けるようになる	レポート、小論文、エッセイなどが、それぞれどのような目的で書かれる文章なのかが正しく理解できているかどうか。形式に適った文章が書けたかどうか。提出された課題の内容、試験で評価する。	30%
誤字脱字のない、正確で読みやすい文章が書けるようになる	下書き、推敲の手順を踏まえて課題を書いているかどうか。誤字脱字に気をつけて書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	15%

評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。

試験30%、レポート・手紙などの課題の評価50%、受講態度20%

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	文章の書き方	
4	自己紹介文	読者に強くアピールできるような自己紹介文を書く。
5	メールの書き方	失礼のないメールの書き方を学ぶ。
6	さまざまな文章	エッセイや描写文など、さまざまな文章課題に取り組んで、文章力を磨く。
7	さまざまな文章	
8	小論文	小論文の基本的な構成や、書き方について学び、課題文型小論文とテーマ型小論文を書く。
9	小論文	
10	小論文	
11	レポート	レポートとは何かを正しく認識し、その基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた課題について、自分で資料をさがし、実際にレポートを書く。
12	レポート	
13	レポート	
14	レポート	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、とくに留学生は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。日本語の応用力が不足している留学生には、「文章表現法（基礎）」の履修をすすめる。また、提出課題の多い授業なので、日本人学生の場合も、国語力に自信のない人は、よく考えてから受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。
◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（総合）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、ひとりひとりが「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、練習問題を解いて添削指導を受けたり、与えられた課題について実際に自分で調査し、考えをまとめて短いレポートを作成したり、現実の場面に即した敬語の使い方を実践練習したり、といった学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。	10%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方と試験で評価。	10%
レポート・小論文の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式のレポートが書けること。レポートと試験で評価。	30%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。試験で評価。	30%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙と試験で評価。	20%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、レポート・手紙などの課題の評価30%、受講態度20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	日本語の基礎知識	
6	日本語の基礎知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの練習問題に取り組む。
7	レポートの書き方	レポートとは何かを正しく認識し、基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた資料に基づいて、実際にレポートを書く。
8	レポートの書き方	
9	レポートの書き方	
10	レポートの書き方	
11	敬語の使い方	敬語の種類や使い方について、練習問題を用いて学び、身につける。
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、留学生の受講希望者は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
- ◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。
- ◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

生命科学（春学期）	フルタ レイコ 古田 玲子
Life Science	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ヒトと他の生物との共通点と相違点、腫瘍、若者に蔓延している Sexually Transmitted Infection（STI：性感染症）、人獣共通感染症、有害物質、生物毒、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について学び、生命現象を理解し、健康を維持するために必要な知識を養うことを目的としています。最先端の研究や最近の話題を取り入れながら判りやすく解説していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生物学および医学的な基礎知識を学ぶ	本試験で評価する。人間と他の生物の共通点と相違点、人体の臓器と機能、細胞についての設問に答えられること。	30%
病気の原因、予防について基礎的な知識を学ぶ	本試験で評価する。腫瘍、STI、人畜共通感染症、有害物質、有害生物について理解していること。実現可能な予防策についての知識が習得できていること。	40%
生命科学全般について理解を深め生命倫理、生物多様性についての意義を考える	本試験で評価する。生命科学に関する資料を読み、正確に理解し、意見が述べられるか。生命科学についての基礎的な知識を習得した上で、臓器移植、生殖医療、生物の多様性について、考えることができているか。	10%
生命科学に関する資料を正確に理解し、自分の意見を述べるができる	レポートで評価する。各自で生命科学に関する興味のあるテーマを選び、レポートにまとめる。正確に理解し、まとめることができているか。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提とし、本試験80%とレポート20%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明およびレポートの作成方法
2	人体の構造と機能	臓器、組織、細胞、遺伝子について学ぶ
3	ヒトと他生物の共通点と相違点	ヒトとイヌ、マウスなどの哺乳類間と鳥類、爬虫類、魚類、両生類などの他の生物との比較
4	腫瘍についての基礎的知識	腫瘍の発生と遺伝子異常、良性腫瘍と悪性腫瘍（がん）のちがい、原因と予防、検査法
5	早期がんと進行がん	がんの進行度と治療法、予後
6	各臓器のがん①	肺がん
7	各臓器のがん②	胃がん、大腸がん
8	各臓器のがん③	乳がん、子宮がん
9	各臓器のがん④	肝臓がん、その他のがん
10	STIについてⅠ	エイズについて学ぶ
11	STIについてⅡ	ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症、梅毒、クラミジアなど10疾患についての予防と治療
12	STIについてⅢ	
13	有害物質と生物毒	タバコ、麻薬、アスベスト、有害生物
14	人獣共通感染症・動物が媒介する感染症	BSE、狂犬病、インフルエンザ、デング熱、エキノコックスなど
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考資料と用語集を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇生命科学に関することで話題になっていることの情報収集。

【その他の注意事項】

◇授業に集中し、疑問点は積極的に質問してください。

生命科学（秋学期）	フルタ レイコ 古田 玲子
Life Science	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ヒトと他の生物との共通点と相違点、腫瘍、若者に蔓延している Sexually Transmitted Infection（STI：性感染症）、人獣共通感染症、有害物質、生物毒、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について学び、生命現象を理解し、健康を維持するために必要な知識を養うことを目的としています。最先端の研究や最近の話題を取り入れながら判りやすく解説していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生物学的および医学的な基礎知識を学ぶ	本試験で評価する。人間と他の生物の共通点と相違点、人体の臓器と機能、細胞についての設問に答えられること。	30%
病気の原因、予防について基礎的な知識を学ぶ	本試験で評価する。腫瘍、STI、人畜共通感染症、有害物質、有害生物について理解していること。実現可能な予防策についての知識が習得できていること。	40%
生命科学全般について理解を深め生命倫理、生物多様性についての意義を考える	本試験で評価する。生命科学に関する資料を読み、正確に理解し、意見が述べられるか。生命科学についての基礎的な知識を習得した上で、臓器移植と生殖医療、生物の多様性について、考えることができているか。	10%
生命科学に関する資料を正確に理解した上で、自分の意見を述べるができる	レポートで評価する。各自で生命科学に関する興味のあるテーマを選び、レポートにまとめる。正確に理解し、まとめることができていること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提とし、本試験80%とレポート20%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明およびレポートの作成方法
2	人体の構造と機能	臓器、組織、細胞、遺伝子について
3	ヒトと他生物の共通点と相違点	ヒトとイヌ、マウスなどの哺乳類間と鳥類、爬虫類、魚類、両生類などの他の生物との比較
4	腫瘍についての基礎的知識	腫瘍の発生と遺伝子異常、良性腫瘍と悪性腫瘍（がん）のちがい、原因と予防、検査法
5	早期がんと進行がん	がんの進行度と治療法、予後
6	各臓器のがんⅠ	肺がん
7	各臓器のがんⅡ	胃がん、大腸がん
8	各臓器のがんⅢ	乳がん、子宮がん
9	各臓器のがんⅣ	肝臓がん、その他のがん
10	STIについてⅠ	エイズについて
11	STIについてⅡ	ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症、梅毒、クラミジアなど10疾患についての予防と治療
12	STIについてⅢ	
13	有害物質と生物毒	タバコ、麻薬、アスベスト、有害生物
14	人獣共通感染症・動物が媒介する感染症	BSE、狂犬病、インフルエンザ、デング熱、エキノコックスなど
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考資料と用語集を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇生命科学に関することで話題になっていることの情報収集。

【その他の注意事項】

◇授業に集中し、疑問点は積極的に質問してください。

国際関係論（春学期）	クロサワ アイミ 黒澤 愛美
International Relations	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

まず、国際関係とは何かというところから始めて、国際関係論の基礎知識を身につけます。そして、その基礎知識を基に、現代の国際社会が抱える諸問題を議論します。現代の国際社会には数多くの問題がありますが、この授業は、日本で活動する国際人として知っておくべき問題を優先して扱います。問題の現状を知ることにとどまらず、経緯や今後の課題まで追究します。また、関連する時事ニュースも積極的に取り上げます。基本的に講義形式で進めますが、国際問題について自分なりに考える機会を頻繁に持ちます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
国際関係論の基礎知識がある	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した内容について、指定された用語を用いながら論理的に記述できること。	10%
国際関係史の大きな流れを理解している	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した内容について、重要事項を押さえながら簡潔に記述できること。	20%
国際問題の概要を理解している	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した国際問題について、重要事項を押さえながら論理的に記述できること。	20%
国際問題を議論することができる	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した国際問題について、自分の主張を論理的かつ説得的に記述できること。	50%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として授業中の課題50%、期末試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業ガイダンス、国際関係とは何か
2	国際関係論の基礎知識	国際関係の主体、グローバル化
3	国際関係史	第一次世界大戦、第二次世界大戦
4	国際関係史	冷戦期の国際社会
5	国際関係史	国共内戦、朝鮮戦争
6	国際関係史	冷戦後の国際社会
7	国際問題	歴史問題
8	国際問題	日韓歴史問題
9	国際問題	領土問題
10	国際問題	安全保障、軍事
11	国際問題	経済、貿易
12	国際問題	環境、エネルギー
13	国際問題	人権
14	国際問題	その他の国際問題、授業の補足
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ CoursePower で資料を配布します。

【履修条件等】

◇ 初回に必ず出席してください。

◇ 受講マナーを守り、ほかの受講者に迷惑を掛ける行動は慎んでください。

◇ 板書の撮影を禁止します。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 普段からインターネットやテレビで国際ニュースを見るように心掛けましょう。

【その他の注意事項】

◇ 国際情勢に鑑みて、授業計画を変更することがあります。

国際関係論（秋学期）	クロサワ アイミ 黒澤 愛美
International Relations	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

まず、国際関係とは何かというところから始めて、国際関係論の基礎知識を身につけます。そして、その基礎知識を基に、現代の国際社会が抱える諸問題を議論します。現代の国際社会には数多くの問題がありますが、この授業は、日本で活動する国際人として知っておくべき問題を優先して扱います。問題の現状を知ることにとどまらず、経緯や今後の課題まで追究します。また、関連する時事ニュースも積極的に取り上げます。基本的に講義形式で進めますが、国際問題について自分なりに考える機会を頻繁に持ちます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
国際関係論の基礎知識がある	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した内容について、指定された用語を用いながら論理的に記述できること。	10%
国際関係史の大きな流れを理解している	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した内容について、重要事項を押さえながら簡潔に記述できること。	20%
国際問題の概要を理解している	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した国際問題について、重要事項を押さえながら論理的に記述できること。	20%
国際問題を議論することができる	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した国際問題について、自分の主張を論理的かつ説得的に記述できること。	50%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として授業中の課題50%、期末試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業ガイダンス、国際関係とは何か
2	国際関係論の基礎知識	国際関係の主体、グローバル化
3	国際関係史	第一次世界大戦、第二次世界大戦
4	国際関係史	冷戦期の国際社会
5	国際関係史	国共内戦、朝鮮戦争
6	国際関係史	冷戦後の国際社会
7	国際問題	歴史問題
8	国際問題	日韓歴史問題
9	国際問題	領土問題
10	国際問題	安全保障、軍事
11	国際問題	経済、貿易
12	国際問題	環境、エネルギー
13	国際問題	人権
14	国際問題	そのほかの国際問題、授業の補足
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ CoursePower で資料を配布します。

【履修条件等】

◇ 初回に必ず出席してください。

◇ 受講マナーを守り、ほかの受講者に迷惑を掛ける行動は慎んでください。

◇ 板書の撮影を禁止します。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 普段からインターネットやテレビで国際ニュースを見るように心掛けましょう。

【その他の注意事項】

◇ 国際情勢に鑑みて、授業計画を変更することがあります。

統計学（春学期）	マツモト ユウキ 松本 勇樹
Statistics	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

人間が生きていくうえではあらゆる局面で意思決定をしなければならない。経験やカンのみで頼って意思決定を行うと誤った意思決定を行う場合が多い。そこで客観的に測定された数値を用いることによって正しい意思決定を行うことができるようになる。本講義ではビジネスで使用する数字や統計の感覚を養うことを目的とする。概算や四捨五入などの基本から初めて、割合や変化の仕組みを学ぶ。その後、記述統計学と多変量解析の中から、身近なデータを使用して、統計の考え方について理解する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
数字の感覚を養う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して正しい計算ができるかを評価する。	30%
データを整理する	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して決められた基準に従って、データを正しく分類することができるかを評価する。	20%
統計計算を行う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して、正しい計算を行い、その結果からどのようなことが分かるかを評価する。	50%
評価の方法 50%以上の出席を前提として、授業内課題15%、小テスト15%、期末試験70%の合計点で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本講義のテーマ、目的・概要、講義方針等を確認する併せて、シラバスに基づく具体的な講義内容を説明する
2	概算と電卓の操作方法	電卓の操作方法を確認するとともに、データを概算で扱う感覚を養う
3	比率	数値を比較するための手法として比率の考え方を習得する
4	変化(1)	指数と倍率について理解する
5	変化(2)	変化率について理解する
6	度数分布	収集したデータを分類し、度数分布表とヒストグラムを作成する
7	代表値	平均とメディアンについて理解する
8	散らばりの代表値(1)	偏差の概念から、標準偏差について理解する
9	小テスト(1)	標準偏差の演習を行い、小テストを実施する
10	標準化・変動係数	平均・標準偏差が異なる2つの分布に属するデータを比較する
11	散布図	2つの変数にどのような関係があるのか散布図を用いて把握する
12	相関係数	2つの変数の関係を1つの数値で表す
13	小テスト(1)	相関係数の復習を行い、小テストを実施する
14	正規分布	代表的な分布である正規分布の性質とその利用法について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇配布資料を使用する。

【履修条件等】

◇継続して受講しないと理解度は高まらないので、休まず出席すること。

√機能がついている12桁以上の電卓を必ず持参すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配布資料に記載されている問題を必ず解くこと。

【その他の注意事項】

◇繰り返し解説を行うので、数学や計算に対しての過度な恐怖心や思い込みをしないで講義に参加してほしい。

統計学（秋学期）	マツモト ユウキ 松本 勇樹
Statistics	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

人間が生きていくうえではあらゆる局面で意思決定をしなければならない。経験やカンのみで頼って意思決定を行うと誤った意思決定を行う場合が多い。そこで客観的に測定された数値を用いることによって正しい意思決定を行うことができるようになる。本講義ではビジネスで使用する数字や統計の感覚を養うことを目的とする。概算や四捨五入などの基本から初めて、割合や変化の仕組みを学ぶ。その後、記述統計学と多変量解析の中から、身近なデータを使用して、統計の考え方について理解する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
数字の感覚を養う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して正しい計算ができるかを評価する。	30%
データを整理する	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して決められた基準に従って、データを正しく分類することができるかを評価する。	20%
統計計算を行う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して、正しい計算を行い、その結果からどのようなことが分かるかを評価する。	50%
評価の方法	50%以上の出席を前提として、授業内課題15%、小テスト15%、期末試験70%の合計点で評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本講義のテーマ、目的・概要、講義方針等を確認する併せて、シラバスに基づく具体的な講義内容を説明する
2	概算と電卓の操作方法	電卓の操作方法を確認するとともに、データを概算で扱う感覚を養う
3	比率	数値を比較するための手法として比率の考え方を習得する
4	変化(1)	指数と倍率について理解する
5	変化(2)	変化率について理解する
6	度数分布	収集したデータを分類し、度数分布表とヒストグラムを作成する
7	代表値	平均とメディアンについて理解する
8	散らばりの代表値(1)	偏差の概念から、標準偏差について理解する
9	小テスト(1)	標準偏差の演習を行い、小テストを実施する
10	標準化・変動係数	平均・標準偏差が異なる2つの分布に属するデータを比較する
11	散布図	2つの変数にどのような関係があるのか散布図を用いて把握する
12	相関係数	2つの変数の関係を1つの数値で表す
13	小テスト(2)	相関係数の復習を行い、小テストを実施する
14	正規分布	代表的な分布である正規分布の性質とその利用法について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇配布資料を使用する。

【履修条件等】

◇継続して受講しないと理解度は高まらないので、休まず出席すること。

√機能がついている12桁以上の電卓を必ず持参すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配布資料に記載されている問題を必ず解くこと。

【その他の注意事項】

◇繰り返し解説を行うので、数学や計算に対しての過度な恐怖心や思い込みをしないで講義に参加してほしい。

就職特講	ノザワ マキコ 野沢 牧子
Special Seminar for Job Seeking	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。本講義では、履歴書やエントリーシートの書き方、業界・企業・職種研究、筆記試験・面接・グループワーク対策など、就職に直接役立つ知識の習得と演習を進めていきます。業界研究セミナーや内定者報告会等も実施し、臨場感ある準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くある選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対応する力を身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
評価の方法	職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	就職活動の現状の理解	就職活動を始めるにあたって考えるべきこと（雇用環境とデータで見る学卒者就職の現状、正規・非正規雇用の生涯賃金等）
2	自己分析Ⅰ	自分史の作成、SPIについて
3	自己分析Ⅱ	自分の志向と適性を考える、学生時代に頑張ったこと
4	自己PRのしかたⅠ	社会人基礎力から強みを考える、自己PR
5	自己PRのしかたⅡ	自己紹介書の完成
6	キャリア情報交流会	OBOGの話から、仕事のやりがいや職業を知る
7	志望先の選定Ⅰ	就職の軸
8	志望先の選定Ⅱ	業界、職種理解
9	志望先の選定Ⅲ	業界情報の捉え方、情報の取捨選択について、求人票の見方
10	合同企業説明会	合同企業説明会
11	志望動機の完成	想定業界、企業での志望動機作成
12	選考への対策Ⅰ	多様なエントリーシートへの対応
13	選考への対策Ⅱ	面接対策、マナー
14	選考への対策Ⅲ	グループディスカッション対策
15	活動計画策定・発表	履歴書・就職の軸・活動計画の策定最終確認

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇3年生で民間企業等への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義は連続性があるため、一度の欠席が大きなハンデとなることもある。

また社会人となるための準備講座のため、講義のルールおよびマナーを守って受講するようお願いしたい。

就職特講	ミヤジ ユカ 宮地 由夏
Special Seminar for Job Seeking	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。本講義では、履歴書やエントリーシートの書き方、業界・企業・職種研究、筆記試験・面接・グループワーク対策など、就職に直接役立つ知識の習得と演習を進めていきます。業界研究セミナーや内定者報告会等も実施し、臨場感ある準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くある選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対応する力を身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
評価の方法	職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	就職活動の現状の理解	就職活動を始めるにあたって考えるべきこと（雇用環境とデータで見る学卒者就職の現状、正規・非正規雇用の生涯賃金等）
2	自己分析Ⅰ	自分史の作成、SPIについて
3	自己分析Ⅱ	自分の志向と適性を考える、学生時代に頑張ったこと
4	自己PRのしかたⅠ	社会人基礎力から強みを考える、自己PR
5	自己PRのしかたⅡ	自己紹介書の完成
6	キャリア情報交流会	OBOGの話から、仕事のやりがいや職業を知る
7	志望先の選定Ⅰ	就職の軸
8	志望先の選定Ⅱ	業界、職種理解
9	志望先の選定Ⅲ	業界情報の捉え方、情報の取捨選択について、求人票の見方
10	合同企業説明会	合同企業説明会
11	志望動機の完成	想定業界、企業での志望動機作成
12	選考への対策Ⅰ	多様なエントリーシートへの対応
13	選考への対策Ⅱ	面接対策、マナー
14	選考への対策Ⅲ	グループディスカッション対策
15	活動計画策定・発表	履歴書・就職の軸・活動計画の策定最終確認

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇3年生で民間企業等への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義は連続性があるため、一度の欠席が大きなハンデとなることもある。

また社会人となるための準備講座のため、講義のルールおよびマナーを守って受講するようお願いしたい。

就職特講（留学生対象）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Special Seminar for Job Seeking	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

日本の労働力人口の減少を背景に日本で働く外国人が増加し、卒業後に日本で就職することを希望する外国人留学生も年々多くなっています。しかし、留学生が全員希望する仕事に就けるとは限りません。また就職しても期待していた仕事とは違って、すぐ転職する人も少なくありません。日本特有の就職事情を知らないこと、在留資格についての知識がないこと、また就職活動の準備開始が遅いことなどが問題になります。この授業では、日本の就職活動のしくみと流れを理解し、日本での就職活動の準備をします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本の就職事情を学び活動計画を立てる	日本の就職事情を学んで就職活動の仕組みと流れを理解し、それに沿って何をしなければならないかを考えて最終的に活動計画を立てることができるか、課題をもとに評価する。	40%
日本の企業、業界、職種を研究する	日本の業界業種や職種を理解し、企業研究の方法を身につけているかどうかを、課題をもとに評価する。	30%
具体的な就職活動の準備をする	就職活動のために何をしなければならないかを理解しその方法を身につけているかどうかを、課題をもとに評価する。	30%
評価の方法 提出された課題の内容によって評価する。 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、卒業後の進路希望調査
2	日本の就職慣習 1	日本の就職活動のしくみと流れ
3	日本の就職慣習 2	就職とアルバイト、インターンシップ
4	企業・業界研究 1	日本の企業が求める人材
5	企業・業界研究 2	職種と業種、職業適性
6	企業・業界研究 3	業界研究と企業研究
7	企業・業界研究 4	資格と日本語能力
8	就職活動準備 1	情報収集
9	就職活動準備 2	面接対策
10	就職活動準備 3	履歴書エントリーシート
11	就職活動準備 4	志望動機
12	就職活動準備 5	先輩の経験談から学ぶ
13	在留資格について	日本で働くための在留資格取得条件を知る
14	就職活動計画	活動計画を立てる
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は特に指定しない。
- ◇参考図書：久保田学（2018）『留学生のための就職内定ワークブック』
日本能率協会マネジメントセンター
田村一也ほか（2020）『留学生のための就職筆記試験教科書』
日本能率協会マネジメントセンター

【履修条件等】

- ◇日本での就職、日本企業での就職を希望する外国人留学生のための授業です。それ以外の進路を予定している留学生は履修ができません。
- ◇春学期に「プロフェッショナル・セミナーⅦ（留学生対象）」を受講して単位を取得できていることが望ましいです。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇各学習項目を学ぶに際し、情報収集をしたり、活動計画を立ててまとめたりする課題が課されます。事前学習をしなければ、授業内容を十分に理解できないので、必ず授業で指定される準備をしてください。

【その他の注意事項】

- ◇上記の授業計画は、受講人数や大学内行事日程などを勘案して、変更することがあります。

コンピュータ・サイエンス	エザキ カズオ 江崎 和夫
Computer Science	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

社会においては、コンピュータを使って仕事を行うことが増えています。また、本学においてさまざまな科目を学習していくための基礎としてコンピュータを理解し、操作できることは重要です。そこで本科目は、ビジネス文書や、ビジネスデータの加工などができるコンピュータリテラシーのスキル（技能）を身につけることを目指します。そのために、パソコンの基本ソフト（OS）である Windows の基本的な操作を学習した後、ワープロソフトの Microsoft Word を使った日本語文書・レポートの作成、表計算ソフトの Microsoft Excel を使った表計算処理やグラフの作成、プレゼンテーションソフトの Microsoft PowerPoint を使った発表用資料の作成などについて、実践的な演習を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータを活用するために必要な基礎知識を理解していること	操作の習熟度を課題の作成によって評価。ファイルやフォルダの管理等が適切に行えること。ブラウザや検索エンジンを使って適切な情報を検索することができる。	10%
ワープロソフトでビジネス文書やレポートなどを作成するスキルを身につけていること	操作の習熟度を課題の作成によって評価。文字のタイピングおよび Word を使ってビジネス文書やビジュアル資料を作成できる操作や設定を行うことができる。表や画像を利用して効果的な文書をレイアウトできる。	40%
表計算ソフトの基本を理解し、関数を活用したデータ処理やグラフの作成ができること	操作の習熟度を課題の作成によって評価。Excel を操作してワークシートの編集を行い、データにあった関数を適切に活用した表計算ができること、用途に合わせた適切なグラフを作成できること。	30%
プレゼンテーションソフトを使って効果的な発表資料が作成できること	操作の習熟度を課題の作成によって評価。プレゼンテーションソフトの PowerPoint を使って、画像やアニメーションを効果的に活用して発表資料を作成することができる。	20%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として、授業参画度20%、課題の演習50%、試験30%の割合で評価する。試験は、理解度小テストを数回実施する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、シラバスの説明、テキストの指定。 Windowsの操作、ファイルの操作、Wordの基本操作
2	Word の操作演習 1	さまざまな文字の入力方法、ページ設定、文章の編集
3	Word の操作演習 2	書式設定、文字の装飾、表の作成、表の編集
4	Word の操作演習 3	画像等を活用したビジュアルな文書の作成 レイアウトの指定
5	Word の操作演習 4	ビジネス文書を作成する総合演習
6	インターネットの活用	インターネットの使い方と活用方法
7	Excel の操作演習 1	基本的なワークシート編集、数式、関数の基本 (SUM)
8	Excel の操作演習 2	表と罫線、グラフの作成
9	Excel の操作演習 3	関数 (AVERAGE、COUNT等)
10	Excel の操作演習 4	データの抽出とフィルタ、並べ替え
11	Excel の操作演習 5	シートの操作、総合課題による習熟度の確認
12	PowerPoint の操作演習 1	スライド作成、文字や画像の活用
13	PowerPoint の操作演習 2	図形、Smartartを活用したビジュアル資料作成
14	総合演習	総合演習課題を使った習熟度の確認
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇「Word & Excel & PowerPoint 2019基本技」 技術評論社編集部著 技術評論社発行

【履修条件等】

◇コンピュータの初心者を対象としているので、履修条件はとくにない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業で事前学習の指示をするので、教科書の該当ページを読むとともに、事前学習課題を作成してください。

【その他の注意事項】

◇演習を通じて習熟度を上げる必要があるため、全回出席が基本である。遅刻は2回で欠席1回とする。全授業の3分の1（5回）欠席した場合は、単位が認められない。

コンピュータ・サイエンス	クロキ ヒロシ 黒木 弘司
Computer Science	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

現代では大企業は言うに及ばず、ほとんどの企業や大学にはコンピュータが取り入れられ、その多くで Microsoft 社の Word、Excel、PowerPoint が文書の作成やプレゼンテーション資料に使用されています。本講義では、今後使用する機会が増える Word や Excel、PowerPoint による文書の作成や表計算、プレゼンテーション資料の作成について、実習を通して基本的な操作方法を習得することを目的とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
Microsoft Word の基本操作を理解し、分かりやすい文書の作成ができる	実技試験によって評価。 Microsoft Word を使用した基本的な文章の作成ができ、グラフィックや表などを使った分かりやすい文書の作成ができること。	30%
Microsoft Excel の基本操作を理解し、表の作成やデータの操作、グラフの作成ができる	実技試験によって評価。 Microsoft Excel を使用した基本的なデータの入力や表の作成、関数の使用ができ、用途に合わせたグラフの選定やデータの操作ができること。	40%
Microsoft PowerPoint の基本操作を理解し、効果的なプレゼンテーション資料の作成ができる	実技試験によって評価。 Microsoft PowerPoint を使用して図形やSmartArt グラフィックを使った基本的なプレゼンテーション資料の作成ができ、発表方法に合わせて画面切り替えやアニメーションを効果的に用いることができること。	20%
Microsoft Word、Excel、PowerPoint で作成したデータを共有することができる	実技試験によって評価。 Microsoft Excel の表を Microsoft Word の文書に貼り付けることができること。 Microsoft Excel のデータを使って Microsoft Word の差し込み印刷ができること。 Microsoft Word の文書を Microsoft PowerPoint で利用することができること。	10%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、試験80%、授業内の課題20%。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンスと Windows の基本操作	授業の進め方、Windows の基礎
2	Word、Excel、PowerPoint の基本操作	Word、Excel、PowerPoint の概要、起動／終了、画面の構成
3	Word の操作実習(1)	文書の作成
4	Word の操作実習(2)	グラフィック機能の使用
5	Word の操作実習(3)	表のある文書の作成
6	Excel の操作実習(1)	データの入力
7	Excel の操作実習(2)	表の作成
8	Excel の操作実習(3)	グラフの作成
9	Excel の操作実習(4)	データの分析
10	PowerPoint の操作実習(1)	プレゼンテーションの作成
11	PowerPoint の操作実習(2)	スライドショーの実行
12	データ共有の操作実習	Word、Excel、PowerPoint 間でのデータ共有
13	総合練習(1)	総合問題を使って習熟度の確認
14	総合練習(2)	総合問題を使って習熟度の確認
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇ 『よくわかるWord 2019 & Excel 2019 & PowerPoint 2019』 富士通エフ・オー・エム株式会社 (FOM出版)

【履修条件等】

- ◇ 履修条件は特にありませんが、ある程度Windowsの使用やタイピングができることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 授業の最後に次回の授業内容をお知らせしますので、教科書の該当ページを読んでおくこと。

【その他の注意事項】

- ◇ 前回までの授業を理解しておくことが前提になるので、できるだけ欠席しないこと。
- ◇ 上記の授業計画は受講者の既習レベルなどにより、変更する場合があります。
- ◇ 実習はWindows10の環境でWord 2019、Excel 2019、PowerPoint 2019の使用を前提として行います。前提以外の環境や設定を使用する場合には、各自で環境の相違による表示や操作方法の違いの解消を行ってください。
- ◇ 遠隔で授業を実施する場合には、授業の途中で受講確認を行います。遠隔で受講する場合でも、対面で受講する場合と同様の態度と姿勢で授業に臨んでください。

コンピュータ概論	エザキ カズオ 江崎 和夫
Introduction to Computer	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本科目は、パソコンをビジネス実務に活用するのに必要なコンピュータのハードウェア、ソフトウェア、通信・ネットワーク、システムに関する基本知識を身につけます。また、情報の活用方法、および、情報活用の際に重要な、情報セキュリティと情報モラルに関する理解も深めていきます。学習にあたっては、「IT パスポート試験」の出題範囲を考慮して進め、IT パスポート試験の入門の役割も果たします。IT パスポート試験は、IT を利用するすべての社会人・これから社会人となる学生が備えておくべき、ITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータのハードウェアの種類と機能	コンピュータの CPU、メモリ、補助記憶装置の種類や機能に関して説明できる。IoT の仕組みと活用分野について説明できる。	20%
ソフトウェアの種類と機能	Windows などのオペレーティングシステムと、表計算ソフト、グラフィックスソフトなどのアプリケーションソフトの種類と活用分野に関して説明できる。	20%
通信とネットワーク	通信の仕組みと、ネットワークの種類と特徴に関する理解度で評価する。LAN や WAN、クラウドコンピューティングのビジネスへの活用に関して説明できる。	20%
インターネットとeビジネス	インターネットの仕組みや基本用語についての理解度で評価する。e ビジネスの種類と特徴について説明できる。	20%
サイバーセキュリティと情報モラル	コンピュータと情報に関するリスクと対策に関して説明できる。サイバーセキュリティと、情報モラルの重要性について説明できる。	20%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として、授業参画度10%、課題40%、理解度小テスト20%、試験30%、の割合で評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ITパスポート資格紹介	・授業の進め方、ITパスポート資格の紹介 ・コンピュータの種類と構成
2	コンピュータの構成要素 ハードウェア	・CPUとメモリ ・補助記憶装置の種類と特徴
3	入力装置と出力装置 ソフトウェア	・入力装置と出力装置の種類と特徴 ・ソフトウェアの種類と特徴
4	ソフトウェア	・オペレーティングシステムの機能 ・ビジネスで活用されるアプリケーションソフトウェア
5	通信とネットワーク	・通信の仕組みと基本用語 ・ネットワークの種類、LAN、WAN
6	クラウドコンピューティング	・クラウドコンピューティング ・5Gの活用分野
7	インターネットの基本	・インターネットの基本 ・インターネットの活用分野
8	IoTの仕組みと活用分野	・IoT(Internet of Things)の仕組み ・IoTの活用分野
9	eビジネス	・eビジネスの分野 ・eコマース
10	サイバーセキュリティ 情報モラル	・サイバーセキュリティとコンピュータウイルス ・情報モラルの基本
11	データベースの機能と操作	・データベースの機能 ・データベースの操作
12	システムの構成要素 システム開発	・システムの構成要素 ・システム開発のステップと方法
13	プログラムとアルゴリズム	・プログラム言語 ・アルゴリズムの基本
14	通信ネットワークの最新技術	・モバイルコンピューティングの技術 ・授業のポイントのまとめ
15	総括および学習達成度の確認	・総括および学習達成度の確認

【使用教材】

- ◇「かんたん合格 ITパスポート教科書 令和4年版」 坂下有里&ラーニング編集部著
インプレス社発行

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前学習と事後学習の指示をするので、事前学習・事後学習課題を作成してください。

【その他の注意事項】

- ◇全回出席が基本です。遅刻は2回で欠席1回とします。全授業の3分の1（5回）欠席した場合は、単位が認められません。

コンピュータ概論	クロキ ヒロシ 黒木 弘司
Introduction to Computer	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

現代では、コンピュータは生活に欠かせない存在となり、身近であたりまえのように利用されています。ですが、コンピュータっていったい何だろうと考えてみると良くわからない人も多いと思います。この講義では、コンピュータを初めて学ぶ人向けに、パソコンを題材としてコンピュータの基礎について解説します。この講義を通して、コンピュータとはどういうもので、どうやって動いているのか、そしてどのように利用したらよいのか、といったコンピュータの基礎的な知識の習得を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータのハードウェアについて、基礎的な知識を理解する	ハードウェアに関する用語およびコンピュータの構成と役割、入出力装置や外部記憶装置の種類と特徴を理解し説明できること。	25%
コンピュータのソフトウェアについて、基礎的な知識を理解する	ソフトウェアに関する用語および OS やアプリケーションといったプログラムの役割と種類を理解し説明できること。	25%
ネットワークについて、基礎的な知識を理解する	ネットワークやインターネットに関する用語と種類、仕組みを理解し説明できること。	25%
コンピュータを安全で適切に利用するための基礎的な知識を理解する	コンピュータを利用することのメリットやデメリット、危険性について理解し、コンピュータを安全で適切に利用するための方法を理解し説明できること。	25%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、試験80%、授業内の課題20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と日常の中のコンピュータ
2	コンピュータの歴史	コンピュータの誕生と発展
3	ハードウェア(1)	コンピュータの基本的な構成と動く仕組み
4	ハードウェア(2)	コンピュータの内部構造と役割
5	ハードウェア(3)	コンピュータの内部構造と役割
6	ハードウェア(4)	入出力装置
7	ソフトウェア(1)	プログラムとコンピュータで扱うデータ
8	ソフトウェア(2)	OS とアプリケーション
9	ソフトウェア(3)	ファイルとデータベース
10	インターネット(1)	ネットワークとインターネットの仕組み
11	インターネット(2)	ネットワークとインターネットの仕組み
12	情報セキュリティ	情報セキュリティと暗号化
13	コンピュータの利用(1)	情報技術の特性とサイバー犯罪
14	コンピュータの利用(2)	ライセンスと知的財産
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇ 『パソコンのしくみ』 高作義明著 新星出版社（2018）及び必要に応じて資料を配布します。

【履修条件等】

- ◇ 現在のコンピュータに関する知識やスキルは問いませんが、コンピュータについてもっと知りたい人、コンピュータをもっと使いこなしたい人、今後IT系資格の取得やIT系企業への就職を考えている人など、コンピュータの学習に興味を持って取り組める方。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 授業の最後に次回の授業内容をお知らせしますので、教科書の該当ページを読んでくること。

【その他の注意事項】

- ◇ 前回までの授業を理解しておくことが前提になるので、出来るだけ欠席しないこと。
- ◇ 上記の授業計画は受講者の既習レベルなどにより、変更する場合があります。
- ◇ 遠隔で授業を実施する場合には、授業の途中で受講確認を行います。遠隔で受講する場合でも、対面で受講する場合と同様の態度と姿勢で授業に臨んでください。

情報学（春学期）	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Informatics	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。これらのソフトを使いこなすためにパソコン一般知識、アプリケーション操作、情報モラル&セキュリティを学ぶことが必要です。本授業ではタイピングの練習、表計算、グラフ作成などを通じ、日常の企業活動で発生するさまざまなコンピュータ知識、スキルを習得します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
タイピング速度60文字／分以上を目標とする	毎授業の最初に5分間のタイピングテストを行いその点数および上達度を評価する。 また、授業時間の中でP検タイピング本試験を行いその結果を評価する。	20%
Microsoft Word を活用し、簡単な文書の作成、編集ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Word の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な非定型文書の編集をすることができること。	25%
Microsoft Office を活用し、計算式や表などを含む定型フォーマットの作成ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Excel の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な表やグラフを含む文書の編集をすることができること。	25%
コンピュータ用語、ネットワークシステム、情報モラルを理解する	確認問題に対する解答によって評価。 コンピュータに関する知識、通信ネットワーク技術、ウィルス対策を含むセキュリティや法規に関する基本的な設問に解答できること。	30%
評価の方法 毎回行うタイピングテスト10%、授業時間内の演習30%、試験60%。 試験はP検の模擬試験（準2級または3級）の結果を勘案する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義内容、本試験の内容等についての説明
2	ワープロ(1)	タイピングの基本を学び、文書の編集などの演習を行う
3	ワープロ(2)	図の挿入や図形の作成、表の作成や編集などの演習を行う
4	表計算(1)	表計算ソフトの操作を学び、関数を利用した計算などの演習を行う
5	表計算(2)	グラフの編集、表データの並べ替えなどの演習を行う
6	表計算(3)	データの集計、シートの編集などの演習を行う
7	コンピュータ知識	コンピュータに関する一般的な技術用語を学ぶ
8	情報通信ネットワーク	情報通信システムに関する一般的な技術用語を学ぶ
9	情報モラルと情報セキュリティ	インターネットのセキュリティ対策、個人情報やプライバシーの保護について学ぶ
10	ICTを活用した問題解決	フローチャート、データベースの活用法について学び、演習を行う
11	P検模擬試験	実際の検定試験と同じCBT方式での模擬試験を体験し、解答方法に慣れるとともに、弱点の克服を行う
12	P検模擬試験	実際の検定試験と同じCBT方式での模擬試験を体験し、解答方法に慣れるとともに、弱点の克服を行う
13	P検模擬試験	実際の検定試験と同じCBT方式での模擬試験を体験し、解答方法に慣れるとともに、弱点の克服を行う
14	P検模擬試験	P検本試験と同様の試験を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教材は教室に備え付けのものを使用するので購入は不要。

【履修条件等】

◇ Microsoft Windows / Word / Excel の基本的な操作ができること。

◇「コンピュータ・サイエンス」を履修済み程度のパソコンスキルを習得していること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇タイピングの練習をしておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業時間内にP検タイピング試験、P検（準2級または3級）の模擬試験を実施する。

◇P検（ICTプロフィシエンシー検定試験）に関しては以下の WEB サイトを参照のこと。<http://www.pken.com/>（ICTプロフィシエンシー検定協会）

情報学（秋学期）	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Informatics	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。これらのソフトを使いこなすためにパソコン一般知識、アプリケーション操作、情報モラル&セキュリティを学ぶことが必要です。本授業ではタイピングの練習、表計算、グラフ作成などを通じ、日常の企業活動で発生するさまざまなコンピュータ知識、スキルを習得します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
タイピング速度60文字／分以上を目標とする	毎授業の最初に5分間のタイピングテストを行いその点数および上達度を評価する。 また、授業時間の中でP検タイピング本試験を行いその結果を評価する。	20%
Microsoft Word を活用し、簡単な文書の作成、編集ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Word の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な非定型文書の編集をすることができること。	25%
Microsoft Office を活用し、計算式や表などを含む定型フォーマットの作成ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Excel の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な表やグラフを含む文書の編集をすることができること。	25%
コンピュータ用語、ネットワークシステム、情報モラルを理解する	確認問題に対する解答によって評価。 コンピュータに関する知識、通信ネットワーク技術、ウィルス対策を含むセキュリティや法規に関する基本的な設問に解答できること。	30%
評価の方法	毎回行うタイピングテスト10%、授業時間内の演習30%、試験60%。 試験はP検の模擬試験（準2級または3級）の結果を勘案する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義内容、本試験の内容等についての説明
2	ワープロ(1)	タイピングの基本を学び、文書の編集などの演習を行う
3	ワープロ(2)	図の挿入や図形の作成、表の作成や編集などの演習を行う
4	表計算(1)	表計算ソフトの操作を学び、関数を利用した計算などの演習を行う
5	表計算(2)	グラフの編集、表データの並べ替えなどの演習を行う
6	表計算(3)	データの集計、シートの編集などの演習を行う
7	コンピュータ知識	コンピュータに関する一般的な技術用語を学ぶ
8	情報通信ネットワーク	情報通信システムに関する一般的な技術用語を学ぶ
9	情報モラルと情報セキュリティ	インターネットのセキュリティ対策、個人情報やプライバシーの保護について学ぶ
10	ICTを活用した問題解決	フローチャート、データベースの活用法について学び、演習を行う
11	P検模擬試験	実際の検定試験と同じCBT方式での模擬試験を体験し、解答方法に慣れるとともに、弱点の克服を行う
12	P検模擬試験	実際の検定試験と同じCBT方式での模擬試験を体験し、解答方法に慣れるとともに、弱点の克服を行う
13	P検模擬試験	実際の検定試験と同じCBT方式での模擬試験を体験し、解答方法に慣れるとともに、弱点の克服を行う
14	P検模擬試験	P検本試験と同様の試験を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教材は教室に備え付けのものを使用するので購入は不要。

【履修条件等】

- ◇ Microsoft Windows / Word / Excel の基本的な操作ができること。
- ◇ 「コンピュータ・サイエンス」を履修済み程度のパソコンスキルを習得していること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇タイピングの練習をしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業時間内にP検タイピング試験、P検（準2級または3級）の模擬試験を実施する。
- ◇P検（ICTプロフィシエンシー検定試験）に関しては以下の WEB サイトを参照のこと。<http://www.pken.com/>（ICTプロフィシエンシー検定協会）

情報処理 I	エザキ カズオ 江崎 和夫
Information Processing I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本科目は、マイクロソフトの検定試験であるオフィススペシャリスト（MOS）の、表計算ソフトの Microsoft Excel の対策入門講座です。MOS の Excel は、企業の評価も高い世界共通の検定試験です。Excel が企業の実務で活用できるレベルのスキル（技能）に達していることを就職のときにアピールできます。ビジネスデータの加工などができるコンピュータリテラシーのスキル（技能）を身につけるとともに、検定試験の準備をすることを目指します。そのために、Excel を使った表計算処理やグラフの作成・テーブルやフィルター操作について、MOS の実践的な演習を通じて学習します。MOS（Excel）の模擬問題を多く解くことによって、検定試験対策を行うとともに、実践的な実務能力の向上を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
表計算ソフトの基本操作、関数を活用したデータ処理やグラフの作成ができる	操作の習熟度を課題の作成によって評価。基本的な Excel の操作をしてワークシートの編集を行い、データにあった関数を適切に活用した表計算ができること、用途に合わせた適切なグラフを作成できること。	20%
ワークシートとセルに関する操作や設定を行うことができる	MOS（Excel）の模擬問題の作成によって評価。ワークシートとブックに関する設定、セルやセル範囲へのデータ挿入、書式設定、セルの条件付き書式の設定などができること。	20%
数式や関数を使用した、データ集計や条件付きの計算演習を実行できる	MOS（Excel）の模擬問題の作成によって評価。数式や関数を使用した、データ集計や条件付きの計算、文字列の関数の書式設定などができる。	20%
テーブルやフィルターを使用した演算の実行ができる	MOS（Excel）の模擬問題の作成によって評価。テーブルの作成、フィルターの使用ができる。データベース機能の並べ替え機能が使える。	20%
グラフやオブジェクトの作成ができる	MOS（Excel）の模擬問題の作成によって評価。グラフの作成、グラフの種類選択、書式設定ができる。図形、Smartart などのオブジェクトの挿入ができる。	20%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として、授業参画度10%、課題の演習40%、理解度テスト20%、試験にかわる総合演習30%の割合で評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、MOS（Excel）検定試験の方式・内容。
2	Excelの基本操作確認	数式、関数の基本操作。MOSの関数の問題
3	ワークシートの管理	ワークシートとブックに関する模擬問題
4	セルとデータ管理	セルやセル範囲へのデータ挿入、書式設定の模擬問題
5	セルの条件付き書式	セルの条件付き書式の設定
6	数式や関数を使った集計	データ集計を行う関数、小計
7	条件付関数、文字列関数	条件付きの計算の関数、文字列の変更の関数
8	テーブルを使用した演習	テーブルの作成、フィルターによる抽出
9	テーブルの編集	フィルターによる抽出指定、条件検索
10	データベース、並べ替え	データベース機能、並べ替えの模擬問題
11	グラフの作成と種類	グラフの作成の基本、用途別のグラフの種類
12	グラフの書式設定	グラフの書式設定の模擬問題
13	図形、Smartart	図形、Smartartを活用したビジュアル資料作成の模擬
14	模擬問題の総合演習	MOS（Excel）の模擬問題を使った総合演習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度を総合課題で確認

【使用教材】

◇ 「MOS攻略問題集 Excel 365&2019」 土岐順子著 日経BP社発行

【履修条件等】

◇ 履修条件はとくにない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 授業で事前学習の指示をするので、教科書の該当ページを読むとともに、事前学習課題を作成してください。

【その他の注意事項】

◇ 演習を通じて習熟度を上げる必要があるため、全回出席が基本です。遅刻は2回で欠席1回とする。全授業の3分の1（5回）欠席した場合は、単位が認められません。

情報処理Ⅱ	エザキ カズオ 江崎 和夫
Information Processing II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本科目は、マイクロソフトの検定試験であるオフィススペシャリスト（MOS）の、表計算ソフトの Microsoft Excel の対策講座です。「情報処理Ⅰ」の内容を深め、模擬問題を多く解き、企業の実務に使える実践力を身につけるとともに、合格する確率を上げることを目指します。MOS の Excel は、企業の評価も高い世界共通の検定試験です。Excel が企業の実務で活用できるレベルのスキル（技能）に達していることを就職のときにアピールできます。ビジネスデータの加工などができるコンピュータリテラシーのスキル（技能）を身につけるとともに、検定試験の準備をすることを目指します。MOS（Excel）の模擬問題を多く解くことによって、検定試験対策を行うとともに実践的な実務能力の向上を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
表計算ソフトの基本操作、関数を活用したデータ処理やグラフの作成ができる	操作の習熟度を課題の作成によって評価。基本的な Excel の操作をしてワークシートの編集を行い、データにあった関数を適切に活用した表計算ができること、用途に合わせた適切なグラフを作成できること。模擬問題の作成で評価する。	20%
ワークシートとセルに関する操作や設定を行うことができる	MOS（Excel）の模擬問題の作成によって評価。ワークシートとブックに関する設定、セルやセル範囲へのデータ挿入、書式設定、セルの条件付き書式の設定などができること。模擬問題の作成で評価する。	20%
数式や関数を使用した、データ集計や条件付きの計算演習を実行できる	MOS（Excel）の模擬問題の作成によって評価。数式や関数を使用した、データ集計や条件付きの計算、文字列の関数の書式設定などができる。模擬問題の作成で評価する。	20%
テーブルを使用した演算の実行ができる	MOS（Excel）の模擬問題の作成によって評価。テーブルの作成、フィルターの使用ができる。データベース機能の並べ替えをができる。模擬問題の作成で評価する。	20%
グラフやオブジェクトの作成ができる	MOS（Excel）の模擬問題の作成によって評価。グラフの作成、グラフの種類選択、書式設定ができる。図形、Smartart などのオブジェクトの挿入ができる。模擬問題の作成で評価する。	20%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として、授業参画度10%、課題の演習40%、理解度テスト20%、試験にかわる総合課題30%の割合で評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、MOS (Excel) 検定試験の方式・内容
2	Excel の操作の確認	数式、関数の操作の確認のための模擬問題演習
3	ワークシート管理の模擬	ワークシートとブックに関する操作の模擬問題
4	セルとデータ管理の模擬	セルの条件付き書式の種類の設定の模擬問題
5	数式や関数を使った集計	関数、小計、3D集計、ピボット集計の模擬問題
6	条件付関数、文字列関数	条件付きの計算の関数、文字列の変更の関数の模擬問題
7	テーブルを使用した演習	テーブルの作成、フィルター、抽出の詳細設定の模擬
8	データベース、並べ替え	データベースの機能の模擬問題、並べ替えの模擬問題
9	グラフの作成と書式設定	グラフの作成、種類、書式設定の模擬問題
10	図形、Smartart	図形、Smartart、ビジュアル資料作成の模擬問題
11	対策が必要な分野	MOS (Excel) の対策が必要な分野のポイント
12	総合演習	総合演習課題を使った習熟度の確認
13	模擬問題の総合演習 1	MOS (Excel) の模擬問題を使った総合演習 1
14	模擬問題の総合演習 2	MOS (Excel) の模擬問題を使った総合演習 2
15	総括・達成度の確認	授業についての総括および学習達成度の確認用の総合課題を作成する

【使用教材】

◇ 「MOS攻略問題集 Excel 365&2019」 土岐順子著 日経BP社発行

【履修条件等】

◇ 「コンピュータ・サイエンス」を履修していることが望ましい。また、できるだけ、「情報処理 I」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 授業の最後に事前学習の指示をするので、教科書の該当ページを読むとともに、事前学習課題を作成してください。

【その他の注意事項】

◇ 演習を通じて習熟度を上げる必要があるため、全回出席が基本です。遅刻は2回で欠席1回とする。全授業の3分の1（5回）欠席した場合は、単位が認められません。

多文化理解 I（韓国文化 1）	クロサワ アイミ 黒澤 愛美
Multicultural Issues I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業が目指すのは、韓国文化を理解し、韓国の人と上手にコミュニケーションが取れるようになることです。そのために欠かせない韓国語を中心に学びます。韓国語の文字である「ハングル」の読み書きから始めて、それぞれの場面にふさわしい言葉遣いを身に付けていきます。また、韓国の生活や習慣、マナーも同時に学びます。

言語をはじめとする文化は、時代によって変わります。リアルな韓国文化を楽しく学びましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ハングルを書くことができる	宿題や筆記試験によって評価。 ほかの人が問題なく読めるハングルを書けること。	25%
基礎的な文を読んで理解できる	筆記試験によって評価。 文章を読み、内容についての質問に答えられること。	25%
簡単な自己紹介をすることができる	授業中の受け答えによって評価。 通じる発音で、趣味や専攻など、自分のことについて話せること。	25%
簡単な日常会話を聞いて、話題がわかる	リスニング試験によって評価。 会話を聞き、何について話しているか答えられること。	25%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として授業参加度25%、宿題25% 期末試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	韓国語／ハングルとは、基本の母音
2	文字、発音	子音、日本の地名の書き方
3	文字、発音	パッチム、自分の名前の書き方
4	文字、発音	複合母音、あいさつ
5	肯定表現	第1課 ～は、～です（韓国の初対面の人との会話）
6	疑問表現	第2課 ～が、～ですか（韓国の地域）
7	否定表現	第3課 ～ではありません（韓国の学生生活）
8	存在表現	第4課 あります、ありません（韓国映画）
9	動作表現	第5課 します、しますか（韓国人の趣味活動）
10	丁寧な語尾の形	第6課 あります／しますのヨ体（韓国の社会人生活）
11	丁寧な語尾の形	第7課 ～です／ますのムニダ体（韓国の交通手段）
12	丁寧な語尾の形	第8課 ～です／ますのヨ体（韓国の食文化）
13	丁寧な語尾の形	～です／ますのヨ体の練習
14	数の数え方	第9課 漢数詞、名詞＋ですのヨ体（韓国での買い物）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇木内明『基礎から学ぶ韓国語講座初級改訂版』国書刊行会、2013年。

【履修条件等】

- ◇この授業は、韓国語を初めて学ぶ人～ハングルが少し読める人を対象にする。
- ◇全ての授業に出席するつもりで履修すること。
- ◇毎回必ずテキストを持参すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇次回の授業までに宿題を終わらせておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇受講マナーを守り、ほかの受講者に迷惑を掛ける行動は慎むこと。
- ◇板書の撮影を禁止する。

多文化理解Ⅱ（韓国文化2）	クロサワ アイミ 黒澤 愛美
Multicultural Issues II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業が目指すのは、韓国文化を理解し、韓国の人と上手にコミュニケーションが取れるようになることです。そのために欠かせない韓国語を中心に学びます。春学期に引き続き、それぞれの場面にふさわしい言葉遣いを身に付けていきます。また、韓国の生活や習慣、マナーも同時に学びます。

言語をはじめとする文化は、時代によって変わります。リアルな韓国文化を楽しく学びましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文を書くことができる	宿題や筆記試験によって評価。 分かち書き（スペースを入れること）をし、文法的に正しい文を書けること。	25%
初級の文章を読んで理解できる	筆記試験によって評価。 文章を読み、内容についての質問に答えられること。	25%
簡単な日常会話をする事ができる	授業中の受け答えによって評価。 通じる発音で、授業で習った表現を用いて、積極的にコミュニケーションを取ろうとすること。	25%
簡単な日常会話を聞いて理解できる	リスニング試験によって評価。 会話を聞き、話の流れや重要な情報についての質問に答えられること。	25%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として授業参加度25%、宿題25% 期末試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	春学期の復習
2	数の数え方	第10課 固有数詞、時計の読み方
3	敬語	第11課 敬語のムニダ体／ヨ体、特殊な例
4	否定表現	第12課 動詞・形容詞の否定表現、～するといひ
5	過去形	第13課 ムニダ体／ヨ体の過去形
6	勧誘表現	第14課 ～しましょう、～しよう
7	現在進行形	第15課 ～している、～してください
8	韓国の名節・祝祭日	韓国の旧正月、お盆、誕生日のお祝い
9	可能・不可能表現	第16課 ～できる、～できない
10	希望表現	第17課 ～したい、～してください
11	許可・禁止表現	第18課 ～してもいい、～しないでください
12	韓国の芸術文化	伝統芸術、韓流
13	義務表現	第19課 ～しなければならない
14	推量・意志・未来表現	第20課 ～と思います、～するつもりです
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇木内明『基礎から学ぶ韓国語講座初級改訂版』国書刊行会、2013年。

【履修条件等】

- ◇この授業は、「多文化理解Ⅰ（韓国文化1）」を履修した人を対象にする。
- ◇全ての授業に出席するつもりで履修すること。
- ◇毎回必ずテキストを持参すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇次回の授業までに宿題を終わらせておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇受講マナーを守り、ほかの受講者に迷惑を掛ける行動は慎むこと。
- ◇板書の撮影を禁止する。

多文化理解Ⅲ（ハラール／イスラム市場）	<small>シミズ トシキ</small> 清水 俊樹 <small>イケダ セイヤ</small> 池田 誠也
Multicultural Issues III	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、文化・宗教・食習慣・金融ルールなどが異なるハラール／イスラム市場を中心とした市場の理解を深め、ビジネスを行う上で重要とされる「事業開発ノウハウ」の習得を目的とします。

年々人口が増加し、経済が成長しているムスリム人口は、無視できない存在になっています。国内の市場が衰退するなか、今後はハラール／イスラム市場の理解が重要になります。本講義では、世界における最新の（とくにハラール／イスラム）市場環境を包括的に取り上げ、事業開発のエッセンスを学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) ハラール／イスラム市場に関する理解	本講義を通して得られるハラール／イスラム市場に関する多岐に渡る動向を十分に理解ができていますか？ 評価方法は、各講義で提出するペーパー、期末試験での評価を前提とする。	35%
2) 同市場における事業アイデアの創造・独自性とその倫理的な整理	ハラール／イスラム市場における事業アイデアとその実現性や事業性を十分に整理、説明できているか？ 評価方法は、各講義で提出するペーパー、期末試験での評価を前提とする（履修人数によってはグループワークの結果も反映される）。	35%
3) 講義全体の理解と論理的な思考力	本講義を通して得られる情報を論理的に紐付けてアウトプットできるか？ 評価方法は期末の試験を中心にを行います。	30%
評価の方法 この授業では、期末試験、各講義での授業への貢献、グループワークによる採点で評価します。単に、調べれば得ることのできる情報を求めるわけではなく、各講義で講師から提供される情報などを自分の頭で考え整理し、得られた各情報を有機的につなげる力が求められます。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入講義	本講義の全体構成と目的等の説明
2	事業開発のステップ	事業開発の概論に関する講義
3	世界の市場環境の把握	世界市場の現状および今後の見通しに関する講義
4	ムスリム市場の把握	ハラール／ムスリム市場の現状と今後の見通しの説明
5	イスラム教の理解	イスラム教の概念的な整理
6	前半の講義の振り返り	ここまでの講義を総括し、学生の理解力を把握
7	事例の紹介(1)	アウトバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
8	事例の紹介(2)	インバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
9	イスラム金融	イスラム金融の仕組みとイスラムビジネスのリスクの整理
10	事業考察の構成要件	グループワークのために必要なフレームワークの整理
11	グループワーク準備	ハラール／ムスリム市場参入の事業アイデアの立案
12	グループワーク	事業アイデアの発表、フィードバック
13	事業アイデアの事例	最新の取り組みに関する紹介
14	全体の総括	講義全体を通じた総括、質疑応答など
15	期末試験	学習達成度の確認を目的とした期末試験の実施

【使用教材】

◇教科書：とくにありません。毎講義、必要な資料は準備されています。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本講義では、多角的な視点が求められ、講義を通して紹介される参考文献などは時間を見つけて事前に学習してください。また、インターネットなどでもさまざまな事例が紹介されていますので、各講義の中で触れられた内容などに関しては各自で興味を持って調べるなりすることをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇本講義では、答えがない分野における考察、検討を重要視します。そのために必要な情報などは講義を通して得られますが、講義で得られた情報を元にしたアイデア、その妥当性などの検討は自分の頭で考えることが求められます。講義で得られた情報を記憶する事しか行いたくない学生は、この講義には向かないと考えられます。一方で、さまざまな文化、宗教、歴史、価値観などに興味を持ち、自らの経験などを踏まえたアイデアを考えることが好きな学生にとっては、ハラール／イスラム市場における最先端の情報が得られると考えられ、履修をお勧めします。

多文化理解IV (国際取引・貿易法を学ぶ)	スミダ コウジ 隅田 浩司
Multicultural Issues IV (International Trade Law and Policy)	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義は、貿易法（国際経済法）について学びます。世界中の国々は貿易によって経済的に連携しています。この貿易のルールを定めているのが貿易法です。本講義では、世界の貿易ルールを定めるために誕生した世界貿易機関（WTO）がなぜ、行き詰まっているのか、CPTPPやRCEPといった自由貿易協定によって世界経済はどのように変化するのか、地球温暖化問題、持続可能な貿易を実現するためのルール作りや、安全保障と貿易についての関係等、様々な論点について学びます、この授業を履修することによって貿易に関する基礎知識、及び世界経済についてより深い理解を得ることができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 貿易のメカニズムを理解する	貿易のメカニズムを理解しているかどうかについて講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2) 貿易の基本原則と国際ルールを理解する	貿易の基本原則と国際ルールを理解しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3) 国際経済法の論点を理解する	学習・到達目標(1)、(2)を前提として国際経済法の論点の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
4) 貿易に関する最近の国際情勢を分析する	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、貿易に関する最近の国際情勢を分析できるかどうか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の10%
評価の方法 評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	貿易の基礎知識	貿易に関する世界のルールの概要を解説
2	貿易と関税	貿易と関税に関する基礎知識を解説
3	国際貿易体制	WTO、多角的貿易システムについて解説
4	最恵国待遇	最恵国待遇原則について解説
5	内国民待遇など	内国民待遇、数量制限禁止について解説
6	地域貿易協定	CPTPPなど地域貿易協定について解説
7	貿易救済措置 1	セーフガードについて解説
8	貿易救済措置 2	アンチダンピング、補助金・相殺関税について解説
9	農業と貿易	農業と貿易について解説
10	SPS・TBT協定	衛生植物検疫措置などについて解説
11	サービス貿易	サービス貿易について解説
12	知的財産・投資など	貿易と知的財産、政府調達などについて解説
13	貿易と安全保障	経済安全保障について解説
14	国際経済法の最前線	最新の論点について解説
15	総括・達成度の確認	授業の総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小林 友彦（著），飯野 文（著），小寺 智史（著），福永 有夏（著）『WTO・FTA法入門〔第2版〕：グローバル経済のルールを学ぶ』法律文化社；第2版（2020/3/26）978-4589040626

◇参考書：講義中に適宜、紹介します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義の中で予習課題を指示します。

【その他の注意事項】

◇私語は厳禁です、違反者は、履修停止とします。

◇受講生の講義理解度に応じて、授業計画の順序を変更する場合があります。

多文化理解Ⅴ（コミュニケーション）	コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典
Multicultural Issues Ⅴ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

近年、異文化を背景に持つ人々は私たちの周囲に大変多くなっている。しかし、私たちは彼らの存在を認識しているものの、彼らと心の交流をしているとはまだまだ言えない。

この授業では、異なった文化・社会・価値観などを持つ人々をどう理解していけばいいのかを過去の研究結果を参照しながら共に考えていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文化とは何か、コミュニケーションとは何かについて理解する	授業への積極的な参加、課題への取り組みにより評価する。	50%
自分以外の人間の生き方を想像する能力を身につける	グループワーク時の対応、議論への積極的な参加により評価する。	50%
評価の方法 授業参加度30%、課題30%、本試験40%で評価する。 学期の3分の1を超えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、授業の進め方、評価の説明
2	文化とは何か①	異文化を理解する
3	文化とは何か②	文化とは
4	文化とは何か③	文化の特徴
5	文化とは何か④	異文化適応
6	コミュニケーションとは①	コミュニケーションの概念
7	コミュニケーションとは②	コミュニケーションスタイル
8	コミュニケーションとは③	コミュニケーションの手段
9	コミュニケーションとは④	コミュニケーションストラテジー
10	異文化コミュニケーション①	異文化の認識
11	異文化コミュニケーション②	差別を考える
12	異文化コミュニケーション③	自分を知る
13	異文化コミュニケーション④	アサーティブ・コミュニケーション
14	異文化コミュニケーション⑤	異文化トレーニング
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇使用せず。必要に応じて資料を配布する。

【履修条件等】

◇遅刻欠席をしないこと。

◇話し合いに積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇必要に応じて指示する。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が5回を越えた場合は単位を認めない。

◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

多文化理解VI（多文化共生）	コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典
Multicultural Issues VI	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

近年、異文化を背景に持つ人々は私たちの周囲に大変多くなっている。しかし、私たちは彼らの存在を認識しているものの、彼らと心の交流をしているとはまだまだ言えない。日本人の間でさえ、他人と違う服装すること、異なった生き方をすること、周囲の人と違う意見を表明することなのに不安を覚える人は多いであろう。

この授業では、異なった文化・社会・価値観などを持つ人々をどう理解していけばいいのかを共に考えていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文化とは何か、コミュニケーションとは何かについて理解する	授業への積極的な参加、課題への取り組みにより評価する。	50%
自分以外の人間の生き方を想像する能力を身につける	グループワーク時の対応、議論への積極的な参加により評価する。	50%
評価の方法 授業参加度30%、課題30%、本試験40%で評価する。 学期の3分の1を超えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、授業の進め方、評価の説明
2	バイリンガリズム	バイリンガリズムの概念、理論
3	異文化コミュニケーション①	ほめ方、しかり方などの日米比較
4	異文化コミュニケーション②	異文化トレーニング 1
5	異文化コミュニケーション③	異文化トレーニング 2
6	多文化共生①	多文化共生の基礎知識 1
7	多文化共生②	多文化共生の基礎知識 2
8	多文化共生③	人権と経済効率
9	多文化共生④	社会権とコスト
10	在留支援のやさしい日本語①	ガイドライン
11	在留支援のやさしい日本語②	外国人にもわかりやすい文章
12	多文化共生⑤	世界各地の対応
13	多文化共生⑥	日本の現状
14	多文化共生⑦	多文化共生のための教育
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇使用せず。必要に応じて資料を配布する。

【履修条件等】

- ◇遅刻欠席をしないこと。
- ◇話し合いに積極的に参加すること。
- ◇「多文化理解Ⅴ」を受講した学生の参加が望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇必要に応じて指示する。

【その他の注意事項】

- ◇学期中の欠席が5回を越えた場合は単位を認めない。
- ◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

健康と運動 I	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的に行うことができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業方針・評価について
2	実技 (集団型スポーツ)	集団の団結力が試されるスポーツ種目であるバスケットボールやアルティメットを題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する可能性がある)
3		
4		
5		
6		
7		
8	講義	①運動と健康の関係について
9		②生活習慣病について
10	実技 (ネット型スポーツ)	小集団のネット型スポーツ種目であるバドミントンや卓球を題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する可能性がある)
11		
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動 I	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年若者に増加している性感染症などの疾病の理解と、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体カトレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につながる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康三原則（運動・栄養・休養）の理解し、健康を維持するための知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につながる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 若者で問題となっている性感染症（STD）に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について現 状把握：体脂肪・血圧・基礎代謝測定
2 3	チームビルディングア ダブテッドスポーツ
4 8	実技：ネット型スポーツ①② 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
9 10	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動） 講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について）
11 14	実技：集団型スポーツ①② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に 学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

- ◇授業方針・マナーを守れる者。
- ◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。
- ◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

※新型コロナウイルスの感染状況によって、種目などを変更する可能性がある。

健康と運動Ⅱ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、フットサル・ソフトバレーボール等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 基礎代謝についての理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる性感染症の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的に行うことができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業方針・評価について
2	実技 (集団型スポーツ)	集団の団結力が試されるスポーツ種目であるフラッグフットボールやフットサルを題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
3		
4		
5		
6		
7		
8	講義	①基礎代謝について
9		②性感染症について
10	実技 (ネット型スポーツ)	小集団のネット型スポーツ種目であるソフトバレーボールやミニテニスを題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
11		
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

- ◇授業方針・マナーを守れる者。
- ◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。
- ◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

- ◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅱ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年増加している生活習慣病の理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体カトレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 基礎代謝を高め、太り難い身体を維持する知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について現 状把握：体脂肪・血圧・基礎代謝測定
2	チームビルディングア
3	ダブテッドスポーツ
4	実技：集団型スポーツ①②
8	集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボール、ダブルダッチ等を題材 に学ぶ
9	講義①：健康と運動の関係について（基礎代謝と運動）
10	講義②：疾病から身体を守る（生活習慣病と運動）
11	実技：ネット型スポーツ①②
14	小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーボール、インディアカ等を題材に学 ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

- ◇授業方針・マナーを守れる者。
- ◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。
- ◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

※新型コロナウイルスの感染状況によって、種目などを変更する可能性がある。

健康と運動Ⅲ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports III	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいるメタボリックシンドロームについての理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業方針・評価について
2	実技 (集団型スポーツ)	集団の団結力が試されるスポーツ種目であるバスケットボールやアルティメットを題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
3		
4		
5		
6		
7		
8	講義	①運動・栄養・休養の関係性について
9		②メタボリックシンドロームについて
10	実技 (ネット型スポーツ)	小集団のネット型スポーツ種目であるバドミントンや卓球を題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
11		
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅲ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports III	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、スポーツによる傷害（外傷・障害）の現状を理解し、傷害の起こしにくい「からだ作り」、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が関係する傷害の発生メカニズムと対処法を学び、適切な行動ができる力を身につけること	講義後、提出されたレポートによって評価。 スポーツ傷害（外傷・障害）の理解、外傷が発生した際の対処方法の知識を有すること。	20%
傷害を起こしにくい「からだ作り」について学び、実践可能なトレーニングの知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 加齢とともに低下していく筋力・体力の維持に必要なトレーニングの必要性と、トレーニングに関する正しい知識を有すること	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について現 状把握：体脂肪・血圧・基礎代謝測定
2 3	チームビルディングア ダブテッドスポーツ
4 8	実技：ネット型スポーツ①② 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
9 10	講義①：スポーツ障害の予防法について 講義②：年齢に合わせた体カトレーニングの必要性
11 14	実技：集団型スポーツ①② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学 ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

- ◇授業方針・マナーを守れる者。
- ◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。
- ◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

※新型コロナウイルスの感染状況によって、種目などを変更する可能性がある。

健康と運動IV	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports IV	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、フットサル・ソフトバレーボール等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 睡眠についての理解と、その必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 世界全体で取り組んでいるドーピングについての知識・理解と、それに対する自身の考えを有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的に行うことができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業方針・評価について
2	実技 (集団型スポーツ)	集団の団結力が試されるスポーツ種目であるフラッグフットボールやフットサルを題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
3		
4		
5		
6		
7		
8	講義	①睡眠について
9		②ドーピングについて
10	実技 (ネット型スポーツ)	小集団のネット型スポーツ種目であるソフトバレーボールやミニテニスを題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
11		
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

- ◇授業方針・マナーを守れる者。
- ◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。
- ◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

- ◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動IV	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports IV	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年話題になっているロコモティブシンドロームの理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体カトレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動不足が身体におよぼす影響を学び、その予防方法を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動器の障害により移動機能が低下するロコモティブシンドロームとその予防法の正しい知識を有すること。	20%
自己に適した運動の強度や種類についての知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動処方のひとつの尺度である「心拍数」を使って、自己に適した運動強度を算出できること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について現 状把握：体脂肪・血圧・基礎代謝測定
2	チームビルディングア
3	ダブテッドスポーツ
4	実技：集団型スポーツ①②
8	集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボール、ダブルダッチ等を題材 に学ぶ
9	講義①：ロコモティブシンドロームについて
10	講義②：運動と心拍数の関係性について
11	実技：ネット型スポーツ①～③
14	小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーボール、インディアカ等を題材に学 ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

- ◇授業方針・マナーを守れる者。
- ◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。
- ◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

※新型コロナウイルスの感染状況によって、種目などを変更する可能性がある。

日本語Ⅲ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language III	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJT ビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
4	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
6	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2
7	ビジネス日本語の基礎	出張 1
8	ビジネス日本語の基礎	出張 2
9	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
10	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
11	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
12	ビジネス日本語の基礎	日程調整
13	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
14	ビジネス日本語の基礎	展示会
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：小野塚若菜ほか（2015）『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』ジャパントイムズ

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに定められた方法で提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅳ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

日本で働くことを意識し、日本の社会への理解を図る。

日本の社会で過ごすために、異文化理解は不可欠である。

トラブルの事例から、日本社会で人間関係を構築、維持するため、どう考えるべきか、また、どのような表現を使うべきかを話し合う。

さらに、距離の取り方を考えながら、日本語の表現を学んでいく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
異文化理解	テキストから日本文化を理解する。やり直し会話として書いたものを評価する。	35%
対人関係の距離の取り方と言語表現	ロールプレイなどによって評価する。	25%
ディスカッション	テキストに書かれているトラブルから、問題の所在などについて討論する。	40%
評価の方法 授業態度、参加度も評価の対象となる。 授業態度・参加度10%、課題30%、口頭表現25%、期末試験35% 出席が3分の2に満たない場合には単位は与えられない。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	
2	時間	時間を守ること、確認
3	休む権利①	休みを取るについて
4	休む権利②	上司・同僚への対応
5	責任の有無	ウチとソト
6	謝罪	「申し訳ありません」の意味
7	怒る人への対処	関係を維持する
8	怒りの表現①	権利の主張
9	怒りの表現②	
10	感情の表現	感情を抑えた表現
11	語彙表現	ネガポジの表現
12	アドバイス	冷静な主張
13	できません	「できない」「難しい」について
14	異動	モチベーションの維持
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇適宜プリントを配布する。

【履修条件等】

◇出席するだけでなく、積極的な参加態度を求めます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ配布されたものについては、予習をすること。

【その他の注意事項】

◇適宜、課題、小テストがある。

◇上記の授業計画は、受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

◇課題は必ず提出し、期限を厳守すること。

日本の社会としくみ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Culture and Society	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、日本の社会や日本人の考え方・感じ方についての理解を深めるため、自分でテーマを決めて、調べを進める。

自分の調査だけでなく、途中、中間報告の際には、聞いた内容についてのコメントを求めめる。

最終的に、それぞれのテーマにしたがい、客観的な資料を使って、発表をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本文化・社会に関する調査	毎回、エクセルを用いたブレインストーミングを提出、それを評価する。	50%
コメントする力を養う	報告や発表を聞いて、コメントする。	15%
簡潔にプレゼンテーションができる。	PPT を作成し、時間内に簡潔なプレゼンテーションをすることができる。	35%
評価の方法 毎回のエクセル提出50%、プレゼンテーション35%、コメント15% 単位取得には、最低3分の2以上の出席を必要とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	テーマを決める
2	調査 1	ブレインストーミングの方法、調査
3	調査 2	調査
4	調査 3	調査
5	調査 4	調査
6	調査 5	調査
7	中間報告 1	コメント・アドバイス
8	中間報告 2	コメント・アドバイス
9	調査 6	調査
10	調査 7	調査
11	調査 8	調査
12	調査 9	調査
13	調査10	調査
14	プレゼンテーション 1	
15	プレゼンテーション 2	

【使用教材】

◇とくにない。

【履修条件等】

◇とくにない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくにない。

【その他の注意事項】

◇各自が進める調査が中心であるため、毎回提出する現状報告を重視する。

インターンシップ I	
Internship I	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法	エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。	

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー
14	現場での就業体験（5日間＝30時間） インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

- ◇3年生の履修希望者は授業科目「就職特講」を必ず履修すること。
- ◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

- ◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。
- ◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。
- ◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。
- ◇長期インターンシップ（1ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。
- ◇基本的には5日間（30時間）の就業体験にて1単位が付与され、最大4単位まで認定可能（インターンシップI～IVに相当）。
- ◇5日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。
- ◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（44単位＋ α ）。
- ◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

インターンシップⅡ	
Internship II	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法	エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。	

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー
14	現場での就業体験（5日間＝30時間） インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

- ◇3年生の履修希望者は授業科目「就職特講」を必ず履修すること。
- ◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

- ◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。
- ◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。
- ◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。
- ◇長期インターンシップ（1ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。
- ◇基本的には5日間（30時間）の就業体験にて1単位が付与され、最大4単位まで認定可能（インターンシップⅠ～Ⅳに相当）。
- ◇5日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。
- ◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（44単位＋ α ）。
- ◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

インターンシップⅢ	
Internship III	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法	エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。	

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー
14	現場での就業体験（5日間＝30時間） インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

- ◇3年生の履修希望者は授業科目「就職特講」を必ず履修すること。
- ◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

- ◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。
- ◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。
- ◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。
- ◇長期インターンシップ（1ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。
- ◇基本的には5日間（30時間）の就業体験にて1単位が付与され、最大4単位まで認定可能（インターンシップⅠ～Ⅳに相当）。
- ◇5日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。
- ◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（44単位＋ α ）。
- ◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

インターンシップⅣ	
Internship IV	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法 エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー
14	現場での就業体験（5日間＝30時間） インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

- ◇3年生の履修希望者は授業科目「就職特講」を必ず履修すること。
- ◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

- ◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。
- ◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。
- ◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。
- ◇長期インターンシップ（1ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。
- ◇基本的には5日間（30時間）の就業体験にて1単位が付与され、最大4単位まで認定可能（インターンシップI～IVに相当）。
- ◇5日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。
- ◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（44単位＋ α ）。
- ◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

自己開発 I・II・III・IV・V・VI	
Self-advancement I・II・III・IV・V・VI	選択科目／認定／各1単位

【本科目の目的】

本学学生の自立心養成、キャリア形成を支援するための一環として、この科目を設置する。すなわち、学生が、本学での教育に立脚し、資格取得、ボランティアなど、学外で修得してきた一定の学習成果に対して単位を認定する。

【単位を認定する資格】

在学中に取得した資格。具体的には「技能審査の対象資格・検定表」に記載する資格を対象とする。ただし、取得後3か月以内に単位認定の申請をすることが必要（1月末までに届けたものについては当該年度の「自己開発」科目の単位として、それ以降の申請については、次年度の単位として認定する）。

例：公認会計士、税理士、中小企業診断士、情報システムITパスポート試験、実用英語技能検定、秘書技能検定、簿記検定、販売士、経営学検定試験、TOEIC等

【ボランティア】

担当教員宛に「参加申請書類」（受入先または仲介先の概要紹介書、活動計画書などを添付）を提出し、担当教員の承認を得たボランティア活動を「単位を認定するボランティア」とする。活動期間は、通算5日40時間以上とする。

承認を得たら、すみやかに「賠償責任保険」（340円。学生支援担当窓口扱）に加入し、活動終了後は、2週間以内に、「単位認定申請書」に受入先または仲介先の発行するボランティア活動修了証あるいは証明書（写しでも可）を添え、担当教員に届け出ることを要する。

◇本科目における「単位認定のプロセス」や「修得可能な単位数」「技能審査の対象資格・検定表」などについては『学生要覧』を参照してください。

外 国 語 科 目

2022年度

経営学部経営学科

東京富士大学

英会話 I	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation I	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、世界各地の若者たちの暮らしに密着するドキュメンタリーDVDを英語で見ながら「グローバルな視野」を養うとともに、高校までに習ってきた単語や文法が実際にどのように使われるのかを学びます。授業内で扱うのは比較的優しいレベルの英文や構文で、これらを使って高校までの基礎を復習しながら、主にリスニングとスピーキングの2つの側面に焦点を当てることにします。また、様々な動画のシーンを見ながら、英語圏の日常生活で起こりやすい状況で使える英会話表現を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 1. Living the Dream	ロサンゼルスで夢を追う若者のエピソード：アメリカ西海岸の風土や文化を学ぶ
3		
4	Unit 2. Meeting Different Kinds of	日本ではあまり馴染みのない英語圏、スコットランドの文化や人々の暮らしについて学ぶ
5	People	
6	Unit 3. A Country Filled with	現在形の用法 (続き)
7	Imagination & Ideas	
8	Unit 4. Being a Typical Scot, and	スコットランド人の国民性、愛国心、歴史と伝統について知る
9	Proud of It	
10	Unit 5. Living in Harmony with	自然との共生・調和を目指すカナダ：その風土、移民政策の問題について学ぶ
11	Nature	
12	Unit 6. A Young Adventurer in	カナダ・オタワ州で暮らす若者に密着：冒険家として暮らす背景、また、カナダ先住民文化について知る
13	Ottawa / Review	
14	春学期の総復習・振り返り	達成度評価に向けた総復習の実施
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇Morita, A., Sato, A., Fujimoto, A., Yamamoto, Y., Ikutani, D., Benfield, B., (2016).
World Wide English on DVD: For Global Communication Skills. Seibido.

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教員の指定に応じて、次回の授業までに課題や予習を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇メディア教材を多数扱うため、ノートパソコン（可能ならDVDドライブ付き）があると受講しやすいです。

英会話 I	ジャネット ジョンソン Janet Johnson
English Conversation I	基礎科目 / 半期 / 1 単位

【授業概要】

この授業では、英会話の基礎を学びます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話したり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む）、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題）。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む）、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題）。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法 筆記およびリスニングテスト30%×2、授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Explanation of class content and procedures. Warm ups.
2	Unit 1 Greetings	Personal info. Present tense statements. Pair work.
3	Greetings cont. Self Introductions	Speaking exercises. Giving and asking for information.
4	Unit 2 Occupations	Occupations. Describing types of work. Conversation and grammar exercises.
5	Unit 2 cont.	Jobs. Speaking practice. Self-study exercises.
6	Unit 3 Shopping	Asking prices. Describing items by proximity, color, type. Stating preferences.
7	Money	Learning and identifying USA currency.
8	Review Units 1 – 3	Review exercises and preparation for first Short test.
9	Short Test	Test on Units 1 – 3
10	Unit 4 Entertainment	Describing entertainment likes and dislikes.
11	Unit 4 cont.	Invitations:Extending and declining
12	Unit 5 Families	Identifying family relationships.
13	Unit 6 cont.	Talking about families.
14	Review Unit 4 &Unit 5 &Unit 6	Review exercises
15	Final Test	Final test

【使用教材】

◇ Interchange : English for international communication Book 1

Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor

Cambridge University Press

【履修条件等】

◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習）。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニングカアップのため、教科書付属のCDを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

英会話 I	スガワラ チツ 菅原 千津
English Conversation I	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

英会話を上達させるためには、英文法や語彙のインプット学習だけでなく会話練習などのアウトプット学習が必須です。本講義では基礎的な英語フレーズを用いたスピーキング・リスニング練習に重点をおき、「英語を話せる自信をつけること」を目標とします。そのため、ペアワークなどの会話練習には積極的に参加をすること。さらに、テキスト付属のオンライン学習プログラム「*English Central*」では単語学習や発音トレーニングを各自で行うことができるので大いに活用してほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
語彙力をつけ、日常生活で使われる英語表現を読んで理解できるようになる。	講義で学習した項目を課題や確認テストなどで評価する。	25%
日常生活で使われる英語表現を聞いて理解できるようになる。	リスニング課題や確認テストなどで評価する。	25%
日常生活で使われる英語表現を適切に発話できるようになる。	講義中の会話練習・課題・確認テストなどで評価する オンライン学習プログラム「 <i>English Central</i> 」の学習状況も評価の一部とする。	40%
学んだ内容を応用して身近なことや自分の意見を英語で表現できるようになる。	講義中の会話練習・課題・確認テストなどで評価する	10%
評価の方法	上記の学習目標を確認テストで60%の換算とし、平常点（課題の提出、授業への積極的な参加）を40%として加えて計100%で評価する。授業への出席は3分の2以上を前提とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初回ガイダンス	講義内容・評価方法・テキスト補助教材の使い方についての説明
2	Unit 1 Personal Information	自己紹介などの語彙・表現を学ぶ
3	同上	続き
4	Unit 2 Hobbies and pastimes	趣味について話すときの語彙・表現を学ぶ
5	同上	続き
6	Unit 3 Location	出身地について話すときの語彙・表現を学ぶ
7	Unit 4 Family members	家族について話すときの語彙・表現を学ぶ
8	Unit 1～4までのまとめと確認テスト	Unit 1～4までの確認テスト
9	Unit 5 Places	観光地などについて話すときの語彙・表現を学ぶ
10	同上	続き
11	Unit 6 Transportation and directions	交通機関や道順などについて話すときの語彙・表現を学ぶ
12	同上	
13	Unit 7 Food and drink	食べ物や飲み物などについて話すときの語彙・表現を学ぶ
14	同上	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇Complete Communication Book 1 -Basic-
コミュニケーションのための実践演習Book 1 《初級編》
James Bury /Anthony Sellick / 堀内 香織 共著（成美堂）

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇指定された課題や予習などを準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇初回に本講義についての詳細や注意事項を説明するので、しっかりと理解して講義に参加すること。

英会話 I	ブレント フィアルカ Brent Fialka
English Conversation I	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

リスニングを総合的に学習します。全員が積極的に参加できるように、クラス内の全てのアクティビティーは2人一組のペアか小グループを作って行います。積極的な参加姿勢はとても大切です！ この授業の目的は、楽しみながら英会話を学ぶことです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文法の理解	それぞれの単元で基本的な文法事項を確認した後で練習問題に取り組み、平易な文法事項を理解できるようになる。	20%
会話力の向上	新しく学んだ文法事項を使って、簡単な英会話を組み立てられるようになる。	25%
リスニング力の向上	各ユニット内のリスニング問題に取り組み、以前に学んだ会話表現をしっかりと使えるようになる。	25%
読解力の向上	テキスト内の簡単な英文を読み、読解セクションまでに学んだ知識を応用できるようになる。	20%
英作文	簡単な英文を作れるようになる。	10%

評価の方法 最終評価には中間試験と期末試験がそれぞれ25%ずつ含まれます。残りの50%は授業での積極的な参加姿勢、たとえば出席、積極性、グループワークやペアワーク、授業内での発言や課題への取り組みなどが含まれます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 1	Introduction of course materials, class structure and rules. Begin unit one.
2	Unit 1	Finish text material and do workbook exercises.
3	Unit 2	To be + Location. Subject pronouns. Classroom objects, rooms in the home, cities and nationalities, places around town.
4	Unit 3	Present continuous tense. Everyday activities
5	Unit 4	To be: short answers and possessive adjectives. Everyday activities.
6	Unit 5	Yes/No questions, short answers, adjectives, possessive nouns. Describing people and things. Weather.
7	Unit 5	Finish text material up to unit 5 and do workbook exercises. Review for test.
8	Midterm test 25%	
9	Unit 6	Review present continuous tense. Review prepositions of location. Family members. Describing activities and events.
10	Unit 7	Prepositions. There is/there are. Places around town. Locating places. Describing neighborhoods. Describing apartments.
11	Unit 7	Finish text material and do workbook exercises.
12	Unit 8	Singular/ plural. Adjectives. This/that/these/those.
13	Unit 8	Finish text material and do workbook exercises.
14	Review	Final test on units 6 to 9
15	Final test	

【使用教材】

- ◇ Side by Side Extra. Book and eText 1. International edition.
Steven J. Molinsky and Bill Bliss. Pearson Education Inc.

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇詳細は初回の授業で指示します。

【その他の注意事項】

- ◇出席は3分の2を満たすことを前提とします。クラスでの参加度合いを重視しますので、積極的に授業に参加することを求めます。

英会話 I	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
English Conversation I	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

日常生活のコミュニケーションに必要な表現を身につけることを目標とします。
 英会話の基礎に必要な英語力を育てるために語彙、文法、読解、英作文なども学びます。
 海外の文化、習慣なども知り、楽しんで知識を広げ、役立つ英語を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法の習得	授業内および筆記試験で評価。	25%
文章を読み理解する	授業内、および筆記試験で評価。	25%
英語を聞き取り、正しく書ける	授業内のリスニングで評価。	25%
英語の会話あるいはプレゼンテーションで自分の意見が言える	授業内の会話、プレゼンテーションで評価。	25%
評価の方法 以上の学習目標を期末試験で50%の換算とし、中間、期末の会話テスト、プレゼンテーション50%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1		授業の進め方、あいさつ、自己紹介、
2	be 動詞	It's Nice to Meet You
3		be 動詞を使った文、会話に慣れる
4	一般動詞	Take a Hike
5		ha
6	代名詞	Don't Wear Your High Heels
7		代名詞を使った文、会話に慣れる
8	中間テスト	
9	場所を表す前置詞	There's Nothing in My Backpack
10		場所を表す前置詞を使った文、会話に慣れる
11	Yes, No で答える質問	What a Small World
12		Yes, No で答える疑問文、会話に慣れる
13	現在進行形・過去進行形	Let's Eat
14	春期の復習	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：English First (Starter) 著者：Robert Hickling / Misoato Usukura 金星堂

【履修条件等】

◇将来役に立つ英語を身につけたいと希望し、積極的に授業に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示された場合には事前に行うこと。

【その他の注意事項】

◇教科書を持ってこないこと、授業中の携帯電話の使用、私語などは減点の対象となる。

英会話 I (留学生／再履修)	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation I (Foreign Students／Repeaters)	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、アメリカの大学生が日常的にかわしているような英会話を、クラスメートとして楽しく演習し、習得することを目的とします。今まで、学校で習ってきた英語が、実際の英会話となんとなく違うと感じている人も、皆さんの中にはいるかもしれません。そこで、この講座は、実際の様々な場面で役に立つ英語表現を、なるべく少ない語彙で用いる方法について学びます。

【学習到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
<p>評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 1: Introductions	自分のことを相手に伝える表現
3	Unit 2: Short Talk	朝食について
4	Unit 2: Daily Life	ルーティンの頻度についての表現
5	Unit 2: Short Talk	週末のアクティビティーについて
6	Unit 3: Weekend Events	自分の興味や関心を相手に伝える
7	Unit 3: Short Talk	アルバイト
8	Unit 4: Small Talk	あいさつと相手への会話の振り方
9	Unit 4: Short Talk	日曜日の朝のアクティビティー
10	Unit 5: Likes and Dislikes	好みや苦手な物、またその理由について説明する
11	Unit 5: Short Talk	今日の出来事について
12	Unit 6: Student Life	欲しい物や必要な物について話す
13	Unit6: Short Talk	目的地までの到達方法
14	春学期の総復習	6章までの内容を確認
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvist and Yuki Hasegawa (2019).
Free Talking-Basic Strategies for Building Communication. Cengage Learning.

【履修条件等】

- ◇留学生は、春学期のⅠと秋学期のⅡの両方をセットで履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教員の指定に応じて、次回の授業までに課題や予習を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇テキストは必ず用意すること。また、タブレットやPCがあると受講しやすいです。

英会話Ⅱ	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation II	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、世界各地の若者たちの暮らしに密着するドキュメンタリーDVDを英語で見ながら「グローバルな視野」を養うとともに、高校までに習ってきた単語や文法が実際にどのように使われるのかを学びます。授業内で扱うのは比較的優しいレベルの英文や構文で、これらを使って高校までの基礎を復習しながら、主にリスニングとスピーキングの2つの側面に焦点を当てることにします。また、様々な動画のシーンを見ながら、英語圏の日常生活で起こりやすい状況で使える英会話表現を学びます。（この講座は春学期「英会話Ⅰ」とセットになる続きです）

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 8. Into the Peacefulness	ニュージーランドの暮らし：その風土や気候、人々の暮らしについて知る
3		
4	Unit 9. An Interesting Walk with Sophie	ソフィーの視点から見たニュージーランドの若者の暮らしと文化について学ぶ
5		
6	Unit 11. Having a Big Influence on the World	イギリスは世界にどう影響を与えてきたのか、その歴史について改めて学ぶ
7		
8	Unit 11. Living Your Life to the Maximum	民族多様性の中で幸せを追求するとはどういうことなのか、ある若者の視点から知るイギリス文化
9		
10	Unit 12. Developed Tourism Industry	観光の国、バハマの風土や暮らしについて学ぶ
11		
12	Unit 13. Making Steps to Achieve Your Goals / Review	あるバハマ人の若者の視点：人生で夢をかなえるとはどういうことなのかを考える
13		
14	秋学期のまとめ	達成度評価に向けた総復習実施
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇Morita, A., Sato, A., Fujimoto, A., Yamamoto, Y., Ikutani, D., Benfield, B., (2016).

World Wide English on DVD: For Global Communication Skills. Seibido.

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教員の指定に応じて、次回の授業までに課題や予習を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇メディア教材を多数扱うため、ノートパソコン（可能ならDVDドライブ付き）があると受講しやすいです。

英会話Ⅱ	ジャネット ジョンソン Janet Johnson
English Conversation II	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

「英会話Ⅱ」では、引き続き英会話の基礎を学んでいきます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話したり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む）、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題）。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む）、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題）。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法 筆記およびリスニングテスト30%×2、 授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Summer Report	Greetings and report of summer activities.
2	Review Unit 5	Review of last material covered in English I.
3	Unit 6 Leisure	Asking about locations and places. Listening. Repeating.
4	Unit 6	Survey on leisure activities.
5	Cross-cultural topic	Halloween. Customs, history, essential warning vocabulary
6	Unit 7 Weekend	Practice Past tense. Wh-questions.
7	Unit 7	Additional conversation and grammar practice.
8	Review Units 6 & 7	Review exercises and preparation for test.
9	Short Test	Test on Units 6 & 7
10	Unit 8 Cities-Places	Locations, neighborhoods. There is/ There are practice.
11	Unit 8 cont.	Finding out about new areas.
12	Unit 9 Appearance	Describing appearances. Listening practice.
13	Unit 9 cont.	Present continuous practice. Describing pictures.
14	Review Unit 8 & 9	Review of materials and preparation for Final test.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

- ◇ Interchange : English for international communication Book 1 Jack
C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
Cambridge University Press

【履修条件等】

- ◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習）。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニングカアップのため、教科書付属のCDを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

英会話 II	スガワラ チツ 菅原 千津
English Conversation II	
基礎科目／半期／1単位	

【授業概要】

春学期開講の「英会話I」に引き続き、英会話を上達させるためのスピーキング・リスニング練習に重点をおき、「英語でのコミュニケーション力をつけること」を目標とします。春学期同様、ペアワークなどの会話練習には積極的に参加をすること。さらに、テキスト付属のオンライン学習プログラム「*English Central*」では単語学習や発音トレーニングを各自で行うことができるので大いに活用してほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
語彙力をつけ、日常生活で使われる英語表現を読んで理解できるようになる。	講義で学習した項目を課題や確認テストなどで評価する。	25%
日常生活で使われる英語表現を聞いて理解できるようになる。	リスニング課題や確認テストなどで評価する。	25%
日常生活で使われる英語表現を適切に発話できるようになる。	講義中の会話練習・課題・確認テストなどで評価する オンライン学習プログラム「 <i>English Central</i> 」の学習状況も評価の一部とする。	40%
学んだ内容を応用して身近なことや自分の意見を英語で表現できるようになる。	講義中の会話練習・課題・確認テストなどで評価する	10%
評価の方法	上記の学習目標を確認テストで60%の換算とし、平常点（課題の提出、授業への積極的な参加）を40%として加えて計100%で評価する。授業への出席は3分の2以上を前提とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初回ガイダンス	講義内容・評価方法・春学期の復習
2	Unit 8 Restaurants and meals	レストランなどの語彙・表現を学ぶ
3	同上	続き
4	Unit 9 Movies and TV programs	映画やテレビ番組について話すときの語彙・表現を学ぶ
5	Unit 10 Music	音楽について話すときの語彙・表現を学ぶ
6	Unit 11 Shopping	買い物での語彙・表現を学ぶ
7	同上	続き
8	Unit 8～11までのまとめと確認テスト	Unit 8～11までの確認テスト
9	Unit 12 Sports and exercise	スポーツや運動などについて話すときの語彙・表現を学ぶ
10	Unit 13 Travel and vacations	旅行や休暇などについて話すときの語彙・表現を学ぶ
11	Unit 14 Work and jobs	仕事について話すときの語彙・表現を学ぶ
12	同上	
13	Unit 15 Future plans	計画や予定などについて話すときの語彙・表現を学ぶ
14	同上	続き
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇Complete Communication Book 1 -Basic-
コミュニケーションのための実践演習Book 1 《初級編》
James Bury /Anthony Sellick / 堀内 香織 共著（成美堂）

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇指定された課題や予習などを準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇初回に本講義についての詳細や注意事項を説明するので、しっかりと理解して講義に参加すること。

英会話 II	ブレント フィアルカ Brent Fialka
English Conversation II	基礎科目 / 半期 / 1 単位

【授業概要】

リスニングを総合的に学習します。全員が積極的に参加できるように、クラス内の全てのアクティビティーは2人一組のペアか小グループを作って行います。積極的な参加姿勢はとても大切です！ この授業の目的は、楽しみながら英会話を学ぶことです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文法の理解	それぞれの単元で基本的な文法事項を確認した後で練習問題に取り組み、平易な文法事項を理解できるようになる。	20%
会話力の向上	新しく学んだ文法事項を使って、簡単な英会話を組み立てられるようになる。	25%
リスニング力の向上	各ユニット内のリスニング問題に取り組み、以前に学んだ会話表現をしっかりと使えるようになる。	25%
読解力の向上	テキスト内の簡単な英文を読み、読解セクションまでに学んだ知識を応用できるようになる。	20%
英作文	簡単な英文を作れるようになる。	10%
評価の方法 最終評価には中間試験と期末試験がそれぞれ25%ずつ含まれます。残りの50%は授業での積極的な参加姿勢、たとえば出席、積極性、グループワークやペアワーク、授業内での発言や課題への取り組みなどが含まれます。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 10	Simple Present tense. Habitual Actions. People's interests and activities.
2	Unit 10	Finish text material. Workbook exercises.
3	Unit 11	Object Pronouns. Have/has. Adverbs of frequency. Describing frequency of actions. Describing people.
4	Unit 11	Finish text material. Workbook exercises.
5	Unit 12	Contrast; simple present and present continuous. Feelings and emotions. Describing usual and unusual activities.
6	Unit 13	Can. Have to. Expressing ability. Occupations. Looking for a job. Expressing obligation. Invitations.
7	Unit 13	Finish text material. Workbook exercises. Review for test.
8	Midterm test 25%	Test on units 10 to 13.
9	Unit 14	Future. Describing future plans and intentions. Expressing wants Weather forecasts. Telling time. Making predictions.
10	Unit 14	Finish text material. Workbook exercises.
11	Unit 15	Past tense. Past actions and activities. Ailments. Describing an event. Making a doctor's appointment.
12	Unit 16	Past tense continued. Giving reasons. Giving excuses.
13	Unit 17	More past tense! Describing physical states and emotions.
14	Unit 17	Finish text material. Workbook exercises. Review for test.
15	Final test. 25%	Test on units 14 to 17.

【使用教材】

- ◇ Side by Side Extra. Book and eText 1. International edition.
Steven J. Molinsky and Bill Bliss. Pearson Education Inc.

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇詳細は初回の授業で指示します。

【その他の注意事項】

- ◇出席は3分の2を満たすことを前提とします。クラスでの参加度合いを重視しますので、積極的に授業に参加することを求めます。

英会話Ⅱ	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
English Conversation II	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

引き続き日常生活のコミュニケーションに必要な表現を身につけることを目標とします。

英会話の基礎に必要な英語力を育てるために語彙、文法、読解、英作文なども学びます。海外の文化、習慣なども知り、楽しんで知識をひろげ、役立つ英語を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法の習得	授業内および筆記試験で評価。	25%
文章を読み理解する	授業内、および筆記試験で評価。	25%
英語を聞き取り、正しく書ける	授業内のリスニング。	25%
英語の会話あるいはプレゼンテーションで自分の意見が言える	授業内の会話、プレゼンテーションで評価。	25%
評価の方法 以上の学習目標を期末試験で50%の換算とし、中間、期末の会話テスト、プレゼンテーション50%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	現在、過去進行形	ウォーミングアップ
2		Let's Eat
3	一般動詞の過去	It's a Date
4		一般動詞の過去形を使った文、会話に慣れる
5	助動詞	I Have to Study
6		助動詞を使った文、会話に慣れる
7	中間テスト	
8	疑問詞	What Do You Think of My Sketch?
9		疑問詞を使った文、会話に慣れる
10	不定詞、動名詞	Kanji Is So Difficult
11		不定詞、動名詞を使った文、会話に慣れる
12	未来形	I'll Make a Birthday Cake
13		未来形を使った文、会話に慣れる
14	秋期の復習	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：English First (Starter) 著者：Robert Hickling / Misato Usukura 金星堂

【履修条件等】

◇将来役に立つ英語を身につけたいと希望し、積極的に授業に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示された場合には事前に行うこと。

【その他の注意事項】

◇教科書を持ってこないこと、授業中の携帯電話の使用、私語などは減点の対象となる。

英会話Ⅱ（留学生／再履修）	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation II (Foreign Students／Repeaters)	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、アメリカの大学生が日常的にかわしているような英会話を、クラスメートとして楽しく演習し、習得することを目的とします。今まで、学校で習ってきた英語が、実際の英会話となんとなく違うと感じている人も、皆さんの中にはいるかもしれません。そこで、この講座は、実際の様々な場面で役に立つ英語表現を、なるべく少ない語彙で用いる方法について学びます。（この講座は「英会話Ⅰ（留学生）」の続きです）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 7: Family	外見について相手に伝える表現
3	Unit 8: Short Talk	自分の未来像
4	Unit 8: Friends	性格についての説明
5	Unit 8: Short Talk	個性とは
6	Unit 9: Going Out	空いている時間の調整をする表現
7	Unit 9: Short Talk	お気に入りの場所へ友人を案内する
8	Unit10: Restaurants	食べ物や飲み物の注文
9	Unit10: Short Talk	最近行ったレストランについての説明
10	Unit11: Shopping	どこで買い物をするか、また提案やそれに対する応答
11	Unit11: Short Talk	買い物について意見を述べる
12	Unit12: Strength & Weakness	自分にできることを相手に伝える
13	Unit12: Short Talk	能力や資格について
14	Unit13: Places	建物や場所について描写する
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvist and Yuki Hasegawa (2019).
Free Talking-Basic Strategies for Building Communication. Cengage Learning.

【履修条件等】

- ◇留学生は、春学期のⅠと秋学期のⅡの両方をセットで履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教員の指定に応じて、次回の授業までに課題や予習を準備してくる。

【その他の注意事項】

- ◇テキストは必ず用意すること。また、タブレットやPCがあると受講しやすいです。

基礎英語 I	アベ マキコ 阿部 牧子
Basic English I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、大学生の知的好奇心を刺激する題材を取り上げています。英語が苦手であっても、辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音指導を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、中間試験・語彙テスト30%、授業での発言など20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明、自己紹介他
2	現在形	be 動詞、一般動詞を区別し、使い分ける 現在形の否定文・疑問文をつくる
3	代名詞	代名詞の格変化を理解し、文中で使い分ける
4	過去形	動詞の過去形を覚え、否定文、疑問文をつくる
5	前回までのまとめと演習問題	演習問題には単語テスト(不規則動詞の過去形など)を含む
6	演習問題の解説	前回の演習問題の解説をする
7	可算名詞・不可算名詞	数えられる名詞と数えられない名詞を区別して覚える
8	中間試験	これまでの各ユニットの題材についての内容理解を問う
9	達成度の確認	中間試験の解説をする
10	時と場所を表す前置詞	前置詞を使って時や場所を表す
11	進行形	現在進行形と過去進行形、be 動詞の復習
12	疑問詞	疑問詞を使って、「誰/何/いつ/どこ」などの情報をたずねる
13	助動詞	can, may, must, shouldなどを使い動詞に意味を付け加える
14	助動詞	英文を読み、内容理解を英問英答で確認する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Reading Link

Robert Hickling / Misato Usukura (著) 金星堂

【履修条件等】

- ◇ 基礎英語は選択必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。
- ◇ 辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

- ◇ 指定教材以外に、プリント教材を使うことがあります。

基礎英語 I	キタダ ケイコ 北田 敬子
Basic English I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

これまでに培ってきた英語の基礎能力を、実用に堪えるものとしてさらに強化することを目的としたクラスです。語彙力を鍛え、シンプルな文章を読み解き、最低限自分の考えを英語の文章で表現できるよう練習を積み、「英語が分かる」「話せる」レベルを目指します。そのために地道な繰り返しによるトレーニングは不可欠ですが、同時に「楽しく」「興味を持てる」学習方法を探っていきたいと思います。生涯続けられる英語の勉強の基礎を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語の文章の基礎構造を理解し、単純な文章を読んですぐ理解できるようになることを目標にする	語彙力強化のための小テストを行い、進捗状況を評価する。 テキスト各課の概要がつかめたかどうか判定する試験を行って評価する。	40%
シンプルな情報を耳で聞いてキャッチできるようになることを目標とする	授業中に英語音声を聴く機会を設け、練習問題にどの程度答えられるか、チェックして評価する。	20%
伝えたいことを簡潔で、分かりやすい英語の文章で書けるようになることを目標とする	数週間に一回短い作文の課題を与え、添削の上返却する。その取り組みぶりを評価の対象とする。	20%
臆せず英語で簡単な会話ができるようになることを目標とする	英語による授業内活動を行い、参加・貢献度を判定する。	20%
評価の方法	毎回の小課題30%、小テスト・学期末試験50%、 クラス内活動への参加等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業概要説明
2	Unit 1 Who Is Pepper?	動詞の種類・時制の使い方確認
3	Unit 1 Who Is Pepper?	ロボットと共に生きる時代について考える
4	Unit 2 自給自足生活	代名詞の使用法の確認
5	Unit 2 自給自足生活	Self-Sufficient Family の現状について学ぶ
6	Unit 3 Starbucks	動詞の過去時制の確認
7	Unit 3 Starbucks	日本におけるスタバの特徴について考察する
8	Unit 5 Roman Thermae	時と場所を表す前置詞の確認
9	Unit 5 Roman Thermae	ローマ人と浴場の文化について学ぶ
10	Unit 6 Cashless	進行形の使い方の確認
11	Unit 6 Cashless	キャッシュレス社会について考察する
12	Unit 7 Marathons	疑問代名詞の使い方の確認
13	Unit 7 Marathons	マラソンの歴史と話題をめぐって
14	応用課題	春学期に取り上げたテーマのうち、最も関心を持ったものについて独自のリサーチを基にミニプレゼンを行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Reading Link

金星堂

ISBN 978-4-7647-4100-3

【履修条件等】

- ◇ 語彙練習を欠かさず授業外でも行うこと。
- ◇ 課題は必ず提出すること。
- ◇ 質問・提案など、授業中の発言を歓迎する。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ テキスト各課の予習は必須である。
- ◇ 語彙・表現・文法事項をあらかじめさらしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇ 配布プリントや返却された課題などをファイルに整理しておくこと。
- ◇ 一部、授業で取り上げるUnit の順序が入れ替わることもある。

基礎英語 I BE-A	キムラ ナオキ 木村 直樹
Basic English I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、洋楽のポップスを聴きながら英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみ、英語の基礎力をバランスよく向上させることを目的とします。「英語の歌を聴いて歌詞をそのまま理解したい」と願う人は多いですが、聞き取りは容易ではありません。これは、単語間の音がつながったり、省略が起きたりなど、様々な音声変化が起こっているためです。この音声規則について、授業内では詳しく説明をするとともに、「読む」「聴く」「書く」「話す」の総合的な英語力の向上を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	<i>You' re beautiful</i>	ディクテーションと発声チェック
3	文法事項：be 動詞	be 動詞の復習と関連読解
4	<i>I Want It That Way</i>	ディクテーションと発声チェック
5	文法事項：動詞（現在形）	一般動詞現在形の復習と関連読解
6	<i>The First Time</i>	ディクテーションと発声チェック
7	文法事項：動詞（過去形）	一般動詞過去形の復習と関連読解
8	<i>Complicated</i>	ディクテーションと発声チェック
9	文法事項：進行形	動詞進行形の復習と関連読解
10	<i>My Heart Will Go On</i>	ディクテーションと発声チェック
11	文法事項：未来表現	様々な未来表現の復習と関連読解
12	<i>With You</i>	ディクテーションと発声チェック
13	文法事項：助動詞	助動詞・主観性の学習と関連読解
14	春学期のまとめ	到達度確認に向けた総復習の実施
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Teruhiko Kadoyama, Simon Capper & Toshiaki Endo (2021). Let's Read Aloud & Learn English: Going Abroad: 音読で学ぶ基礎英語<<海外生活編>>成美堂
※補助教材については別途指示する。

【履修条件等】

- ◇ 「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」を履修済みか、同時履修中であることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇ 授業内でメディア教材を複数扱うため、PCを用意してあると受講しやすいです。

基礎英語 I BE-B	キムラ ナオキ 木村 直樹
Basic English I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、映画『プラダを着た悪魔』のストーリーをベースにして、日常会話で使われる英語表現や、英会話表現の抑揚のつけ方などを学ぶとともに、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	Unit 1	Job Interview
3	(continued)	(仕事の面接)
4	Unit 2	First Day on the Job
5	(continued)	(出勤初日)
6	Unit 3	Hurricane on the Weekend
7	(continued)	(週末の台風)
8	Unit 4	Andy' s Makeover
9	(continued)	(アンディーの大変身)
10	Unit 5	Andy Meets Christian
11	(continued)	(アンディー、クリスチャンに出会う)
12	Unit 6	Miranda' s Request
13	(continued)	(ミランダの要求)
14	春学期のまとめ	春学期の内容総復習および期末試験に向けた準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認を実施

【使用教材】

- ◇Aline Brosh McKenna (著)、角山照彦 & Simon Capper (編著)、(2016) *Communicate in English with The Devil Wears Prada: 『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語*. 松柏社.

【履修条件等】

- ◇「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」を履修済みか、同時履修中であることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇授業内でメディア教材を複数扱うため、PCを用意してあると受講しやすいです。

基礎英語 I	シシド カール 穴戸 カール
Basic English I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

英語で生きたコミュニケーションができるように4つのスキル—話す、聞く、書く、読む—を身につけるのがクラスの目的です。テキストまたは講師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価。 出席：30%、授業参加度：30%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 1 Introduction	Introduction, Greetings
2	Unit 1 Introduction	Exchange Personal Information
3	Unit 2 What a Life	Talking About Daily Life
4	Unit 2 What a Life	Talking Daily Routine
5	Unit 3 Free Time	Things You Can Do
6	Unit 3 Free Time	Social Life
7	Unit 4 Places	Talking About Hometown
8	Unit 4 Places	Talking About Neighborhood
9	Unit 5 Getting Around	Journey to School/College
10	Unit 5 Getting Around	Giving Direction
11	Unit 6 Shopping	Shopping Habits and Preferences
12	Unit 6 Shopping	Street Markets
13	Unit 6 Shopping	Shopping Survey
14	Unit 1 - 6 Review	Review from Unit 1 - 6
15	Final Examination	

【使用教材】

- ◇ Breakthrough Plus 1, by Miles Cravan, Macmillan Education,
ISBN : 978-1-786-32933-2
Dictionary Printouts
of activity

【履修条件等】

- ◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

基礎英語 I	タカハタ カズミチ 高畑 一路
Basic English I	基礎科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という4つの観点から、英語をバランスよく総合的に身につけることを目標とする。同時に、英語圏の文化、思想、習慣等を理解するようにしたい。使用する教科書は、語彙、文法、読解、会話のあらゆる角度から工夫されたものであり、総合的な英語力を身につけるのに適している。基本的にはこの教科書に沿って授業を進めていくが、受講者のレベル、興味などにしたがって、プリント教材を追加する場合がある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語で簡単な会話をすることができるようになること	授業中に行うペアワークによって評価。教科書の課題を利用して、会話の基本パターンを覚えること。	10%
リスニング力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる英語を正しく聞き取れるようになること。	20%
基礎文法を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる文法問題を解けるようになること。	30%
読解力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題にある英文の内容を正しく理解できるようになること。	40%
評価の方法 授業数3分の2以上の出席を前提として、授業態度および授業貢献度20%、 中間試験40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業についての概要説明
2	Unit 1	Welcome to Japan
3	Unit 1	Welcome to Japan
4	Unit 2	That Sounds Like Fun
5	Unit 2	That Sounds Like Fun
6	Unit 3	We Leave on Friday Morning
7	Unit 3	We Leave on Friday Morning
8	Midterm Exam	中間試験
9	Unit 4	You Know a Lot About Trains
10	Unit 4	You Know a Lot About Trains
11	Unit 5	I Didn't Want to Leave
12	Unit 5	I Didn't Want to Leave
13	Unit 6	You're Working Late
14	Unit 6	You're Working Late
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ English First Basic （著者：Robert Hickling, Misato Usukura） 出版社：金星堂

【履修条件等】

◇ とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 教科書の該当箇所に目を通し、知らない英単語・熟語があったら覚えておくこと。

【その他の注意事項】

◇ 授業に必ず辞書を持参すること（電子辞書可）。

◇ 指定された教科書を初回の授業までに必ず購入すること。教科書を所有していない学生の受講は許可しない。

◇ 追加教材に関しては開講時に指示する。

基礎英語 I	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
Basic English I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、基礎的な文法と語彙を学び、「読む」「書く」「聞く」「話す」能力を育てることを目的とします。語彙力をつけるために毎回クイズをします。

覚えておくと便利な言葉、将来役に立つ表現などを楽しく学びます。伝え合うことのできる英語を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法の習得	授業内の発言、確認テストによって評価	25%
自分の考えを英語で書ける	確認テストによって評価	25%
正しく聞き取れる	授業内のリスニングによって評価	25%
各テーマに沿って自分の意見を述べることができる	授業内のペアワークやロールプレイへの参加の積極性によって評価	25%
評価の方法 上記3項目の学習目標を期末試験で60%の換算とし、課題、発表40%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の進め方、評価についての説明
2	First Day of Class	be 動詞
3		テーマ：自己紹介
4	I Love Bread	一般動詞
5		テーマ：日常生活
6	Pizza Time	可算名詞、不可算名詞
7		テーマ：好きなもの
8	中間テスト	
9	Not Just A Baker	代名詞
10		テーマ：いろいろな人
11	What's Wrong with	一般動詞の過去形
12		テーマ：体調
13	復習	
14	It won't hurt	進行形
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：English Aid 著者：Robert Hickling / Misato Usukura 金星堂

ISBN 978-4-7647-4036-5

その他、補助教材をプリントで使用。

【履修条件等】

◇積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示される場合は必ず事前にやっておくこと。

【その他の注意事項】

◇教科書を持ってこないこと、授業時間内の携帯電話の使用、私語などは減点の対象になる。

基礎英語 I (再履修)	アベ マキコ 阿部 牧子
Basic English I (Repeaters)	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音指導を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明、自己紹介他
2	現在形	be 動詞、一般動詞を区別し、使い分ける 現在形の否定文・疑問文をつくる
3	代名詞	代名詞の格変化を理解し、文中で使い分ける
4	過去形	動詞の過去形を覚え、否定文、疑問文をつくる
5	前回までのまとめと演習問題	演習問題には単語テスト(不規則動詞の過去形など)を含む
6	演習問題の解説	前回の演習問題の解説をする
7	可算名詞・不可算名詞	数えられる名詞と数えられない名詞を区別して覚える
8	中間試験	これまでの各ユニットの題材についての内容理解を問う
9	達成度の確認	中間試験の解説をする
10	時と場所を表す前置詞	前置詞を使って時や場所を表す
11	進行形	現在進行形と過去進行形、be 動詞の復習
12	疑問詞	疑問詞を使って、「誰/何/いつ/どこ」などの情報をたずねる
13	助動詞	can, may, must, shouldなどを使い動詞に意味を付け加える
14	助動詞	英文を読み、内容理解を英問英答で確認する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Reading Link

著者：Robert Hickling / Misato Usukura 出版社：金星堂

【履修条件等】

◇基礎英語は選択必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇教材なしで出席した日の平常点は0（ゼロ）点になります。

基礎英語Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
Basic English II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音指導を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、中間試験・語彙テスト30%、授業での発言など20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	動名詞・不定詞	英文を読み、内容を理解する。英問英答
2	動名詞・不定詞	文法演習
3	未来形	英文を読み、内容を理解する。英問英答
4	比較級・最上級	英文を読み、内容を理解する。英問英答
5	比較級・最上級	文法演習
6	これまでのまとめと中間試験	演習と解説 試験
7	助動詞	中間試験の解説。英文を読み内容を理解する
8	現在完了形	英文を読み内容を理解する。英問英答
9	現在完了形	文法演習
10	従位接続詞	英問英答。文法演習
11	受動態	英問英答。文法演習
12	関係詞	英文を読み、内容を理解する。英問英答
13	関係詞	文法演習
14	総まとめ	演習と解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Reading Links

Robert Hickling / Misato Usukura (著) 金星堂

【履修条件等】

◇基礎英語は選択必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇ペアワークのため、座席を指定することがあります。

基礎英語 II	キタダ ケイコ 北田 敬子
Basic English II	基礎科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

これまでに培ってきた英語の基礎能力を、実用に堪えるものとしてさらに強化することを目的としたクラスです。語彙力を鍛え、シンプルな文章を読み解き、最低限自分の考えを英語の文章で表現できるよう練習を積み、「英語が分かる」「話せる」レベルを目指します。そのために地道な繰り返しによるトレーニングは不可欠ですが、同時に「楽しく」「興味を持てる」学習方法を探っていきたいと思えます。生涯続けられる英語の勉強の基礎を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語の文章の基礎構造を理解し、単純な文章を読んですぐ理解できるようになることを目標にする	語彙力強化のための小テストを行い、進捗状況を評価する。 テキスト各課の概要がつかめたかどうか判定する試験を行って評価する。	40%
シンプルな情報を耳で聞いてキャッチできるようになることを目標とする	授業中に英語音声を聴く機会を設け、練習問題にどの程度答えられるか、チェックして評価する。	20%
伝えたいことを簡潔で、分かりやすい英語の文章で書けるようになることを目標とする	数週間に一回短い作文の課題を与え、添削の上返却する。その取り組みぶりを評価の対象とする。	20%
臆せず英語で簡単な会話ができるようになることを目標とする	英語による授業内活動を行い、参加・貢献度を判定する。	20%
評価の方法 毎回の小課題30%、小テスト・学期末試験50%、 クラス内活動への参加等20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 8 A Pioneer	動名詞と不定詞の使い方の確認
2	Unit 8 A Pioneer	Coco Chanel の活躍と生き方について考える
3	Unit 9 Space Travel	動詞の未来形の確認
4	Unit 9 Space Travel	近未来の宇宙旅行に関する話題を読む
5	Unit 4 Halloween	可算名詞・府可算名詞の確認
6	Unit 4 Halloween	アメリカにおけるハロウィーンの祝い方を知る
7	Unit 10 Amazon	比較級・最上級の使い方の確認
8	Unit 10 Amazon	Amazon の熱帯雨林について考察する
9	Unit 11 YouTuber	助動詞の使い方の確認
10	Unit 11 YouTuber	人気 YouTuber はどのように誕生するか考える
11	Unit 12 Plastics	動詞の現在完了形の確認
12	Unit 12 Plastics	プラスチックの海洋汚染問題について考察する
13	Unit 13 Dogs	従属接続詞の使い方の確認
14	Unit 13 Dogs	人間と犬の関係について考える
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Reading Link

金星堂

ISBN 978-4-7647-4100-3

【履修条件等】

- ◇ 語彙練習を欠かさず授業外でも行うこと。
- ◇ 課題は必ず提出すること。
- ◇ 質問・提案など、授業中の発言を歓迎する。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ テキスト各課の予習は必須である。
- ◇ 語彙・表現・文法事項をあらかじめさらしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇ 配布プリントや返却された課題などをファイルに整理しておくこと。
- ◇ 一部、授業で取り上げるUnit の順序が入れ替わることもある。

基礎英語Ⅱ BE-K	キムラ ナオキ 木村 直樹
Basic English II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、洋楽のポップスを聴きながら英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみ、英語の基礎力をバランスよく向上させることを目的とします。「英語の歌を聴いて歌詞をそのまま理解したい」と願う人は多いですが、聞き取りは容易ではありません。これは、単語間の音がつながったり、省略が起きたりなど、様々な音声変化が起こっているためです。この音声規則について、授業内では詳しく説明をするとともに、「読む」「聴く」「書く」「話す」の総合的な英語力の向上を目指します。（この講座は「基礎英語Ⅰ」の続きです）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	<i>Torn</i>	ディクテーションと発声チェック
3	文法事項：受動態	態の変化・変形の復習と関連読解
4	<i>You Are Not Alone</i>	ディクテーションと発声チェック
5	文法事項：現在完了形	動詞現在完了形の復習と関連読解
6	<i>You Gotta Be</i>	ディクテーションと発声チェック
7	文法事項：比較	比較表現の復習と関連読解
8	<i>How Crazy Are You?</i>	ディクテーションと発声チェック
9	文法事項：分詞	過去分詞・現在分詞の復習と関連読解
10	<i>Last Christmas</i>	ディクテーションと発声チェック
11	文法事項：不定詞	不定詞の時制の復習と関連読解
12	<i>Desperado</i>	ディクテーションと発声チェック
13	文法事項：関係詞	WHの用法の復習と関連読解
14	All I Want for Christmas Is You	ディクテーションと発声チェック
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇Teruhiko Kadoyama & Timothy F. Hawthorne (2020). *Let's Learn English with Pop Hits!* ~ポップスでスタート! 基礎英語~ 成美堂.

※補助教材については別途指示する。

【履修条件等】

◇「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」を履修済みか、同時履修中であることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇授業内でメディア教材を複数扱うため、PCを用意してあると受講しやすいです。

基礎英語Ⅱ BE-L	キムラ ナオキ 木村 直樹
Basic English II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、映画『プラダを着た悪魔』のストーリーをベースにして、日常会話で使われる英語表現や、英会話表現の抑揚のつけ方などを学ぶとともに、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。（この講座は「基礎英語Ⅰ BE-B」の続きです）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	Unit 7	Nate's Birthday
3	(continued)	(ネイトの誕生日)
4	Unit 8	Andy's Decision
5	(continued)	(アンディーの決断)
6	Unit 9	Breakup with Nate
7	(continued)	(ネイトと別れる)
8	Unit 10	The Dream Job
9	(continued)	(夢見た仕事)
10	Unit 11	Announcement at the Party
11	(continued)	(パーティーでの発表)
12	Unit 12	Andy's Final Choice
13	(continued)	(アンディーの最後の選択)
14	秋学期のまとめ	秋学期の内容総復習および期末試験に向けた準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇Aline Brosh McKenna（著）、角山照彦 & Simon Capper（編著）、(2016) *Communicate in English with The Devil Wears Prada: 『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語*. 松柏社.

【履修条件等】

◇「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」を履修済みか、同時履修中であることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してこよう。

【その他の注意事項】

◇授業内でメディア教材を複数扱うため、PCを用意してあると受講しやすいです。

基礎英語Ⅱ	シシド カール 穴戸 カール
Basic English II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

英語で生きたコミュニケーションができるように4つのスキル—話す、聞く、書く、読む—を身につけるのがクラスの目的です。テキストまたは講師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価。 出席：30%、授業参加度：30%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7 What's Happening?	Talking About Things That Happened
2	Unit 7 What's Happening?	Talking About Life
3	Unit 8 People	Describing People
4	Unit 8 People	Describing Family Members
5	Unit 9 Having Fun	Making Future Arrangements
6	Unit 9 Having Fun	Plans For Next Week
7	Unit 10 Vacation	Talking About a Vacation
8	Unit 10 Vacation	A Trip to Mexico and Europe
9	Unit 11 Life Stories	Early Memories
10	Unit 11 Life Stories	Life in Canada
11	Unit 12 Hopes and Intentions	Talking About Hopes and Dreams
12	Unit 12 Hopes and Intentions	Talking About Hopes and Dreams
13	Unit 12 Hopes and Intentions	Talking Future Intentions
14	Unit 7-12 Review	Review Unit 7-12
15	Final Examination	

【使用教材】

- ◇ Breakthrough Plus 1 , by Miles Cravan, Macmillan Education,
ISBN : 978-1-786-32933-2
Dictionary Printouts
of activity

【履修条件等】

- ◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

基礎英語Ⅱ	タカハタ カズミチ 高畑 一路
Basic English II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎英語Ⅰ」に引き続き、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という4つの観点から、英語をバランスよく総合的に身につけることを目標とする。同時に、英語圏の文化、思想、習慣等を理解するようにしたい。基本的には教科書に沿って授業を進めていくが、受講者のレベル、興味などにしたがって、プリント教材を追加する。なお、前学期の進捗具合によって開始時の内容が前後することもあるので、受講者は「基礎英語Ⅰ」のシラバスにも目を通しておくこと。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語で簡単な会話をすることができるようになること	授業中に行うペアワークによって評価。教科書の課題を利用して、会話の基本パターンを覚えること。	10%
リスニング力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる英語を正しく聞き取れるようになること。	20%
基礎文法を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる文法問題を解けるようになること。	30%
読解力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題にある英文の内容を正しく理解できるようになること。	40%
評価の方法 授業数3分の2以上の出席を前提として、授業態度および授業貢献度20%、 中間試験40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7	I'm Sure He' ll Understand
2	Unit 7	I'm Sure He' ll Understand
3	Unit 8	I'll Remember That
4	Unit 8	I'll Remember That
5	Unit 9	Hiro Forgot
6	Unit 9	Hiro Forgot
7	Midterm Exam	中間試験
8	Unit 10	How Have You Been?
9	Unit 10	How Have You Been?
10	Unit 11	While They're Here
11	Unit 11	While They're Here
12	Unit 12	How Was Tennis?
13	Unit 12	How Was Tennis?
14	Unit 13	What Do You Mean?
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ English First Basic （著者：Robert Hickling, Misato Usukura） 出版社：金星堂

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所に目を通し、知らない英単語・熟語があったら覚えておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に必ず辞書を持参すること（電子辞書可）。

◇指定された教科書を初回の授業までに必ず購入すること。教科書を所有していない学生の受講は許可しない。

◇追加教材に関しては開講時に指示する。

基礎英語 II	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
Basic English II	基礎科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

「基礎英語 I」で学習した内容を、さらに深めることを目的としている。

引き続き、基礎的な文法、語彙を学び、「読む」「書く」「聞く」「話す」能力を育てることを目標とします。語彙力をつけるために毎回クイズをします。

覚えておくと便利な言葉、将来役に立つ表現などを楽しく学びます。伝え合うことのできる英語を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法の習得	授業内の発言、確認テストによって評価。	25%
自分の考えを英語で書ける	確認テストによって評価。	25%
正しく聞き取れる	授業内のリスニングによって評価。	25%
各テーマに沿って自分の意見を述べることができる	授業内のペアワークやロールプレイへの参加の積極性によって評価。	25%
<p>評価の方法 上記項目の学習目標を期末試験で60%の換算とし、課題、発表40%で評価する。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	It Won't Hurt	進行形
2		テーマ：日常生活
3	I Feel Healthy	時と場所を表す前置詞
4		テーマ：健康的な食事
5	Small Talk	未来形
6		テーマ：予定をたてる
7	中間テスト	
8	Weight Down ～	現在完了形
9		テーマ：経験、継続、完了
10	It's Nice … And	比較級、最上級
11		テーマ：身のまわりのもの
12	A New Look	接続詞
13		テーマ：性格
14	復習	
15	総括・達成度確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：English Aid 著者：Robert Hickling / Misato Usukura 金星堂

ISBN 978-4-7647-4036-5

その他、補助教材をプリントで使用。

【履修条件等】

◇英語の能力を習得することを希望し、積極的に授業に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示された場合は必ず事前に行うこと。

【その他の注意事項】

◇教科書を持ってこないこと、授業時間内の携帯電話の使用、私語などは減点の対象となる。

基礎英語Ⅱ（再履修）	アベ マキコ 阿部 牧子
Basic English II (Repeaters)	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音指導を行います。

使用教材は年度の始めに購入しておくようにしてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	動名詞・不定詞	英文を読み、内容を理解する。英問英答
2	動名詞・不定詞	文法演習
3	未来形	英文を読み、内容を理解する。英問英答
4	比較級・最上級	英文を読み、内容を理解する。英問英答
5	比較級・最上級	文法演習
6	これまでのまとめと中間試験	演習と解説 試験
7	達成度の確認	中間試験の解説
8	現在完了形	英文を読み内容を理解する。英問英答
9	現在完了形	文法演習
10	従位接続詞	英問英答。文法演習
11	受動態	英問英答。文法演習
12	関係詞	英文を読み、内容を理解する。英問英答
13	関係詞	文法演習
14	総まとめ	演習と解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Reading Links

Robert Hickling / Misato Usukura 著 金星堂

【履修条件等】

◇基礎英語は選択必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇使用教材を必ず準備してください。講義は9月からですが、4月に教材を購入しておくこと。

日本語 I（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論分などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%
評価の方法 課題の内容により評価する。 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	基本的な文章作法(1)	文章の基本(1)
3	基本的な文章作法(2)	文章の基本(2)
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	論理的文章	論理的文章推敲
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：友松悦子『小論文の12のステップ』スリーエーネットワーク

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

英語 I	アベ マキコ 阿部 牧子
English Reading & Writing (Basics) I	
発展科目／半期／1単位	

【授業概要】

この授業では、350語前後の題材を、なるべく日本語を介さず読み進める練習をします。わからない単語は文脈からの推測を試みます。それでも意味がわからない場合は、必ず辞書で確認することが大切です。ライティングは、文構造、基本的文法事項を理解し、理解を定着させるための練習問題をくり返します。

また、音読にも時間をかけて、正確に読む練習をする予定です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
350語程度の読み物の主旨、大意を把握できる	授業での発言、提出物によって評価。わからない単語は文脈から推測できるか。提出物の場合、辞書で調べて正確に理解しているかどうか。	30%
本文でとり上げられたトピックについて意見交換をする	ペア、グループ、またはクラスでの発言によって評価。発言は英語と日本語が混在していても可。発言内容を評価する。	20%
文の語順、品詞、時間表現などについて理解している	教科書の練習問題、パラグラフライティングによって評価。パラグラフライティングは、A（優）／B（良）／C（可）で評価。	30%
外国人が聞いても理解できる発音で英文が読める	自分の発音を録音し、聞き取りにくいと思われる音を確認できる。確認できた音の修正をして音読練習を繰り返す。	20%
<p>評価の方法 本試験60%、課題他40%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要説明、読解力確認テスト
2	What is the best way to keep fit and healthy?①	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
3	②	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
4	WRITING	Modals
5	Medical Trials①	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
6	Medical Trials②	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
7	WRITING	Nouns ・ Articles
8	試験	学習達成度の確認テストを実施する
9	Fighting the Flu①	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
10	Fighting the Flu②	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
11	WRITING	Nouns ・ Pronouns
12	Penicillin①	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
13	Penicillin②	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
14	WRITING	Adjectives
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Reading for Speed and Fluency 4 (Second Edition)

著者 : Paul Nation, Marcus Benevides, James Broadbridge, Joseph Siegel

出版社 : Compass Publishing

【履修条件等】

◇ 「英語 I」は英語初学者向けではありません。基礎力があり、さらに英語力を伸ばしたい学生が履修してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 指示された教科書部分を読み、大意を把握して授業に臨んでください。

【その他の注意事項】

◇ 初回の授業で読解力をみるため簡単なテストを行います。

◇ 円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

英語Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
English Reading & Writing (Basics) II	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、350語前後の題材を、なるべく日本語を介さず読み進める練習をします。わからない単語は文脈からの推測を試みます。それでも意味がわからない場合は、必ず辞書で確認することが大切です。

ライティングは、文構造、基本的文法事項を理解し、理解を定着させるための練習問題をくり返します。各章の最後では文をつなげて1つのパラグラフを書き上げることができるようになります。音読にも時間をかけて、正確に読む練習をする予定です。

また、指定テキストとは別にプリント教材を使うことがあります。

本講義は「英語Ⅰ」の続きです。使用教材は年度の始めに購入するようにしてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
350語程度の読み物の主旨、大意を把握できる	授業での発言、提出物、本試験によって評価。わからない単語は文脈から推測できるか。提出物の場合、辞書で調べて正確に理解しているかどうか。	30%
本文でとり上げられたトピックについて意見交換をする	ペア、グループ、またはクラスでの発言によって評価。発言は英語と日本語が混在していても可。発言内容を評価する。	20%
文の語順、品詞、時間表現などについて理解している	教科書の練習問題、パラグラフィティング、本試験によって評価。パラグラフィティングは、A（優）／B（良）／C（可）で評価。	30%
外国人が聞いても理解できる発音で英文が読める	自分の発音を録音し、聞き取りにくいと思われる音を確認できる。確認できた音の修正をして音読練習を繰り返す。	20%
評価の方法 本試験60%、課題他40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要説明、読解力確認テスト
2	READING①	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
3	READING①	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
4	WRITING	READING①の内容に沿ったテーマについて書く
5	パソコン(WORD)を使って清書	パソコンルームでパラグラフィティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
6	READING②	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
7	READING②	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
8	WRITING	READING②の内容に沿ったテーマについて書く
9	パソコン(WORD)を使って清書	パソコンルームでパラグラフィティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
10	READING③	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
11	READING③	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
12	WRITING	READING③の内容に沿ったテーマについて書く
13	READING④	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
14	READING④	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Reading for Speed and Fluency 4 (Second Edition)

著者 : Paul Nation, Marcus Benevides, James Broadbridge, Joseph Siegel

出版社 : Compass Publishing

【履修条件等】

◇ 「英語Ⅱ」は英語初学者向けではありません。基礎力があり、さらに英語力を伸ばしたい学生が履修してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 指示された教科書部分を一読し、大意を把握して授業に臨んでください。

【その他の注意事項】

◇ 円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

◇ 教科書は年度の始め（4月）に購入しておくようにしてください。

英語Ⅲ	アベ マキコ 阿部 牧子
English Reading & Writing (Intermediate) III	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

今年度の英語Ⅲは「英語を書くこと」を中心に進めていく予定です。短くても正確な英文を作る練習を積み重ね、最終的にはある程度の長さのパラグラフが書けることを目指します。「英語を読む」教材には英字新聞など時事的なものを利用する予定です。音読も英語Ⅰ・Ⅱに引き続き、繰り返し練習します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価する。 中間試験、本試験によって評価する。	30%
350字程度の英文の内容を、初見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する。 中間試験と本試験で評価する。	20%
なめらかに読む。相手に伝わる英語音読を習得する	意味のまとまりを意識しているか。音のつながりを意識し、子音を読むときは母音が入らないように読めるか。授業中の音読練習で評価する。	10%
単純な内容であれば、論理的な短い英文で表現できる	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	40%
評価の方法 本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明など
2	Modals①	教科書の問題を解きながらcan, could, mightなどの用法を理解する
3	パラグラフィティング	与えられたテーマについて短い文章を書く練習をする
4	Modals②	教科書の問題を解きながらshould, must, have toなどの用法を理解する
5	パラグラフィティング	与えられたテーマについて短い文章を書く練習をする
6	Nouns & Articles	教科書の問題を解きながら、名詞と冠詞についての文法を確認する
7	パラグラフィティング	与えられたテーマについて短い文章を書く練習をする
8	中間試験	学習達成度の確認
9	Nouns & Pronouns	教科書の問題を解きながら、名詞と代名詞についての文法を理解する
10	パラグラフィティング	与えられたテーマについて短い文章を書く練習をする
11	Adjectives	教科書の問題を解きながら形容詞の使い方を理解する
12	パラグラフィティング	与えられたテーマについて短い文章を書く練習をする
13	Adverbs	教科書の問題を解きながら副詞の使い方を理解する
14	パラグラフィティング	与えられたテーマについて短い文章を書く練習をする
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※ 4回目以降のテーマは、順番が変わることがあります。

【使用教材】

◇ Writing Bright 2 著者：E. J. Lewis 出版社：Compass Publishing

【履修条件等】

◇ 英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先できる人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 授業で指示します。毎回60分程度の時間をかけて英語を学習してください。

【その他の注意事項】

◇ 全出席を心がけてください。

英語IV	アベ マキコ 阿部 牧子
English Reading & Writing (Intermediate) IV	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

今年度の英語IVは「英語を書くこと」を中心に進めていく予定です。短くても正確な英文を作る練習を積み重ね、最終的にはある程度の長さのパラグラフが書けることを目指します。「英語を読む」教材には英字新聞など時事的なものを利用する予定です。音読も英語Ⅲに引き続き、繰り返し練習します。

「英語IV」は「英語Ⅲ」と同じ教材を使います。使用教材は年度の始め（4月）に購入しておくようにしてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価する。 中間試験、本試験によって評価する。	30%
350字程度の英文の内容を、初見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する。 中間試験と本試験で評価する。	20%
なめらかに読む。相手に伝わる英語音読を習得する	意味のまとまりを意識しているか。音のつながりを意識し、子音を読むときは母音が入らないように読めるか。授業中の音読練習、音声ファイル提出で評価する。	10%
単純な内容であれば、論理的な短い英文で表現できる	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	40%
評価の方法 本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要説明
2	Modals①	教科書の問題を解きながらcan, could, mightなどの用法を理解する
3	パラグラフライティング	与えられたテーマについて短い文章を書く練習をする
4	Modals②	教科書の問題を解きながらshould, must, have toなどの用法を理解する
5	パラグラフライティング	与えられたテーマについて短い文章を書く練習をする
6	Nouns & Articles	教科書の問題を解きながら、名詞と冠詞についての文法を確認する
7	パラグラフライティング	与えられたテーマについて短い文章を書く練習をする
8	中間試験	学習達成度の確認
9	Nouns & Pronouns	教科書の問題を解きながら、名詞と代名詞についての文法を理解する
10	パラグラフライティング	与えられたテーマについて短い文章を書く練習をする
11	Adjectives	教科書の問題を解きながら形容詞の使い方を理解する
12	パラグラフライティング	与えられたテーマについて短い文章を書く練習をする
13	Adverbs	教科書の問題を解きながら副詞の使い方を理解する
14	パラグラフライティング	与えられたテーマについて短い文章を書く練習をする
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※ 4回目以降のテーマは順番が変わることがあります

【使用教材】

◇ Writing Bright 2 著者 : E. J. Lewis 出版社 : Compass Publishing

【履修条件等】

◇ 英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先できる人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 授業で指示します。毎回60分程度の時間をかけて英語を学習してください。

【その他の注意事項】

◇ 全出席を心がけてください。

TOEIC I	イトウ マリ 伊藤 満里
TOEIC I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業は、TOEIC Listening & Reading テストを将来受験したいと考えている学生や英語によるコミュニケーション力を伸ばしたいと考えている学生を対象とします。授業では、そのために必要な英語運用能力を伸ばすために、基本的な重要語句の学習と聴き取り、読解や文法の練習問題に取り組みます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
語彙力を身につけること	授業内の語彙テストによって評価する。各ユニットに記載されている頻出語句の意味が分かる。	10%
基本的な文法事項を学習すること	授業内の確認テスト・期末試験によって評価する。確認テストや期末試験の文法問題が解けるようになる。	30%
読解力を身につけること	授業内の確認テスト・期末試験によって評価する。読解問題の設問を理解し、正しく解答できる。	30%
リスニング力を身につけること	授業内の確認テスト・期末試験によって評価する。リスニング問題の設問を理解し、正しく解答できる。	30%
評価の方法	期末試験30%、確認テスト30%、語彙テスト10%、授業への取り組み方30%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要と授業方針の説明、 TOEICテスト概要、テキスト紹介、評価方法、学習 方法
2	Unit 1 Travel	品詞①：名詞（単数形・複数形）
3	Unit 1 Travel	リスニング、穴埋め、訳、シャドウイング
4	Unit 2 Dining Out	品詞②：形容詞（名詞修飾、補語）
5	Unit 2 Dining Out	リスニング、穴埋め、訳、シャドウイング
6	Unit 3 Shopping	品詞③：副詞（動詞修飾）
7	Unit 3 Shopping	リスニング、穴埋め、訳、シャドウイング
8	Unit 4 Entertainment	時制（現在・過去・未来）
9	Unit 4 Entertainment	リスニング、穴埋め、訳、シャドウイング
10	Unit 5 Advertising	3単現のs
11	Unit 5 Advertising	リスニング、穴埋め、訳、シャドウイング
12	Unit 6 Events	能動態・受動態
13	Unit 6 Events	リスニング、穴埋め、訳、シャドウイング
14	Unit 1-6 まとめ	総復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確 認テストを実施する

【使用教材】

◇ Score Booster For The TOEIC L&R Test: Beginner 早川幸治・岸洋一著 金星堂

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指定された演習問題について、語彙の意味を調べること等をしながら各自解答を準備すること。

【その他の注意事項】

- ◇指定されたテキストを初回の授業までに購入すること。
- ◇授業に辞書を持参すること（電子辞書可）。

TOEIC I	シシド カール 穴戸 カール
TOEIC I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに出題される頻度の高い単語を習得する	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要なとされる英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができる	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアアップ	学期始めと学期末の本試験を比較して(難易度考慮)、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点(単語テストを含む)50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Introduction	模擬テストと解説
3	Activity 1	Shopping (grammar, auxiliaries)
4	Activity 2	Shopping (grammar, auxiliaries)
5	Activity 3	Transportation (grammar, progressives)
6	Activity 4	Transportation (grammar, progressives)
7	Activity 5	Travel (grammar, verb)
8	Activity 6	Travel (grammar, verb)
9	Activity 7	Restaurant (grammar, perfect tenses)
10	Activity 8	Restaurant (grammar, perfect tenses)
11	Activity 9	Health (grammar, tense agreement)
12	Activity 10	Health (grammar, tense agreement)
13	Activity 11	In the Office (grammar, tag & negative questions)
14	Activity 12	In the Office (grammar, tag & negative questions)
15	Examination	本試験

【使用教材】

◇Longman Preparation Series for the TOEIC Test (Introductory Course) 出

版社 : Pearson Education

ISBN-13 : 978-0-13-286148-9

【履修条件等】

◇将来的にはTOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇英語を聞いて理解できるようになるため、努力を惜しまない人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

TOEIC II	イトウ マリ 伊藤 満里
TOEIC II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業は、TOEIC Listening & Reading テストを将来受験したいと考えている学生や英語によるコミュニケーション力を伸ばしたいと考えている学生を対象とします。授業では、そのために必要な英語運用能力を伸ばすために、基本的な重要語句の学習と聴き取り、読解や文法の練習問題に取り組みます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
語彙力を身につけること	授業内の語彙テストによって評価する。 各ユニットに記載されている頻出語句の意味が分かる。	10%
基本的な文法事項を学習すること	授業内の確認テスト・期末試験によって評価する。 確認テストや期末試験の文法問題が解けるようになる。	30%
読解力を身につけること	授業内の確認テスト・期末試験によって評価する。読解問題の設問を理解し、正しく解答できる。	30%
リスニング力を身につけること	授業内の確認テスト・期末試験によって評価する。リスニング問題の設問を理解し、正しく解答できる。	30%
評価の方法	期末試験30%、確認テスト30%、語彙テスト10%、授業への取り組み方30%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7 Daily Life	動詞の後ろの動名詞・不定詞（定型表現）
2	Unit 7 Daily Life	リスニング、穴埋め、訳、シャドウイング
3	Unit 8 Media	代名詞（主格・所有格・目的格）
4	Unit 8 Media	リスニング、穴埋め、訳、シャドウイング
5	Unit 9 Recruiting	比較（比較級、最上級）
6	Unit 9 Recruiting	リスニング、穴埋め、訳、シャドウイング
7	Unit 10 Production & Sales	前置詞（理由・譲歩、定型表現）
8	Unit 10 Production & Sales	リスニング、穴埋め、訳、シャドウイング
9	Unit 11 Meetings	接続詞（理由・譲歩）
10	Unit 11 Meetings	リスニング、穴埋め、訳、シャドウイング
11	Unit 12 Offices	前置詞・接続詞対比
12	Unit 12 Offices	リスニング、穴埋め、訳、シャドウイング
13	Unit 13 Personnel	関係代名詞（主格、所有格）
14	Unit 13 Personnel	リスニング、穴埋め、訳、シャドウイング
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Score Booster For The TOEIC L&R Test: Beginner 早川幸治・岸洋一著 金星堂

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指定された演習問題について、語彙の意味を調べること等をしながら各自解答を準備すること。

【その他の注意事項】

◇指定されたテキストを初回の授業までに購入すること。

◇授業に辞書を持参すること（電子辞書可）。

TOEIC II	シシド カール 穴戸 カール
TOEIC II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに関する基礎的な単語力を身につける	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要な英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができること	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアが上がること	学期始めと学期末の本試験を比較して(難易度考慮)、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点(単語テストを含む)50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Lesson 1	Business and Sales (grammar, negations)
3	Lesson 2	Business and Sales (grammar, negations)
4	Lesson 3	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
5	Lesson 4	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
6	Lesson 5	Economy (grammar, participles)
7	Lesson 6	Economy (grammar, participles)
8	Lesson 7	Advertisements (grammar, passive voice)
9	Lesson 8	Advertisements (grammar, passive voice)
10	Lesson 9	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
11	Lesson 10	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
12	Lesson 11;	Environment (grammar, subjective mood)
13	Lesson 13	Environment (grammar, subjective mood)
14	Examination	本試験
15	Examination	本試験 (試験問題の解説)

【使用教材】

◇Longman Preparation Series for the TOEIC Test (Introductory Course) 出

版社 : Pearson Education

ISBN-13 : 978-0-13-286148-9

【履修条件等】

◇将来的にはTOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇原則として、「TOEIC I」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

フランス語 I	ノグチ ケイコ 野口 恵子
French I	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

フランス語に慣れ親しむ。基礎的な語彙、表現、文法、発音を学んで、口頭および文章による自己紹介や、簡単な会話ができるようになることを目指す。入門期の外国語学習は、耳、口、目、手、そして頭も使う、いわば全身運動である。まずはフランス語を繰り返し聞き、声に出して言ってみよう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	数字、単語、表現の聞き取りテストを行う。CD等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
自己紹介をはじめ、身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
簡単なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	挨拶、自己紹介、日常会話を文字化したものを読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
書き取り、短文作成から始め、身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法 定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文等）50%、平常点（授業への参加度、宿題提出、音読テスト、ディクテーション）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	0 課イントロダクション	アルファベ、綴りと発音、綴り字記号、挨拶
2	1 課不定冠詞、定冠詞、数字	「あそこにタワーがあります」「あれがエッフェル塔です」
3	1 課規則動詞 (-er)	「私はパリを訪れます」
4	1 課会話、2 課動詞 être	「こんにちは、パリ」「私は学生です」
5	2 課依頼の表現	「コーヒーを1つお願いします」
6	2 課所有形容詞、会話	「これは私のスーツケースです」「ホテルで」
7	3 課動詞 avoir	「私は辞書を持っています」
8	3 課形容詞、可能の表現	「これはおいしいです」「予約することができますか」
9	3 課会話、4 課動詞 aller	「レセプションで」「私はパリへ行きます」
10	4 課動詞 venir、否定文	「私は東京に来ます」「私は東京に住んでいません」
11	4 課命令文、会話	「行きなさい」「銀行で」
12	5 課前置詞 à + 定冠詞の縮約、疑問代名詞 que	「カフェオレ」「これは何ですか」
13	5 課動詞 prendre	「私は写真を撮ります」
14	5 課動詞 faire、会話	「私は料理します」カフェで
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇瀬戸秀一・瀬戸和子著『街かどのフランス語（三訂版）』朝日出版社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業に積極的に参加すること。

フランス語 I	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French I	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

全く初めてフランス語を学ぶ者を対象にゼロから始め、初対面を想定しての自己紹介や好みなどを尋ね合うことができることを目指します。VTR（インターネットでアクセス可能）で自然な会話に触れ、文法理解と練習問題等を行った後、ペア・グループで実践的な会話の練習をします。各課終了後、ポイントをまとめたプリントを使用し充分復習します。「フランス語Ⅱ」と合わせて履修することで、仏検5級受験に必要な知識を得ることができるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス語特有の発音や、綴り字の読み方、イントネーションの付け方等、フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。数字（値段・年齢等）の聞き取り、学習した基本的なフランス語を耳で聞いて理解し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
<p>評価の方法 8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題提出10%、平常点10%で評価します。詳細については初回授業で説明します。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<フランスについて>	・アルファベ、綴り字の読み方
2	<フランス語の発音>	・フランス語10単語を覚える
3	Leçon 1 <自己紹介1> ・挨拶 ・名前、国籍を言う	・主語人称代名詞と動詞être ・「はじめまして、私の名は～です」 ・「私は／彼（女）は～人です」 ・数1～10
4	Leçon 2 <自己紹介2>	・規則動詞 habiter 住む
5	・職業を言う ・住んでいる所を言う	・「私は学生です」「彼は俳優です」 ・「私は～に住んでいます」 ・数11～20
6	Leçon 3 <カフェで>	・飲み物、食べ物名と冠詞
7	・カフェで注文し、支払いをする ・何語を話すか言う	・否定形「私は～人ではない」 ・規則動詞 parler 「話す」の活用 ・数30～60 ・～ユーロ
8	Leçon 7 <好みを言う>	・動詞 aimer
9	・好みを尋ねる ・何が好きか尋ねる ・Il y a ～ 「～がある」	「音楽・スポーツ・～料理が好きです」 程度を言う「大好きです」 「あまり好きではありません」 ・aimer の後の名詞につく定冠詞 ・「高田馬場には～がある」
10	Leçon 4 <兄弟姉妹について>	・動詞 avoir 「ペンを持っている？」 「兄がひとりいます」
11	・～を持っているか、尋ねる	・avoir の否定形「持っていない」
12	・兄弟がいるかを言う ・年齢を言う	・疑問文 Est-ce que ～ 「～ですか？」 ・「私は～歳です」
13	口頭試験および解説	・授業中練習した自己紹介（名前、国籍、職業、言語）、音楽、スポーツの好みを尋ね合う
14	Leçon 1～4, Leçon 7 の総復習	復習プリントを使用
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇ Café Français カフェ・フランセ
著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社
ホームページ <http://cafefrancais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

- ◇フランスまたはフランス語に興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業での学習事項を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇全出席を心がけること。

フランス語Ⅱ	ノグチ ケイコ 野口 恵子
French II	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」に続き、基礎的な語彙や文法の知識を身につけるとともに、コミュニケーション能力をのばすことを目的とする。聞こえてきたフランス語を繰り返して言う練習、聞いて書き取る練習、テキストを声に出して読む練習を行う。身近な話題、興味のある話題について、口頭および文章で的確に表現できるようにする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	語句の聞き取りテストを行う。CD 等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
基本的なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	テキストの会話文を読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
<p>評価の方法 定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文）50%、平常点（出席、授業への参加度、宿題提出、音読・ディクテーション・会話・和訳・仏訳小テスト）50%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	5 課動詞 faire、会話、6 課疑問副詞	「いくらですか」「何歳ですか」「いつ出発しますか」
2	6 課月名、時刻表現	「今何時ですか」
3	6 課丁寧な要求の表現、会話	「バレエを見たいのですが」「オペラ座で」
4	7 課比較の表現	「これはあれより値段が高いです」
5	7 課目的語人称代名詞	「私はあなたを愛しています」
6	7 課色の形容詞、会話	「ピンクのドレス」「洋品店で」
7	8 課最上級、代名動詞	「町で一番大きいホテルです」「彼女はマリーといいます」
8	8 課非人称構文	「出発しなければなりません」
9	8 課会話、9 課規則動詞 (-ir)	「地下鉄に乗る」「私は仕事を終えます」
10	9 課複合過去①	「私はルーブル美術館を見学しました」
11	9 課会話	「レストランで」
12	10課複合過去②	「私はフランスへ行きました」
13	10課近い未来と近い過去	「明日出発するつもりです」「ここに着いたばかりです」
14	10課会話	「旅行案内所で」
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇瀬戸秀一・和子著『街かどのフランス語（三訂版）』朝日出版社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業に積極的に参加すること。

フランス語Ⅱ	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French II	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」を修了、または相当のフランス語の知識のある者を対象とし、「フランス語Ⅰ」で学んだことを土台に、フランス人とのコミュニケーションに必要な基本的な会話の場を広げ、基本的な表現を増やししながら文法事項を学んでいく。授業形態は「フランス語Ⅰ」同様、VTR教材を使用し、スキットの理解、文法解説、発音練習、会話練習を行う。本講座終了後、フランス人との最も基本的なコミュニケーションがとれること、いくつかの場面での実践的な会話ができることを到達目標とする。生きたフランス語に触れるという目的で、教材以外にVTRまたは映画を使用し既習の表現を聞き取る機会を設ける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。春学期に続き、数字の聞き取り、フランス語での質問に対し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
評価の方法 8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<春学期の復習> <天候の表現> Leçon 8 II ・天候を言う	・配布プリント使用 ・天候の非人称構文「良い天気です」 「寒く・暑くないです」
2 3	Leçon 9 ・どんなスポーツをするか言う ・朝食について述べる ・否定疑問文に対する「はい」「いいえ」の答え方	・「スポーツはしますか？」 スポーツの名称と部分冠詞 ・「朝食をとりますか？」「～をとります」 食品の名と部分冠詞 ・中性代名詞 en を使って答える
4 5	Leçon10<誘う> ・相手を昼食に誘う ・承諾する・理由を述べ誘いを断る ・場所へ行く手段を言う	・主語 on「～行こう」 ・場所の名「カフェへ・美術館へ」と前置詞 +冠詞について ・「OK、行こう」「ごめん、授業があるんだ」 ・「何で行こうか?」「歩いて行こう」
6 7 8 9	Leçon11<一日の過ごし方> ・起床から就寝までの一日の主な 行動を言う	・時間の表し方 ・「起床する」「就寝する」(代名動詞) 「普段は、～時に起き、～時に家を出、 ～時に帰宅します」
10 11	Leçon13<レストランで(1)> ・食事の流れについて知る ・メニューを読む ・注文する	・主な食品の名と注文の仕方 ・前菜、主菜、デザート、飲み物を注文する ・複合過去(1) 助動詞 avoir「選びました か?」
12	Leçon 13 <レストランで(2)> ・料理の感想を言う Leçon 14 ・過去について語る	・料理の感想を言う(半過去) 「美味しかったです」 ・複合過去(1) 助動詞 avoir 「昨日何をしましたか?」
13	口頭試験および解説	授業中練習した会話(朝食、スポーツについて 尋ね合う、誘う)をペアで行う
14	Leçon14 ・過去について語る ・総復習	・複合過去(2) 助動詞 être 「昨日～へ行きました」 ・復習プリントを使用して総復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度 の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇ Café Français カフェ・フランセ
著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社
ホームページ <http://cafefrancais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

- ◇「フランス語Ⅰ」を修了または相当のフランス語の知識のある者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業での学習事項を復習すること。

【その他の注意事項】

- ◇全出席を心がけること。

中国語 I	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese I	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

日常会話の練習をします。初心者が対象ですから基礎知識はいりません。あまり文法的なことにはふれなくて、授業中はどんどん声を出して体で覚えてもらいます。

中国語の学習を通して、中国文化や中国人の生活習慣に親しみ、国際的な視野を広げてほしいと思います。「聞く」授業ではなく、「参加する」授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中国語の基本構造と発音の概要を理解し、発音の基本練習をする	授業中に指名し、回答から理解度を評価する。発音の巧拙は関係ない。発音練習への参加意欲や、集中度を評価する。	20%
自分の名前の中国語発音を発表し、互いに呼び合えるようにする	中国語の辞書で発音記号・意味・用例を調べ、レポートを提出させ評価する。 クラスメートの名前を中国語で呼び合う積極性を評価する。	20%
学生生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習をする	家族、学生生活、誕生日、年齢、住所、スポーツ、趣味などについて、一人ひとり発言させ評価する。 また、対話練習の積極性も評価する。 発音の巧拙は関係ない。	30%
試験として、1分間程度の自己紹介スピーチを皆の前で披露する	スピーチの標準形を示すが、オリジナリティーをプラス評価する。発音練習、矯正指導への取り組み姿勢、スピーチマナー、クラスメートの発表を聞く態度も評価する。	30%
評価の方法	上記のように、平常点およびレポート課題評価70%、試験（中国語による自己紹介）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中国語について	共通語、文字、文の組み立て等
2	発音について(1)	発音の概説(音節、母音、子音、声調、ピンイン)
3	発音について(2)	発音練習(数字、あいさつ、身体、漢詩、自分の名前)
4	あいさつ	あいさつ言葉、人称代名詞、敬称
5	名前(1)	名前の聞き方の注意点、他の常用あいさつ言葉
6	名前(2)	自分の名前のピンイン発表、発音練習
7	家族	“有”の文、数量を尋ねる、人や物を数える単位
8	学生生活	“的”の用法、“是”の文
9	誕生日、年齢	月、日、曜日、西暦の言い方、年齢の聞き方、答え方
10	～に住んでいる	指示代名詞、場所や方向、r化
11	～ができる	“会”の用法、「肯定+否定」の疑問文
12	自己紹介(1)	趣味、～生まれの～育ち、学校名の言い方
13	自己紹介(2)	質問、個人指導、練習
14	自己紹介(3)	質問、個人指導、練習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

中国語 I	セー ジャー 賽音 吉雅
Chinese I	発展科目 / 半期 / 1 単位

【授業概要】

日常会話の練習をします。初心者が対象ですから基礎知識はいりません。あまり文法的なことにはふれないで、授業中はどんどん声を出して体で覚えてもらいます。

中国語の学習を通して、中国文化や中国人の生活習慣に親しみ、国際的な視野を広げてほしいと思います。「聞く」授業ではなく、「参加する」授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中国語の基本構造と発音の概要を理解し、発音の基本練習をする	授業中に指名し、回答から理解度を評価する。発音の巧拙は関係ない。発音練習への参加意欲や、集中度を評価する。	20%
自分の名前の中国語発音を発表し、互いに呼び合えるようにする	中国語の辞書で発音記号・意味・用例を調べ、レポートを提出させ評価する。クラスメートの名前を中国語で呼び合う積極性を評価する。	20%
学生生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習をする	家族、学生生活、誕生日、年齢、住所、スポーツ、趣味などについて、一人ひとり発言させ評価する。また、対話練習の積極性も評価する。発音の巧拙は関係ない。	30%
試験として、1分間程度の自己紹介スピーチを皆の前で披露する	スピーチの標準形を示すが、オリジナリティーをプラス評価する。発音練習、矯正指導への取り組み姿勢、スピーチマナー、クラスメートの発表を聞く態度も評価する。	30%
評価の方法 上記のように、平常点およびレポート課題評価70%、試験（中国語による自己紹介）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中国語について	共通語、文字、文の組み立て等
2	発音について（1）	発音の概説（音節、母音、子音、声調、ピンイン）
3	発音について（2）	発音練習（数字、あいさつ、身体、漢詩、自分の名前）
4	あいさつ	あいさつ言葉、人称代名詞、敬称
5	名前（1）	名前の聞き方の注意点、他の常用あいさつ言葉
6	名前（2）	自分の名前のピンイン発表、発音練習
7	家族	“有”の文、数量を尋ねる、人や物を数える単位
8	学生生活	“的”の用法、“是”の文
9	誕生日、年齢	月、日、曜日、西暦の言い方、年齢の聞き方、答え方
10	～に住んでいる	指示代名詞、場所や方向、r化
11	～ができる	“会”の用法、「肯定+否定」の疑問文
12	自己紹介（1）	趣味、～生まれの～育ち、学校名の言い方
13	自己紹介（2）	質問、個人指導、練習
14	自己紹介（3）	質問、個人指導、練習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

中国語Ⅱ	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese II	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

「中国語Ⅰ」に引き続き、日常会話の練習をします。さまざまな場面を想定して、基本的な単語や簡単な文で受け答えの会話を楽しみましょう。

「中国語Ⅰ」と同様に、聴講型ではなく参加型の授業です。異文化への興味と関心を深め、国際センスを磨いてほしいと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
短い自己紹介を、とっさにでも流暢にできるよう練習する	「中国語Ⅰ」の復習として、一人ひとりが皆の前で披露する。話しぶりや表情、パフォーマンスも評価する。	10%
日本のアニメソングの中国語版を題材に、日中の歌詞を比較・分析する	各人が比較・分析の結果や感想を発表する。鑑賞の緻密さ、積極的な参加意欲を評価する。合唱もするが、歌の巧拙は関係ない。協調性を評価する。	10%
日常生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習する	再会、勧誘、時刻、経験、電話、決まり文句等について、対話形式でロールプレイングを行い、その積極性、正確性を評価する。発音の巧拙はそれほど重要ではない。	50%
試験として、各人10問の日常会話の口頭試問を行う	これまでに学んだ、30問の設問に対する解答を練習し、一人10問の口頭試問を行う。聴解の正確性、回答の妥当性、反応速度、面接態度等を評価する。	30%
評価の方法 上記のように、平常点評価70%、試験（中国語による口頭試問）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	「中国語Ⅰ」の復習	中国語での簡単な自己紹介
2	中国語で歌う	中国語の歌詞を題材に学習
3	再会	“了”の用法、動作の方向
4	～が好き	“得”の用法、“不太好”と“太不好”
5	どうですか？	同意、意向や様子を尋ねる、“上”“下”の特殊な用法
6	時刻・時間	時刻、時間、期間の言い方
7	～から～まで	～したことがある（経験）、出身地と住所地
8	電話をかける（1）	一般的な電話会話
9	電話をかける（2）	電話番号の聞き方、言い方
10	決まり文句（1）	対話での決まり文句
11	決まり文句（2）	ひと言決まり文句、外来語
12	口頭試問（1）	問題の解説、回答例練習
13	口頭試問（2）	問題の解説、回答例練習
14	口頭試問（3）	質問、個人指導
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

- ◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。
- ◇原則として「中国語Ⅰ」を修得した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

- ◇座席は指定制です。

中国語Ⅱ	セーンジャー 賽音 吉雅
Chinese II	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

「中国語Ⅰ」に引き続き、日常会話の練習をします。さまざまな場面を想定して、基本的な単語や簡単な文で受け答えの会話を楽しみましょう。

「中国語Ⅰ」と同様に、聴講型ではなく参加型の授業です。異文化への興味と関心を深め、国際センスを磨いてほしいと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
短い自己紹介を、とっさにでも流暢にできるよう練習する	「中国語Ⅰ」の復習として、一人ひとりが皆の前で披露する。話しぶりや表情、パフォーマンスも評価する。	15%
日本のアニメソングの中国語版を題材に、日中の歌詞を比較・分析する	各人が比較・分析の結果や感想を発表する。鑑賞の緻密さ、積極的な参加意欲を評価する。合唱もするが、歌の巧拙は関係ない。協調性を評価する。	15%
日常生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習する	再会、勧誘、時刻、経験、電話、決まり文句等について、対話形式でロールプレイングを行い、その積極性、正確性を評価する。発音の巧拙はさほど重要ではない。	40%
試験として、各人10問の日常会話の口頭試問を行う	これまでに学んだ、30問の設問に対する解答を練習し、一人10問の口頭試問を行う。聴解の正確性、回答の妥当性、反応速度、面接態度等を評価する。	30%
評価の方法 上記のように、平常点評価70%、試験（中国語による口頭試問）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「中国語Ⅰ」の復習	中国語での簡単な自己紹介
2	中国語で歌う	中国語の歌詞を題材に学習
3	再会	“了”の用法、動作の方向
4	～が好き	“得”の用法、“不太好”と“太不好”
5	どうですか?	同意、意向や様子を尋ねる、“上”“下”の特殊な用法
6	時刻・時間	時刻、時間、期間の言い方
7	～から～まで	～したことがある（経験）、出身地と住所地
8	電話をかける(1)	一般的な電話会話
9	電話をかける(2)	電話番号の聞き方、言い方
10	決まり文句(1)	対話での決まり文句
11	決まり文句(2)	ひと言決まり文句、外来語
12	口頭試問(1)	問題の解説、回答例練習
13	口頭試問(2)	問題の解説、回答例練習
14	口頭試問(3)	質問、個人指導
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

◇原則として「中国語Ⅰ」を修得した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

ビジネス英語 I	キタダ ケイコ 北田 敬子
Business English Basics I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネスシーンで実際に使える英語を身につけること—これがこのクラスの目的です。しかし、英語の基礎力がなくては仕事に役立つ英語を使いこなすことはできません。正しく聞き取り、分かりやすく話すこと、そしてシンプルなビジネス文書（メールを含む）を読みこなし、自分でもメモや伝言、メールを書くこと。授業では様々なアクティビティーを通じて声を出し、おおいに読み書きしてもらいます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介、簡単な製品説明、事業内容説明などを行えるようになる	テキストで基本的な表現を学び、それを再現できるよう練習を重ねる。応用がきくよう工夫も要求する。そういった授業内活動がどの程度行えているかを成績判定の基準にする。	30%
仕事内容についての簡単な質疑応答が行えるようになる	テキストに含まれる練習問題・課題・宿題などの提出物で成果を見ていく。小テストと学期末の試験によって総合成績を判定する。	40%
カジュアルからフォーマルまで、場に相応しい表現を判別できるようになる	定期的に作文の課題を出し、添削を行ったうえで返却する。英文を書く努力を評価する。	20%
ビジネスから派生する多様なトピックにも臨機応変に対応できるようになる	副教材の配布、映像資料の提示によって授業内容に広がりを持たせる予定である。それらへの取り組みも評価対象とする。	10%
評価の方法 授業参加態度30%、提出物30%、試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業概要説明
2	Unit 1 (1)	Job Hunting (就職活動) Job Interview (面接)
3	Unit 1 (2)	Job Hunting (就職活動) CV (履歴書)
4	Unit 2 (1)	The First Day of Work (職場での挨拶)
5	Unit 2 (2)	The First Day of Work (名刺作成・職名を学ぶ)
6	Unit 3 (1)	Writing Email (ビジネスメール) 表現方法を学ぶ
7	Unit 3 (2)	Writing Email (ビジネスメール) 構成を学ぶ
8	Unit 4 (1)	Greeting a Visitor (顧客を迎える) 会話を中心に
9	Unit 4 (2)	Greeting a Visitor (顧客を迎える) 異文化の紹介
10	Unit 5 (1)	Explaining a Corporate Profile (会社説明) 概要
11	Unit 5 (2)	Explaining a Corporate Profile (会社説明) 詳細
12	Unit 6 (1)	Deciding on a Date for a Meeting (会議予定日の設定)
13	Unit 6 (2)	Deciding on a Date for a Meeting (会議予定日の設定)
14	応用課題	Pandemicに翻弄される社会について、学生としての立場から観察したことを英語の文章にまとめ、クラスで発表・共有する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇ Make It in Business
Cengage Learning
ISBN 978-4-86312-1485-5

【履修条件等】

- ◇ ビジネスを通じて英語を学ぶことに関心を持っていること。英語を通じてビジネスシーンにアプローチすることに興味を持っていること。地道な英語学習を厭わず続けて、在学中に英語の基礎を身につけようというポジティブな姿勢を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ テキストで出会う語彙、表現をあらかじめ調べ、トピックへの予備知識を持って授業に臨んでほしい。

【その他の注意事項】

- ◇ 質問や発言を歓迎する。主体的に授業に参加してほしい。

ビジネス英語 I	シシド カール 穴戸 カール
Business English Basics I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいる中、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーションを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価 出席：30%、授業参加度：30%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction, Class Policy	General Introduction of class
2	Unit 1 “Nice to Meet You”	Welcome a Visitor
3	Unit 1 “Nice to Meet You”	Talk About Countries and Regions
4	Unit 2 “In the Office”	Different Types of Office
5	Unit 2 “In the Office”	Describe a Typical Day
6	Unit 3 “On the Phone”	Introduction to Telephone Phrases
7	Unit 3 “On the Phone”	Telephone Messages
8	Unit 4 “Buying and Selling”	Talking About Shopping Habits
9	Unit 4 “Buying and Selling”	Use of Some/Any and Much/Many
10	Unit 5 “What Are You Doing?”	Making Appointments
11	Unit 5 “What Are You Doing?”	Discussions About Future Plans
12	Unit 5 “What Are You Doing?”	Talking About Times and Dates
13	Unit 5 “What Are You Doing?”	Understand Different Communication Style
14	Unit 1 - 5 “Review”	Review Units 1 - 5
15	Final Examination	

【使用教材】

- ◇ Business Plus 1 , by Magaret Helliwell, Cambridge University Press,
ISBN : 978-1-107-64068-9
Dictionary Printouts
of activity

【履修条件等】

- ◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

ビジネス英語 II	キタダ ケイコ 北田 敬子
Business English Basics II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネスシーンで実際に使える英語を身につけること—これがこのクラスの目的です。しかし、英語の基礎力がなくては仕事に役立つ英語を使いこなすことはできません。正しく聞き取り、分かりやすく話すこと、そしてシンプルなビジネス文書（メールを含む）を読みこなし、自分でもメモや伝言、メールを書くこと。授業では様々なアクティビティーを通じて声を出し、おおいに読み書きしてもらいます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介、簡単な製品説明、事業内容説明などを行えるようになる	テキストで基本的な表現を学び、それを再現できるよう練習を重ねる。応用がきくよう工夫も要求する。そういった授業内活動がどの程度行えているかを成績判定の基準にする。	30%
仕事内容についての簡単な質疑応答が行えるようになる	テキストに含まれる練習問題・課題・宿題などの提出物で成果を見ていく。小テストと学期末の試験によって成績を判定する。	40%
カジュアルからフォーマルまで、場に相応しい表現を判別できるようになる	定期的に作文の課題を出し、添削を行ったうえで返却する。英文を書く努力を評価する。	20%
ビジネスから派生する多様なトピックにも臨機応変に対応できるようになる	副教材の配布、映像資料の提示によって授業内容に広がりを持たせる予定である。それらへの取り組みも評価対象とする。最終授業2回で行う総まとめの「プレゼンテーション」プロジェクトの成果を評価に含める予定である。	10%
評価の方法 授業参加態度30%、提出物30%、試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7 (1)	Attending a Meeting (1) (会議に出席する) 発言
2	Unit 7 (2)	Attending a Meeting (2) (会議に出席する) 製品説明
3	Unit 8 (1)	Dealing with Complaints (1) (苦情処理) 苦情メモ
4	Unit 8 (2)	Dealing with Complaints (1) (苦情処理) 対応文書
5	Unit 9 (1)	Getting Ready for an Overseas Business Trip 海外出張準備- 1
6	Unit 9 (2)	Getting Ready for an Overseas Business Trip 海外出張準備- 2
7	Unit 12 (1)	Traveling Abroad for the First Time (1) 海外出張- 1
8	Unit 12 (2)	Traveling Abroad for the First Time (2) 海外出張- 2
9	Unit 11 (1)	Gathering Information for a Presentation (1) プレゼン準備- 1
10	Unit 11 (2)	Gathering Information for a Presentation (2) プレゼン準備- 2
11	Unit 13 (1)	Writing a Presentation Draft (1) プレゼン原稿執筆- 1
12	Unit 13 (2)	Writing a Presentation Draft (2) プレゼン原稿執筆- 2
13	Presentation (1)	Giving a Presentation 1 プレゼン実習- 1
14	Presentation (2)	Giving a Presentation 2 プレゼン実習- 2
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇ Make It in Business
Cengage Learning
ISBN 978-4-86312-1485-5

【履修条件等】

- ◇ ビジネスを通じて英語を学ぶことに関心を持っていること。英語を通じてビジネスシーンにアプローチすることに興味を持っていること。地道な英語学習を厭わず続けて、在学中に英語の基礎を身につけようというポジティブな姿勢を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 秋学期はプレゼンの実習を含む。秋学期に掲げた内容に加え、独自のプレゼン用コンテンツを準備し、ファイルを作成する課題が出る。授業外学習・準備・練習なしにはこなせないの、授業中に提示するガイドラインに沿って準備してほしい。

【その他の注意事項】

- ◇ 欠席すると授業についてこられなくなるので注意する。

ビジネス英語Ⅱ	シシド カール 穴戸 カール
Business English Basics II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいる中、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーションを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価。 出席：30%、授業参加度：30%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Summer Vacation	Describe Your Summer Vacation
2	Unit 6 “Out an About”	Make Hotel Reservations
3	Unit 6 “Out and About”	Talk About Ways to Travel
4	Unit 7 “Your Company”	Information About a company
5	Unit 7 “Your Company”	Countries and Nationalities
6	Unit 8 “Let's Eat Out”	Conversations at Restaurants
7	Unit 8 “Let's Eat Out”	Talk about Restaurant Menus
8	Unit 9 “Work and Play”	Conversation About Work and Leisure
9	Unit 9 “Work and Play”	Talk About Leisure Time Activities
10	Unit 9 “Work and Play”	Understand Tourism in Thailand
11	Unit 10 “Come Again Soon”	People Saying Goodbye
12	Unit 10 “Come Again Soon”	Will and Won't About the Future
13	Unit 10 “Come Again Soon”	Talk About Life in the Future
14	Review Units 6-10	Review Units 6-10
15	Final Examination	

【使用教材】

- ◇ Business Plus 1 , by Magaret Helliwell, Cambridge University Press,
ISBN : 978-1-107-64068-9
Dictionary Printouts
of activity

【履修条件等】

- ◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

日本語Ⅱ（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
<p>評価の方法 小テスト15%、課題60%、本試験25%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	社内メール
3	ビジネス日本語の基礎	会議準備
4	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 1
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 2、お知らせ文書 1
6	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書 2
7	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
8	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
9	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
10	ビジネス日本語の基礎	営業 1
11	ビジネス日本語の基礎	営業 2、売上
12	ビジネス日本語の基礎	売上 2
13	ビジネス日本語の基礎	出張
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集－聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎課小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

専 門 科 目

2022年度

経営学部経営学科

東京富士大学

経営学	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Business Management	入門科目／通年／4単位

【授業概要】

経営学にはさまざまな領域があります。例えば、管理論、組織論、戦略論、企業論、会計学や心理学などの領域があります。そのなかでも、管理論、組織論、戦略論、そして企業論は経営学の中核的な領域になります。したがって、これらの領域の基礎を学ぶことによって、経営学の基礎固めをすることができると同時に、経営学とはどのような学問なのか、あるいは経営学を学ぶ意義とは何か、を理解できるようになるでしょう。

経営学は他の学問と比べてまだ歴史は浅いですが、人類のさまざまな課題を克服するうえで重要な役割を果たしていく可能性を大いに秘めている学問です。換言すれば、経営学を学ぶことによって、皆さんが将来活躍する場は無限に広がることでしょう。

本講義は入門科目ですので、経営学をより本格的に学ぶには、上記に挙げた領域の専門科目をさらに履修する必要があります。本講義の使命は、専門科目を学ぶための橋渡しの役割を果たすことにあります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎知識と理論の理解	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学とは何かを理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学を学ぶ意義を理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学の応用可能性を理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
<p>評価の方針 本試験70%と小テスト等（出席点含む）30%で評価する。</p>		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期ガイダンス	16	秋学期ガイダンス
2	経営学とは何か	17	経営戦略論①
3	管理論①	18	経営戦略論②
4	管理論②	19	経営戦略論③
5	管理論③	20	経営戦略論④
6	管理論④	21	経営戦略論⑤
7	管理論⑤	22	経営戦略論⑥
8	管理論⑥	23	組織論①
9	企業論①	24	組織論②
10	企業論②	25	組織論③
11	企業論③	26	組織論④
12	企業論④	27	組織論⑤
13	企業論⑤	28	組織論⑥
14	総括・達成度の確認	29	まとめ
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇参考書：藤田誠著『経営学入門』中央経済社, 2015年.

塩次喜代明・小林敏男・高橋伸夫（編著）『経営管理』有斐閣アルマ, 2009年.

◇その他は適宜指示

【履修条件等】

◇授業中の私語やスマホ等の使用は厳禁です。その他、担当教員の指示に従わない者は本試験の受験ができなくなる可能性があるので注意してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書等、講義内容に関する領域を事前に読んでおくことをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営学	オガワ タツヤ 小川 達也
Business Management	入門科目／通年／4単位

【授業概要】

企業経営に関する基礎的理論と実践的知識を修得してもらうと同時に、現代企業が直面している諸課題についての洞察力を養います。授業は、パワーポイントを中心にプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、国内外の時事問題や事例研究を通して企業経営の実態を把握し、有用かつ広範な経営理論をわかりやすく解説します。受講生一人ひとりの疑問や質問に向き合い、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営学の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 授業で取り上げた経営学の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた企業経営の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 授業で取り上げた企業経営の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営学の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 企業経営の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%
<p>評価の方法 授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。 授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。</p>		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	【重要】ガイダンス（授業概要・評価方法）	16	日本型経営 ①日本人の価値観と企業経営
2	経営学への招待 ①経営学はおもしろい！	17	” ②日本的雇用慣行の合理性
3	” ②経営学で何を学ぶのか	18	企業の役割 ①企業の存在意義と役割
4	” ③経営学のルーツを探る	19	” ②企業活動のマイナスの側面
5	” ④経営学の父を知る	20	企業の社会的責任 ①社会的責任の本質
6	企業・会社の概念 ①企業・会社とは何か	21	” ②その内容と優先順位
7	” ②会社法と会社形態	22	” ③フィランソロピー
8	” ③株式会社の特徴と役割	23	” ④企業の反倫理的行動
9	株式会社の類型 ①監査役設置会社	24	” ⑤コンプライアンス経営
10	” ②指名委員会等設置会社	25	企業価値創造 ①ステークホルダーと企業
11	” ③監査等委員会設置会社	26	” ②2つの企業価値創造経営
12	経営管理の体系 ①全体管理と個別管理	27	” ③米国型経営の教訓
13	” ②マネジャーの職位	28	” ④企業価値創造経営の枠組み
14	” ③経営者と階層型組織	29	” ⑤企業価値創造経営の実践
15	中間試験（総括・達成度の確認）	30	期末試験（総括・達成度の確認）

【使用教材】

◇教科書：今年度は使用しません。

◇参考書：片岡信之、齊藤毅憲、佐々木恒男、高橋由明、渡辺峻（著）『はじめて学ぶ人のための経営学入門 [バージョン2]』文真堂ブックス、2018年

【履修条件等】

◇この授業は、これから学ぶ経営学関連の科目を理解するのに必要な基礎的知識を養う目的があります。多少難しいと感じても、常に向上心を持って授業に臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語への理解が大切です。しかし、授業時間内にその都度、用語そのものの解説は行いません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中にスマートフォンやタブレットなどの電子デバイス類を授業目的外で使用することは、禁止します。指示に従わない場合には、減点の上、欠席扱いとします。

経営学	フジモリ ダイスケ 藤森 大祐
Business Management	入門科目／通年／4単位

【授業概要】

初めて学ぶ者にとって、「経営学」というものは何かとつきにくい難しいもののように感じるかもしれない。学問である以上、そこで展開される学術的な議論は難解なものもあることは事実である。しかし、経営学は私たちにとって大変身近なことを学ぶものであり、また実際に役に立つものである。さらに、経営学は経営者のための学問であるだけでなく、広く「働く人」のための学問である。この講義では、経営学というものをなるべくわかりやすく学んでいくとともに、経営学に興味を持つきっかけとなることを第一の目標に据えて進めていく予定である。この講義が、履修する皆さんにとって、その後の経営学のより専門的な分野の扉を、楽しみに開くきっかけとなれば嬉しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
会社制度の仕組みを理解し、その問題点や課題を考える基礎を養う	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	20%
経営戦略やマーケティングの代表的な理論を理解し、現実の企業活動を説明する力を養う	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	40%
組織や管理の代表的な理論を理解し、専門科目を学ぶための基礎力を身につける	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	40%
評価の方法 試験50%、レポート30%、平常点20%で評価する。 平常点は講義内で書くコメントや質問、授業態度などで評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	15	経営組織①
2	企業の仕組み①	16	経営組織②
3	企業の仕組み②	17	経営組織③
4	企業の仕組み③	18	経営組織④
5	企業の仕組み④	19	モチベーション①
6	経営戦略①	20	モチベーション②
7	経営戦略②	21	モチベーション③
8	経営戦略③	22	モチベーション④
9	経営戦略④	23	リーダーシップ①
10	経営戦略⑥	24	リーダーシップ②
11	経営戦略⑦	25	リーダーシップ③
12	経営戦略⑧	26	マーケティング①
13	イノベーション①	27	マーケティング②
14	イノベーション②	28	マーケティング③
15	前半の総括・達成度の確認	30	後半の総括・達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しない。随時必要な資料を配布する。また、授業内で参考文献を紹介する。

【履修条件等】

◇経営学を積極的に学ぶ意欲があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回、講義の最後に次回の内容を伝えるので、次週までにその内容についての基礎知識を得ておくこと。

【その他の注意事項】

◇経営学は自ら意欲を持って臨めば、とても刺激的なものである。しかし、それが感じられるまでにはそれなりの努力が必要である。わからないことを乗り越えて、楽しさを感じられるようになることを期待する。

経営学	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Business Management	入門科目／通年／4単位

【授業概要】

経営学といってもその内容はさまざまです。この授業は科目名が示すように、経営学が扱うさまざまな領域の中の主なものを概略的に見ていきます。扱う領域は、それぞれ2年次以降に、半期あるいは通年の授業として設定されています。したがって、この授業では細かい部分は扱わず中心的な部分だけを見ていくことになります。

授業は、講義と質問を交互に行います。経営学のさまざまな理論や学説を中心に講義をしますので、聞いているだけでは理解しにくいところがあるかもしれません。積極的に質問に応え、授業理解の助けにしてください。また、授業中わからないことがあったら、その場で積極的に質問してください。

大学に入って最初の専門科目の授業となりますので、大学における論述試験に慣れてもらうために春学期中間に「中間試験」を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎的な内容を理解していること	設問に対する回答によって評価。基礎的な用語を理解していること。	20%
経営学の基本的なものの見方を理解していること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。	20%
経営学の代表的な理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。代表的な理論を説明できること。	20%
経営学の理論を応用する力を備えていること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。理論をもとに具体的な方法を提案できること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として、試験95%、授業参加度5% 試験は、2回の定期試験と中間試験の結果とする。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	経営学とは：経営学はいつ始まった	16	企業目的・企業倫理
2	テイラーの科学的管理法	17	組織形態(1)
3	ヴェーバーの官僚制	18	組織形態(2)
4	人間関係論	19	経営管理各論(1)
5	バーナードの組織論	20	経営管理各論(2)
6	サイモンの意思決定論	21	経営管理各論(3)
7	コンティンジェンシー理論	22	経営管理各論(4)
8	中間試験とその解説	23	日本的経営
9	企業論(1)	24	組織的意思決定
10	企業論(2)	25	経営戦略論(1)
11	所有と経営の分離	26	経営戦略論(2)
12	企業結合	27	経営戦略論(3)
13	国際経営論	28	経営戦略論(4)
14	総括	29	組織文化
15	試験および解説	30	試験および総括

【使用教材】

◇教科書：大月、高橋、山口著『経営学－理論と体系－』同文館

【履修条件等】

- ◇積極的に授業に参加できる人。
- ◇経営学を学ぼうという意志の強い人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の対象範囲を前もって読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇出席日数が不足すると試験を受けられなくなるので注意してください。

経済学 I	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Economics I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？あなたならどう答えますか？こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生活している社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済学の基礎理論の習得 ・ 現代の経済問題に対する経済学的視点を養う 	定期試験の結果と各回の確認テスト（課題）によって成績を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験60% ・ 確認テスト（課題）の累積得点40%
<p>評価の方法 定期試験60%、各回に予定されている確認テストの累積得点40%により総合的に判断して成績を評価します。</p> <p>正当な理由のない欠席を5回以上した者は、単位取得を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	経済主体と経済活動	市場経済を理解する
3	閉じた経済圏	トークンエコノミー
4	ブロックチェーンが起こす革命	テクノロジーによる社会的価値の変化
5	新しい貨幣	暗号資産とデジタル通貨
6	GDP	豊かな国とは？ 経済大国＝幸せ ではない
7	これからの付加価値の生産	人間とデジタル労働力の協働
8	日本のリーディング産業	牽引役が自動車産業からロボット産業へ
9	景気を読む	今は不景気？ それとも好景気？ 景気をどのように判断するか
10	お金の話	借金＝悪 ではない
11	お金の増やし方①	将来に向けた資産形成
12	お金の増やし方②	今からできる投資
13	制度を知る	お得な制度はたくさんある
14	格差がもたらす破壊	格差は心を壊す
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から経済に関する新聞記事やニュースをチェックすること。

【その他の注意事項】

- ◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。
- ◇対面授業を前提としていますが、状況次第でオンライン（Zoomやmeetによるリアルタイム配信）もしくはオンデマンド型（事前に収録した動画を視聴）を実施する。

経済学 I	マツダ タカシ 松田 岳
Economics I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

企業経営は経済環境から大きな影響を受けており、社会で生きる私たちにとって経済の知識を身につけることは必要不可欠である。しかし、日々起こっている経済現象は複雑な要因が絡み合っており、そのままでは理解することが難しい。そのため絡み合った「糸」を解きほぐし、できるだけ単純化して理解する必要がある。単純化・抽象化された概念は馴染みが薄く、敬遠されがちでもある。本講義では経済学の諸概念を一つひとつ紐解きながら、現実の経済問題の理解に必要不可欠なマクロ経済学の基礎の習得を目指す。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マクロ経済データについて理解できる	本試験の正答率で評価／国民所得、物価の測定方法について理解し、説明できるか否か。	23%
長期実物経済の決定要因について理解できる	本試験の正答率で評価／経済成長、貯蓄と投資、失業の長期的な決定要因を理解し、説明できるか否か	23%
開放マクロ経済学について理解できる	本試験の正答率で評価／ある国と他国の経済的作用について理解し、説明できるか否か。	15.5%
短期の経済変動について理解できる	本試験の正答率で評価／短期の経済変動と金融財政政策の効果について理解し、説明できるか否か。	38.5%
評価の方法	試験点100%〈試験点による絶対的評価(SAのみ相対評価)を優先するが、試験結果によっては相対的評価(原則として試験点の順位による評価)を採用する。相対的評価の単位取得率は「授業参加度」をベースにして設定する。〉	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要、到達目標、評価基準、評価方法等を確認する。
2	経済学の原理	経済学の基本概念を理解する。
3	国民所得	生産量・所得を測定する方法
4	物価	物価はどのようにして測定されるのか
5	経済成長	経済成長を左右する要因は何か
6	貯蓄と投資	貯蓄と投資の決定要因は何か
7	失業	失業率を左右する要因は何か
8	開放マクロ経済	国境を超える経済取引とは
9	開放経済の均衡	均衡を左右する諸要因
10	財政政策	マクロ経済への政府の介入
11	財政赤字	赤字のツケを払うのは誰？
12	金融政策	マクロ経済への中央銀行の介入
13	総需要と総供給	経済学の二つの派閥たち
14	インフレ率と失業率	どうして同時に改善しないのか？
15	総括・達成度の確認	達成度の確認と授業の総括を行う。

【使用教材】

- ◇教科書：ガイダンス時に指示する。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇学生としての学修態度を求める。
- ◇授業を妨害する行為は一切許さない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教科書の「次週の講義テーマ」に該当する箇所を事前に読んでおくこと。
- ◇教科書の内容をまとめ、不明点は授業前に質問を提出すること。
- ◇予習・復習に要する時間は週4時間(学期通算60時間)を見込んでいる。

【その他の注意事項】

- ◇大学のメールアドレスとそのパスワードは必携。
- ◇Google Classroom(GC)、Course Powerの情報を小まめに確認すること。
- ◇質問はGCの「質問箱」で受け付けている。
- ◇5回以上欠席すると評価対象外になる。
- ◇同時に「経済学Ⅱ」(松田岳)を履修することを強く推奨する。

経済学Ⅱ	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Economics II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義ではマクロ経済学の基礎理論を学びます。マクロ経済学の問題は、公務員試験等でも出題されます。本講義を履修すれば、公務員試験対策にもなりますので、公務員志望の学生はぜひ履修してください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<ul style="list-style-type: none"> ・ マクロ経済学の基礎理論を習得 ・ 現代の経済問題に対する経済学的視点を養う 	定期試験の結果と各回の確認テスト（課題）によって成績を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験60% ・ 確認テスト（課題）の累積得点40%
<p>評価の方法 定期試験60%、各回に予定されている確認テストの累積得点40%により総合的に判断して成績を評価します。</p> <p>正当な理由のない欠席を5回以上した者は、単位取得を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	グラフの読み方	財の需要、消費関数、限界消費性向、45度線分析
3	国民所得の決定	GDPの構成を理解する
4	資産市場	貨幣と利子率
5	IS-LM分析	財市場と貨幣市場を同時に分析する
6	IS-LM-BP分析①	国境を越えた資本移動が経済に及ぼす影響
7	IS-LM-BP分析②	金融政策と財政政策の効果
8	経済学史	古典派経済学とケインズ経済学
9	AD-AS分析	労働力の供給と需要はどのように決まるか
10	物価	インフレーション
11	IAD-IAS分析	財市場・貨幣市場・労働市場の同時分析
12	AD-AS分析	古典派経済学とケインズ経済学
13	産業連関分析	産業連関表を読み取る
14	国際貿易	絶対優位と比較優位
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する。

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から経済に関する新聞記事やニュースをチェックすること。経済学の入門書（マクロ経済入門）に目を通しておくと良い。

【その他の注意事項】

- ◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。
- ◇対面授業を前提としていますが、状況次第でオンライン（Zoomやmeetによるリアルタイム配信）もしくはオンデマンド型（事前に収録した動画を視聴）を実施する。

経済学Ⅱ	マツダ タカシ 松田 岳
Economics II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

企業経営は経済環境から大きな影響を受けており、社会で生きる私たちにとって経済の知識を身につけることは必要不可欠である。しかし、日々起こっている経済現象は複雑な要因が絡み合っており、そのままでは理解することが難しい。そのため絡み合った「糸」を解きほぐし、できるだけ単純化して理解する必要がある。単純化・抽象化された概念は馴染みが薄く、敬遠されがちでもある。しかし、その意味は意外にも身近で、シンプルな疑問から解き明かすことができる。本講義では経済学の諸概念を一つひとつ紐解きながら、現実の経済問題の理解に必要なミクロ経済学の基礎の修得を目指す。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ミクロ経済学の基本概念を理解できる	本試験の正答率で評価／ミクロ経済学の基本概念を理解し、説明できるか否か	15.5%
市場の働きと効率性について理解できる	本試験の正答率で評価／市場の働きとその効率性について理解し、説明できるか否か	38.5%
市場の失敗について理解できる	本試験の正答率で評価／市場の失敗と政府の介入の必要性について理解し、説明できるか否か	46%
評価の方法	試験点100%〈試験点による絶対的評価(SAのみ相対評価)を優先するが、試験結果によっては相対的評価(原則として試験点の順位による評価)を採用する。相対的評価の単位取得率は「授業参加度」をベースにして設定する。〉	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要、到達目標、評価基準、評価方法等を確認する。
2	交易	ヒトはなぜ交換をするのか
3	市場	誰が価格を決めるのか
4	価格統制	政府は価格を統制できるのか
5	弾力性	「鈍感」か「敏感」か
6	需要と供給	市場メカニズムと政策の効果
7	市場の効率性	なぜ市場均衡が最適なのか
8	生産要素市場	労働市場の特徴とは
9	外部性	市場外の影響をどう制御するか
10	公共財	市場に任せられない商品がある
11	完全競争	競争市場で企業はどう行動するか
12	不完全競争	ライバル「友」に、顧客が「敵」に
13	ゲーム理論	相互に依存する経済行動
14	情報の非対称性	「レモン」が「チェリー」を駆逐する
15	総括・達成度の確認	達成度の確認と授業の総括を行う。

【使用教材】

- ◇教科書：ガイダンス時に指示する。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇学生としての学修態度を求める。
- ◇授業を妨害する行為は一切許さない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教科書の「次週の講義テーマ」に該当する箇所を事前に読んでおくこと。
- ◇教科書の内容をまとめ、不明点は授業前に質問を提出すること。
- ◇予習・復習に要する時間は週4時間(学期通算60時間)を見込んでいる。

【その他の注意事項】

- ◇大学のメールアドレスとそのパスワードは必携。
- ◇Google Classroom(GC)、Course Powerの情報を小まめに確認すること。
- ◇質問は大歓迎。CoursePower 経由で質問をすること。
- ◇5回以上欠席すると評価対象外になる。
- ◇同時に「経済学Ⅰ」(松田岳)を履修することを強く推奨する。

マーケティング I	カミジョウ ノリオ 上條 典夫
Marketing I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングとは、人間や社会のニーズを見極めてそれらに応えることであり、その本質は「顧客を知ること(リサーチ)」と「顧客に知らせること(コミュニケーション)」ということができます。本講義では、20世紀から21世紀へのマーケティングの変遷をたどりながら、各時代におけるマーケティングのフレームワークを学び、次に、マーケティング効果を高めるコミュニケーション戦略について解説します。広告会社電通で40年間培った経験で実例を紹介、楽しい授業にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの本質・その目的と戦略等に関する理解	マーケティングのエッセンスと全体像を把握するとともに、時代や社会とのかかわりについて、事例等を踏まえ理解すること	40%
マーケティング戦略における各種フレームワークの理解	4Pモデル、STPモデル、3iモデル、SIPSモデル、5i理論等について、その目的、特徴、考え方を理解すること	25%
マーケティングコミュニケーションの展開事例を学ぶ	マーケティングマインドを醸成するためには、消費者視点から問題意識を持つことが必要。それを事例などから学び理解すること	25%
ソーシャル・マーケティングの内容とその重要性を理解するとともに、SDGs視点のマーケティングに関する最新事例と概要を把握する	SDGsの概念とソーシャ・マーケティングの本質を理解し、社会課題解決と利益確保の方法論を探求すること	10%
評価の方法 70%以上の出席状況と授業態度 30% レポート試験 70%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マーケティングとは？その変遷とマーケティング・コミュニケーションについてと私自身の経験紹介
2	マーケティングの変遷①	マーケティング1.0(1900～1960 製品・価格中心、4Pモデル など)
3	マーケティングの変遷②	マーケティング2.0(1970～1980 顧客志向、STPモデル など)
4	マーケティングの変遷③	マーケティング3.0(1990～2000 社会的責任、ブランドの3iモデル など)
5	マーケティングの変遷④	マーケティング4.0(2010～ SIPSモデル、AISASモデル など)
6	マーケティング・コミュニケーション①	マーケティング・コミュニケーションとはなにか？
7	マーケティング・コミュニケーション②	消費者行動とマーケティング～消費者の行動を理解する①
8	マーケティング・コミュニケーション③	消費者行動とマーケティング～消費者の行動を理解する②
9	マーケティング・コミュニケーション④	広告展開におけるマーケティング事例①
10	マーケティング・コミュニケーション⑤	広告展開におけるマーケティング事例②
11	マーケティング・コミュニケーション⑥	コミュニケーションミックスと広報・PR
12	マーケティング・コミュニケーション⑦	スポーツイベント・音楽イベントによるマーケティング
13	マーケティング・コミュニケーション⑧	競争優位のブランド・マネジメント
14	ポストコロナ時代のマーケティング	ソーシャル・マーケティングとは～SDGsを軸にしたマーケティングの潮流
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括およびレポート試験

【使用教材】

◇テーマごとに必要に応じて用意します

【履修条件等】

◇とくにありません

【予習をすべき事前学習の内容】

◇世の中の動き、社会・経済情勢等に常に興味や関心を持つこと

【その他の注意事項】

◇講義の内容や順番は変更する場合があります

マーケティング I	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Marketing I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングの基本的な理論と戦略について学習する。企業の経営な活動の中で、マーケティングがどのような役割を担っているのかを学んだ後、戦略を立案する際に必要な分析方法や理論を中心に解説する。実在の企業や商品の例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくことも目的としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティングの基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、専門用語について意味と内容を答えられること。	25%
マーケティング戦略立案のための環境分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な環境分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための市場分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な市場分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための競争分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な競争分析の手法について理解し、答えられること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティングとは	授業の内容とマーケティングの考え方
2	マーケティング・コンセプト	コンセプトの変遷、ニーズとウォンツ
3	マーケティングの範囲	事業領域の設定、マーケティング・マイオピア
4	マーケティングのプロセス	4P概念、マーケティングの実行プロセス
5	環境分析(1)	企業を取り囲む環境、機会と脅威
6	環境分析(2)	企業の強みと弱み、SWOT分析
7	市場細分化	市場細分化と細分化の切り口、ターゲットの選定
8	ポジショニング	ポジショニングマップによる分析、製品差別化
9	製品ライフサイクル	製品の寿命とライフサイクル、ライフサイクル別戦略
10	ポートフォリオ分析	ポートフォリオ・マトリックス、戦略的事業単位
11	製品・市場マトリックス	アンゾフの製品・市場マトリックスと成長ベクトル
12	競争分析	競争のファイブ・フォース、集中度の分析
13	競争優位戦略	競争の激しさを決める要因、参入障壁と参入阻止戦略
14	競争地位別戦略	リーダー企業の戦略、チャレンジャー、フォロワー企業の戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけないこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティング I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Marketing I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの基礎知識から、マーケティングにおけるマネジメントの考え方、マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、様々な視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的な用語について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティングの定義、コンセプトの変遷、マーケティング・ミックス、マーケティングの範囲について答えられること。	25%
市場環境の分析について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。企業を取り巻く環境、環境を分析するための考え方などについて答えられること。	25%
消費者行動とマーケティング戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。消費者を購買に導く、動機づけやそのフレームワーク、個人的な要因について答えられること。	25%
製品戦略とブランドについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。製品のとらえ方、製品開発に関わる考え方、ブランドについて答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティングのコンセプトと基本用語	コンセプトの変遷について
3	マーケティング・ミックス	4Pの概念について
4	マーケティングの範囲	マーケティングの対象について
5	事例研究（1）	ブランドについて
6	市場環境の分析（1）	企業のミクロ環境、SWOT分析について
7	市場環境の分析（2）	企業のマクロ環境、人口動態環境などについて
8	消費者行動（1）	消費者の意思決定プロセスについて
9	消費者行動（2）	意思決定に影響する要因について
10	マーケティング戦略の基礎	市場細分化、ターゲティング、ポジショニングについて
11	製品戦略（1）	製品のとらえ方について
12	製品戦略（2）	サービスや組織のマーケティングについて
13	事例研究（2）	製品戦略の事例について
14	製品開発	製品開発と製品ライフサイクルについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『現代マーケティング論』第2版 実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

マーケティング I	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Marketing I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングとは、顧客に商品やサービスの価値を届ける（顧客に買ってもらう）ための仕組みを作ることです。本講義では、マーケティングとはそもそも何なのか、いつから登場した概念なのか、上手にマーケティングをするために企業はどのような分析を行う必要があるのかといったことを中心に学びます。本講義では、多くの企業事例を例示し、マーケティング理論とマーケティングの実際を行き来できる講義展開が期待できると思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの役割とマーケティング用語を正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティングの役割、基本的なマーケティング計画内容、マーケティングの発展史に関する設問に答えられること。	25%
企業のマーケティング行動に影響を与える要因について正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティング戦略策定上影響を与える、政治、経済、社会、文化といった間接的環境、競争企業や消費者行動といった直接的環境に関する設問に答えられること。	25%
市場をリサーチする方法、顧客を分析する方法について正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。多様な顧客グループを分類する市場細分化の枠組みと市場をリサーチする方法に関する設問に答えられること。	25%
企業の成長戦略と競争戦略について正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。企業がどのようにして成長していくのかについての諸理論、企業の競争戦略についての諸理論に関する設問に答えられること。	25%
<p>評価の方法 全15回の授業のうち2/3にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容説明、成績評価説明
2	マーケティングの仕組み①	マーケティングの基礎概念と基本課題を学ぶ
3	マーケティングの仕組み②	事業選択、STP、4Pの概要を学ぶ
4	マーケティングの発展史	マーケティングの誕生と発展史を学ぶ
5	マーケティング計画の策定	企業のマーケティング計画を学ぶ
6	マクロ環境分析①	マーケティング実行に影響する要因を学ぶ
7	マクロ環境分析②	マーケティング実行に影響する要因を学ぶ
8	顧客の分析方法①	多様な顧客の分類方法について学ぶ
9	顧客の分析方法②	多様な顧客の分類方法について学ぶ
10	市場戦略①	企業の成長戦略を学ぶ
11	市場戦略②	企業の競争対応を学ぶ
12	マーケティング・リサーチ①	市場のリサーチ（調査）方法を学ぶ
13	マーケティング・リサーチ②	市場のリサーチ（調査）方法を学ぶ
14	総括	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	達成度の確認と解説	学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇講義ノートと参考資料を教員が作成しそれをもとに学習するスタイルです。以下参考書に依拠してシラバスが展開しますので、購入の必要性はありませんが、さらに学習したい場合や理解が不足している場合には参照すると有効的です。

<参考書> 小川孔輔『マーケティング入門』、日本経済新聞社、2009年

【履修条件等】

◇1年生は特にありませんが、2年生以上はマーケティング関連の科目（流通論、広告論、消費者行動論）のいずれかを並行して履修していると理解が深まります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経MJ、また日経ビジネスなどに日頃から目を通し、企業のマーケティング活動について問題意識を持つ。ガイアの夜明けやカンブリア宮殿などのビジネス番組もたくさん観ることもおすすめします。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

マーケティング I	ヤマカワ サトル 山川 悟
Marketing I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングとは、企業と顧客との関係を良好なものとし、商品やサービスが売れ続けていくための基盤をつくる活動です。戦略策定やコンセプト開発、商品開発、販売促進、広告、広報、マーケティングリサーチ、消費者行動分析など、幅広い範囲がここに含まれます。本講義ではその考え方に慣れ親しみ、最新の具体的な事例を示しながら、「マーケティングの仕事は楽しい」と感じてもらえるような実践的な内容を志向します。受動的な知識取得ではなく、自分の頭で考え、自分の言葉で語る訓練を取り入れます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングに関する仕事や概念を理解し、興味・関心を持つようになる	講義中に提示した課題への解答等により評価。 「企業側の視点から、商品やブランド、消費行動を捉えているか、捉えようとしているか」を評価ポイントとする。	25%
マーケティング実務における考え方の方法論に触れ、自ら実践できるようになる	講義に提示した課題への解答、中間試験、本試験により評価。 「仮説立案、ターゲティング、コンセプトを、一定のフォーマットに沿って表記できるか」を評価ポイントとする。	25%
商品開発や販売促進、広告等の計画立案の仕組みを理解する	講義中に提示した課題への解答、中間試験、本試験により評価。 「一定のマーケティング目的を達成するためのプロモーションミックス計画の概要を表記できるか」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法	およそ70%以上の出席を条件に評価 中間試験・本試験以外に毎回のミニレポートも評価の対象とする	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マーケティングの考え方	定義、歴史、最新のマーケティング課題
2	マーケティングの仕事とは？	マーケティングの職種、業種、業務内容
3	製造業のマーケティング	商品開発、ブランド政策、4P
4	流通業のマーケティング	顧客関係、店頭対策、物流、PB
5	ターゲティング	顧客・市場のセグメンテーション方法
6	リサーチと仮説立案	調査手法、調査設計～分析、仮説の立て方
7	消費者心理とインサイト	最近の消費者行動、消費者の本音とは？
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	コンセプトワーク	コンセプトの意義、事例、開発方法
10	販売促進戦略	消費者向けSP手法と事例研究
11	広告戦略	広告表現、媒体戦略、メディア開発研究
12	広報戦略	広報、PR手法、近年の動向・事例研究
13	マーケティングプランニング の技法	企画書作成やプレゼンテーションの方法
14	マーケティング事例研究	最近の成功事例について
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

- ◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用（受講者がDLすること）。
- ◇参考書：テーマに応じて、参考資料を紹介。

【履修条件等】

- ◇新製品や広告、メディア、店舗、デザイン、アイデア開発などに興味があること。
- ◇PC（最低でもタブレット）で、ある程度オフィス系ソフトの操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇新聞を読むことやテレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

- ◇講義中に議論やアイデア抽出を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

マーケティングⅡ	カミジョウ ノリオ 上條 典夫
Marketing II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングⅠでは、マーケティングの定義や機能などについて学習しました。マーケティングⅡでは、それらの知識をベースに、業界や企業が実際に直面している課題や問題を取り上げ、それらを解決するためのマーケティング施策や戦略の立案の仕方を学びます。具体的には、例として、デジタル化が遅れてガラパゴス化しているともいわれる日本の音楽業界をフォーカスし、ドラスチックな構造変化と行き詰まりの原因、SNS基点とした問題点など、その現状と可能性を探ってみます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングⅠで習得した知識や仕組みを実際の事例等に当てはめ、実践的なビジネスの策定方法を学ぶ	社会で役立つマーケティングを把握すること	40%
日本の音楽業界にスポットを当て、昭和から平成、令和への流れや変化を概観するとともに、現状を調査し、問題点や課題を整理する	エンターメント業界の今を学び、理解する	25%
抽出された問題点や課題を解決するための戦略、具体的施策を立案する	自分なりに考える能力を培ったか	25%
自律性、社会性、地域国際性、コミュニケーション力、情報リテラシー、問題解決力等のスキルを修得する	ケース・スタディやプレゼンテーション等における積極性、傾聴力、コミュニケーション・スキル、問題解力等を評価する	10%
評価の方法	70%以上の出席状況と授業態度 30% 試験70%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ポストコロナ時代をリードするマーケティングとは何か
2	ガラパゴス化した音楽業界のマーケティング①	世界のデジタル化潮流に乗り遅れた日本の音楽ビジネスを例にとって考察する
3	音楽ビジネスマーケティング①	音楽ビジネスの構造変化
4	音楽ビジネスマーケティング②	ソーシャルメディアの勃興と音楽流通
5	音楽ビジネスマーケティング③	共有・共感・共鳴のメカニズム
6	音楽ビジネスマーケティング④	レガシーメディアとしての音楽市場
7	デジタルとアナログは共存するか	マーケティングでデジタルとアナログは共存するか
8	基本の復讐	学んだトピックスを整理する
9	ヒット商品のメカニズム①	ヒット商品をマーケティング的に分析する
10	ヒット商品のメカニズム②	ヒット商品をマーケティング的に分析する
11	今年の話題広告、商品	一年の中でのトレンド・トピックスを考える
12	ディスカッション①	マーケティング戦略事例をもとに情報共有
13	ディスカッション②	マーケティング戦略事例をもとに情報共有
14	ディスカッション③	マーケティング戦略事例をもとに情報共有
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括およびレポート試験

【使用教材】

◇テーマごとに必要に応じて用意します

【履修条件等】

◇とくにありません

【予習をすべき事前学習の内容】

◇世の中の動き、社会・経済情勢等に常に興味や関心を持つこと

【その他の注意事項】

◇講義の内容や順番は変更する場合があります

マーケティングⅡ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Marketing II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングを実践するための基本的な戦略と理論について学習する。製品戦略、価格戦略、流通戦略、プロモーション戦略というパートに分け、それぞれの戦略を立案するための基本的な知識を習得するのが狙いである。実在の企業例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくとともに、新しいマーケティングの理論についてもふれる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング戦略に関わる専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略のアプローチ方法を理解し、マーケティング戦略に関する用語を答えられること。	20%
マーケティングにおける製品戦略と価格戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略における製品戦略の手法やブランド理論、価格戦略等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングにおけるプロモーション戦略と流通戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略におけるプロモーションの種類やアプローチ方法、流通の仕組み、流通戦略の手法等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングの最新の動向や理論について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略の最新の動向やソーシャルマーケティング、関係性マーケティングの理論について理解し、答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティング戦略とは	授業の内容とマーケティング戦略の概要
2	製品の基礎知識	製品の中核便益と付随機能、新製品の捉え方
3	新製品開発戦略	新製品の開発プロセスと事例
4	製品ミックス戦略	製品のアイテムとライン、製品ライン戦略
5	ブランド・マネジメント1	ブランドの役割、ブランドロイヤルティ
6	ブランド・マネジメント2	ブランド名の付け方、ブランド拡張戦略
7	価格戦略1	価格の決定方法、新製品の価格戦略
8	価格戦略2	価格ミックス、消費者心理を考慮した価格戦略
9	流通の仕組み	流通の仕組みと役割、日本の流通システムの特徴
10	流通チャネル管理	チャネルの選択と管理、パワーコンフリクト
11	プロモーション戦略の基礎	プロモーションの種類、プロモーション・ミックス
12	広告戦略	目的設定と媒体の選択、メディア・ミックス戦略
13	販売促進とPR活動	販売促進の目的設定と手段、PR戦略
14	最新のマーケティング事情	社会志向のマーケティング、顧客との関係づくり
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけないこと。

◇「マーケティングⅠ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティングⅡ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Marketing II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、さまざまな視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
価格戦略と流通戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。価格戦略、流通チャネルの構造、流通に関連する組織、チャネルの設計について答えられること。	25%
広告戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。広告の種類、広告目標、媒体戦略、表現戦略について答えられること。	25%
販売促進、PR、人的販売、リレーションシップ・マーケティングについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。販売促進の種類、PRの仕組み、人的販売の役割、リレーションシップ・マーケティングに関連するコンセプトについて答えられること。	25%
グローバルマーケティングとインターネット・マーケティングについて、理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。グローバルマーケティングの課題、インターネット・マーケティングの可能性と問題点について答えられること。	25%

評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、価格、流通、販売促進戦略について
2	価格戦略	価格の設定方法について
3	流通チャネル(1)	流通チャネルの構造と関連する組織について
4	流通チャネル(2)	チャネルの設計、小売業と卸売業について
5	事例研究(1)	流通の事例について
6	広告戦略(1)	目標や媒体の選択について
7	広告戦略(2)	広告の表現について
8	販売促進とPR	プロモーションの種類とPR活動について
9	事例研究(2)	広告の事例について
10	人的販売とリレーショマーケティングンシップ	人的販売、リレーションシップ、顧客満足について
11	グローバルマーケティング	グローバル環境とマーケティングミックスについて
12	事例研究(3)	リレーションシップマーケティングについて
13	インターネット・マーケティング(1)	インターネットを用いたマーケティングについて
14	インターネット・マーケティング(2)	インターネットを用いたマーケティングについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『現代マーケティング論』第2版 実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

マーケティングⅡ	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Marketing II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングⅠで学んだ知識をベースに、マーケティング・ミックス（製品戦略、価格戦略、流通戦略、プロモーション戦略）について個別に学びます。また、サービス業固有のマーケティング問題や、国境を超えた顧客に商品を届ける仕組みについても学びます。さらには、マーケティングという学問が問題山積である世の中でどう貢献できるかについてもチャレンジングに挑みます。本講義では、多くの企業事例を例示し、マーケティング理論とマーケティングの実際を行き来できる講義展開が期待できると思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング活動における価値創造活動について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。新製品開発プロセスや普及プロセスといった製品戦略、価格設定にかかわる理論についての設問に答えられること。	25%
マーケティング活動における価値伝達活動について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。メーカーのチャネル戦略や小売業のロジスティクス活動といった流通戦略、広告をはじめ広報、人的販売、セールスプロモーションといったプロモーション戦略についての設問に答えられること。	25%
マーケティング戦略の多方面への応用について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。サービス製品のマーケティングに固有の問題や、国境を超えたマーケティング活動についての設問に答えられること。	25%
マーケティングが抱えている新課題について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。社会のなかでマーケティング活動に要請されている諸課題についての設問に答えられること。	25%
<p>評価の方法 全15回の授業のうち2/3にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	製品戦略①	新製品開発プロセスを学ぶ
2	製品戦略②	新製品の普及と予測を学ぶ
3	価格戦略①	価格付けの理論を学ぶ
4	価格戦略②	価格決定の実務を学ぶ
5	プロモーション戦略①	広告宣伝活動を学ぶ
6	プロモーション戦略②	セールス・プロモーションを学ぶ
7	流通戦略①	メーカーのチャネル戦略の類型を学ぶ
8	流通戦略②	小売経営とロジスティクスを学ぶ
9	ブランドマネジメント	ブランドの機能、役割、管理を学ぶ
10	サービス・マーケティング	サービス固有のマーケティング課題を学ぶ
11	国際マーケティング①	国境を超えた顧客に商品を届ける仕組みを学ぶ
12	国際マーケティング②	国境を超えた顧客に商品を届ける仕組みを学ぶ
13	マーケティングの社会的役割	マーケティングが抱えている新課題を学ぶ
14	総括	秋学期の学習ポイントについての理解を深める
15	達成度の確認と解説	学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇講義ノートと参考資料を教員が作成しそれをもとに学習するスタイルです。以下参考書に依拠してシラバスが展開しますので、購入の必要性はありませんが、さらに学習したい場合や理解が不足している場合には参照すると有効的です。

<参考書> 小川孔輔『マーケティング入門』、日本経済新聞社、2009年

【履修条件等】

◇1年生は特にありませんが、2年生以上はマーケティング関連の科目（流通論、広告論、消費者行動論）のいずれかを並行して履修していると理解が深まります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経MJ、また日経ビジネスなどに日頃から目を通し、企業のマーケティング活動について問題意識を持つ。ガイアの夜明けやカンブリア宮殿などのビジネス番組もたくさん観ることもおすすめします。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

マーケティングⅡ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Marketing II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

「マーケティングⅠ」の延長として、業種別・商品別・手法別マーケティングを掘り下げる応用編の講義を行います。消費財、生産財、サービス財のみならず、スポーツや観光、コンテンツなど、かつてはマーケティングの対象でなかったジャンルや、「顧客参加」「キャラクター」「経験価値」「ソーシャル」「パッケージ」といった最新のトレンドも含め、具体的なケースから学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
最新のマーケティングの事例を理解し、興味・関心を持つようになる	講義に提示した課題への解答、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたケースの背景・狙い・戦略を理解したうえで、記述できるか」を評価ポイントとする。	50%
最新のマーケティングで使われる方法論に触れ、自らケースを分析する	講義に提示した課題への解答、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたマーケティングの方法論に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	50%
<p>評価の方法</p> <p>評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に評価</p> <p style="text-align: center;">中間試験・本試験以外に毎回のミニレポートも評価の対象とする</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	近年のマーケティングトレンド	授業の進め方、近年の動向説明
2	サービス財のマーケティング	サービス財の特性と4つの対応戦略
3	生産財のマーケティング	法人向け商品のマーケティング・営業支援策
4	顧客参加型マーケティング	顧客を企業プロセスに組み入れる戦略
5	スポーツマーケティング	スポーツ産業、スポーツコンテンツ活用戦略
6	キャラクターマーケティング	独自キャラクターを活用した事例の研究
7	音楽活用のマーケティング	販売促進やブランディングへの音楽活用法
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	経験価値マーケティング	身体的・精神的・美的な感動のもたらし方
10	ソーシャルマーケティング	SDGsや社会貢献活動とマーケティング
11	観光マーケティング	観光目的地を商品とみなした戦略策定
12	パッケージデザインとマーケティング	パッケージの8つの機能と販促効果
13	コンテンツ産業のマーケティング	映画、音楽、ゲーム等…のヒットのさせ方
14	コンテンツ活用のマーケティング	コンテンツの商品開発や広告への応用策
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

- ◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。
- ◇参考書：テーマに応じて、参考資料を紹介。

【履修条件等】

- ◇「マーケティングⅠ」の受講。あるいはそれと同等の知識ベースを持っていること。
- ◇新製品や広告、メディア、店舗、デザイン、アイデア開発などに興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。
- ◇PC（最低でもタブレット）で、ある程度オフィス系ソフトの操作ができること。

【その他の注意事項】

- ◇講義中に議論やアイデア抽出を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

経営心理学 I	サトウ エミ 佐藤 恵美
Business Psychology I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

経営心理学は、産業場面における人間の心理や行動を科学的視点から研究する学問である。経営や産業に関連する人間行動は、産業と消費という2つの側面から捉えることが可能である。これは具体的に、“労働”、“職業”、“集団・組織”、“販売・広告”、“購買・消費”の5領域に集約される。「経営心理学 I」では、職業適性と採用、労働を考えるワークモチベーション、集団と組織、組織でのコミュニケーション、仕事の能率と安全の観点から詳しく解説し、経営や産業場面における人間行動を科学的に理解することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
職業適性と採用	「自分はどのような職業に向いているのか」という職業適性の概念を理解し、自分の能力・パーソナリティから職業適性を考え、企業に必要とされる人材像を理解する。	20%
労働の心理学	働くための動機づけに関する歴史的経緯から、科学的管理法、ホーソン研究、職務満足、プロセス理論を理解し、経営者の人間観と働く人のワークモチベーションを理解する。	30%
組織心理学	集団を形成し、組織に参加していく過程から、形成された組織・集団その内部に作り出す人間関係とコミュニケーション、コンフリクト、意思決定システム、職場ストレスを理解する。	30%
仕事の能率と安全	産業場面における時間研究と動作研究から、心理的な時間感覚を理解し、人間の疲労や認知的エラーによって引き起こされるヒューマンエラーをなくし、作業現場での事故防止を考える。	20%
評価の方法 本試験70%、レポート30%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	職業適性と採用 1	人間の能力とは、知能と職業との関係
3	職業適性と採用 2	パーソナリティとは、パーソナリティと面接
4	ワークモチベーション	仕事への外発的動機づけと科学的管理法
5	ワークモチベーション	仕事への内発的動機づけと職務満足
6	ワークモチベーション	仕事への達成動機、組織コミットメント
7	組織・集団 1	職場集団の特性
8	組織・集団 2	職場の人間関係と対人認知
9	組織・集団 3	組織におけるコミュニケーション
10	組織・集団 4	組織におけるコンフリクトと意思決定
11	職場の快適性と疲労 1	職場ストレスとその対処
12	職場の快適性と疲労 2	職場環境とハラスメント
13	仕事の能率と安全 1	時間研究と動作研究
14	仕事の能率と安全 2	ヒューマンエラーと事故防止対策
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：「一経営とワークライフに生かそう一 産業・組織心理学」2012年 山口裕幸・芳賀繁・高橋潔・竹村和久 有斐閣アルマ（経営心理学Ⅱと同様）。

【履修条件等】

◇「経営心理学Ⅱ」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇教科書は必ず持参すること。レポート等、提出物は必ず提出すること。

経営心理学 I	トシマ ユタカ 外島 裕
Business Psychology I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

経営心理学は、産業・組織心理学ともいわれる。心理学の応用領域となる。個人差の心理学と関連する人事心理学、社会心理学と関連する産業社会心理学、認知・生理心理学と関連する作業安全心理学、そして、消費者行動が研究対象である。春学期の「経営心理学 I」では、人事心理学について、その要点を理解する。主に、職業適性、採用選考の要点、職務遂行行動の把握、そして、キャリア発達と組織における能力開発について紹介する。要点を分かりやすく、また、将来の参考となるように、具体的に考えたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
職業適性の概要を理解できる 職業適性検査の標準化の要件が理解できる	職業適性の定義を述べ、その3要件、および、職場適応の3条件について、理解し、説明できる。 職業適性検査の構成を述べ、その代表的な種類を説明できる。 心理検査である職業適性検査について、妥当性と信頼性を理解できる。	25%
職業適性検査の基準関連妥当性の視点から、採用選考との関連が説明できる 面接、職務遂行行動の要点が理解できる	採用選考と仕事の評価について、選別の理論による、積極的誤り、消極的誤りを理解できる。 行動の評価である、面接、および、職務遂行行動の把握の代表的な方法、アセスメントセンター方式、コンピテンシー、多面観察法を説明できる。	25%
キャリア発達とキャリア初期における心理的課題を理解できる	大学から社会への移行における、リアリティーショック、上司との垂直的交換関係、キャリア発達を考える、計画的立場、偶然を意義深いと考える立場を、説明できる。	25%
組織における能力開発のしくみを理解できる	目標管理制度、OJT、Off. JT、CDP等を理解して、相互の関連を説明できる。	25%
評価の方法	原則として、受講参加での理解の程度、参加姿勢（45%）。 学習達成度の確認テスト（55%）	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	職業適性の概要	経営心理学の各領域と、職業適性の概要。
2	職業適性検査の構成	職業適性検査の構成と、その種類。
3	職業適性の測定方法	知的機能と行動特性の測定
4	心理検査の標準化	心理検査の妥当性と信頼性。とくに、基準関連妥当性とは。
5	採用選抜の理論	採用試験と仕事の評価との関連。
6	面接評価の基準	コンピテンシー面接とは。集団討議の評価。
7	職務遂行行動と把握	アセスメントセンター方式。職務遂行行動の多面観察法。
8	大学から社会へ	大学から社会へ移行。社会人としての初期（キャリア初期）
9	能力開発の制度	キャリア発達と能力開発の制度の概要。
10	目標管理制度	目標管理制度の理論と、業績の評価、能力開発との関連。
11	OJT	職場での能力開発。新入社員と上司との関係の重要性。
12	Off. JT	集合研修の概要。キャリア開発研修と、自己理解の視点。
13	CDP	長期間にわたる人材育成のしくみ。
14	人事心理学を考える	個人差の心理学と人事心理学。確認テストについての要点。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：外島裕（監修）『産業・組織心理学エッセンシャルズ[第4版]』ナカニシヤ出版
なお、補足の資料を配布する予定。
- ◇参考図書：二村英幸『改訂増補版 個と組織を生かすキャリア発達の心理学』金子書房
岡村一成（編著）『産業・組織心理学入門第2版』福村出版

【履修条件等】

- ◇とくには、ありませんが、心理学、キャリア関連の科目など、受講してください。
「経営心理学Ⅱ」を受講することを期待します。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業計画を参考として、教科書の該当する事項を事前に学修してください。
また、関連する内容を、自主的に学修する努力をしてください。

【その他の注意事項】

- ◇授業には集中して取り組んでください。授業中の私語、スマートフォンなどは、必ず控えてください。授業の進行、運営に支障があると判断した場合には、注意を促し対処します。出席は記録します。その他、授業の運営については、開始時に説明いたします。
受講学生の授業参加の程度、内容の理解の様子によって、相談・了解などの上、別途の課題を提示し、提出を依頼する場合があります。
なお、授業計画は、受講学生の興味・関心・理解の進展によって、変更することがあります。

経営心理学Ⅱ	サトウ エミ 佐藤 恵美
Business Psychology II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

経営心理学は、産業場面における人間の心理や行動を科学的視点から研究する学問である。経営や産業に関連する人間行動は、産業と消費という2つの側面から捉えることが可能である。これは、具体的には、“労働”、“職業”、“集団・組織”、“販売・広告”、“購買・消費”の5領域に集約される。「経営心理学Ⅱ」では、キャリア発達と職業の関係性、組織におけるリーダーシップとチームワーク、企業と消費者、企業における組織デザインと効率性に関する人間工学の観点から解説し、経営や産業場面における人間行動を科学的に理解することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
キャリア発達と職業	青年期以降の人間の発達とキャリア生活との関連性を理解し、職業的な自我の発達を目指すための職業的発達課題の観点からキャリア・ライフサイクルを理解する。	30%
組織におけるリーダーシップ	組織におけるリーダーシップの歴史と理論を学び、チームワークでの仕事の解決について理解を深め、現代企業における経営者の人間観と管理職側からの人間理解を深める。	30%
企業と消費者	企業側と消費者側の両側面から広告を考え、広告は情報伝達の一部であり、一種のコミュニケーション過程であることを理解する。さらに、消費者の心理や行動を科学的に解明し、購買が起こった背景や原因の心理的側面を理解する。	30%
人間工学	人間工学に基づいたヒトの特性とコンピュータのインターフェースを学び、より良く企業や産業面で働ける組織デザインを理解する。また、リスクコミュニケーションの観点からマニュアルや警告表示の意義を理解する。	20%
評価の方法	本試験70%、レポート30%、平常点（授業態度など）10%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	キャリア発達と職業 1	個人のキャリアと職業的発達理論
3	キャリア発達と職業 2	組織内キャリア発達とキャリア・アンカー
4	キャリア発達と職業 3	企業におけるキャリア研修とコンピテンシー
5	組織とリーダーシップ	組織のライフサイクルと管理職
6	組織とリーダーシップ	リーダーシップの歴史的経緯
7	組織とリーダーシップ	リーダーシップからチームワークへ
8	人事評価 2	人事アセスメントとは
9	人事評価 2	絶対評価と相対評価、観察者効果
10	企業と消費者 1	広告戦略とマーケティング
11	企業と消費者 2	消費者行動における心理過程
12	企業と消費者 3	商品やサービスの購入行動
13	人間工学 1	ヒトとコンピュータのインターフェース
14	人間工学 2	ヒトとコンピュータと組織デザイン
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：「一経営とワークライフに生かそうー 産業・組織心理学」2012年 山口
裕幸・芳賀繁・高橋潔・竹村和久 有斐閣アルマ（経営心理学 I と同様）。

【履修条件等】

◇「経営心理学 I」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇教科書は必ず持参すること。レポート等、提出物は必ず提出すること。

経営心理学Ⅱ	トシマ ユタカ 外島 裕
Business Psychology II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

経営心理学は、産業・組織心理学ともいわれる。心理学の応用領域となる。個人差の心理学と関連する人事心理学、社会心理学と関連する産業社会心理学、認知・生理心理学と関連する作業安全心理学、そして、消費者行動が研究対象である。秋学期の「経営心理学Ⅱ」では、主に、産業社会心理学を紹介する。組織における動機づけ、リーダーシップを中心に予定している。安全行動にもふれる。なお、消費者行動は詳しくは、他の専門授業を受講してほしい。要点を分かりやすく、また、将来の参考となるように、具体的に考えたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
組織における動機づけの概要と、内容理論について理解できる	組織における動機づけの定義、内容理論であるマズローの欲求階層理論、その関連の、XY理論、組織適合の理論等を説明し、さらに、職務満足の2要因等を説明できる。	25%
動機づけの過程理論と、組織での応用が理解できる	動機づけの過程理論である、期待理論、目標設定理論、アトキンソンの達成動機理論、衡平理論を説明し、それらの組織での運営について考えることができる。	25%
リーダーシップの代表的な3つの立場と、新たな潮流を理解できる	リーダーシップの特性理論、行動理論、状況理論を説明できる。さらに、変革型リーダー、サーバントリーダーを考察し、組織運営におけるリーダーの課題について考えることができる。	40%
安全行動、および、消費者行動の初歩的要点を理解できる	安全行動に影響を与える組織風土、組織ストレスの初歩的要点を説明できる。 消費者行動の、広告の評価、多属性態度モデル等、さらに、新製品の開発ポイントの初歩的モデルを説明できる。	10%
評価の方法	原則として、受講参加での理解の程度、参加姿勢（45%）。 学習達成度の確認テスト（55%）。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	組織行動の動機づけ	「経営心理学Ⅱ」の概要。組織における動機づけの要点。
2	動機づけの初期理論	組織における初期の動機づけ。科学的管理法の賃金の課題。
3	人間関係論の誕生	ホーソン研究の概要。働く人の気持ちの発見。
4	動機づけの内容理論	マズローの自己実現。XY理論と管理者の人間観。
5	職務満足の概要	組織と人の適合。職務満足の2要因の発見。働く生活の質。
6	動機づけの過程理論	期待理論。目標設定理論。原因の帰属と自己効力感。
7	成果の配分と動機づけ	成果の配分の公正とは。衡平理論。
8	リーダーシップの概要	リーダーシップの概要。特性理論。
9	リーダー行動の2要因	行動理論。リーダー行動の3類型。課題と人間関係の2要因。
10	リーダー行動と状況	状況理論。職場状況との関係。部下の発達との関連。
11	リーダー論の新展開	変革型リーダー。サーバントリーダー。ダイアローグ。
12	職場の安全行動	組織風土の安全行動。組織ストレスと安全行動。
13	消費者行動の要点	広告の効果。多属性態度モデル。新製品の開発視点。
14	産業社会心理学を考える	組織における人の相互作用。確認テストについての要点。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：外島裕（監修）『産業・組織心理学エッセンシャルズ[第4版]』ナカニシヤ出版
なお、補足の資料を配布する予定。
- ◇参考図書：二村英幸『改訂増補版 個と組織を生かすキャリア発達の心理学』金子書房
岡村一成（編著）『産業・組織心理学入門第2版』福村出版

【履修条件等】

- ◇とくには、ありませんが、心理学、消費者心理学関連の科目など、受講してください。「経営心理学Ⅰ」を受講することを期待します。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業計画を参考として、教科書の該当する事項を事前に学修してください。
また、関連する内容を、自主的に学修する努力をしてください。

【その他の注意事項】

- ◇授業には集中して取り組んでください。授業中の私語、スマートフォンなどは、必ず控えてください。授業の進行、運営に支障があると判断した場合には、注意を促し対処します。出席は記録します。その他、授業の運営については、開始時に説明いたします。
受講学生の授業参加の程度、内容の理解の様子によって、相談・了解などの上、別途の課題を提示し、提出を依頼する場合があります。
なお、授業計画は、受講学生の興味・関心・理解の進展によって、変更することがあります。

会計学 I	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Accounting I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

企業活動に直接関係していない学生にとっては、理論としての会計学が実感としてはなじみの薄い学問となっている。このような会計学が“本来は”受講生に身近な領域であることを本講義を通じて感じてもらうことを最大の目標としたい。春学期は、まず、会計へのイメージづくりを眼目とし、会計の考え方（理論）を中心に、講義を進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション 1	会計の意義
2	帳簿の記録について	認識、測定、記録の一連の会計プロセス
3	簿記と会計	唇齒輔車の関係にある会計と簿記
4	企業活動の把握	企業活動の 2 つの側面
5	会計の歴史と思考	発生主義と現金主義
6	企業会計の基準 1	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その 1
7	企業会計の基準 2	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その 2
8	企業会計の基準 3	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その 3
9	企業会計の基準 4	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その 4
10	貸借対照表の検討 1	財政状態の意義の再考
11	貸借対照表の検討 2	事業用資産と金融資産
12	貸借対照表の検討 3	負債と資本
13	損益計算書の再検討 1	3つの企業活動を中心として その 1
14	損益計算書の再検討 2	3つの企業活動を中心として その 2
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

会計学 I	ドイ ミツル 土井 充
Accounting I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

「会計学 I」および「会計学 II」を通じて、経営学科の諸科目を学修するための基礎となる、財務会計および管理会計などに関する入門的な領域を取り上げる。「会計学 I」では、会計情報の分析手法および財務諸表の作成方法の概要の学修を通じて、財務諸表の種類や現行の会計基準の特徴などを学ぶ。

そのため本講義では、配布プリントを用いながら各テーマを説明し、必要に応じて、適宜ケースを用いながら理解を深めて行く。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基本ルールを正しく理解し、簿記一巡の手続きができること	設問に対する回答によって評価。 取引の仕訳・転記から貸借対照表・損益計算書の作成までのプロセスを理解していること。	20%
財務会計に関する法制度や基準等を理解していること	設問に対する回答によって評価。 会社法や金融商品取引法に基づく会計のはたらきや、制度上開示が求められる書類に関する基本的な用語や様式を理解していること	30%
損益計算・資産評価などわが国の会計基準の特徴を理解していること	設問に対する回答によって評価。 収益費用の認識・測定基準や資産評価基準など日本の現行会計の特徴を理解していること。	30%
財務諸表分析の手法を理解し、目的に応じた分析を行えること	設問に対する回答によって評価。 収益性や安全性など各指標の意味および計算方法、判断基準を理解し、数値の意味を適切に読み取ることができること。	20%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。 レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため複数回課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、成績評価の説明、会計の意味
2	会計の種類	財務会計の位置づけ
3	制度会計	財務会計への法規制、会計基準等、財務会計の機能
4	複式簿記の基本原則(1)	仕訳と転記のルール
5	複式簿記の基本原則(2)	貸借対照表と損益計算書の作成
6	貸借対照表の読み方	貸借対照表の様式、流動比率・自己資本比率など
7	棚卸資産の会計	商品の取得原価、製品の製造原価
8	金融資産の会計	金融資産の種類、取得原価、期末評価
9	有形固定資産の会計	有形固定資産の取得原価、減価償却
10	無形固定資産と繰延資産	無形固定資産の取得原価と償却、繰延資産の種類と資産性
11	損益計算書の読み方	損益計算書ならびに包括利益計算書の様式、資本利益率、売上高利益率、資本回転率など
12	期間損益計算の基本原則(1)	発生主義会計
13	期間損益計算の基本原則(2)	収益認識
14	財務会計の目的とルール	投資意思決定に役立つ会計と利害調整に役立つ会計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

- ◇本講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。
予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

会計学 I	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Accounting I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、会計学の基礎となる考え方やルールおよびその手法を学習します。前期では会計学の学問体系を、ゲームを活用したアクティブラーニングを主軸にして学んでもらいます（コロナ禍が落ちついていた場合。そうでない場合は座学が中心になります）。その中でも、財務会計領域の学習を進めていきます。本講義を通して、財務諸表を読めるようになったり、分析をすることができるようになることの基礎を学んでいただければ幸いです。前期・後期の講義を通して、会計学に対して興味関心を持って頂けるよう講義していこうと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務諸表を見てその会社の特徴を大まかに理解できるようになる	設問に対する回答により評価します。 財務諸表の構造を理解することと、財務諸表の中でお金がどの様に動くかを理解すること。	30%
財務諸表を作成するために必要なルールを理解する	設問に対する回答により評価します。 財務諸表は外部の利害関係者に一般に公開するものなので、共通のルールの下に作成されます。そのルールの理解が必要です。	30%
日本特有の利益計算や資産評価などに関するルールを理解する	設問に対する回答により評価します。 各国で財務諸表を作成するためのルールに異なりがあります。本講義では日本のルールを理解することで後の講義で各国との違いが分かるようになります。	30%
財務諸表上の数値を使い分析ができる基礎を作る	設問に対する回答により評価します。 財務諸表の分析をするとその企業の特徴などが見えるようになります。基本的に割り算をするとある特徴が見えるので、どの数値を使うとどういう特徴が見えるかを理解することが必要になります。	10%
<p>評価の方法 ・ 3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点30%、期末試験60%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題および小テストは、中間試験の形式で実施を予定しております。 ・ 貢献点は、経営シミュレーションゲームを行った講義後および、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。 		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	会計学全体の概説、本講義の進め方、評価方法などに関する説明
2	経営シミュレーション1	ゲーム上で生じる金額を自分のルールで記録する
3	経営シミュレーション2	ゲーム上で生じる金額を複式簿記のルールで記録する
4	財務諸表の読み方基礎編	財務諸表を四分割することで大まかな企業の特徴を捉えることができるようになる
5	財務諸表を作成するためのルール1	財務諸表を作成するための様々な原則を学習していく
6	財務諸表を作成するためのルール2	貸借対照表を作成するうえでおおまかなルールを学習する
7	財務諸表を作成するためのルール3	損益計算書を作成するうえでおおまかなルールを学習する
8	貸借対照表に関する特別なルール1	棚卸資産・金融資産・有形固定資産・無形固定資産と繰延資産に関して1
9	貸借対照表に関する特別なルール2	棚卸資産・金融資産・有形固定資産・無形固定資産と繰延資産に関して2
10	損益計算書に関する特別なルール1	収益・費用認識について1
11	損益計算書に関する特別なルール2	収益・費用認識について2
12	財務諸表を分析する1	財務諸表の分析に関する講義
13	財務諸表を分析する2	財務諸表の分析を、演習を通して行う
14	前期のまとめ	今までの授業についての総括
15	総括・達成度の確認	

【使用教材】

- ◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。
- ◇本講義では電卓を使用する場合があるので、適宜ご持参ください。
- ◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

- ◇とくにありません。講義の復習を必ず行ってください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくにありません。講義の復習を必ず行ってください。

【その他の注意事項】

- ◇講義中に詳しく説明します。

会計学 I	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Accounting I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

日頃意識することは少ないが、私たちはさまざまな企業と関わりながら生活をしている。企業は種々の商品や製品およびサービスを私たちに提供してくれる。そして企業は、自身が営む経済活動を「会計」の手続きを通して記録・測定・報告する必要がある。

では、「会計」とはいったいどんなものだろうか。

本講義は、会計学の全般的な知識を習得するため、財務会計、管理会計、財務分析、財務諸表監査等の各分野に関する基礎概念について取り扱う。具体的には、まず会計学の基礎となる複式簿記の基本ルールを学習し、会計の意義や種類、機能、役割をはじめ、会計手続きのルール、財務情報の読み方などについて学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
簿記・会計に関する専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計の意義、会計の種類、会計に関する基礎的な用語や概念を理解し、会計の役割や機能を説明できること。	40%
複式簿記の基本ルールを正しく理解し、簿記一巡の手続きと財務諸表の関係を理解する	設問に対する回答によって評価。仕訳のルール、損益計算書や貸借対照表の意義および中身を理解し、説明ができること。	20%
会計上のルールである会計基準や、会計手続を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義などの基礎概念、および棚卸資産の期末評価や、固定資産の減価償却、原価計算の方法など、それぞれの具体的な手続きについて、その意義および必要性を理解し説明できること。	40%
評価の方法	授業内に行う確認テスト（小テスト）30%、本試験70%。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法など
2	会計の意義と役割(1)	会計とは何か、会計の種類、財務会計のシステム
3	会計の意義と役割(2)	企業会計と法規制、貸借対照表と損益計算書
4	複式簿記の基礎原理(1)	簿記一巡の手続き、簿記上の取引、仕訳のルール、損益計算の仕組み
5	複式簿記の基礎原理(2)	試算表と精算表、決算手続、見越しと繰延べ
6	財務会計の損益計算書(1)	損益計算書の意義、発生主義会計とは、収入と収益
7	財務会計の損益計算書(2)	支出と費用、売上原価、原価配分、法人税等調整額
8	小テスト	第1回から第7回の小括
9	財務会計の貸借対照表(1)	貸借対照表の意義と構成要素、資産・負債の区分と基準、有価証券の分類と期末評価、棚卸資産の評価
10	財務会計の貸借対照表(2)	経過勘定、有形固定資産の意義、減価償却、減損、無形固定資産の意義、知的財産、のれん、ソフトウェア、繰延資産
11	財務会計の貸借対照表(3)	負債の概念と意義、引当金、純資産の概念、利益剰余金の処理、自己株式の扱い、株主資本等変動計算書
12	財務会計のキャッシュフロー計算書	キャッシュフローとは、キャッシュフロー計算書の意義、キャッシュフロー計算書の表示区分
13	管理会計(1)	管理会計の意義と目的、コストの固変分解、KPIとKGI、費用の配賦、原価管理
14	管理会計(2)	月次決算の意義、損益分岐点分析、安全余裕率、DCF
15	総括・達成度の確認	春学期の授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

- ◇教科書：未定
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇本講義は「会計学Ⅰ」と「会計学Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業計画を参考に、前もってテキストの該当箇所に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

会計学Ⅱ	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Accounting II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

会計学が企業の活動を会計というフィルターを通して、認識、測定、記録および伝達する過程を対象とするものである以上、会計学の研究は、会計数値を基軸として企業活動を検証することにある。

秋学期は、春学期に培った会計の思考が、企業会計の数値の把握と計算にどのようにつながっているのかを検討する。講義では、受講生自らが、実際に問題を解き、計算することで、会計に対する知識を確実なものとすることを目標に置く。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	計算問題 1	簿記の基本 1 (会計用語の確認 1)
2	計算問題 2	簿記の基本 2 (会計用語の確認 2)
3	計算問題 3	簿記の基本 3 (会計用語の確認 3)
4	計算問題 4	簿記の基本 4 (2つの計算の側面について 1)
5	計算問題 5	簿記の基本 5 (2つの計算の側面について 2)
6	小括 (理解度チェックテスト 1)	簿記一巡のまとめ
7	計算問題 6	簿記の応用 1 (総合問題 1)
8	計算問題 7	簿記の応用 2 (総合問題 2)
9	計算問題 8	簿記の応用 3 (総合問題 3)
10	計算問題 9	簿記の応用 4 (総合問題 4)
11	計算問題 10	費用配分 1 (棚卸資産)
12	計算問題 11	費用配分 2 (減価償却)
13	計算問題 12	引当金
14	計算問題 13	発生主義と現金主義の典型問題 (経過項目)
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇春学期「会計学 I」を履修済みか、会計学に対しての基本的な理解があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

会計学Ⅱ	ドイ ミツル 土井 充
Accounting II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

「会計学Ⅰ」および「会計学Ⅱ」を通じて、経営学科の諸科目を学修するための基礎となる、財務会計および管理会計などに関する入門的な領域を取り上げる。「会計学Ⅱ」では、「会計学Ⅰ」に引き続き財務会計の個別テーマならびに管理会計や税務会計などの会計学の諸領域を学ぶ。

そのため本講義では、配布プリントを用いながら各テーマを説明し、必要に応じて、適宜ケースを用いながら理解を深めて行く。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計の諸テーマに関する基本概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。 キャッシュ・フロー計算書や連結財務諸表の作成・分析方法、ならびにその他諸領域（国際会計や中小企業会計、環境会計、監査、公会計など）の基礎概念を理解していること。	30%
管理会計の基本概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上高、変動費、固定費、限界利益の相互関係に基づく損益分岐点分析、および計画、実行、比較検討、改善策というマネジメントサイクルを支える予算管理等を理解していること。	30%
税務会計の基本原則を理解していること	設問に対する回答によって評価。 税務会計の基本用語、ならびに課税所得の計算方法を理解していること。	20%
現行会計の概要を体系的に理解していること	設問に対する回答によって評価。 財務会計・管理会計・税務会計など会計の種類と当該分野における基本原理を理解するとともに、個々の会計の関係性を理解していること。	20%
<p>評価の方法 3分の2以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。 レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため複数回課す。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要、成績評価の説明、「会計Ⅰ」の復習
2	キャッシュ・フロー計算書(1)	キャッシュ・フロー計算書の作成方法
3	キャッシュ・フロー計算書(2)	キャッシュ・フロー計算書の読み方
4	連結財務諸表(1)	連結財務諸表の作成方法
5	連結財務諸表(2)	セグメント情報、連結株主資本等変動計算書
6	国際会計基準(IFRS)(1)	国際的な会計基準の必要性
7	国際会計基準(IFRS)(2)	IFRSの概要とわが国への影響
8	中小企業の会計	中小指針と中小要領
9	監査	監査の必要性和方法
10	税務会計(1)	税務会計と財務会計
11	税務会計(2)	課税所得計算の仕組み
12	管理会計(1)	管理会計と財務会計
13	管理会計(2)	損益分岐点分析、短期意思決定、原価計算、原価差異
14	その他の諸領域	公会計、環境会計など
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

- ◇本講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。
予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

会計学Ⅱ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Accounting II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、会計学の基礎となる考え方やルールおよびその手法を学習します。後期は、管理会計領域の学習を中心に進めていきます。管理会計領域の基礎となる製造業における原価計算の手続きを、Excel を通して学び、会計情報を用いた経営管理の基礎を学んでいきます。そのため、コロナ禍が落ちついていた場合はITルームで基礎から一緒に丁寧に教えていきます。また、将来的にも役立つ税務会計の基礎にも少し触れます。税務会計は、確定申告や青色申告などでも知っているのと得をすることが多いです。前期・後期の講義を通して、会計学に対して興味関心を持って頂けるよう講義していこうと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
製造業における財務諸表の作り方を理解する	設問に対する回答により評価します。 商業における財務諸表の作り方との違いを構造を理解すること。	30%
原価の構造に関する理解をする	設問に対する回答により評価します。 原価の構造に関する理解と、原価から企業内部で行われている活動を推測できるようになること。	30%
企業内部から生じる情報を使ったマネジメントに関する理解	設問に対する回答により評価します。 例えば予算と実際の原価を比べると経営活動のパフォーマンスが分かるなどを理解する。	20%
税務会計に関する理解	設問に対する回答により評価します。 財務会計と税務会計の費用・収益に対する範囲の違いを理解する。	20%

評価の方法 ・3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点30%、期末試験60%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。

- ・課題および小テストは、テーマ毎に行うので2～3回の実施を予定しております。
- ・貢献点は、Excel を用いた演習課題を行った講義後および、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	後期の概説、本講義の進め方、評価方法などに関する説明
2	会計とITに関して 1	会計とITの利活用に関する概括と関連技法の学習 1
3	会計とITに関して 2	会計とITの利活用に関する概括と関連技法の学習 2
4	標準原価計算 1	原価の分類、原価計算の目的など
5	標準原価計算 2	標準原価と実際原価を比べ、どう活用するか
6	標準原価計算 3	数値情報を可視化する手法を学ぶ
7	標準原価計算 4	原価計算と財務会計の結びつきについて
8	ITを用いたシミュレーション体験	3つのシステムを使って、数値を用いたシミュレーションを自分の手で体験します
9	統計基礎	原価計算の手続きの中で用いられる統計学を通して統計の基礎を確認
10	直接原価計算	直接原価計算の意義など
11	利益計画 1	CVP分析の基礎とソルバーシミュレーション
12	利益計画 2	プロダクトミックス
13	税務会計	税務会計における報告書を作る
14	前期講義内容まとめ	期末テスト前に前期で学習した内容を総括して復習を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。
- ◇本講義ではITルームで講義を行います。USBを持ってきていただくと幸いです。
- ◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

- ◇とくにありません。講義の復習を必ず行ってください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくにありません。講義の復習を必ず行ってください。

【その他の注意事項】

- ◇講義中に詳しく説明します。

会計学Ⅱ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Accounting II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

日頃意識することは少ないが、私たちはさまざまな企業と関わりながら生活をしている。企業は種々の商品や製品およびサービスを私たちに提供してくれる。そして企業は、自身が営む経済活動を「会計」の手続きを通して記録・測定・報告する必要がある。

では、「会計」とはいったいどんなものだろうか。

本講義は、「会計学Ⅰ」に引き続き、会計学の全般的な知識を習得するため、財務会計、管理会計、財務分析、財務諸表論の各分野に関する基礎概念について取り扱う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
簿記・会計に関する専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計の意義、会計の種類、会計に関する基礎的な用語や概念を理解し、会計の役割や機能を説明できること。	20%
会計上のルールである会計基準や、会計手続を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義などの基礎概念、および棚卸資産の期末評価や、固定資産の減価償却、原価計算の方法など、それぞれの具体的な手続きについて、その意義および必要性を理解し説明できること。	40%
財務情報の読み方を理解し、利用できるようにする。また管理会計や監査の意義を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。財務情報を用いた分析ができるようにする。また、会計の諸分野（財務会計・管理会計・監査）について基本的な考え方を理解し、説明できること。	40%
評価の方法	授業内に行う確認テスト（小テスト）30%、本試験70%。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法、「会計学概論Ⅰ」の復習
2	予算管理(1)	予算とは、PDCAサイクル、予算の作成
3	予算管理(2)	予算の活用、差異分析、予算策定例、予算制度の問題点
4	原価計算(1)	原価とは、原価計算の目的、原価の諸念、総合原価計算と個別原価計算
5	原価計算(2)	単純総合原価計算と組別総合原価計算、仕掛品の扱い、標準原価計算と原価差異分析、ABC
6	連結決算(1)	連結決算の意義、連結の範囲、支配力基準と影響力基準、連結貸借対照表の作成
7	連結決算(2)	連結損益計算書の作成、未実現利益、持分法
8	小テスト	第1回から第7回の小括
9	経営分析(1)	財務諸表分析の体系、財務諸表分析の目的、収益性分析の意義と指標
10	経営分析(2)	資本利益率指標の分解、安全性分析の意義と指標
11	経営分析(3)	キャッシュフローを用いた分析指標、生産性分析と社会性分析
12	税務会計(1)	法人税の意義、課税所得の計算、受取配当金と交際費の扱い
13	税務会計(2)	消費税の意義と処理、連結納税制度
14	会計の歴史と展望	会計の起源と複式簿記の誕生、株式会社の起源、会計理論の生成と展開
15	総括・達成度の確認	秋学期の授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

- ◇教科書：岩谷誠治著『会計の基本教科書』日本能率協会マネジメントセンター
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇本講義は「会計学Ⅰ」と「会計学Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業計画を参考に、前もってテキストの該当箇所に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

入門簿記 I	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得することを目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習によって進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解すること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、手形取引を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の処理、当座預金と当座借越の処理、約束手形の処理を正しく理解し、仕訳・転記が行えること。	10%
<p>評価の方法 授業中のテスト20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断する。出席点は設定しないが、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法、準備物についての説明
2	簿記の基礎概念(1)	簿記の目的、会計期間、資産・負債・資本と貸借対照表
3	簿記の基礎概念(2)	損益の計算、収益・費用と損益計算書
4	簿記の基礎概念確認	財産法と損益法、計算問題演習
5	仕訳と転記(1)	取引の8要素、仕訳、勘定口座記入
6	仕訳と転記(2)	商品取引の記録、出資
7	仕訳と転記確認	演習
8	決算(1)	試算表の種類と作成方法
9	決算(2)	試算表演習、6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	簿記一巡の流れ	取引～財務諸表作成までの手続き確認
12	現金	現金の範囲、現金過不足
13	預金	小切手と当座預金、当座借越、その他の預金
14	手形	約束手形、金融手形
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎時プリントを配布する。A4サイズのポケットファイルを用意すること。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇基本的に全講義出席すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇復習を確実に行うこと。

【その他の注意事項】

◇計算専用の電卓を用意すること。

入門簿記 I	ツルオカ キヨジ 鶴岡 清司
Elementary Bookkeeping I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は企業活動を、記録、計算、整理するための技術であり、財務諸表を作成するための手段であるといわれています。本講義では、簿記の基礎を学びます。

入門簿記 I では日常の取引を「仕訳」できること（簿記語に変換できること）が中心課題となります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商業簿記に関する基礎的な知識を理解すること。	設問に対する回答によって評価します。 商業簿記の基礎的な取引について正しい仕訳ができること。	80%
簿記を通じて、企業活動に関わる取引の具体例を挙げることができること。	設問に対する解答によって評価します。 商業簿記の基礎的な取引を、企業活動として、具体例をもって相手に説明できること。	10%
企業活動を理解することができること。	設問に対する解答によって評価します。 簿記がなぜ、特定の取引について、特殊な処理を行うのかについて説明できること。	10%
評価の方法 講義の中で行われる小課題を40%、期末試験の成績60%を目安として、総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についてします。
2	ザックリ講義	簿記の一連の流れを説明します。
3	第1章 簿記の基礎	簿記の基本ルールを説明します。
4	第2章	商品売買取引（1）について説明します。
5		商品売買取引（2）について説明します。
6	第3章	現金取引について説明します。
7	第4章	当座預金取引について説明します。
8	第5章	帳簿の締切り、財務諸表の作成
9	第6章	手形取引について説明します。
10	第7章	貸付金、借入金取引について説明します。
11	第8章	その他の債権債務（1）取引について説明します。
12		その他の債権債務（2）取引について説明します。
13	第9章	その他の費用の取り扱いについて説明します。
14	総括	今までの授業についての総括をします。
15	総括・達成度の確認	学習達成度の確認テストを実施します。

【使用教材】

◇教科書：滝澤ななみ『スッキリわかる日商簿記3級』第13版 TAC出版

【履修条件等】

◇「やってみようか」という前向きな姿勢があれば、他にはとくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書には練習問題が付いています。また、講義の際には演習プリントを配布することがありますので、受講者は各自、講義で取り扱った内容について、その都度必ず復習しておいてください。上記の授業計画で進めていきたいと思います。受講生に余裕があれば、設例に1回目を通してから授業に参加できると、さらに理解が深まると思います。

【その他の注意事項】

◇毎回、電卓を用意してください。（スマホの電卓機能は便利ですが、学年末試験や検定試験では使用が認められていないので、別途用意してください。）

入門簿記 I	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Elementary Bookkeeping I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、今日では必須のビジネススキルの一つとなっている。本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、財務諸表作成までの簿記一巡の手続きの理解から出発し、その後は基本的な商取引に関する会計処理を一通り習熟する事を最たる目的としている。さらに、仕訳を行う過程には、社会人基礎力に求められる批判的思考を育成する手続きが含まれている。仕訳の手続きを、グループワークなどを通して、グループメンバーと協力しながら解を導出する訓練を行う。単に、簿記に関する知識や技能を習得するだけでなく、今後の大学における学習を行う上での必要な学習方法や問題解決能力を育てて頂ければ幸いである。

また、初めて学習する内容になるかと思いますので、必ず講義中に行う演習を行える方は是非受講ください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、帳簿を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、商品有高帳などの帳簿に関する手続きを理解していること。	10%
評価の方法 中間テスト30%、本試験70%にて絶対評価を行う。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	中間テスト	今までの講義内容の確認
8	商品売買取引(1)	仕入・売上、返品取引、掛取引
9	商品売買取引(2)	前払・前受取引、諸係に関する取引
10	商品売買取引(3)	売上原価と商品有高帳
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	試算表	試算表の意義、試算表の種類、作成手続き
14	前期の総括	
15	期末試験	

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた課題演習はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Elementary Bookkeeping I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得することを目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
<p>評価の方法 小テスト30%、本試験70%、および授業への貢献度を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法等についての説明
2	簿記の基礎概念(1)	簿記の意義と目的、簿記の前提、貸借対照表の意味と構造、損益計算書の意味と構造
3	簿記の基礎概念(2)	貸借対照表の作成、資本等式と貸借対照表等式、損益計算書の作成、財産法と損益法
4	取引と仕訳	簿記一巡の手続き、会計の取引、勘定科目と勘定口座、取引の8要素
5	仕訳と転記(1)	要素分解と仕訳、勘定口座と転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	小テスト	第1回から第6回までの小括
8	決算(1)	簿記一巡の手続き、試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	精算表の種類、6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、決算振替仕訳、繰越試算表
11	現金および現金過不足	現金の範囲、現金過不足勘定と過不足の処理
12	銀行預金等	預金の種類、当座借越とその処理、小口現金
13	商品売買取引(1)	分記法と三分法、掛取引と人名勘定、クレジット売掛金
14	商品売買取引(2)	得意先元帳・仕入先元帳および売掛金元帳・買掛金元帳
15	総括・達成度の確認	春学期の授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：伊藤龍峰、工藤栄一郎ほか著『基本簿記原理』中央経済社
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義では入門簿記Ⅰで学習した内容を基礎とし、さらに進んだ取引の会計処理を扱う。講義は毎時間、テーマを決めて解説を行い、それに沿った問題演習を実施する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
諸取引の処理が適切に行えること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、固定資産、その他の債権債務などに関する取引について、適切な勘定科目ならびに金額によって処理ができる。	50%
株式会社の会計処理を理解していること	設問に対する回答によって評価。 株式の発行や、株式会社に関する税金の処理などについて、適切な勘定科目ならびに金額によって処理ができる。	20%
8桁精算表が作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	30%
<p>評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、授業中のテスト20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断する。出席点は設定しない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	前学期（入門簿記Ⅰ）の復習
2	商品売買	返品処理、諸掛、前払金・前受金
3	売上原価の計算（1）	売上原価・売上総利益の計算
4	売上原価の計算（2）	仕入勘定での売上原価の計算
5	商品売買確認	演習
6	クレジット売掛金、受取商品券、電子債権	クレジット売掛金、受取商品券、電子債権
7	貸倒れ・貸倒引当金	貸倒れの処理、償却債権の取り立て
8	その他の債権・債務	未収入金・未払金、立替金・預り金、仮払金・仮受金、差入保証金
9	固定資産（1）	固定資産の勘定科目、取得、改良と修繕、減価償却
10	固定資産（2）	固定資産の売却、演習
11	収益と費用	前受収益・前払費用、未収収益・未払費用
12	税金の処理	租税公課、法人税等、消費税
13	株式会社の資本	株式の発行、剰余金の配当
14	8桁精算表の作成	決算整理事項、8桁精算表の作成方法
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ 毎時間プリントを配布する。A4サイズのポケットファイルを用意すること。

【履修条件等】

◇ 「入門簿記Ⅰ」の内容を理解していること。復習を徹底的に行うことが求められる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 「入門簿記Ⅰ」の講義内容（勘定科目の区分、取引の8要素等）を確認しておくこと。

【その他の注意事項】

◇ 計算専用の電卓を用意すること。

入門簿記Ⅱ	ツルオカ キヨジ 鶴岡 清司
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業活動を、記録、計算、整理するための技術であり、財務諸表を作成するための手段であるといわれています。

入門簿記Ⅱでは入門簿記Ⅰに引き続き、簿記の基礎を学びます。

具体的には、諸帳簿の内容理解、試算表の作成、決算整理事項から財務諸表を作成できることが中心課題となります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商業簿記に関する基礎的な知識を理解すること。	設問に対する回答によって評価します。 上記に掲げた基礎的な中心課題ができること。	80%
簿記を通じて、企業活動に関わる取引の具体例を挙げることができること。	設問に対する解答によって評価します。 決算整理事項など、具体例をもって相手に説明できること。	10%
企業活動を理解することができること。	設問に対する回答によって評価します。 企業の一連の活動と簿記会計処理が体系的に説明できること。	10%
<p>評価の方法 講義の中で行われる小課題を40%、期末試験の成績60%を目安として、総合的に判断します。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価の方法について説明します。
2	第10章	貸倒れと貸倒引当金について説明します。
3	第11章	有形固定資産と減価償却について説明します。
4	第12・13章	株式会社会計のさわりと消費税について説明します。
5	第14章	費用・収益の前払いと前受けについて説明します。
6		費用・収益の未払いと未収について説明します。
7	第15章	帳簿記入について説明します。
8	第16章	試算表について説明します。
9	第17章	伝票会計について説明します。
10	第18章	精算表と財務諸表（1）について説明します。
11		精算表と財務諸表（2）について説明します。
12		精算表と財務諸表（3）について説明します。
13	第19章	帳簿の締め切りについて説明します。
14	総括	今までの授業についての総括をします。
15	達成度の確認	学習達成度の確認テストを実施します。

【使用教材】

◇教科書：滝澤ななみ『スッキリわかる日商簿記3級』第13版 TAC出版

【履修条件等】

- ◇入門簿記Ⅰを履修し単位を修得済みであるか、それと同等以上の簿記の知識を有することを履修の条件とします。
- ◇入門簿記Ⅰを未履修の場合は、各自で入門簿記Ⅰで取り上げた取引の仕訳ができるようにしておく必要があります。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教科書には練習問題が付いています。また、講義の際には演習プリントを配布することがありますので、受講者は各自、講義で取り扱った内容について、その都度必ず復習しておいてください。
- ◇上記の授業計画で進めていきたいと思います。受講生に余裕があれば、設例に1回目を通してから授業に参加できると、さらに理解が深まると思います。

【その他の注意事項】

- ◇毎回、電卓を用意してください。（スマホの電卓機能は便利ですが、学年末試験や検定試験では使用が認められていないので、別途用意してください。）

入門簿記Ⅱ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、今日では必須のビジネススキルの一つとなっている。本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、財務諸表作成までの簿記一巡の手続きの理解から出発し、その後は基本的な商取引に関する会計処理を一通り習熟する事を最たる目的としている。さらに、仕訳を行う過程には、社会人基礎力に求められる批判的思考を育成する手続きが含まれている。仕訳の手続きを、グループワークなどを通して、グループメンバーと協力しながら解を導出する訓練を行う。単に、簿記に関する知識や技能を習得するだけでなく、今後の大学における学習を行う上での必要な学習方法や問題解決能力を育てて頂ければ幸いである。

初めて学習する内容になるかと思いますので、必ず講義中に行う演習を行える方は是非受講ください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
検定範囲改定に伴う追加された取引に関する理解	設問に対する回答によって評価。 電子記録債権債務などに関する取引を適切に仕訳出来ること。	25%
<p>評価の方法 中間テスト30%、本試験70%にて絶対評価を行う。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買取引の復習	前期学習した商品売買取引の復習
3	債権債務(1)	手形取引・掛取引
4	債権債務(2)	金銭貸借取引・利息の計算
5	債権債務(3)	未収金・未払金・仮払金・仮受金・立替金・預り金
6	固定資産	固定資産の購入から除却・売却まで
7	追加論点	差入保証金、電子記録債権債務、クレジット売掛金
8	中間テスト前の振り返り	中間テストまでの各論を復習
9	中間テスト	
10	資本・税金	資本金、引当金、税金取引
11	決算(1)	決算手続きの一連の流れ、決算整理仕訳1
12	決算(2)	決算整理仕訳2
13	決算(3)	精算表の作成、振替処理
14	前期・後期総まとめ	前後期の振り返り
15	期末試験	

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示します。
- ◇参考書：開講時に指示します。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇電卓が必要です(12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可)。

入門簿記Ⅱ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は原則として、「入門簿記Ⅰ」を履修済みの者、あるいは高等学校在学時に既に簿記の学習を経験済みの者を対象としており、ほぼ日商簿記検定3級の範囲の商業簿記を取り扱う。具体的には商品売買、売掛金と買掛金、手形、有価証券、その他の債権・債務、固定資産、資本（純資産）などの個別論点と、収益・費用の見越・繰延を含む期末の決算整理手続、および8桁精算表の作成と財務諸表の作成である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。	20%
日々の取引を仕訳できるようにする	設問に対する回答によって評価。個別論点について取引の内容を仕訳で示すことができること。	50%
決算整理事項を理解し、財務諸表を作成できるようにする	設問に対する回答によって評価。決算整理事項の内容を理解し、費用および収益の見越しや繰延べを含んだ決算整理手続ができ、8桁精算表および財務諸表を作成できること。	30%
<p>評価の方法 授業中に行う小テスト30%、本試験70%、および授業への貢献度を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法などの説明、「入門簿記Ⅰ」の復習
2	その他債権・債務	債権・債務とは、借入金と貸付金、未収入金と未払金、仮払金と仮受金、前払金と前受金、立替金と預り金、差入保証金
3	手形	手形とは、約束手形の処理、手形記入帳、手形による借入れと貸付け、電子記録債権・電子記録債務
4	貸倒引当金	貸倒れとは、貸倒れの見積り、差額補充法
5	有形固定資産	有形固定資産の意義、取得と売却、減価償却、固定資産台帳
6	伝票会計	三伝票制、仕訳日計表の作成、伝票からの転記
7	資本会計	株式の発行、利益剰余金勘定と当期純利益の振替え、配当
8	小テスト	第1回から第7回の小括
9	税金	租税公課、法人税、住民税及び事業税、中間申告、消費税
10	収益と費用（1）	諸会費勘定、収益・費用の見越し（未収収益、未払費用）
11	収益と費用（2）	収益・費用の繰延べ（前受収益、前払費用）、消耗品と貯蔵品
12	決算（1）	決算手続、試算表の作成、棚卸表、8桁精算表
13	決算（2）	決算整理と8桁精算表の作成（演習）
14	決算（3）	財務諸表の作成と総復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：伊藤龍峰、工藤栄一郎ほか著『基本簿記原理』中央経済社
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇「入門簿記Ⅰ」をすでに履修済みか同程度の知識を有することを履修の条件とする。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予習は特に要求しないが、復習をしっかりとし、自習課題をこなすこと。自らが実際に手を動かさないことには始まらないので、とにかく習ったことはすぐに復習し、確実に身につけるよう努力してほしい。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

企業論（春学期）	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Modern Corporation	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、基礎的知識等の修得を目的とする。現代企業の諸形態やその役割を、またとくに株式会社におけるその基本的な仕組みや特徴等を理解することに重点をおく。必要に応じて、VTR等を利用することもある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業の意義および企業形態に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で企業の果たす役割やさまざまな企業形態の基本的な仕組みを理解しているか。	10%
株式会社の意義とその基本的な仕組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で株式会社の果たす役割や株式会社の基本的な仕組みを理解しているか（例えば会社機関など）。	30%
大企業の意義と日本企業の支配構造に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で大企業が果たす役割や、日本企業の支配構造に関して理解できているか。	30%
大企業のコーポレート・ガバナンスに関する基本枠組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。大企業のコーポレート・ガバナンスに関する仕組み等を理解しているか。	30%
評価の方法 本試験70%、出席状況（受講態度含む）30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「企業論」の意義と内容等に関する紹介
2	企業の役割	現代社会における企業の意義に関する理解
3	企業の諸形態①	企業形態に関する理解
4	企業の諸形態②	3回目のつづき
5	株式会社の誕生	株式会社の意義に関する理解
6	株式会社の仕組み①	株式会社に関する基本的な仕組みの理解
7	株式会社の仕組み②	株式に関する理解
8	株式会社の仕組み③	会社機関に関する理解
9	株式会社の仕組み④	8回目のつづき
10	大企業とは何か①	現代社会における大企業の意義に関する理解
11	大企業とは何か②	大企業の支配構造に関する理解
12	大企業とは何か③	日本企業の支配構造に関する理解
13	大企業とは何か④	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解
14	まとめ	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

- ◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男（編著）『企業論』有斐閣アルマ，2018年.
- ◇参考書：風間信隆（編著）『よくわかるコーポレート・ガバナンス』ミネルヴァ書房，2019年.

【履修条件等】

- ◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

企業論（秋学期）	エンジヨウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Modern Corporation	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、主として日本の大企業に焦点を当て、それに関わる諸問題を取り上げていく。大企業に関わる諸問題の考察を通して、現代企業の実像に迫りたい。

必要に応じてVTR等を利用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ドイツのコーポレート・ガバナンスについて理解すること	設問に関する回答によって評価する。ドイツ・モデルの意義と限界を理解できているか。	10%
日本型の企業間関係について基本的な理解ができていくこと	設問に関する回答によって評価する。日本型の企業間関係と近年のその動向に関して理解できているか。	30%
日本型の雇用システムについて基本的な理解ができていくこと	設問に関する回答によって評価する。日本型の雇用システムと近年のその動向に関して理解できているか。	30%
企業と社会との関係および企業の社会的責任について基本的な理解ができていくこと	設問に関する回答によって評価する。企業と社会との関係および企業の社会的責任の内容および意義について理解できているか。	30%
評価の方法 本試験70%、出席状況（受講態度含む）30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「企業論（秋学期）」の講義内容等の紹介
2	ドイツのコーポレート・ガバナンス①	ドイツ・モデルに関する考察
3	ドイツのコーポレート・ガバナンス②	ドイツ・モデルの意義と限界に関する考察
4	日本型企业システムとは何か	日本型企业システムに関する理解
5	日本型企业間関係①	企業集団に関する考察
6	日本型企业間関係②	企業系列に関する考察
7	日本的雇用慣行①	終身雇用制や年功制等に関する考察
8	日本的雇用慣行②	7回のつづき
9	日本の文化と行動様式①	「日本型」を醸成する基盤に関する考察
10	日本の文化と行動様式②	9回のつづき
11	企業と社会	「企業と社会」を考察する意義についての理解
12	企業の社会的責任①	企業の社会的責任の基礎概念の理解
13	企業の社会的責任②	企業の社会的責任の動向に関する考察
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。
15	本試験	「企業論」の内容の理解度を確認するために、ペーパー試験を実施

【使用教材】

- ◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男（編著）『企業論』有斐閣アルマ，2018年
- ◇参考書：風間信隆（編著）『よくわかるコーポレート・ガバナンス』ミネルヴァ書房，2019年。

【履修条件等】

- ◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

企業論（春学期）	シミズ タイヨウ 清水 太陽
Modern Corporation	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、複雑かつ多面的な現代企業の全体像と課題を理解し、それに関する関心と問題意識を醸成できるようになることを目標とする。具体的には、現代企業の諸形態や役割について、とくに株式会社に注目し、主に大企業の構造について学ぶ。また、いわゆる「日本的経営」や現代企業の役割に関しても、考えてみたい。必要に応じて、映像資料・動画等も活用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
用語の理解	期末試験で評価する。企業社会や株式会社の実態について、専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容理解	期末試験、レポートで評価する。企業社会や株式会社制度の内容とその基本的な仕組みを理解し、説明できるか。	20%
理論と制度の理解	期末試験、レポートで評価する。企業とそれを取り巻く株式会社制度と企業制度の結びつきを理解し、説明できるか。	20%
知識の応用	期末試験、レポートで評価する。本講義で学んだ知見を活かし、現代企業に関して、自分の意見を論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 期末試験70% レポート20% 受講態度10%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	企業論を学ぶ意義と内容に関する説明
2	現代企業を見る視点	6つの企業観
3	「財・サービスの提供	経済発展と生活の変化、大企業の実態、企業の長期戦略
4	機関」としての企業	企業の広告活動、企業の国際化、むすび
5	「株式会社」としての企業	株式会社の機能と構造、株式会社の現実
6	「大企業」としての企	大企業とは何か、大企業の支配構造
7	業	日本の大企業の経営者、大企業のコーポレート・ガバナンス
8	「組織」としての企業	企業と官僚制
9		企業組織の諸形態、企業の組織と管理論の展開、管理の革命
10	「家」としての日本企	日本企業と従業員、日本型株式会社制度の構造と実態
11	業	日本型企业結合様式の独自性、日本企業をみる視点、揺らぐ日本的経営
12	「社会的器官」としての企業	企業の社会的責任論、企業市民、日本企業の社会的貢献活動
13		近年のCSR活動とCSR指標・CSRランキング、企業統治、企業倫理
14		社会のための企業、個人・社会・自然と調和した企業
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫（著）『企業論(第4版)』有斐閣アルマ、2018年

◇参考文献：授業で随時紹介する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇新聞を読んでおくと、授業での内容がイメージしやすくなるであろう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

企業論（秋学期）	シミズ タイヨウ 清水 太陽
Modern Corporation	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、複雑かつ多面的な現代企業の全体像と課題を理解し、それに関する関心と問題意識を醸成できるようになることを目標とする。具体的には、現代企業の諸形態や役割について、とくに株式会社に注目し、主に大企業の構造について学ぶ。また、いわゆる「日本的経営」や現代企業の役割に関しても、考えてみたい。必要に応じて、映像資料等も活用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
用語の理解	期末試験で評価する。企業社会や株式会社の実態について、専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容理解	期末試験、レポートで評価する。企業社会や株式会社制度の内容とその基本的な仕組みを理解し、説明できるか。	20%
理論と制度の理解	期末試験、レポートで評価する。企業とそれを取り巻く株式会社制度と企業制度の結びつきを理解し、説明できるか。	20%
知識の応用	期末試験、レポートで評価する。本講義で学んだ知見を活かし、現代企業に関して、自分の意見を論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 期末試験70% レポート20% 受講態度10%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	企業論を学ぶ意義と内容に関する説明
2	現代企業を見る視点	6つの企業観
3	「財・サービスの提供	経済発展と生活の変化、大企業の実態、企業の長期戦略
4	機関」としての企業	企業の広告活動、企業の国際化、むすび
5	「株式会社」としての企業	株式会社の機能と構造、株式会社の現実
6	「大企業」としての企	大企業とは何か、大企業の支配構造
7	業	日本の大企業の経営者、大企業のコーポレート・ガバナンス
8	「組織」としての企業	企業と官僚制、企業組織の諸形態
9		企業の組織と管理論の展開、管理の革命
10	「家」としての日本企	日本企業と従業員、日本型株式会社制度の構造と実態
11	業	日本型企业結合様式の独自性、日本企業をみる視点、揺らぐ日本的経営
12	「社会的器官」としての企業	企業の社会的責任論、企業市民、日本企業の社会的貢献活動
13		近年のCSR活動とCSR指標・CSRランキング、企業統治、企業倫理
14		社会のための企業、個人・社会・自然と調和した企業
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫（著）『企業論（第4版）』有斐閣アルマ、2018年

◇参考文献：授業で随時紹介する

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇新聞・ニュースを読んでおくと、授業での内容がイメージしやすくなるであろう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営戦略論 I	オガワ タツヤ 小川 達也
Strategic Management I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業後の質疑やコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業後の質疑やコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業後の質疑やコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点などをしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業後の質疑やコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること	20%
<p>評価の方法 授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方について
2	経営戦略の意義	なぜ経営戦略が必要なのか
3	経営戦略の体系①	経営戦略と戦術の役割
4	〃 ②	経営理念とビジョンの役割
5	〃 ③	経営戦略の種類
6	〃 ④	経営戦略の策定と組織
7	製品・市場戦略①	アンゾフの成長ベクトル
8	〃 ②	多角化戦略と相乗効果（シナジー）
9	〃 ③	市場細分化戦略
10	〃 ④	新製品開発と新市場開拓
11	競争戦略の要点①	ポーターの競争戦略の枠組み
12	〃 ②	価値連鎖（バリューチェーン）
13	〃 ③	5つの競争要因
14	〃 ④	競争の基本戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施します

【使用教材】

- ◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文館出版、2006年
- ◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求 第3版』有斐閣アルマ、2016年

【履修条件等】

- ◇この科目は、秋学期開講の「経営戦略論Ⅱ」の基礎となる科目です。「経営戦略論Ⅱ」の履修を希望する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。
- ◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

- ◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。
- ◇授業中にスマートフォンやタブレットなどの電子デバイス類を授業目的外で使用することは、禁止します。指示に従わない場合には、減点の上、欠席扱いとします。

経営戦略論 I	テラベ マサル 寺部 優
Strategic Management I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

現代社会はデジタル化、グローバル化が進み、企業を取り巻く環境は、めまぐるしく日々変化しています。この環境の変化に対応して成長するために、企業における経営戦略は、ますます重要な要素となっています。

経営戦略を策定し実行するには、経営戦略に関連する理論（すなわち経営学で学ぶことのできる知識）と実務（すなわち実際のビジネスで起きている現象）を結び付ける能力が必要とされます。そこで本授業では「経営戦略に関連する理論と実務を結び付ける能力を身につけること」を目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
用語：経営戦略に関連する基礎的な用語が、説明できる。	授業中の質疑、レポート、本試験の設問に対する回答で評価します。経営戦略に関連する基礎的な用語について、説明できること。	20%
理論：経営学で学ぶことのできる基本的な理論やフレームワークが説明できる。	授業中の質疑、レポート、本試験の設問に対する回答で評価します。授業で取りあげた基本的な理論やフレームワークについて、説明できること。	20%
実務：実際のビジネスの現象を、経営戦略の側面から整理して説明できる。	授業中の質疑、レポート、本試験の設問に対する回答で評価します。授業で取りあげた実際のビジネスの現象を、経営戦略の側面から整理して説明できること。	20%
能力：実際のビジネスの現象を基本的な理論やフレームワークをつかって分析できる。	授業中の質疑、レポート、本試験の設問に対する回答で評価します。授業で取りあげた実際のビジネスの現象を、経営戦略の側面から、基本的な理論やフレームワークをつかって分析できること。	40%
評価の方法 受講態度20%、レポート40%、本試験40%を目安に決定します。総合的な学習成果に基づいて評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方について
2	経営戦略とは	戦略の策定、戦略的とは、戦略の必要性
3	企業の方向性	経営理念・ビジョン・ミッション・ドメイン
4	企業全体のバランス	事業ポートフォリオ、多角化、PPM分析
5	企業戦略分析	SWOT分析（機会・脅威・強み・弱み）
6	事例分析①	SWOTによる事例分析
7	外部環境	5フォース分析
8	事例分析②	5フォースによる事例分析
9	ポジショニング戦略	コストリーダーシップ、差別化、集中
10	事例分析③	ポジショニングによる事例分析
11	経営資源	コア・コンピタンス、VRIO
12	事例分析④	経営資源による事例分析
13	バリューチェーン	バリューチェーンとは
14	事例分析⑤	バリューチェーンによる事例分析
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。授業でレジュメを配布します。

◇参考書：マイケル・A・ヒット他著 『戦略経営論 改訂新版』 センゲージ
ラーニング

【履修条件等】

◇秋学期に開講する「経営戦略論Ⅱ」の基礎となる科目です。

「経営戦略論Ⅱ」の履修を希望する場合は、必ず本科目を履修してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から企業の行動に関心を持ち、新聞やニュースをよく読んでください。興味がある記事は、各自写メなどを使いデータに取っておいてください。授業で実際の企業の事例を使って分析します。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営戦略論Ⅱ	オガワ タツヤ 小川 達也
Strategic Management II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業後の質疑やコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点などをしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業後の質疑やコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点などをしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業後の質疑やコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し、経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取りきるとともに諸課題をしっかりと論述できること	20%
<p>評価の方法 授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方、本試験の結果について
2	競争優位の構築①	競争優位の源泉とコア・コンピタンス経営
3	〃 ②	知的財産権の役割と戦略的重要性
4	〃 ③	商標権・意匠権を活用した戦略展開
5	〃 ④	特許権を活用した戦略展開
6	経営資源の展開①	経営戦略と経営資源の関係
7	〃 ②	経営資源の蓄積と経験効果の戦略的活用
8	〃 ③	PPM（プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント）の意義
9	〃 ④	PPMの基本戦略とGEのビジネススクリーン
10	〃 ⑤	PPMの応用展開：M&A（企業の合併と買収）の意思決定
11	ドメインの意義①	ドメインの決定と効果
12	〃 ②	ドメインの物理的定義と機能的定義
13	〃 ③	ドメイン・コンセンサス
14	〃 ④	ドメイン定義の次元とドメインの再定義
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施します

【使用教材】

- ◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文館出版、2006年
- ◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求 第3版』有斐閣アルマ、2016年

【履修条件等】

- ◇この科目は、春学期開講の「経営戦略論Ⅰ」の単位修得者を対象に進めます。「経営戦略論Ⅱ」を履修する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。
- ◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

- ◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項の説明に加えて、春学期に実施した「経営戦略論Ⅰ」の本試験の結果を解説します。今後、学習する上で参考になる内容を取り上げますので、必ず出席してください。
- ◇授業中にスマートフォンやタブレットなどの電子デバイス類を授業目的外で使用することは、禁止します。指示に従わない場合には、減点の上、欠席扱いとします。

経営戦略論Ⅱ	テラベマサル 寺部 優
Strategic Management II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

現代社会はデジタル化、グローバル化が進み、企業を取り巻く環境は、めまぐるしく日々変化しています。この環境の変化に対応して成長するために、企業における経営戦略は、ますます重要な要素となっています。

経営戦略を策定し実行するには、経営戦略に関連する理論（すなわち経営学で学ぶことのできる知識）と実務（すなわち実際のビジネスで起きている現象）を結び付ける能力が必要とされます。そこで本授業では「経営戦略に関連する理論と実務を結び付ける能力を身につけること」を目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
用語：経営戦略に関連する基礎的な用語が、説明できる。	授業中の質疑、レポート、本試験の設問に対する回答で評価します。経営戦略に関連する基礎的な用語について、説明できること。	20%
理論：経営学で学ぶことのできる基本的な理論やフレームワークが説明できる。	授業中の質疑、レポート、本試験の設問に対する回答で評価します。授業で取りあげた基本的な理論やフレームワークについて、説明できること。	20%
実務：実際のビジネスの現象を、経営戦略の側面から整理して説明できる。	授業中の質疑、レポート、本試験の設問に対する回答で評価します。授業で取りあげた実際のビジネスの現象を、経営戦略の側面から整理して説明できること。	20%
能力：実際のビジネスの現象を基本的な理論やフレームワークをつかって分析できる。	授業中の質疑、レポート、本試験の設問に対する回答で評価します。授業で取りあげた実際のビジネスの現象を、経営戦略の側面から、基本的な理論やフレームワークをつかって分析できること。	40%
評価の方法 受講態度20%、レポート40%、本試験40%を目安に決定します。総合的な学習成果に基づいて評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方について
2	グローバル戦略	グローバル化とは
3	事例分析⑥	グローバル戦略による事例分析
4	協調戦略	アライアンス・戦略的提携とは
5	事例分析⑦	協調戦略による事例分析
6	ネットワーク戦略	ネットワーク戦略とは
7	事例分析⑧	ネットワーク戦略による事例分析
8	合併と買収戦略	合併と買収（M&A）戦略とは
9	事例分析⑨	合併と買収（M&A）戦略による事例分析
10	ビジネスモデル	ビジネスモデルとは
11	事例分析⑩	ビジネスモデルによる事例分析
12	戦略のまとめ	企業戦略による分析のまとめ
13	戦略の策定と実行	マネジャーに求められる基本、プランニングの役割
14	事例分析⑤	SDGs、CSRと企業経営
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。授業でレジュメを配布します。

◇参考書：マイケル・A・ヒット他著 『戦略経営論 改訂新版』 センゲージ
ラーニング

【履修条件等】

◇春学期に開講する「経営戦略論Ⅰ」の単位履修者を対象とします。

「経営戦略論Ⅱ」の履修する場合は、「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から企業の行動に関心を持ち、新聞やニュースをよく読んでください。興味がある記事は、各自写メなどを使いデータに取っておいてください。授業で実際の企業の事例を使って分析します。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営組織論 I	タカハシ マサヤス 高橋 正泰
Organization Theory I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

現在の経営学にはさまざまな研究が展開されており、その中でも、組織社会である現代社会を考えると、経営学の対象となる組織は、重要な研究分野として位置づけられる。しかし、組織の研究は経営学固有のものではなく、多様化する社会現象の解明に欠かせないものとして、学際的な研究領域を形成している。本講義では、これらの組織研究の成果を取り入れながら、企業の組織問題を中心として考察し、組織についての理解を深めることを目的としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
組織とは何かについての理解	講義を通して理解し習得した知識について、小テストなどにより評価する。	総合評価の内、配分は1/5とする。
組織を学ぶ意義の理解	講義を通して理解し習得した知識について、小テストなどにより評価する。	総合評価の内、配分は1/5とする。
組織を理解するための様々な考えや方法についての理解	講義を通して理解し習得した組織の理論の観が方や基本的なものの見方がどの程度理解されているかについて、小テストなどにより評価する。	総合評価の内、配分は1/5とする。
組織を学ぶことにより、何が理解でき、何が可能になるかを実践的な理解	組織社会にとってどのような役割を果たしているか、日々かかわっている組織についての具体的な理解と応用について、小テストなどにより評価する。	総合評価の内、配分は1/5とする。
評価の方法	定期テストとレポートにより評価する。 出席については、出席をすることが前提であるので出席点については考慮しない。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	組織の概念	「組織とは何か」について考察する
2	組織の意義	「組織がわれわれにとってどのような関係にあるか」について講義する
3	社会科学としての組織のパラダイム	社会科学としての組織理論の位置づけを考える
4	組織のメソドロジー	社会科学としての組織の理論を学ぶ方法について考察する
5	経営組織論の系譜Ⅰ	科学的管理法を中心として基本的な組織理論を講義する
6	経営組織論の系譜Ⅱ	人間関係論を中心として講義する
7	経営組織論の系譜Ⅲ	近代的組織論の展開とその基本的な考え方について考える
8	経営組織論の系譜Ⅳ	組織のコンティンジェンシー理論について講義する
9	組織の理論モデルⅠ	組織の機能主義的組織モデルについて考える
10	組織の理論モデルⅡ	文化および社会システムとしての組織を講義する
11	組織の形態と構造	組織の基本的形態と構造について講義する
12	組織デザイン	組織をどのように設計すれば良いかについて考える
13	組織と環境	単なる組織の環境適応ではなくエコロジーの観点から組織を考察する
14	組織と人間	組織を構成する人間について考察する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇大月博司・高橋正泰『経営組織』学文社, 2003年.
- 高橋正泰監修『マクロ組織論』学文社、2019年.

【履修条件等】

- ◇とくにありませんが、真摯に勉学に励む方
出来れば、経営管理論、心理学、社会学などを学んでいることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予定されている講義について、あらかじめテキストを読んで準備して下さい。

【その他の注意事項】

- ◇学際的な視点から組織の問題を考え、学ぶことが必要です。

経営組織論 I	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Organization Theory I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、さまざまな角度からこの組織について考えていきます。

「経営組織論 I」では、社会学から見た組織論の位置づけ、組織論の歴史、組織とは何か、システムとしての組織、組織の具体的な形態について学びます。

授業は一方的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
組織の概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
組織に関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
さまざまな組織モデルの違いを理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
組織理論を応用して、具体的な方法を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具他の方法を提案できること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経営組織論とは	マクロ、ミクロの違い、社会学における位置づけ
2	学説(1)	科学的管理法
3	学説(2)	官僚制
4	学説(1)、(2)の問題点	ビデオによる解説
5	学説(3)	人間関係論
6	学説(4)	バーナードの組織論
7	学説(5)	サイモンの意思決定論
8	学説(6)	コンティンジェンシー理論とネオコンティンジェンシー理論
9	学説(7)	情報処理モデルと資源依存モデル
10	メタファー	メタファーとしての組織モデル
11	学説(8)	J. D. トンプソンの組織理論
12	組織構造	ライン、ファンクショナル、ライン・アンド・スタッフ
13	組織形態	職能別組織、事業部制組織、その他
14 15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

経営組織論Ⅱ	タカハシ マサヤス 高橋 正泰
Organization Theory II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

現在の経営学にはさまざまな研究が展開されており、その中でも、組織社会である現代社会を考えると、経営学の対象となる組織は、重要な研究分野として位置づけられる。本講義では、組織のミクロレベルに焦点を当てて、組織内の人間行動を学際的な成果を取り入れながら、企業組織内の人間問題を中心として考察し、組織行動についての理解を深めることを目的としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
組織の人間とは何かについての理解	講義を通して理解し習得した知識について、小テストなどにより評価する。	総合評価の内、配分は1/5とする。
組織における人間行動についての理解	講義を通して理解し習得した知識について、小テストなどにより評価する。	総合評価の内、配分は1/5とする。
組織をなぜ人は参加するのかについての理解	講義を通して理解し習得した組織の理論の観が方や基本的なものの見方がどの程度理解されているかについて、小テストなどにより評価する。	総合評価の内、配分は1/5とする。
組織行動を学ぶことにより、何が理解でき、何が可能になるかを実践的な理解	組織社会にとってどのような役割を果たしているか、日々かかわっている組織についての具体的な理解と応用について、小テストなどにより評価する。	総合評価の内、配分は1/5とする。
<p>評価の方法 定期テストとレポートにより評価する。 出席については、出席をすることが前提であるので出席点については考慮しない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	組織行動の概念	「組織内の人間行動とは何か」について考察する
2	組織行動の理解	「組織がわれわれにとってどのような関係にあるか」について講義する
3	ミクロ組織論としての組織行動	組織内部における人間行動や集団行動についての組織理論の位置づけを考える
4	人的資源アプローチと組織行動	人的資源としての観点と組織行動論が同の世に関係しているかについて考察する
5	組織行動の理論Ⅰ	動機づけ理論の内容理論について講義する
6	組織行動の理論Ⅱ	動機づけ理論のプロセス理論について講義する
7	組織行動の理論Ⅲ	リーダーシップの特性研究とスタイル研究について講義する
8	組織行動の理論Ⅳ	リーダーシップのコンティンジェンシー理論について講義する
9	組織行動の理論Ⅴ	リーダーの役割とコンフリクトについて考える
10	組織の職務デザイン	組織のミクロレベルにおける職務デザインを講義する
11	組織行動と集団	組織の集団と人間行動について講義する
12	組織行動と文化	組織文化と人間行動の関係について考察する
13	組織行動と制度	組織行動を制度的観点から考察する
14	組織とジェンダー	組織におけるジェンダー問題を中心にSDGsを考える
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇大月博司・高橋正泰『経営組織』学文社、2003年。
- 高橋正泰監修『マクロ組織論』学文社、2019年。

【履修条件等】

- ◇とくにありませんが、真摯に勉学に励む方
出来れば、経営管理論、心理学、社会学などを学んでいることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予定されている講義について、あらかじめテキストを読んで準備して下さい。

【その他の注意事項】

- ◇学際的な視点から組織の問題を考え、学ぶことが必要です。

経営組織論Ⅱ	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Organization Theory II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、人間を中心に組織をとらえていきます。

「経営組織論Ⅱ」では、個人行動、モチベーション（動機づけ）、リーダーシップ、非合理的意思決定、暗黙知などについて学びます。

授業は一方的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が、理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
個人行動の傾向を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
動機づけに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
リーダーシップに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
各理論を応用した、具体的な施策を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具体的な方法を提案できること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経営組織論とは	ミクロの組織論とは
2	個人行動(1)	個人行動とは、知覚
3	個人行動(2)	態度、パーソナリティー、
4	個人行動(3)	学習
5	モチベーション(1)	マレーの欲求リスト
6	モチベーション(2)	マクレランドらの達成欲求他
7	モチベーション(3)	マズローの欲求5段解説
8	モチベーション(4)	アージリスの不適合理論
9	モチベーション(5)	ハーズバーグの二要因理論
10	モチベーション(6)	ハルの動因理論と期待理論
11	モチベーション(7)	ポーター＝ローラーの期待理論とアダムスの公平理論
12	リーダーシップ(1)	特性理論と行動理論
13	リーダーシップ(2)	状況理論
14	認知的不協和	センスメーカー他
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

経営情報学（春学期）	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Management Information	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

情報化社会と言われる今、情報の価値は益々高まってきており情報システムの果たす役割はきわめて大きいと言えます。本授業では経営情報システムの基本原理、しくみを理解し、ビジネスでの応用について具体的な事例に基づき学んでいきます。経営情報システムの活用方法、インターネットを用いたビジネス、データベースシステム等を理解することでビジネスにおいて役立つ知識の習得を目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置について理解する	設問に対する解答によって評価する。 コンピュータの5大装置を説明することができる。 さらにコンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置の基本構造を理解する。	30%
データの取り扱い方法、データベースシステムについて理解する	設問に対する解答によって評価する。 データの圧縮、データ量について把握し、データの基本的な取り扱い方法を説明できる。さらにデータベースシステムについて学び、データの検索、抽出方法などを理解する。	20%
経営情報システム、通信ネットワークを理解する	設問に対する解答によって評価する。 経営情報システムの定義、役割、価値について説明できる。さらに通信ネットワーク、インターネットの特徴を理解する。	30%
セキュリティ管理方法、情報倫理、情報リテラシーを理解する	設問に対する解答によって評価する。 セキュリティの管理方法、情報倫理の重要性などについて説明できる。また、情報リテラシーについて理解し、その活用方法を説明できる。	20%
評価の方法 授業時間内の設問に対する解答30%、課題30%、定期試験40%。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明、経営情報学の概要
2	コンピュータの構造	コンピュータの基礎知識、種類、構成について学ぶ
3	パソコンの構造	パソコンの構造について学ぶ
4	5大装置	入力装置、出力装置、記憶装置、制御装置、演算装置について学ぶ
5	データの取り扱い	データの圧縮、データ量、データベースについて学ぶ
6	経営情報システム	経営情報システムの定義、役割について学ぶ
7	経営情報システム	経営情報システムの定義、役割について学ぶ
8	通信ネットワーク	通信ネットワーク、インターネットビジネス、クラウドコンピューティングについて学ぶ
9	情報とコミュニケーション	情報の分析とコミュニケーションの必要性について学ぶ
10	セキュリティ管理	セキュリティ管理、ファイルのバックアップについて学ぶ
11	企業の情報化と情報倫理	情報化社会における情報の扱い方と情報倫理について学ぶ
12	情報リテラシー	情報リテラシーとプレゼンテーション技術について学ぶ
13	次世代の経営情報学	経営情報学の今後について学ぶ
14	まとめ	全体像を総括し、ポイントを整理する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

経営情報学で取り扱う事例は最新のものが多いため、パワーポイントの資料にて講義を行う。

◇講義資料は電子データで配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の授業の資料を予めデータで配布しておくので事前に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回授業の最後に課題を出すのでしっかり行っておくこと。

経営情報学（秋学期）	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Management Information	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

情報化社会と言われる今、情報の価値は益々高まってきており情報システムの果たす役割はきわめて大きいと言えます。本授業では経営情報システムの基本原理、しくみを理解し、ビジネスでの応用について具体的な事例に基づき学んでいきます。経営情報システムの活用方法、インターネットを用いたビジネス、データベースシステム等を理解することでビジネスにおいて役立つ知識の習得を目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置について理解する	設問に対する解答によって評価する。 コンピュータの5大装置を説明することができる。 さらにコンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置の基本構造を理解する。	30%
データの取り扱い方法、データベースシステムについて理解する	設問に対する解答によって評価する。 データの圧縮、データ量について把握し、データの基本的な取り扱い方法を説明できる。さらにデータベースシステムについて学び、データの検索、抽出方法などを理解する。	20%
経営情報システム、通信ネットワークを理解する	設問に対する解答によって評価する。 経営情報システムの定義、役割、価値について説明できる。さらに通信ネットワーク、インターネットの特徴を理解する。	30%
セキュリティ管理方法、情報倫理、情報リテラシーを理解する	設問に対する解答によって評価する。 セキュリティの管理方法、情報倫理の重要性などについて説明できる。また、情報リテラシーについて理解し、その活用方法を説明できる。	20%
評価の方法 授業時間内の設問に対する解答30%、課題30%、定期試験40%。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明、経営情報学の概要
2	コンピュータの構造	コンピュータの基礎知識、種類、構成について学ぶ
3	パソコンの構造	パソコンの構造について学ぶ
4	5大装置	入力装置、出力装置、記憶装置、制御装置、演算装置について学ぶ
5	データの取り扱い	データの圧縮、データ量について学ぶ
6	データベースシステム	データベースシステムの役割、活用法について学ぶ
7	経営情報システム	経営情報システムの定義、役割について学ぶ
8	通信ネットワーク	通信ネットワーク、インターネットビジネス、クラウドコンピューティングについて学ぶ
9	情報とコミュニケーション	情報の分析とコミュニケーションの必要性について学ぶ
10	セキュリティ管理	セキュリティ管理、ファイルのバックアップについて学ぶ
11	企業の情報化と情報倫理	情報化社会における情報の扱い方と情報倫理について学ぶ
12	情報リテラシー	情報リテラシーとプレゼンテーション技術について学ぶ
13	次世代の経営情報学	経営情報学の今後について学ぶ
14	まとめ	全体像を総括し、ポイントを整理する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

経営情報学で取り扱う事例は最新のものが多いため、パワーポイントの資料にて講義を行う。

◇講義資料は電子データで配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の授業の資料を予めデータで配布しておくので事前に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回授業の最後に課題を出すのでしっかり行っておくこと。

環境経営学	フジモリ ダイスケ 藤森 大祐
Environmental Management	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

環境問題は現代の企業において積極的に対応すべき必須の課題となっている。近年話題となっている環境問題としては、地球温暖化やエネルギー問題が挙げられるが、本講義ではそれらの現代的な環境問題よりも以前から起きていた問題にも焦点を当てて講義を展開していく。具体的には、初期の公害問題として知られている足尾銅山問題や四大公害問題などから考察していくことで、環境問題と企業の本質的問題を捉えていく。それらをベースにして、地球環境問題の代表的な問題を考察しながら、現代の企業の課題を考えていきたい。また、後半では廃棄物問題への対応、リサイクルの推進、エネルギー問題などに関する企業の取り組みを見ていく。最後に、環境マネジメントシステムなど、環境経営の代表的なツールについて論じる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
さまざまな環境問題の基礎知識を習得する	試験やレポートによって知識を問う。	30%
環境問題と企業との関係を理解する	試験やレポートによって企業と環境問題がどのような関係にあるかを問う。	30%
環境問題への企業のあり方を理解する	試験やレポートによって、企業が環境問題に対してどのような取り組みをしているか、またどのような取り組みをしていく必要があるかについての理解を問う	40%
評価の方法	70%以上の出席を前提とし、試験60%、レポート30%、平常点10%で評価する。 試験は定期試験によって評価し、平常点は講義内での態度やコメントなどで評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	講義ガイダンス	講義の概要、進め方、評価方法など
2	足尾銅山問題	銅山による鉱毒と煙害、問題の構造
3	水俣病問題	水銀汚染と企業の対応、問題の構造
4	四大公害	四大公害の概略と企業の対応
5	公害対策の進展と後退	四大公害の反省としての対策とその後退
6	公害輸出問題	公害輸出の事例とその概要
7	地球環境問題の概要	地球環境問題の特質、現状の把握、企業の役割
8	オゾンホール問題	オゾンホールの原因と防止策
9	地球温暖化問題	温暖化のメカニズム、温暖化対策
10	エネルギー問題	自然エネルギーと化石燃料、原発
11	廃棄物問題	廃棄物の現状と問題点、適正処理の取り組み
12	リサイクル	リサイクル社会に向けてのさまざまな取り組み
13	環境マネジメントシステム、環境コミュニケーション	環境マネジメントシステムの概要、現状と課題 環境コミュニケーションの概要、現状と課題
14	企業活動とSDGs	企業によるSDGsへの貢献の事例と検討
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しない。随時必要な資料を配布する。

【履修条件等】

◇少なくとも「経営学」を取得していること。できれば他の経営学の主要科目を取得していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇シラバスに従い、次回の内容について簡単に調べ、予備知識を得ておいてもらいたい。

【その他の注意事項】

◇講義内容を参考にさまざまな問題に関心を持って自発的に学んでもらいたい。

環境経営学 環境問題とSDGs ～持続可能な未来のために～	ヤマグチ ユタカ 山口 豊
Environmental Management	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

気候変動や脱炭素社会、SDGs（国連の持続可能な開発目標）に注目が集まるなど、環境問題は現代社会における最大の課題の一つです。今、世界では気候変動など環境問題に積極的に対応し、持続可能な未来を作る「環境と経済の好循環」への挑戦が始まっています。

本講座では、テレビ報道の取材現場で見た気候変動の実態、地域と共生する再生可能エネルギー、脱炭素・SDGs経営などを研究。アナウンサーの視点によるプレゼンテーションのテクニックも合わせて実践的に指導します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
気候変動に関する基本的な知識を深める。	気候変動に関して、授業での積極的な発言や試験での理解度によって評価する。	30%
再生可能エネルギーと地域の再生への理解を深める。	再生可能エネルギーと地域の再生などについて、授業での積極的な発言や試験での理解度によって評価する。	30%
豪雨災害からの避難への理解を深める。	豪雨災害からの避難などについて、授業での積極的な発言や試験での理解度によって評価する。	20%
脱炭素経営やSDGs経営への理解を深める。	脱炭素・SDGs経営について、授業での積極的な発言や試験での理解度によって評価する。	20%
評価の方法 授業での発言内容や出席状況を50%、試験を50%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	環境問題とSDGs。	テレビ報道から見た気候変動、世界と日本の現状。
2	気候変動と災害。	温暖化と豪雨災害の関係は？現場取材とデータから考察。
3	気候変動と脱炭素。	世界で進む脱炭素の潮流を研究。
4	再エネと地域再生 1	地域と共生する太陽光発電。次世代太陽電池。
5	再エネと地域再生 2	地域と共生する風力発電。浮体式洋上風力の可能性。
6	再エネと地域再生 3	温泉と共存する地熱発電の可能性。バイナリー発電とは。
7	再エネと地域再生 4	荒廃する日本の森林とバイオマス発電の可能性。
8	再エネと地域再生 5	地域の豊かな水を活かした水力、小水力発電。
9	気候変動への適応。	豪雨災害にどう備える？防災の最前線。
10	SDGs・脱炭素経営。	脱炭素を目指す持続可能な経営事例の研究。
11	身近なSDGsの研究。	SDGsの身近な事例の研究。世界を動かす若者たちの行動。
12	プレゼンカの研究 1	実践的プレゼンテーション能力養成 1
13	プレゼンカの研究 2	実践的プレゼンテーション能力養成 2
14	まとめ	気候変動と再生可能エネルギーなどについてのまとめ。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定なし。必要に応じて資料等を配布。

◇参考書（任意）：「再エネ大国 日本」への挑戦 山口豊 山と溪谷社

【履修条件等】

◇気候変動やSDGs、脱炭素に関する情報に積極的に触れてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その週のテーマについて、自身で積極的に調べてみてください。

【その他の注意事項】

◇環境問題に関心を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してください。

経営倫理（春学期）	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Management & Ethics	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

企業は、ゴーイング・コンサーンとよく言われますが、永遠に存続し続けるには社会から存在意義を認めてもらわなければなりません。それにもかかわらず、近年、企業不祥事が後を絶ちません。この授業では、さまざまな視点から企業の倫理的側面・反倫理的側面を議論し、誠実な企業行動を確保するためにはどうしたらよいのかを考えていきます。

具体的には、企業倫理とはなにか、その歴史的変遷は、なぜ企業は反倫理的行動をとってしまうのか、反倫理的行動を予防するにはどうしたらよいのかを議論します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
道徳と倫理の違いを理解していること	設問に対する回答により評価。道徳と倫理の違いを明確に答えられること。	25%
企業の倫理的行動・反倫理的行動を認識することができる	設問に対する回答により評価。レポートに対する回答により評価。企業行動のどの部分が反倫理的かを明確に指摘することができること。	25%
組織の倫理水準確保のための制度を理解していること	設問に対する回答により評価。授業中の質問に対する回答により評価。倫理制度の名称およびその内容、注意点を明確に指摘できること。	25%
正義とは何かを多面的に考えることができること	設問に対する回答により評価。正義をさまざまな角度から考える能力がついていること。	25%
評価の方法	70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	企業倫理とは何か？	イントロダクション
2	道徳と倫理	道徳と倫理、社会の倫理水準
3	歴史的変遷	独占、公害、スキャンダル
4	事例	ビデオによる説明
5	対処法	企業理念の重要性
6	倫理的リーダーシップ	倫理的リーダーシップの必要条件
7	経営倫理の必要性	なぜ今、経営倫理の授業が必要なのか
8	企業理念	さまざまな企業の理念比較
9	理念の伝達	コミュニケーション、暗黙知
10	事例	理念の伝達方法、評価
11	センスメーカー	反倫理的行動の原因
12	動機づけ理論	動機づけ理論から見た反倫理的行動
13	倫理的制度	反倫理的行動を予防する制度
14	倫理的判断	倫理的判断基準：功利性、権利、正義
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定なし。必要な資料は都度配布いたします。

【履修条件等】

◇「企業論」、「経営組織論Ⅰ」、「経営組織論Ⅱ」などを履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇企業事例を扱うので、新聞やネットニュースなどで企業情報に関心をもち、目を向けること。

【その他の注意事項】

◇ケーススタディや毎回の講義のふりかえりにおいては、講義内容をふまえ、積極的に発言することを求める。

経営倫理（秋学期）	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Management & Ethics	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

企業は、ゴーイング・コンサーンとよく言われますが、永遠に存続し続けるには社会から存在意義を認めてもらわなければなりません。それにもかかわらず、近年、企業不祥事が後を絶ちません。この授業では、さまざまな視点から企業の倫理的側面・反倫理的側面を議論し、誠実な企業行動を確保するためにはどうしたらよいのかを考えていきます。

具体的には、企業倫理とはなにか、その歴史的変遷は、なぜ企業は反倫理的行動をとってしまうのか、反倫理的行動を予防するにはどうしたらよいのかを議論します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
道徳と倫理の違いを理解していること	設問に対する回答により評価。道徳と倫理の違いを明確に答えられること。	25%
企業の倫理的行動・反倫理的行動を認識することができる	設問に対する回答により評価。レポートに対する回答により評価。企業行動のどの部分が反倫理的かを明確に指摘することができること。	25%
組織の倫理水準確保のための制度を理解していること	設問に対する回答により評価。授業中の質問に対する回答により評価。倫理制度の名称およびその内容、注意点を明確に指摘できること。	25%
正義とは何かを多面的に考えることができること	設問に対する回答により評価。正義をさまざまな角度から考える能力がついていること。	25%
評価の方法	70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	企業倫理とは何か？	イントロダクション
2	道徳と倫理	道徳と倫理、社会の倫理水準
3	歴史的変遷	独占、公害、スキャンダル
4	事例	ビデオによる説明
5	対処法	企業理念の重要性
6	倫理的リーダーシップ	倫理的リーダーシップの必要条件
7	経営倫理の必要性	なぜ今、経営倫理の授業が必要なのか
8	企業理念	さまざまな企業の理念比較
9	理念の伝達	コミュニケーション、暗黙知
10	事例	理念の伝達方法、評価
11	センスメーカー	反倫理的行動の原因
12	動機づけ理論	動機づけ理論から見た反倫理的行動
13	倫理的制度	反倫理的行動を予防する制度
14	倫理的判断	倫理的判断基準：功利性、権利、正義
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定なし。必要な資料は都度配布いたします。

【履修条件等】

◇「企業論」、「経営組織論Ⅰ」、「経営組織論Ⅱ」などを履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇企業事例を扱うので、新聞やネットニュースなどで企業情報に関心をもち、目を向けること。

【その他の注意事項】

◇ケーススタディや毎回の講義のふりかえりにおいては、講義内容をふまえ、積極的に発言することを求める。

ミクロ経済学	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Micro-economics	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？あなたならどう答えますか？こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生活している社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経済学の基礎理論の理解を通じて、現代の経済問題に対する経済学的視点を養う	定期試験の結果と各回の確認テスト（課題）によって成績を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験60% ・確認テスト（課題）の累積得点40%
<p>評価の方法 ・定期試験60%、各回に予定されている確認テストの累積得点40%により総合的に判断して成績を評価します。</p> <p>・正当な理由のない欠席を5回以上した者は、単位取得を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	経済学の対象	最適化する個人
3	最適化戦略	需要曲線・供給曲線・無差別曲線
4	リスク	大数の法則、逆選択
5	費用	機会費用・サunkコスト
6	雇用	労働市場の現状
7	労働法	労働者の権利
8	ブラック企業	働くということ
9	ゲーム理論①	囚人のジレンマ
10	ゲーム理論②	現実における囚人のジレンマ
11	企業行動	企業の「ベストな判断」
12	市場	独占市場と寡占市場年金の管理と運用
13	政府の役割	外部性、公共財、情報の非対称性
14	行動経済学	人間の感情が最適な行動を阻害する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ミクロ経済学の入門書に目を通しておくと良い。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

◇対面授業を前提としていますが、状況次第でオンライン（Zoomやmeetによるリアルタイム配信）もしくはオンデマンド型（事前に収録した動画を視聴）を実施する。

金融論	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Financial Economics	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、社会において必要とされる金融に関する基礎的な知識を中心に修得する。急速なテクノロジーの発展は銀行業に強い影響を及ぼしている。仮想通貨の誕生や金利のマイナス化といった金融環境の激変は、従来の銀行業を窮地に追い込んでいる。もはや、私たちがお金を銀行に預けておくことは、運用の主要な手段ではなくなった。

社会において、お金と無関係ではいられない。したがって、金融知識は修得が必至である。”金融リテラシー”を身につけ、変化する金融環境において適切な自己判断ができるようになりましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<ul style="list-style-type: none"> ・ 金融に関する基礎理論と各種テクニカルタームの習得 ・ 金融現象に関する分析能力を身につける 	定期試験の結果と各回の確認テスト（課題）によって成績を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験60% ・ 確認テスト（課題）の累積得点40%
<p>評価の方法 ・ 定期試験60%、各回に予定されている確認テストの累積得点40%により総合的に判断して成績を評価します。</p> <p>・ 正当な理由のない欠席を5回以上した者は、単位取得を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	お金の話	貨幣の歴史
3	株式	株式とは
4	株式の分析	ファンメンタル分析とテクニカル分析
5	投資優遇制度	NISA と iDeCo
6	貨幣の時間価値	将来価値と現在価値
7	債券分析	債券価格の求め方
8	投資信託	分散・長期・複利効果
9	ETF	米国株 ETF
10	米国株投資	メタバース経済圏で活躍する企業の分析
11	不動産投資	REIT
12	FX	外国為替証拠金取引
13	外国為替相場	為替資金操作と為替持高操作
14	為替リスクとデリバティブ	先物・オプション・スワップ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から金融に関する新聞記事やニュースをチェックして現状を把握しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。
- ◇対面授業を前提としていますが、状況次第でオンライン（Zoomやmeetによるリアルタイム配信）もしくはオンデマンド型（事前に収録した動画を視聴）を実施する。

ファイナンス論	マツダ タカシ 松田 岳
Finance theory	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

現在の経済現象には何らかの形で金融が関わっており、金融の知識は必須ものとなりつつある。「ファイナンシャル・リテラシー」という言葉を最近よく目にするようになってきているという事実が、金融知識＝「読み・書き・そろばん」同様必要不可欠なものとなりつつあることを示している。その一方で、金融商品に関わるトラブルは多発しており、多重債務問題や無年金・低年金問題など、金融リテラシーが欠けるが故に資金計画が破綻する例も後を絶たない。本講義では、「人生設計」、「リスク管理」、「金融資産運用」など生活に関わる金融をテーマに講義を行うことで、社会人として生活していく上で必要不可欠な金融知識の習得を目指す。「今を知る」ことに意欲的な学生の履修を求む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
資金計画と保険の仕組みを理解し、説明できる	本試験の正答率によって評価。 ／資金計画や社会保険、その他保険などを理解し、説明できるか否か。	38.5%
資産運用の手段とリスクを理解し、説明できるようにする。	本試験の正答率によって評価。 ／預金、株式、債券、投資信託などを理解し、説明できるか否か。	15.0%
税について理解し、説明できるようにする。	本試験の正答率によって評価。 ／所得税、法人税、不動産税、贈与税、相続税などを理解し、説明できるか否か。	46.5%
評価の方法	試験点100%〈試験点による絶対的評価(SAのみ相対評価)を優先するが、試験結果によっては相対的評価(原則として試験点の順位による評価)を採用する。相対的評価の単位取得率は「授業参加度」をベースにして設定する。〉	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要、到達目標、教授方法、評価方法を確認する。
2	資金計画	FPとは、プランニングの手法、6つの係数
3	社会保険	医療保険、介護保険、労働保険（労災保険・雇用保険）
4	公的年金	年金制度の概要、納付と給付、年金と税金
5	生命保険	生命保険の仕組み、商品の分類、生命保険と税金
6	損保・第三	損害保険（火災・自動車など）、第三分野保険
7	預貯金	金融市場、セーフティネット、預貯金商品
8	債券・株式・投信	債券、株式、投資信託（各種商品の分類と利回り計算等）
9	所得税(1)	所得の算出、損益通算、課税標準の計算
10	所得税(2)	所得控除、税額控除、申告と納付
11	不動産取引	基礎知識、売買・賃貸借契約、不動産関連法令
12	不動産と税	取得、保有、譲渡、賃借にかかる税金
13	贈与と税	贈与と親族の定義、贈与税の計算・特例・非課税制度
14	相続と税	相続と法律、相続税の算出・申告、相続財産の評価
15	総括・達成度の確認	達成度の確認と授業の総括を行う。

【使用教材】

- ◇教科書：ガイダンス時に指示する。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇5回以上欠席すると評価対象外になる。
- ◇授業を妨害する行為（私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教科書の「次週の講義テーマ」に該当する箇所を事前に読んでおくこと。
- ◇教科書の内容をまとめ、不明点は授業前に質問を提出すること。
- ◇予習・復習に要する時間は週4時間(学期通算60時間)を見込んでいる。

【その他の注意事項】

- ◇大学のメールアドレスとそのパスワードは必携。
- ◇Google Classroom(GC)、Course Powerの情報を小まめに確認すること。
- ◇質問はGCの「質問箱」で受け付けている。

会社法 I	スミダ コウジ 隅田 浩司
Companies Act I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

皆さんが就職をするにせよ、起業をするにせよ、会社法の知識は不可欠です。この講義では、会社法に関するさまざまな事件を取り上げて、会社法とは何か、そして会社法を使いこなしてビジネスをするにはどうしたらよいか、について学びます。

会社法をきちんと理解しておく、ビジネスのあらゆる場面で役に立ちます。株式会社の『株式』とは何か、株主になるとどんなメリットとリスクがあるのか、もし会社の取締役になるとどんな責任を問われるのかといった経営において大切な知識が身につきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 経済や経営と法 の関係の基礎を 理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件・効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2) 法的論点を理解 し、議論するこ とができる	法的論点を理解し、判例・学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3) 仮想事例につい て適切な法的処 理ができる	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、会社法の仮想事例に対して適切な法的処理ができるか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4) 会社法と現実の ビジネスとの関 連性を理解し、 多角的視野から 分析できる	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、会社法と現実のビジネスとの関連性を理解し、多角的視野から分析できるか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%
評価の方法 評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	会社法入門	会社の基本概念、商号について解説
2	株式会社	会社と株式について解説
3	株式と会社	株主と会社との関係について解説
4	株式の種類	種類株など株式の種類、及び株式の論点について解説
5	株式の譲渡制限	譲渡制限株式に関する論点について解説
6	株式の論点	株式の担保化など株式に関する最新論点について解説
7	機関設計	株式会社の機関設計について解説
8	株主総会	株主総会について解説
9	株主総会の招集	株主総会招集手続などについて解説
10	議事・決議	株主総会の議事、決議について解説
11	取締役	取締役について解説
12	代表取締役・役員	代表取締役、役員の意義・役割について解説
13	取締役の責任 1	役員の子会社に対する責任について解説
14	取締役の責任 2	役員の第三者に対する責任について解説
15	総括・達成度の確認	講義の総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：中東 正文（著），白井 正和（著），北川 徹（著），福島 洋尚（著）『会社法〔第2版〕（有斐閣ストゥディア）』有斐閣；第2版（2021/4/1） 978-4641150843
- ◇参考書：田中亘『会社法 第2版』東京大学出版会 2021 978-4130323895
神作 裕之（編集），藤田 友敬（編集），加藤 貴仁（編集）『会社法判例百選〔第4版〕（別冊ジュリスト）』有斐閣；第4版（2021/9/15） 978-4641115545
商事法務（編集）『織込版 会社法関係法令全条文〔全訂第2版〕』商事法務；全訂第2版（2021/3/25） 978-4785728588 （ただし2022年3月に最新版が出版される可能性がある）

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇講義中、指示します。

【その他の注意事項】

- ◇私語は厳禁です、違反者は履修停止とします。
- ◇受講生の講義理解度に応じて、授業計画の順序を変更する場合があります。

会社法Ⅱ	スミダ コウジ 隅田 浩司
Companies Act II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

皆さんが就職をするにせよ、起業をするにせよ、会社法の知識は不可欠です。この講義では、会社法に関するさまざまな事件を取り上げて、会社法とは何か、そして会社法を使いこなしてビジネスをするにはどうしたらよいか、について学びます。

会社法をきちんと理解しておくこと、ビジネスのあらゆる場面で役に立ちます。役員の責任、会社の資金調達、合併買収、そして解釈の設立について実践的な知識が身につきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 経済や経営と法 の関係の基礎を 理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件・効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2) 法的論点を理解 し、議論するこ とができる	法的論点を理解し、判例・学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3) 仮想事例につい て適切な法的処 理ができる	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、会社法の仮想事例に対して適切な法的処理ができるか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4) 会社法と現実の ビジネスとの関 連性を理解し、 多角的視野から 分析できる	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として会社法と現実のビジネスとの関連性を理解し、多角的視野から分析できるか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%
評価の方法 評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	取締役と会社の利害	競業禁止義務、利益相反取引について解説
2	取締役の責任	取締役の責任について解説
3	会計参与・監査役	会計参与と監査役について解説
4	監査役会・会計監査人	監査役会・会計監査人について解説
5	監査等委員会設置会社	監査等委員会設置会社について解説
6	指名委員会設置会社	指名委員会設置会社について解説
7	役員などの責任	任務懈怠責任などについて解説
8	計算	会計帳簿、決算について解説
9	配当	株主への配当について解説
10	資金調達	募集株式について解説
11	新株予約権	新株予約権について解説
12	社債	社債について解説
13	設立・定款変更	設立・定款変更について解説
14	買収・結合・再編	買収・結合再編について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：田中亘（著）『会社法（第3版）』東京大学出版会、2021年刊行予定
- ◇参考書：講義中に指示します。

【履修条件等】

- ◇「会社法Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業中、予習範囲を指示します。

【その他の注意事項】

- ◇私語は厳禁です、違反者は履修停止とします。
- ◇受講生の講義理解度に応じて、授業計画の順序を変更する場合があります。

民法 I	ナガキ イクヤ 長岐 郁也
Civil Law I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

民法典は、私人間の権利関係や身分関係について規定する法律である。また、私人間で生じたトラブルを解決するための規範でもある。この科目では、民法における財産法（総則・物権・債権）について具体的事例を挙げて説明し、権利の調整がどのように行われているかを理解することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	民法に定められるさまざまな専門用語について、毎回の小テスト及び定期試験を介して理解できているかを確認する。	30%
規範の理解	民法に定められるさまざまな規範がどのように紛争解決の手法として用いられるのかを理解する。その確認として小テスト及び定期試験を実施する。	40%
日常生活とのかかわり	民法は日常のさまざまなトラブル（紛争）を解決するための手段として存在します。これをしっかりと理解し、実際のトラブルでどのように機能するのかを考えることができるかを定期試験で確認する。	30%
評価の方法 毎回の講義での小テストの受験（70%）と定期試験（30%）で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	民法の成立と日常生活に期待される役割
2	能力制度	権利能力、意思能力、行為能力
3	意思表示	
4	所有権移転型契約	売買契約、贈与契約、交換契約
5	貸借型契約	使用貸借契約、消費貸借契約、賃貸借契約
6	役務提供型契約	雇用契約、委任契約、請負契約、寄託契約
7	その他の契約	和解契約、組合契約、終身定期金契約
8	契約の履行と不履行	
9	不良債権の回収	人的担保
10	物権変動	物権の取得と譲渡
11	所有権と占有権	
12	担保物権	物的担保
13	不法行為	一般の不法行為と特別の不法行為
14	事務管理・不当利得	
15	総括	

【使用教材】

- ◇ 道垣内弘人・リーガルベシス民法入門〔第3版〕
（日本経済新聞出版、2019年）

【履修条件等】

- ◇ 法学ⅠおよびⅡの履修を終えていることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 教科書の事前に読んでおくこと。

【その他の注意事項】

- ◇ 講義中の私語等は厳禁とします。

民法Ⅱ	ナガキ イクヤ 長岐 郁也
Civil Law II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

民法典は、私人間の権利関係や身分関係について規定する法律である。また、私人間で生じたトラブルを解決するための規範でもある。この科目では、民法における家族法（親族、相続）について具体的事例を挙げて説明し、権利の調整がどのように行われているかを理解することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	民法に定められるさまざまな専門用語について、毎回の小テスト及び定期試験を介して理解できているかを確認する。	30%
規範の理解	民法に定められるさまざまな規範がどのように紛争解決の手法として用いられるのかを理解する。その確認として小テスト及び定期試験を実施する。	40%
日常生活とのかかわり	民法は日常のさまざまなトラブル（紛争）を解決するための手段として存在します。これをしっかりと理解し、実際のトラブルでどのように機能するのかを考えることができるかを定期試験で確認する。	30%
評価の方法 毎回の講義での小テストの受験（70%）と定期試験（30%）で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	家族法の日常生活に期待される役割
2	婚姻	婚姻の成立と効果
3	婚姻の解消	離婚の成立と効果
4	実親子関係	嫡出子と非嫡出子
5	親権	
6	養親子関係	普通養子と特別養子
7	扶養・後見	成年後見制度
8	相続制度	
9	相続人・相続財産	相続人と相続財産の範囲
10	相続分	相続分と相続財産の承継
11	遺産分割	
12	遺言	遺言の方法
13	遺贈・遺留分	
14	配偶者居住権	新しい相続の制度
15	総括	今後の家族法に対する課題

【使用教材】

◇道垣内弘人・リーガルベシス民法入門〔第3版〕

（日本経済新聞出版、2019年）

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の事前に読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語等は厳禁とします。

経済法	スミダ コウジ 隅田 浩司
Economic Law	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義は、市場経済を支える経済法（競争法）の法理論と政策を取り扱います。授業では、談合やカルテルを規制する不当な取引制限、独占規制、そして合併や買収が競争に与える影響を分析する企業結合規制、そして不公正な取引方法を取り上げます。この講義を受講することによって、経営に必要な法的知識や法的思考力を習得することができます。またこの講義では、さまざまな業界を取り扱いますので、業界研究に役立つだけでなく、企業の経営戦略やマーケティング戦略についても理解を深めることができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 経済や経営と法の関係の基礎を理解できる	講義中に登場する法概念の意義を理解しているかどうか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2) 法的論点を理解し、議論することができる	判例・学説の議論状況を把握しているかどうか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3) 経済法の仮想事例について適切な法定処理を導出できる	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を利用し、事例式問題に対して法的処理ができるかどうか、講義中の質疑および期末試験によって客観的に評価する。	評価の30%
4) 現実の経済問題について経済法の思考枠組みを応用できる	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として現実の経済問題について経済法の思考枠組みに基づき分析できるかどうか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の10%
評価の方法 評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	共同行為(1)	不当な取引制限における意思の連絡について解説
2	共同行為(2)	不当な取引制限の諸要件について解説
3	共同行為(3)	不当な取引制限の事例研究
4	公正取引委員会	公取委の行政手続、刑事罰などについて解説
5	事業者団体	事業者団体規制について解説
6	企業結合規制の概要	企業結合規制の概要について解説
7	単独行動規制	単独行動規制について解説
8	協調行動規制	協調行動規制について解説
9	私的独占(1)	独占規制の概要について解説
10	私的独占(2)排除	排除に関する最新事例について解説
11	私的独占(3)支配	排除と支配行為について解説
12	不公正な取引(1)	不公正な取引方法の概要の説明
13	不公正な取引(2)	ボイコット、差別対価、不当廉売など
14	不公正な取引(3)	再販売価格維持行為、優越的地位の濫用など
15	総括・達成度の確認	授業の総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：教科書は使用せず、CoursePowerを通じて資料を配布します。
- ◇参考書：講義中に指示します。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇講義のなかで予習課題を指示します。

【その他の注意事項】

- ◇私語は厳禁です、違反者は、履修停止とします。
- ◇受講生の講義理解度に応じて、授業計画の順序を変更する場合があります。

消費者法	スミダ コウジ 隅田 浩司
Consumers Law	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、消費者法を学びます。世の中には悪徳商法や、いかがわしいビジネスにだまされて大金を巻き上げられてしまう人が沢山います。皆さんがそうならないためには、消費者法を学び、どんな悪徳商法があるのかをよく知る必要があるのです。特に景品表示法は、ビジネスをする上でも大切な法律です。なぜなら、景品表示法に違反した企業は、消費者の信頼を失うだけでなく、消費者庁又は関係省庁から行政命令や、課徴金という制裁を受け、さらに消費者団体から訴えられるからです。景品表示法違反等消費者法違反は、マスコミで報道されることもあります。ビジネスにおいて重要な消費者法を学ぶことによって、1)自分自身が、悪徳商法にだまされなくなり、2)消費者に配慮したビジネスを行うことができるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 経済や経営と法の関係の基礎を理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件・効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2) 法的論点を正確に理解し、議論することができる	法的論点を理解し、判例・学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3) 法的論点を含む実例に対して、法知識を応用し、問題解決を導くことができる	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4) 実践的な応用事例に対して、講義内容を活用し解決策を導出することができる	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む難易度の高い事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%
評価の方法	評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	消費者法総論	消費者問題と消費者法の全体構造を解説
2	消費者契約法総論	消費者契約法における基礎概念の解説
3	消費者契約とは	消費者契約の意義と論点について解説
4	不当勧誘規制 1	不当勧誘規制の概要及び不実告知などについて解説
5	不当勧誘規制 2	不利益事実不告知などについて解説
6	不当勧誘規制 3	困惑など不当勧誘規制について解説
7	不当勧誘規制 4	恋愛感情の利用など不当勧誘規制について解説
8	不当勧誘規制の課題	不当勧誘規制に関する今日的課題について解説
9	不当条項規制	不当条項に関する解説
10	景品表示法総論	景品表示法の全体構造について解説
11	優良誤認表示	優良誤認表示を中心に解説
12	有利誤認表示	有利誤認表示を中心に解説
13	景品規制、その他	景品規制など景表法、及びその他消費者法について解説
14	消費者法の最新論点	消費者法の最新トピックについて解説
15	総括・達成度の確認	授業の総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：教科書は指定しません、資料はすべてCoursePowerで配布します。
- ◇参考書：講義中に指示します。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇講義中に指示します。

【その他の注意事項】

- ◇私語は厳禁、違反者は履修停止とします。
- ◇受講生の講義理解度に応じて、授業計画の順序を変更する場合があります。

広告論 I	アライ マコト 荒井 誠
Principle of Advertising I	
発展科目／半期／2単位	

【授業概要】

ブランディングの基礎から、広告による意識変容のメカニズム、広告メディアの変遷／進化、SNS時代の新しい広告手法などを、実際の広告事例を通し学びます。

秋学期の「広告論Ⅱ」はこの科目の応用編となります。

皆さんは実際に広告を2回創作し、キャッチコピーやデザインなど広告創りの楽しさや難しさを体験します。

この科目で培われるコミュニケーション力は、将来、皆さんが広告業界と関らなくとも、社会人になり必ず役に立ちます。

長年広告ビジネスに携わっている広告マンならではの話も飛び出す授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告によって、人々の購買への意識がいかに変容するかを理解する。	これまで長年唱えられている意識変容のメカニズムに加え、SNS時代の新しいメカニズムを学習し、受講生自らの購買体験に照らしあわせながら確認していく。	20%
広告によるブランディングの基礎を理解する。	ブランドの定義と企業にとってのブランディング（＝ブランド構築）の重要性を理解するところから始める。 広告によりどのようにブランディングがなされるか、実際の広告事例を分析しながら確認していく	20%
広告づくりを通しコミュニケーション力を培う。	広告創作に実際に取り組むことにより、自らが考え自分の手を動かす体験を通し、伝えたい内容をきちんと表現するための知見や工夫を理解／習得していく。	30%
広告づくりで重要な世の中の流行に日頃から着目する意識を培う。	毎回、授業で取り上げる広告・プロモーション事例や、タイムリーな世の中の動きについて、各自がどのように受け止めたか、提出するコメントレポートにより確認していく。	30%
評価の方法 毎回授業後に提出するコメントレポートと、2回の広告創作への取組姿勢、最終回の学習達成度の確認テストから総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	アウトライン	広告論 I のイントロダクション
2	広告とは	広告の定義とマーケティング戦略における広告の役割
3	広告表現	広告表現における3つの力（言語／視覚／聴覚）
4	広告による意識変容	広告によるターゲットの意識変容のメカニズム
5	インサイト調査	ターゲットインサイトの把握のための調査（定量と定性）
6	広告効果測定	広告到達指標（リーチとフリークエンシー）
7	広告業務の基礎	広告主からのオリエンからプレゼンまでの流れ
8	ブランディング基礎①	ブランドの定義 ブランディング（＝ブランド構築）とは
9	ブランディング基礎②	ブランドプロミス／ブランドアイデンティティ
10	ブランディング基礎③	ブランドコミュニケーションの7要素
11	企業コミュニケーション	企業と生活者の接触ポイント
12	広告メディア	変化する生活者のメディア環境
13	SNS時代の広告	インターネット広告とSNSの活用
14	広告表現の留意点	広告に関する法律と自主規制
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇とくにありません。

【履修条件等】

◇皆さんに身近な話題やイベントを取り上げながら進めますので、特に広告に関心がなくても楽しめる授業内容となります。

自分の考えをどのように表現したらいいか、日ごろの生活におけるコミュニケーション力をどのようにつけたらいいか、などに関心のある学生を歓迎します。

秋学期の「広告論Ⅱ」はこの科目の応用編ですので、この科目から履修してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇皆さんの周りには多種多様な広告が溢れています。普段意識することは少ないと思いますが、自分の好きな広告、嫌いな広告に対し、何故好きなのか、どこが気に入らないのか、を考えるようにしてください。様々な企業や自治体のウェブサイトやSNS展開を閲覧し、誰に向かってどのような狙いで発信しているか、関心をもつよう心掛けてください。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

広告論 I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principle of Advertising I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

広告の基礎知識から広告管理の考え方までを理解する。現代社会において、広告はなくてはならない存在となっている。広告を行う広告主の立場だけでなく、広告ビジネスに関わる媒体社や広告会社の存在、広告の受け手である消費者の立場など、幅広い視点から広告を学ぶ。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告関連の専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告の定義、広告の種類、広告に関わる組織に関する用語を答えられること。	25%
広告と社会がどのように結びついているかを理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告主、広告会社、メディア、消費者が、どのように広告に関わっているかを答えられること。	25%
マーケティング活動と広告活動の関係性を広告主の立場から理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。マーケティングにおける広告の位置づけ、広告主の展開する広告活動がどのようなプロセスを経ているのかを答えられること。	25%
広告効果測定の方法と方法を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告効果の捉え方と測定方法について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	最近の広告事情	広告に関連する最新のトピックを取り上げ説明する。
3	広告の定義と種類(1)	広告の定義と種類について説明する
4	広告の定義と種類(2)	同上
5	マーケティング活動と活動広告	マーケティングにおける広告の位置づけについて説明する
6		
7	広告に関わる組織(1)	広告会社の機能と存在意義、種類について説明する
8	広告に関わる組織(2)	媒体社の機能と存在意義、種類について説明する
9	事例研究(2)	優れた広告活動の事例を取り上げて説明する
10	広告計画(1)	広告計画における概要と基礎を説明する
11	広告計画(2)	ターゲティング、予算計画、目標設定について説明する
12	広告計画(3)	媒体計画と表現計画について説明する
13	広告効果測定(1)	広告効果測定の枠組みを説明する
14	広告効果測定(2)	広告効果測定の具体的な方法について説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

◇参考書：田中洋，岸志津江，嶋村和恵編『現代広告全書 -- デジタル時代への理論と実践』（有斐閣）

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所を目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

広告論Ⅱ	アライ マコト 荒井 誠
Principle of Advertising II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

様々なブランディング戦略から、SNS時代のメディア戦略、さらに広告づくりに必要なネーミング／音楽／タレント／キャラクターなどを、実際の事例研究を通し学びます。春学期の広告論Ⅰを基礎編としての応用編となります。

春学期と同様に、実際に2回広告創作することを通し、広告創りの楽しさや難しさを体験します。

この科目で培われるコミュニケーション力は、将来、皆さんが広告業界と関らなくとも、社会人になり必ず役に立ちます。

長年広告ビジネスに携わっている広告マンならではの話も飛び出す授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告の訴求力を高める様々な工夫やクリエイティブ力を理解する	インパクトある広告づくりに必要な「ネーミング」「サウンド／音楽」「タレント／キャラクター」などの効用や工夫を、多くの成功事例をみながら学習することで確認していく。	20%
広告による企業の様々なブランディング戦略を理解する	企業による様々なブランディング戦略を、商品や事業のブランド展開から、ブランドの再生まで幅広く実例を取り上げながら学習することで確認していく。	20%
広告づくりを通しコミュニケーション力を培う	広告創作に実際に取り組むことにより、自らが考え自分の手を動かす体験を通し、伝えたい内容をきちんと表現するための知見や工夫を理解／習得していく。	30%
広告づくりで重要な世の中の流行に日頃から着目する意識を培う	毎回、授業で取り上げる広告・プロモーション事例や、タイムリーな世の中の動きについて、各自がどのように受け止めたか、提出するコメントレポートにより確認していく。	30%
評価の方法	毎回授業後に提出するコメントレポートと、2回の広告創作への取組姿勢、最終回の学習達成度の確認テストから総合的に評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	アウトライン	広告論Ⅱのイントロダクション
2	トリプルメディア	企業が活用するトリプル（3つの）メディア
3	広告会社のビジネス	広告主に対する広告会社の役割と広告ビジネスの流れ
4	ブランディング戦略①	商品／事業のブランド展開（サブブランド／PB）
5	ブランディング戦略②	ブランドの再生 企業の社会的責任（CSR）
6	ブランディング戦略③	ブランド価値の測り方
7	ブランディング戦略④	企業の様々なブランディング戦略の研究
8	ブランディング戦略⑤	スポーツを利用したブランディング
9	ネーミング	広告における商品やサービスの「ネーミング」の力
10	タレント／キャラクター	広告で起用する「タレント／キャラクター」の力
11	トレンド把握	今年の①ヒット商品②流行語大賞③漢字 の予想と分析
12	サウンド／音楽	広告に欠かせない「サウンド／音楽」の力
13	広報／PR	企業や自治体にとっての広報／PR戦略の研究
14	広告事例研究	様々な広告・プロモーション展開の事例分析
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇とくにありません。

【履修条件等】

◇皆さんに身近な話題やイベントを取り上げながら進めますので、特に広告に関心がなくても楽しめる授業内容となります。
授業を通し、自分の考えをどのように表現したらいいか、日ごろの生活におけるコミュニケーション力をどのようにつけたらいいか、などに関心のある学生を歓迎します。
春学期の「広告論Ⅰ」で学んだ基礎をベースとして授業を進めますので、「広告論Ⅰ」からの受講を勧めます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇皆さんの周りには多種多様な広告が溢れています。普段意識することは少ないと思いますが、自分の好きな広告、嫌いな広告に対し、何故好きなのか、どこが気に入らないのか、を考えるようにしてください。様々な企業や自治体のウェブサイトやSNS展開を閲覧し、誰に向かってどのような狙いで発信しているか、関心をもつよう心掛けてください。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

広告論Ⅱ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principle of Advertising II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

広告活動の具体的な側面に焦点を当てて学ぶ。具体的には、メディアプランニング、アカウントプランニング、グローバルコミュニティにおける広告活動、広告と規制などを取り上げる。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
メディアプランニングの専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。メディアプランニングのプロセスとメディアごとの用語を答えられること。	25%
アカウントプランニングの背景と用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。アカウントプランニングの背景と意義、専門用語を答えられること。	25%
グローバル広告の背景を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。グローバルなマーケティングや広告活動の発達過程や専門用語を答えられること。	25%
広告の法規や規制の背景と専門用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告規制の背景と専門用語について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	メディアプランニング(1)	マスメディアを中心としたメディアプランニングについて説明する
3	メディアプランニング(2)	OOHやスポンサーシップについて説明する
4	事例研究(1)	インターネットと広告との関係について学習する
5	アカウントプランニング	アカウントプランニングの背景とプロセスを説明する
6	日本の広告表現	日本における広告表現について説明する
7	グローバルコミュニティと広告	グローバルな広告主の広告活動について説明する
8	海外の広告表現	海外における広告表現について説明する
9	広告規制(1)	広告規制の概要と意義について説明する
10	広告規制(2)	広告に関する法規制について説明する
11	広告規制(3)	広告に関する自主規制と景品表示について説明する
12	比較広告	比較広告について説明する
13	プロフェッショナルサービスと広告	プロフェッショナルサービスにおける広告について説明する
14	医薬品と広告	医薬品における広告について説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

◇参考書：田中洋，岸志津江，嶋村和恵編『現代広告全書 -- デジタル時代への理論と実践』（有斐閣）

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

社会心理学 I	アザミ リツコ 薊 理津子
Social Psychology I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

他者と自己を比較する、困っている他者を助ける、自分を傷つけた他者に対して怒る、正直な他者に肯定的な印象を持つなど、我々は様々な人間関係の中で生活をしている。社会心理学では、これらの社会的行動を対象とし、社会的行動の背景にある心理的メカニズムを明らかにする。本授業では、社会心理学の様々な研究を紹介し、社会心理学の歴史や研究手法、自己、社会的認知、対人行動を扱う。この授業を受講することで、普段の行動の背景に、どのような心理的メカニズムがあるのかを考える契機としてほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
歴史と研究手法の理解	設問への回答およびリアクションペーパーの内容によって評価する。 社会心理学の歴史と研究手法を理解できる。	10%
自己の仕組みと理論の理解	設問への回答およびリアクションペーパーの内容によって評価する。 人間の内面である自己について、その仕組みや行動、理論を理解できる。	30%
社会的認知の仕組みと理論の理解	設問への回答およびリアクションペーパーの内容によって評価する。 我々は他者をどのように知覚・判断しているか、その仕組みや理論を理解できる。	30%
対人行動に関するモデル・理論の理解	設問への回答およびリアクションペーパーの内容によって評価する。 説得や攻撃行動、援助行動、対人魅力および恋愛行動といった対人行動のモデルや理論を理解できる。	30%
評価の方法 期末試験60%、リアクションペーパーによる平常点40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、学習への取り組み方、評価方法に関する説明
2	歴史と研究手法	社会心理学の歴史と研究手法
3	自己(1)	自己とは何か、自己認知、自己評価、
4	自己(2)	自己にかかわる動機
5	自己(3)	自己意識と社会的行動
6	自己(4)	自己開示と自己呈示
7	社会的認知(1)	スキーマ、ヒューリスティック、原因帰属
8	社会的認知(2)	態度
9	社会的認知(3)	ステレオタイプと偏見
10	社会的認知(4)	感情が認知と行動に及ぼす影響
11	対人行動(1)	説得的コミュニケーション
12	対人行動(2)	攻撃行動
13	対人行動(3)	援助行動
14	対人行動(4)	対人魅力と恋愛
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇参考図書：池上知子・遠藤由美（著）『グラフィック社会心理学 第2版』サイエンス社
山田一成・結城雅樹・北村英哉（編著）『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房

【履修条件等】

- ◇「社会心理学Ⅱ」も受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇各回の内容に記載されているワードを調べる。その上で、自分自身の経験や他者の行動を振り返る。

【その他の注意事項】

- ◇授業中の私語・携帯電話の使用・遅刻については厳禁である。

社会心理学 I	サトウ エミ 佐藤 恵美
Social Psychology I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

社会心理学は人間がその場の状況や他の人々社会とのかかわりの中で、どのような影響を受けて行動するのかという視点から、実証的な研究を通して人間を研究する学問である。

本講義では、社会的な人間の行動を“社会の中の個人”と“個人と集団・組織との関わり”の観点から理解することを目的とする。「社会心理学 I」では社会の中での個人と対人関係に焦点を当て、社会の中で生活する個人のパーソナリティの認知、他者理解のための対人認知、他者のパーソナリティの認知の観点を解説し、自己や他者のパーソナリティ理解を深めることを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己とパーソナリティ	自己概念、自己評価、自尊心など自己に関するさまざまな側面から「自分とは何か？」を考える。そこから、社会の中で生活するパーソナリティの側面に目を向け、他者と関わる自己について理解する。	30%
対人認知と社会的認知	他者を認知し、性格を推測する対人認知の分野を概観する。個人の認知スタイルはその人の原因帰属によって環境の捉え方が異なることを理解する。	30%
態度と態度変容	社会行動を予測・説明するための態度の感情的成分、認知的成分、行動的成分を概観する。さらに、態度が変化するための説得的コミュニケーションの情報処理過程について理解する。	20%
対人関係とコミュニケーション	言語的・非言語的コミュニケーションを概観し、情報伝達の影響とその認知過程を理解する。さらにコミュニケーションとしての対人行動から生じる対人葛藤の認知、感情、動機的な側面を理解する。	20%
評価の方法 本試験50%、中間試験20%、レポート20%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	社会心理学とは	社会心理学とは
3	自己	自己の概念と形成、自己評価と自尊心
4	パーソナリティ	状況による人間行動と社会におけるパーソナリティ
5	対人認知	対人認知の特徴と暗黙の人格理論
6	帰属理論	帰属理論、対人認知と感情
7	社会的認知	ステレオタイプ、偏見と差別の認知的メカニズム
8	態度	態度とその諸属性、認知的均衡と態度変化
9	態度変化と説得	説得の受容と拒否、説得的コミュニケーション
10	攻撃と社会勢力	人間の攻撃性と社会的勢力
11	援助行動	援助行動とその規定要因
12	魅力と対人関係	対人魅力の規定因、対人関係の問題と認知の歪み
13	非言語情報	コミュニケーション手段としての非言語
14	対人葛藤と交渉	対人葛藤と認知、感情、動機
15	総括、達成度の確認	総括および学修達成度の確認のためのテスト

【使用教材】

- ◇教科書：潮村公弘・福島治（編著）『社会心理学概説』北大路書房
（「社会心理学Ⅱ」と同様）。

【履修条件等】

- ◇「社会心理学Ⅱ」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

- ◇レポート等、提出物は必ず提出すること。

社会心理学Ⅱ	アザミ リツコ 薊 理津子
Social Psychology II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

自分が所属している集団の意見に同調する、マスメディアの情報によって態度を決定するなど、我々は集団や社会から影響を受けて生きている。社会心理学では、これらの社会的行動を対象とし、社会的行動の背景にある心理的メカニズムを明らかにする。本授業では社会心理学の様々な研究を紹介し、集団、集合、情報と社会、健康と幸福、文化を扱う。この授業を受講することで、普段の行動の背景に、どのような心理的メカニズムがあるのか、また、我々は社会からどのような影響を受けているのかを考える契機としてほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
集団における個人の心理と行動の理解	設問への回答およびリアクションペーパーの内容によって評価する。 集団の中で個人の心理・行動がどのような影響を受けるのか、また理論を理解できる。	30%
集合としての心理・行動、マスメディアによって受ける影響についての理解	設問への回答およびリアクションペーパーの内容によって評価する。 集合心理・行動に関する知見を理解できる。マスメディアによる影響についての知見と理論を理解できる。	30%
健康と幸福についての理解	設問への回答およびリアクションペーパーの内容によって評価する。 ストレスとその対処、サポート、幸福感と健康に関する知見および理論を理解できる。	20%
文化によって影響を受ける心の仕組みの理解	設問への回答およびリアクションペーパーの内容によって評価する。 文化によって影響を受ける心の仕組みを理解できる。	20%
評価の方法 期末試験60%、リアクションペーパーによる平常点40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、学習への取り組み方、評価方法に関する説明
2	個人と集団(1)	他者の存在が個人に及ぼす影響
3	個人と集団(2)	リーダーシップ
4	個人と集団(3)	同調と服従
5	個人と集団(4)	内集団と外集団
6	個人と集団(5)	協同と競争
7	集合(1)	集合過程、群衆
8	集合(2)	パニック、災害
9	集合(3)	ファン心理
10	情報と社会	マス・コミュニケーションによる影響
11	健康と幸福(1)	ストレスとコーピング、ソーシャルサポート
12	健康と幸福(2)	幸福感と健康
13	文化(1)	文化的自己観
14	文化(2)	個人主義と集団主義、一般的信頼
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇参考図書：池上知子・遠藤由美（著）『グラフィック社会心理学 第2版』サイエンス社
山田一成・結城雅樹・北村英哉（編著）『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房

【履修条件等】

- ◇「社会心理学Ⅰ」も受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇各回の内容に記載されているワードを調べる。その上で、自分自身の経験や他者の行動を振り返る。

【その他の注意事項】

- ◇授業中の私語・携帯電話の使用・遅刻については厳禁である。

社会心理学Ⅱ	サトウ エミ 佐藤 恵美
Social Psychology II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

社会心理学は、人間がその場の状況や他の人々社会とのかかわりの中で影響を受けてどのように行動するのかという視点から、実証的な研究を通して人間を研究する学問である。「社会心理学Ⅱ」では、“個人と集団・組織との関わり”の観点から集団行動の理解と組織での人間行動の理解を目的とする。集団の中にいる時の個人の行動として援助行動、集団意思決定と生産性、社会的勢力などを理解し、さらに組織で生じる集団構造やリーダーシップの観点から人間の行動の理解を深めることを解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
集団と集団過程	集団の構造、成員性、集団間の関係を通して集団が認知と行動に及ぼす影響力について概観する。さらに、同調、集団とパフォーマンス、集団意思決定など集団内での相互作用とその影響を理解する。	30%
組織と個人	組織に所属する個人の心理や行動傾向に焦点を当て、さらに組織の構造や環境への適応に関する焦点を概観する。そこから、組織と個人の相互作用のプロセスに着目した経営組織について理解する。	30%
情報と社会	社会的ネットワークとメディアコミュニケーションについて概観する。身近な社会的ネットワークからマスメディアが構成する情報環境、さらにソーシャルネットワークとの関連性について理解する。	20%
健康と幸福	社会での適応と不適応状態の心理・行動について概観する。不適応状態におけるストレスと行動、さらに犯罪行動と集団非行を概観し、社会的な適応とストレス対処から幸福とは何かを理解する。	20%
評価の方法 本試験50%、中間試験20%、レポート20%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	集団とは	集団とアイデンティティ
3	集団間関係	集団成員性と集団同一視
4	集団過程	同調と服従、集団とパフォーマンス
5	集団意志決定	集団意志決定と集団の生産性
6	組織と個人(1)	仕事への動機づけ
7	組織と個人(2)	人事アセスメントと組織コミットメント
8	リーダーシップ	リーダーシップの歴史的変遷と現在の潮流
9	社会的公正	価値の相対性と手続き的公正、衡平理論
10	社会的ジレンマ	社会的ジレンマと協力行動
11	群集心理	群集心理、緊急時の集合行動、流言
12	情報と社会	情報と社会的ネットワーク、マスメディアと世論
13	非行と更正	犯罪原因論の発想、集団非行の発生過程と更正
14	健康と幸福	適応、ストレスとコーピング、ソーシャルサポート
15	総括、達成度の確認	総括および学習達成度の確認のためのテスト

【使用教材】

- ◇教科書：潮村公弘・福島治（編著）『社会心理学概説』北大路書房
（「社会心理学Ⅰ」と同様）。

【履修条件等】

- ◇「社会心理学Ⅰ」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

- ◇レポート等、提出物は必ず提出すること。

認知心理学	サトウ エミ 佐藤 恵美
Cognitive Psychology	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

認知とは、外界にある対象を知覚することで、解釈や判断を行う過程のことである。このため、知覚、記憶、理解、学習、問題解決、推論など人間の認知機能を研究対象とし、人間をコンピュータと同様に情報を処理するシステムであるとする考え方をとる。この手法として、実験心理学、認知神経科学、人工知能研究、進化心理学などさまざまなアプローチ法によって、こころの理解を目指す分野である。このような人間の情報処理システムの基礎知識を習得し、日常生活や産業場面においてどのように使われているかを理解することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
知覚の基礎	人間の情報処理システムと認知の関係について理解し、環境からの情報獲得として、特に「見る」という視覚の働きから高次の知覚である脳で「理解」することへのプロセスを解説する。	30%
表象とヒューマンエラー	アナログ表象、心的イメージを理解し、表象の脳機能からスキーマと手続き的知識の表現について解説し、日常生活や産業部面で生じるヒューマンエラーについて理解する。	20%
記憶と言語	日常的な記憶や意識、ワーキングメモリについて解説し、生活の中での記憶や自伝的記憶などの特徴から、無意識に関連する潜在記憶についての性質について理解する。	20%
問題解決と推論	問題解決における探索と推論の形態について解説する。意思決定研究からヒューリスティックスに関する実証的研究を踏まえ、会議、議論、消費行動における意思決定とその誤りについて理解する。	30%
評価の方法	本試験70%、レポート30%、平常点（授業態度など）10%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	認知心理学とは	人間の情報処理システムと認知
3	知覚の基礎	五感と視覚の基本属性 – 環境の知覚
4	認知発達	認知発達と視覚認知
5	高次の知覚	顔の認識と身体感覚 – 「見る」ことから「理解」することへ
6	注意	選択的注意と視覚的注意
7	表象とイメージ	心的イメージとスキーマ
8	認知進化と脳	脳の進化と表象の脳機能
9	ヒューマンエラー	手続き知識とヒューマンエラー
10	記憶	記憶とワーキングメモリ、目撃者と偽りの記憶
11	言語	言語処理の認知モデルと脳
12	問題解決と推論	問題解決の過程と推論、演繹推論と帰納推論
13	判断と意思決定	選択の歪みと判断の落とし穴
14	ヒューリスティックス	ヒューリスティックスとバイアス
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：基礎から学ぶ認知心理学 人間の認識の不思議 有斐閣ストディア

服部雅史 小島治幸 北神慎司

【履修条件等】

◇「心理学」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇教科書は必ず持参すること。レポート等、提出物は必ず提出すること。

リスク・マネジメント	ミヨシ ヨウスケ 三好 陽介
Risk Management Theory	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネスにおいてさまざまな意思決定を行うためには、メリットとデメリットを適切に比較することが必要になります。その際、意思決定に必要な情報が揃っていることはほとんどなく、多くの場合は不十分な情報をもとに判断することになります。

この授業では「リスク」について、1)不確実な将来を、現時点で評価するための方法と、2)起きてしまっは困る事態に対して、どのように備えるか、の2つの観点から考えます。各回の授業では講義のほか演習を行い「リスク」について学ぶことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) リスクの種類と重要度についての理解	講義内容を理解し、リスクの種類と重要度についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
2) リスクの予防や対策についての理解	講義内容を理解し、リスクの予防や対策についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
3) メリットとデメリットの比較による合理的意思決定についての理解	講義内容を理解し、合理的な意思決定についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
4) リスクマネジメントを踏まえた意思決定についての理解と実践	上記、学習・教育目標の1)2)および3)をふまえた基本的な意思決定手法について、自らの状況と関連付けて考えることができたか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席：最低でも70%（11回）以上出席すること。 ・ 評価配分は、期末試験およびレポートを50%、受講態度および授業への貢献を50%とします。 	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	
2	リスクの予測	どんなリスクがあるかを「感じる」
3	リスクの選別	対策すべきリスクを選ぶ
4	リスクの見きわめ	ダメージ、発生確率により対応すべきリスクを選ぶ
5	リスクの対策(1)	さまざまなリスク対策法について学ぶ
6	リスクの対策(2)	いまやれる対策と長期的な対策
7	演習	これまでの学習内容についての演習を行い、理解を深める
8	合理的意思決定(1)	メリットとデメリットをリスクの観点でとらえる
9	合理的意思決定(2)	理想と現実の差：「問題」と、現実的対策としての「課題」
10	リスクを低減して未来を切り拓く	リスクに適切に対策し、デメリットを低減して成功確率を上げるための考え方
11	演習	これまでの学習内容についての演習を行い、理解を深める
12	模擬交渉(1)準備	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
13	模擬交渉(2)交渉	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
14	まとめ	これまでの授業で学んだ内容を各自総括し、学習目標の達成度について自己評価し、理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇とくに教科書は指定せず、随時参考資料を紹介します。また、オリエンテーションにて参考図書を紹介します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業において、資料やウェブサイト等を指定し、予習課題を提示する場合があります。詳細は授業中の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- ◇最低出席率（70％）を満たすこと。不正出席者は履修停止とします。
- ◇授業中の私語は厳禁。これを守れない者には退席を命じ、履修停止とします。
- ◇30分以上の遅刻は50％欠席とします。

財務会計論 I	コモリ ヒデト 小森 秀人
Financial Accounting I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

企業会計には、企業外部の株主、金融機関、取引相手、社会等の利害関係者に報告するための財務会計と、企業内部の経営者・管理者に報告するための管理会計がある。外部に報告する以上、企業によって異なる勝手な基準で作った数字を勝手な表示で報告されては、外部はこまる。業界内での他社との公正な比較や理解と評価ができないからである。故に財務会計には明確なルールがありそれによって作成・情報開示・報告するわけである。

財務会計の報告数字は、企業の戦略と活動の結果である。故に、この数字を通して自社やG会社、顧客企業・潜在顧客企業、投資先企業等とその活動を把握し理解することも、分析することもできる。故に現代では、ビジネスマンの基礎インフラといわれる。学生の皆さんは、これを学ぶことによって、卒業後の社会人としての基礎的力を身につけることになる。講義は、世界の代表的金融機関と日本の事業会社財務部門での双方（企業内外からの視点）の実務経験をふまえ、わかりやすく楽しく、事例を交えながら実践的に理解を深めるべく務めたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営と財務会計の関係、財務諸表の意味・体系とルール・法制度の理解	設問に対する回答で評価	20%
企業活動と B/S の関係、B/S の構成と主たる科目、資産と負債の本質理解	設問に対する回答で評価	30%
企業活動と P/L の関係、段階利益の意味、収益費用の認識測定の基本の理解	設問に対する回答で評価	30%
P/L と B/S の関係、外貨換算・リースの基本、会計方針株主総会・定款の意味理解	設問に対する回答で評価	20%
評価の方法	平常点10% 試験90%（確認テスト含む） 単位評価は3分の2以上の出席が前提（病気入院等の正式な欠席届—証明付きおよび4年生の就職面接での正式な届けがあれば配慮する）。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概要、会計とは何か	講義の概要、会計の種類、企業活動（経営）と財務会計
2	財務諸表とは何か	財務諸表の体系、3種類の財務諸表、法制度、
3	会計原則と会計基準	企業活動と情報開示・報告のルール、（各国基準の例）
4	B/S とは何か 資産 1	企業活動と B/S B/S 全体構造、資産の本質、流動資産事例
5	資産 2	固定資産、繰り延べ資産、事例 貸倒引当金と減価償却
6	資産 3、負債とは何か	資産の評価方法、負債の本質、流動負債と固定負債
7	純資産とは何か	出資と利益留保の各表示科目、評価換算差額等 包括利益
8	P/L とは何か	企業活動と P/L、段階利益と意味 費用の見方 事例
9	P/L II	製造原価と売上原価、製造原価明細書、収益費用の認識測定
10	B/S と P/L の関係	収益費用の認識測定、企業活動と決算、B/S と P/L の関連
11	外貨換算会計	外貨の換算会計
12	リース取引の会計	ファイナンスリースとオペレーティングリース
13	会計方針等	資産理論評価、会計方針の種類、注記事項、時価会計経過
14	株主総会と財務会計	計算書類の体系、総会の通知、定款の重要性、決算公告、補論等
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※（予定は以上であるが、受講生の状況によっては、取捨選択、基本知識導入、前後調整等あることを了解されたい）

【使用教材】

◇リーディングテキスト『会計学入門（第5版）』日経文庫、桜井久勝
クラスでは必要に応じて各種資料を配布する。

【履修条件等】

- ◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」を履修した学生、または「入門簿記Ⅰ」と「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」（または「経営学」）を履修した学生を対象とする。
- ◇本講義は、「財務会計論Ⅰ」と「財務会計論Ⅱ」を連続して履修することを条件。
将来社会人（就職、起業含め）として、グローバルな社会で生き延びる力の1つの基礎知識インフラを身につけたい学生、さらに将来資格（証券アナリスト、税理士、公認会計士）をとることに興味や関心がある学生—従って出席を重視する。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記」や「会計学」、「経営学」の復習。
経営や会計、さらにその事業環境としての日本とアジア、世界の経済・金融と産業の動向に興味を持って、新聞や専門誌等を読む癖を身につけてください。

【その他の注意事項】

- ◇私語、携帯電話の使用（メール、ウェブ閲覧含む）は厳禁。
注意しても聞かない悪質な場合は退場の処置をとることを留意されたい（退場が重なると大変残念ではあるが単位は付与されないことになるので注意されたい）。

財務会計論Ⅱ	コモリ ヒデト 小森 秀人
Financial Accounting II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

財務会計は、企業外部に報告するための会計である。外部に報告する以上、企業によって異なる勝手な基準で作った数字を勝手な表示で報告されては、外部はこまる。故に財務会計には明確なルールがありそれにとって作成・情報開示・報告するわけである。

財務会計の報告数字は、企業の戦略と活動の結果である。故に、この数字を通して自社やG会社、顧客企業・潜在顧客企業、投資先企業等とその活動を把握し理解することも、分析することもできる。故に現代では、ビジネスマンの基礎インフラといわれる。「財務会計Ⅱ」では、「財務会計Ⅰ」の内容を踏まえ、連結と資産負債等の各論の会計処理、ROE等財務分析に焦点が当たる。合わせて国際会計基準にも言及している。学生の皆さんは、これを学ぶことによって、卒業後に、グローバル化し行く現代と未来において、必要な社会人としての基礎的力を身につけることになる。講義は、世界の代表的金融機関と日本の事業会社財務部門での双方（企業内外からの視点）の実務経験をふまえ、わかりやすく楽しく、事例を交えながら実践的に理解を深めるべく務めたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
個別と連結の違い、連結財務諸表の体系、連結CF表の見方を理解する	設問に対する回答によって評価	30%
資産会計、負債会計、純資産会計の基本の理解	設問に対する回答によって評価	30%
総合指標 ROE と ROA と各指標の理解 分解方法と関連の理解	設問に対する回答によって評価	30%
国際会計基準とは何か、それと日本基準の大きな違いの理解	設問に対する回答によって評価	10%
評価の方法 平常点10%、試験90%（確認テスト含む） 単位評価は3分の2以上の出席が前提（病気入院等の正式な欠席届—証明付きおよび4年生の就職面接での正式な届けがあれば配慮する）。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概要、連結とは何か	講義の概要、連結と個別の違い、子会社、関連会社等
2	連結財務諸表とは何か	被支配株主、連結 G 資本戦略、日米財務諸表の体系等
3	連結財務諸表Ⅱ	連結決算への流れ、連結CF計算書解説、見方と分析 事例
4	企業会計原則	会計基準 1
5	企業会計原則	会計基準 2
6	資産会計各論Ⅰ	金融商品、金融資産、金銭債権 有価証券
7	資産会計各論Ⅱ	棚卸資産、有形固定資産、減価償却、無形固定資産
8	資産会計各論Ⅲ	固定資産の減損会計
9	負債会計各論	金銭債務、引当金、退職給付の会計
10	純資産会計	株主資本、配当、自己株式、新株予約権、包括利益
11	財務分析Ⅰ	定量分析と定性分析、傾向分析と比率分析、総合指標 ROEROA
12	財務分析Ⅱ	収益性と効率性、生産性、安全性と財務格付け、セグメント分析
13	国際会計基準Ⅰ	世界の2大基準、その体制、財務諸表の体系、早期適用状況
14	国際会計基準Ⅱ	日本基準との違い、見方における大事な論点
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する（試験）

※（予定は以上であるが、受講生の状況によっては、取捨選択、基本知識導入、前後調整等あることを了解されたい）

【使用教材】

◇リーディングテキスト『会計学入門（第5版）』日経文庫、桜井久勝
クラスで必要に応じて各種資料を配布予定。

【履修条件等】

- ◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」を履修した学生、または「入門簿記Ⅰ」と「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」（または「経営学」）を履修した学生を対象とする。
- ◇本講義は、「財務会計論Ⅰ」と「財務会計論Ⅱ」を連続して履修することを条件。
将来社会人（就職、起業含め）として、グローバルな社会で生き延びる力の1つの基礎知識インフラを身につけたい学生、さらに将来資格（証券アナリスト、税理士、公認会計士）をとることに興味や関心がある学生—従って出席を重視する。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「財務会計論Ⅰ」の復習（必要な場合、入門簿記・経営学も復習）。
経営や会計、更にはその事業環境としての日本とアジア、世界の経済・金融と産業の動向に興味を持って、新聞や専門誌等を読む癖を身に付けてください。

【その他の注意事項】

- ◇私語、携帯電話の使用（メール、ウェブ閲覧含む）は厳禁。
注意しても聞かない悪質な場合は退場の処置をとることを留意されたい（退場が重なると大変残念ではあるが単位は付与されないことになるので注意されたい）。

管理会計論 I	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Management Accounting I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

管理会計とは、組織管理・経営企画等に不可欠な経営情報を提供する理論と技術であると言えます。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に数値情報を算出するだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるか、数値情報をどのように経営管理に用いるかについて理解する必要があります。その中で春学期は、企業がどのような数的根拠を用いて、利益最大化を常に達成し続けるための業績評価を行っているかといった、業績評価に関するテーマを学習します。

講義は、解説→演習の流れで行い、講義毎のテーマが講義中に理解できるよう進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
標準原価計算を理解する	設問に対する回答により評価します。 とくに、同じ計算手続きに用いるデータの違い・データの違いにより生じる差が、経営管理上でどのように活用されるか理解してください。	30%
直接原価計算と全部原価計算を理解する	設問に対する回答により評価します。 直接原価計算と全部原価計算の計算手続き上のとく徴を理解することが重要です。	30%
CVP分析とその利活用に関して	設問に対する回答により評価します。 CVP分析が必要になる場面、得られた情報をどう解釈するかを理解することと、計算手続きの一連の流れを理解することが必要になります。	30%
経営シミュレーションゲームを通して管理会計上で使われる経営情報の有用性を確認する	講師が作成した経営シミュレーションゲームを受講者全員でプレイしてもらいます。そのゲームを通して生じるデータから管理会計上で生じる経営情報を作成し、その活用を実体験することで、管理会計が経営管理を行う上で必要であることを理解ください。	10%
<p>評価の方法 ・3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点30%、期末試験60%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題および小テストは、中間テストの形式で実施を予定しております。 ・貢献点は、経営シミュレーションゲームを行った講義後および、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。 		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義に関連する日商簿記検定試験に関する説明、本講義の進め方、評価方法などに関する説明
2	管理会計概論	管理会計に関する基礎知識を学ぶ
3	管理会計の発達史	管理会計が歴史的にどのように発達してきたか学ぶ
4	組織と管理会計	経営を管理するうえで、企業がどのような組織形態を持っているのかなど、経営組織について学ぶ
5	組織と経営計画	経営組織を利益最大化目的に沿って行動させるための経営計画について学ぶ
6	管理会計と経営戦略	管理会計の中で用いられる経営戦略の手法などを学ぶ
7	利益計画と直接原価計算	原価計算の手続きを用いてどのように具体的な利益計画が作られるか学ぶ
8	プロダクトミックス	より複雑な利益計画を線形計画法を用いて学ぶ
9	中間テスト	テスト
10	責任会計と業績評価	経営組織の評価を行う手法を学ぶ
11	業績評価と標準原価計算	計画値と実際値を用いた業績評価の技法を学ぶ
12	業績評価と活動基準原価計算	比較的新しく出てきた活動基準原価計算を用いた業績評価を学ぶ
13	業績評価会計まとめ	業績評価会計で学んだことをまとめる
14	前期講義内容まとめ	まとめ
15	期末試験	

【使用教材】

- ◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。
- ◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。
- ◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

- ◇「工業簿記Ⅰ」・「工業簿記Ⅱ」若しくは、日商簿記2級同等の知識を有することを前提とします。難易度の高い計算演習を行うため、その事を念頭に講義を受講してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇講義中だけでは問題演習をこなすことは出来ないため、必要に応じて講義終了後に課題を出します。必ず課題を行うようにしてください。

【その他の注意事項】

- ◇電卓は、PCや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。
- ◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。
- ◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

管理会計論Ⅱ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Management Accounting II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

管理会計とは、組織管理・経営企画等に不可欠な経営情報を提供する理論と技術であると言えます。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に数値情報を算出するだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるか、数値情報をどう経営管理に用いるかについて理解する必要があります。秋学期は、企業が意思決定を行う際に、どのような数的根拠を用いて合理的に意思決定を行うのか、といった意思決定に関するテーマを学習します。その後に興味のあるテーマを元にグループワークを行ってまいります。このグループワークという作業を通して管理会計上のマネジメント手法の理解を深めるとともに、グループワークの難しさを理解し習得していただければ幸いですし、きっと就職活動などにも役に立つことがあるかと思えます。一緒に頑張っていきましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
管理会計がなぜ必要なのかを理解する	管理会計情報でなぜ経営管理を行うことや業績管理を行うことなどが可能になるのかを理解しましょう。	30%
会計情報と業績管理の関連性を理解する	業績管理をするときに、どのような会計情報が求められるのか、会計情報をどの様に使うのかを理解しましょう。	20%
管理会計を行う上での組織の在り方との関係を理解する	企業の組織構成というものは様々な形があることは言うまでもないでしょう。様々な組織がある中で、管理会計手法に違いはあるのか、それとも共通性があるのか設例を通して学びましょう。	20%
グループワークを通して、管理会計の事例を研究しよう	管理会計の理論を講義で学んだあとに、興味のある管理会計手法に関してグループワークを行うことで理解を深めましょう。その中で、プレゼンの仕方・資料の作り方など指導します。	30%
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、期末試験30%、グループワーク60%で評価します。※期末試験・グループワークに関しては講義中に補足説明します。 ・ グループワークのグループ決めは講義第二回目に行います。必ず出席するようにしてください。 ・ 貢献点は、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。 	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	前期の復習	前期学習した業績評価会計に関する復習
3	業務的意思決定会計 —基礎編—	様々なケースで企業がいくら損をしたとみなすか考察していきます
4	業務的意思決定会計 —受注か自製か—	企業が二者択一意思決定案件に際して、管理会計技法を用いてどのような合理的な判断を下すか学習します
5	業務的意思決定会計 —まとめ—	今までの内容をまとめ、短期の意思決定に関する理解を深めます
6	設備投資の意思決定 —基礎編—	多くの会計の場合、利益が意思決定の根拠とされることが多いが、長期的意思決定の場合、キャッシュに着目する。そのことに関して学習する
7	設備投資の意思決定 — お金の時間的価値について—	今の100万円と1年後の100万円の価値を考えることを起点に、お金の時間的価値について学ぶ
8	設備投資の意思決定 — タックスシールドについて—	会計は貨幣的な支出を伴わない支出などがある。そういった場合、税金にどのように影響を及ぼすか学習する
9	設備投資の意思決定 —実践編1—	実際のケースを使って設備投資の意思決定を行う
10	設備投資の意思決定 —実践編1—	実際のケースを使って設備投資の意思決定を行う
11	グループワーク準備	グループワークの進め方など
12	グループワーク準備	グループワーク進捗管理
13	グループワーク発表(1)	グループで調べた内容のプレゼンおよび評価
14	グループワーク発表(2)	グループで調べた内容のプレゼンおよび評価
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。
- ◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

- ◇「工業簿記Ⅰ」・「工業簿記Ⅱ」若しくは、日商簿記2級同等の知識を有することを前提とします。また、グループワークを行いますので途中で履修を取りやめる方はご遠慮ください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇グループワークの内容が決まり次第、各グループで報告に向けてリサーチをすること

【その他の注意事項】

- ◇電卓は、PCや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。
- ◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。
- ◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

専門演習 I	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Specialized Seminar I	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：管理会計

「管理会計」は、経営管理に役立つデータ（＝企業内部における業績評価や意思決定に資する）を提供するための会計です。本演習においては、実際の経営活動に的を絞り、これら経営活動に惹起する諸問題に対し「管理会計」をどのように把握し、使いこなしていくかを、経営者の立場に立って主体的に考え、管理会計上必要な問題探求能力と問題解決能力を養うことまでを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的前提に関する知識の修得の有無の確認	管理会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
管理会計に関する基礎的な理解の確認	管理会計に関する基礎的な知識について、毎回の基礎的な理解の程度授業での質疑応答により、その修得の確認をする。	30%
管理会計に対する理解の深度の程度の確認	管理会計の意義、必要性、現状においての問題点の把握とその解決のための素養を修得しているか否かにつき、毎回のディスカッションと課題レポートにより確認する。	40%
<p>評価の方法 授業への参加度60%、課題レポート30%、試験10%により総合的に評価する。</p>		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	管理会計の基礎(1)オリエンテーション	16	管理会計の応用(4) ケーススタディ(3)
2	管理会計の基礎(2) 会計の意義(1)財務会計&管理会計	17	管理会計の応用(5) ケーススタディ(4)
3	管理会計の基礎(3) 会計の意義(2)財務会計&管理会計	18	管理会計の応用(6) ケーススタディ(5)
4	管理会計の基礎(4) 会計の意義(3)財務会計&管理会計	19	管理会計の応用(7) ケーススタディ(6)
5	管理会計の基礎(5) 管理会計の役割&機能(1)	20	管理会計の応用(8) ケーススタディ(7)
6	管理会計の基礎(6) 管理会計の役割&機能(2)	21	管理会計の応用(9) ケーススタディ(8)
7	管理会計の基礎(7) 管理会計の役割&機能(3)	22	管理会計の応用(10) テーマ別発表準備(1)
8	管理会計の基礎(8) 管理会計の役割&機能(4)	23	管理会計の応用(11) テーマ別発表準備(2)
9	管理会計の基礎(9) 管理会計の役割&機能(5)	24	管理会計の応用(12) テーマ別発表準備(3)
10	管理会計の基礎(10) 管理会計の役割&機能(6)	25	管理会計の応用(13) テーマ別発表(1)
11	管理会計の基礎(11) ケーススタディにむけての準備(1)	26	管理会計の応用(14) テーマ別発表(2)
12	管理会計の基礎(12) ケーススタディにむけての準備(2)	27	管理会計の応用(15) テーマ別発表(3)
13	管理会計の応用(1) 応用に向けてのオリエンテーション	28	管理会計の総まとめ(1)
14	管理会計の応用(2) ケーススタディ(1)	29	管理会計の総まとめ(2)
15	管理会計の応用(3) ケーススタディ(2)	30	演習の振り返り

【使用教材】

- ◇教科書：演習中に指示します。
- ◇参考書：とくになし。

【履修条件等】

- ◇会計の基本（授業としては、「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」）科目を履修していることが望ましい。履修していない場合には、会計全般に関する基本的な知識を会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇基礎 1～12までは、管理会計の基礎について基本的論点、課題を提示する。
応用 1～15では、ゼミ生各自（グループ別）研究テーマの決定、各テーマについての調査、中間発表、レポートの作成および秋学期のゼミ発表大会への準備を中心に作業する。
履修者は、あらかじめ、少なくとも、会計に関する基礎的知識を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇成績評価としては、出席状況とゼミディスカッションにおける「貢献度」を重視する。

専門演習 I	イナミ カズエ 伊波 和恵
Specialized Seminar I	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：心理学、ストレス・マネジメント、コミュニケーション

本演習では、心理学、とくに心理社会的適応を基本テーマに知識習得を進めます。成人期～壮年期のビジネスパーソンが置かれている職場・家族を含む社会的対人的環境についての知識と理解を深め、ストレス・マネジメント、心理カウンセリングやコミュニケーションスキルについて学びます。

春学期はよりよい論文執筆ならびにチーム・プロジェクトのマネジメント方法についての学びを深めます。

秋学期は、グループワークやプレゼンテーションを通じて、各種調査法や企画立案を覚えるとともに、質疑応答やディスカッションのマナーと方法を身につけられるようにします。年間を通じて、多様なプレゼンテーションやディスカッション、資料作成が展開できるように学習を進めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ゼミ論文① (推敲・企画と作成)	①昨年度執筆のゼミ論文の相互見直し(推敲)作業のスキルについて評価する。②テーマ設定から文献研究、調査、論文執筆といったプロセスならびに最終的なレポート報告まで、一定の水準で自律的に達成できていること。ゼミ合宿時の中間報告・中間提出(推敲含む)を評価する。	20%
ゼミ論文② (執筆)	体裁、テーマ、構成、論考等の複数の観点から、期日までに提出されたレポートの完成度をみる。	20%
グループワーク (ディスカッション、プレゼンテーション)	①チーム・プロジェクトにおいて何らかの役割をどのように果たしているか、そのプロセスと成果を評価する。(たとえば、資料の収集、レジュメやプレゼンテーション資料の作成、自己表現や意見交換の方法など)②チーム・マネジメントを評価する。 ②日頃のプロジェクトへの参加態度、完成したプレゼンテーションについて評価する。	40%
チームワークとゼミ運営・参加 (コミュニケーション)	日頃の演習授業ならびに運営への参加態度から、コミュニケーションスキルやボランティア・スピリッツという観点で、ゼミへの貢献度を評価する。	20%
評価の方法 ・ゼミ論文40% ・課題・グループワークへの取り組みとプレゼンテーション40% ・授業参加度・平常点(行事参加等含む)20%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ顔合わせ	16	グループワーク②-1
2	プレゼンテーション	17	グループワーク②-2
3	ゼミ論文①-1	18	グループワーク②-3
4	ゼミ論文①-2	19	グループワーク②-4
5	ゼミ論文①-3	20	グループワーク②-5
6	ゼミ論文①-4	21	ゼミ論文 中間提出
7	ゼミ論文①-5	22	グループワーク②-6
8	ゼミ論文①総括・グループワーク準備	23	グループワーク②-7
9	グループワーク①-1	24	グループワーク②-8
10	グループワーク①-2	25	グループワーク②-9 *ゼミ発表大会
11	グループワーク①-3	26	グループワーク②-10
12	グループワーク①-4	27	グループワーク②総括
13	グループワーク①-5	28	ゼミ論文②-1
14	グループワーク①-6・総括	29	ゼミ論文②-2
15	ゼミ合宿準備 *夏期休暇中ゼミ合宿	30	ゼミ論文②提出

【使用教材】

- ◇参考書：吉田健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』
ナカニシヤ出版

【履修条件等】

- ◇演習科目ですので、受講に際しては、グループメンバーでの協調性や社会性も重要です。その前提として、遅刻・無断欠席は厳禁です。
◇学年合同で行う自主ゼミ（縦ゼミ）にも参加するように予定してください。
◇心理検査等の教材、ゼミ合宿（夏期休暇中に実施予定、全員参加行事）その他のゼミ関連行事にそれぞれ相応の費用がかかりますので、各自で備えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇週の課題は必ず準備してから演習に臨むこと。
◇課題は遅延なく確実に提出すること。

【その他の注意事項】

- ◇一人ひとりの自由意思と全体的なチームワーク、どちらも尊重すること。折り合いがつかない場合は、各自、最善解を求めよう努力すること。
◇ゼミの要としての自覚を持ち、お互いにコミュニケーションを大事にすること。
◇ゼミ行事には積極的に参加し、他学年ゼミ生とも積極的に交流するよう努めること。
◇メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種程度の基礎知識を身につけること。
◇ボランティア活動など、課外での主体的かつ積極的な社会参加にチャレンジすること。

専門演習 I	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Specialized Seminar I	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：組織（主として企業組織）の持続的競争力について考える

このテーマを軸に、演習活動を通じて、企業経営における知識や理論等を修得しながら、グローバル競争のなかで、企業はいかにして持続的競争力を獲得することができるのかを探求していきます。

演習活動はゼミ生皆の協働により運営されます。その活動を意義あるものにするかどうかは、ゼミ生各々の姿勢如何に関わってきます。演習への取り組みは時として楽ではないこともあるかと思いますが、お互いに切磋琢磨し、物事の本質を捉え、自ら問題を解決していく力も演習活動を通じて身につけて欲しいと考えています。専門書の輪読／報告／議論が普段のゼミ活動となります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究テーマを自ら見つける能力をつけること	研究テーマを自ら見つけることができるか。そのための資料集めなどの方法を修得できたか。	20%
研究テーマを論理的に考察する能力をつけること	ゼミ員との議論等も踏まえながら、研究テーマを論理的に考察していくことができるか。	20%
研究発表（輪読報告や中間報告含むプレゼン）する能力をつけること	ゼミ員に研究内容を伝える能力があるか。	20%
研究テーマを論文として完成させる能力をつけること	社会科学の論文の書き方を理解できなおかつ実際にその形式に沿って論文（ゼミ論）を完成させることができるか。	40%
評価の方法 ゼミはゼミ員同士の議論が中心に進められるので、出席を最重視し（総合評価の50%以上を占める）、上記の能力およびゼミへの貢献度を勘案して総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期ガイダンス	16	秋学期ガイダンス
2	研究方法論①	17	輪読12+研究中間報告①
3	研究方法論②	18	輪読13+研究中間報告②
4	輪読1+報告	19	輪読14+研究中間報告③
5	輪読2+報告	20	輪読15+研究中間報告④+ゼミ大会準備
6	輪読3+研究テーマ設定①	21	輪読16+研究中間報告⑤+ゼミ大会準備
7	輪読4+研究テーマ設定②	22	輪読17+ゼミ大会準備
8	輪読5+研究テーマ設定③	23	輪読18+ゼミ大会準備
9	輪読6+研究テーマ設定④	24	輪読19+ゼミ大会準備
10	輪読7+研究中間報告①	25	輪読20+ゼミ論作成①
11	輪読8+研究中間報告②	26	輪読21+ゼミ論作成②
12	輪読9+研究中間報告③	27	輪読22+ゼミ論作成③
13	輪読10+研究中間報告④	28	ゼミ論作成④
14	輪読11+研究中間報告⑤	29	ゼミ論作成⑤
15	春学期総括	30	秋学期総括+ゼミ論提出

【使用教材】

- ◇教科書：最初の演習時に決定します。
- ◇参考書：ヘンリー・ミンツバーグ編著，斎藤嘉則監訳『戦略サファリー－戦略マネジメント・ガイドブック』東洋経済新報社，1999年。
- ◇その他は適宜指示します。

【履修条件等】

- ◇チームワークが重要になるので、遅刻・欠席は厳禁です。大人としての自覚を持って演習に参加するようにしてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇課題が出されたときは、必ず課題をこなして参加してください。何かを事前に調べるときはWEBだけに頼らずに、関連書籍に当たるなど能動的な資料集めに努めてください。

【その他の注意事項】

- ◇履修希望者はゼミ入室申請前に、必ず本館2階のゼミ掲示板（円城寺ゼミ）に目を通してください。

専門演習 I	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Specialized Seminar I	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

「情報システム学」

情報化社会と言われる昨今、企業において情報をどのように収集、解析、活用していくかが大変重要となってきています。本専門演習では、情報システムを切り口として「会社では何をしているのか?」「何が求められているのか?」「どのように問題を解決していくのか?」などを議論し、企業社会についての理解を深めていきます。

また、グループ学習などを通じて情報の収集力、発想力、プレゼンテーション能力などを身につけていき、選定したテーマについて考察、発表することにより、問題探究能力と問題解決能力を養うことを目標とします。

基本的には、ゼミ生によるディスカッションとプレゼンテーションを中心に演習を進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムに関する基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける用語の定義、概念を理解し、説明できること。	20%
チームで考える力の育成	グループワークにおけるチームへの貢献度、積極性、ディスカッション能力等を評価する。	30%
問題解決に向けた発想力の向上	課題を見つける力、解決策を考える力、解決への実行力を評価する。新しい発想力をつける力も養っていく。	20%
プレゼンテーション力の向上	発表や質疑応答の内容で評価を行う。ゼミ発表大会や演習の中での発表において、その進行、態度、発表資料の完成度などが評価のポイントとなる。	30%
<p>評価の方法 演習態度（発言、積極性など）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。</p>		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	15	研究テーマ出し
2	情報の集め方、扱い方について学ぶ	16	テーマに関するディスカッション
3	プレゼン技術について学ぶ	17	テーマ選定
4	関心のあるテーマについて発表	18	テーマに関する研究
5	〃	19	〃
6	〃	20	〃
7	グループ発表のテーマ選定	21	発表に向けた資料作成
8	グループワーク	22	〃
9	〃	23	予行演習
10	〃	24	発表
11	〃	25	発表に関する振り返り
12	〃	26	論文研究
13	〃	27	今後に向けたディスカッション
14	グループごとに発表	28	次年度ゼミテーマ探索
15	まとめ（気づき、反省、決意）	30	まとめ（気づき、反省、決意）

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）を使うことがあります。

【履修条件等】

◇演習ですので基本全回出席をお願いします。積極的、継続的に参加してください。

◇多くのことに関心を持ち、発想力の向上に努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出た時には、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇学外でのゼミ行事（企業訪問、ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門演習 I	サトウ エミ 佐藤 恵美
Specialized Seminar I	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：【人事アセスメントからみた企業に必要な人材とその能力】

企業が経営目標を達成するためには、働く人が重要になります。さまざまな能力やパーソナリティ、興味、動機づけを持つ多様な人々の存在する組織の中で、働く人をどのように活かしていくのかという観点から、人の持つ心の特徴と組織での行動について演習の中で考えていきます。前半はテキストの輪読を中心に、専門的な基礎知識や論理的な思考能力の習得を目指します。後半は文献や資料を講読し、各種調査を行い、データ処理の基礎的な方法とプレゼンテーション能力を身につけ、企業でのデータ処理能力を高めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人事アセスメントとは	産業・組織心理学、社会心理学、パーソナリティ心理学等の専門的な基礎知識をテーマに沿って、論理的に理論や概念を説明できるように、テキストの輪読を通してレジュメを作成できるようにする。	10%
業種別に求められる能力とは	職業環境を業種別に分け、業種別によって求められる能力や人材を調査する。さらに、この能力はどのように評価されるのか、昇進昇格や給与体系などの企業側の報酬制度について考察する。	30%
業種研究と調査	自分たちが考えた共同研究のテーマに沿って調査を行う。文献や資料を講読し、各種調査を行い、概念説明、データ収集、データ処理の基礎的方法とプレゼンテーション能力を身につけ、主体的に共同研究テーマの課題について取り組む。	30%
個人論文の作成	個人の興味ある経営心理学の研究テーマに沿って、文献や資料を講読し、資料収集や調査を行ってもらい。データ結果のまとめ方と、客観的データに基づいたデータの考察を行えるようにすることで、企業でのデータ処理能力を高めることを目的とする。	30%
評価の方法	発表と発言量50%、授業での課題と共同研究・個人論文50%	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	
2	人事アセスメントとは	17	共同調査研究
3		18	
4		19	
5	業種別に求められる能力とは	20	調査データ収集と分析
6		21	
7		22	調査論文の作成
8		23	
9	企業側が求める人材像とは	24	調査論文の発表
10		25	
11		26	
12	個人論文	27	まとめ、来年度に向けたテーマ設定
13		28	
14		29	
15		30	

【使用教材】

◇＜教科書＞初回演習時にテーマを決め、それに沿った教科書を指定する。

【履修条件等】

◇欠席や遅刻は認めない。やむを得ず欠席する場合には、必ず連絡をすること。

◇各自の分担に責任を持って、積極的に参加することを望みます。同学年のみならず、学年をこえてコミュニケーションをとり、グループでの共同作業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

◇指定された日に、自分で選んだ分担のレジュメやPPT資料を作成してくること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習 I	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Specialized Seminar I	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

(内容)

メタバース経済圏において活躍する米国企業を10社ピックアップし、投資を実施する。

(教授法)

- ・ オシレーターの利用方法
- ・ グループワークによる企業の分析
- ・ 各グループによる分析結果報告
- ・ 質疑応答
- ・ 投資先の決定→投資を実践

(研究テーマ)

- ・ メタバース関連市場への先行投資

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経済に関する知識は現代社会で活躍する人材として必要な能力である。広く経済問題を取扱い、世界経済・日本経済の知識を深め、問題意識の形成、論理的思考力の養成、プレゼンテーション能力の向上を目指す	授業および各種ゼミ関連行事に対する意欲・取り組み方・提出された課題を教員が評価する。	平常点20%、ゼミ発表大会での報告内容60%、レポート点20%
評価の方法 平常点20%、ゼミ発表大会での報告内容60%、レポート点20%		

【授業計画】

テーマ・内容	テーマ・内容
<春学期> (1) ゼミ発表大会で報告するテーマの設定 (2) 先行研究フォロー（資料検索） (3) 構成を考える (4) 夏合宿（実施するかどうかは履修者数等の状況から判断する）	<秋学期> (1) ゼミ発表大会で報告するテーマの設定 (2) 報告本番に向けたリハーサル (3) ゼミ発表大会：ゼミ生全員がプレゼンに参加する (4) レポートの仕上げ（締切：卒業論文締切日）

【使用教材】

◇教科書：初回の演習時において話し合う。

◇参考書：必要に応じて適宜指示する。

【履修条件等】

- ①考慮すべき理由のない欠席、無断欠席をした場合、ペナルティー（追加レポートの提出）を課す。
- ②学習意欲のない者の履修は認めない。
- ③全ての行事に全力で取り組むこと。ゼミに関連した大学行事において無断欠席をした場合は単位取得を認めない。
- ④ゼミ内で交わした約束（ルール）を守れない場合、履修登録を取り消してもらう。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇「グループワークを基本とします。無断欠席等は他のメンバーに迷惑がかかるので絶対にしないでください。

◇ 対面授業を前提としていますが、状況次第でオンライン（Zoomやmeetによるリアルタイム配信）もしくはオンデマンド型（事前に収録した動画を視聴）を実施する。

専門演習 I	スミダ コウジ 隅田 浩司
Specialized Seminar I	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

わたしの専門は、経済法、国際経済法そして交渉学です。従って、この専門演習では、この3つの領域を取り扱います。経済法では、経済法（競争法、ともいいます）に関する最新論点について学び、国際経済法では、貿易・通商法の基礎について学びます。そして、交渉学では、模擬交渉を中心とした交渉力強化トレーニングを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識の習得	経済法、国際経済法および交渉学の基礎知識を適切に習得し、理解できているかどうかについて課題とディスカッション内容によって評価します。	20%
論点発見能力	経済法、国際経済法および交渉学の論点を適切に抽出し、その論点の射程範囲を理解しているかについて課題とディスカッション内容によって評価します。	20%
プレゼンテーション能力	自分たちが調査した内容をわかりやすく、プレゼンテーションとしてまとめて発表できるかについて課題とディスカッション内容によって評価します。	20%
コミュニケーション能力	ゼミのメンバー同士での良好なコミュニケーション、基礎的なマナーや社会人になるためにふさわしい振る舞い・態度ができるかについて、課題とディスカッション内容によって評価します。	40%
<p>評価の方法 ゼミへの積極的参加姿勢と、ゼミの仲間と協力して課題に取り組み姿勢を重視します。評価は、参加姿勢が80%、提出物、成果物が20%です。</p>		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	ゼミ発表大会のテーマ研究
2	経済法に関する演習	17	ゼミ発表大会のテーマ研究
3	経済法に関する演習	18	ゼミ発表大会のテーマ研究
4	経済法に関する演習	19	ゼミ発表大会のテーマ研究
5	国際経済法に関する演習	20	ゼミ発表大会のテーマ研究
6	国際経済法に関する演習	21	ゼミ発表大会のテーマ研究
7	交渉学に関する演習	22	ゼミ発表大会のテーマ研究
8	交渉学に関する演習	23	ゼミ発表大会のテーマ研究
9	ゼミ発表大会の準備開始	24	ゼミ発表大会のテーマ研究
10	ゼミ発表大会のテーマ研究	25	交渉学トレーニング
11	ゼミ発表大会のテーマ研究	26	交渉学トレーニング
12	ゼミ発表大会のテーマ研究	27	交渉学トレーニング
13	ゼミ発表大会のテーマ研究	28	交渉学トレーニング
14	ゼミ発表大会のテーマ研究	29	交渉学トレーニング
15	ゼミ発表大会のテーマ研究	30	交渉学トレーニング

【使用教材】

◇教科書は指定しません、ただし、経済法、国際経済法、交渉学に関する参考文献を演習中、指示します。必要に応じて書籍は各自、購入する必要があります。

【履修条件等】

◇経済法、消費者法、会社法Ⅰ・Ⅱ、私が担当する多文化理解Ⅳ、プロフェッショナル・セミナーⅢは、可能な限り履修することを推奨します。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ほぼ毎回、予習課題が指示されますので、課題の提出が必要です。

【その他の注意事項】

◇参加意欲が乏しい場合、専門演習の履修を取りやめてもらう場合があります。

専門演習 I	ドイ ミツル 土井 充
Specialized Seminar I	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

このゼミでは、株主など企業に利害関係を持っている外部の人たちに情報を提供するための会計、すなわち財務会計を中心テーマとします。企業は、この財務会計を一定のルールに従って行っています。ゼミでは、この会計ルール（複式簿記、会計基準など）や、ルールに従い作成された情報を読み解くための知識（経営分析など）を習得するとともに、こうした知識を用いて、現代経済社会において財務会計がどのようなはたらきを持っているのかを探究していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基本的な知識を有していること	ゼミ活動やゼミレポートの内容によって評価。 簿記（3級程度）、会計理論（財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」程度）、および個別研究テーマに関する知識を有している。	40%
アカデミックリテラシーを修得していること	ゼミ活動によって評価。 「プロフェッショナルセミナー」で取得したリテラシーをもちいて、(a)情報を整理・分析することができる。(b)効果的な報告手法を選択し、報告する（自分の意見を相手に伝える）ことができる。(c)グループの意見を纏めることができる。	20%
レポートを作成することができること	レポートによって評価。 「プロフェッショナルセミナー」で学修したレポートの形式要件を満たしながら、(a)問題を自ら発見し、(b)「(a)」に対する答えを考察することができる。	20%
ゼミ活動の方針を理解していること	ゼミ活動によって評価。 (a)自主的・積極的な姿勢でゼミに出席している。(b)グループワークに貢献する。(c)理論が仮説であること理解し、「なぜ」「どうして」という問題意識をもって課題に取り組むことができる。	20%
評価の方法	発表や討論などへの参加度合や出席状況など、演習への取り組む姿勢や貢献度などから総合的に評価します。	

【授業計画】

<春学期>

春学期は、財務会計の基本原理に関することを全員で討議する形で進めていきます。具体的には、毎回、報告者が担当範囲についてレジュメを作成し、演習で発表します。この発表を基に、全員で討論を行い全体の理解を深めていきます。

<秋学期>

秋学期は、演習で協議し決定した幾つかのテーマについて、討論を行い演習の意見を形成し、報告を行います。春学期同様、演習では、レジュメを作成し全員で討論を行い、アドバイスや報告の問題点を指摘し、テーマの理解を深めていきます。

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

- ◇常に積極的・継続的に参加する学生の履修を望みます。
- ◇「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」、「税務会計論Ⅰ」、「税務会計論Ⅱ」、「管理会計論Ⅰ」、「管理会計論Ⅱ」、「経営分析論」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇簿記（3級程度）、会計理論（「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」、「財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」）の知識を確認すること。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇本ゼミの準備（予習・事前学習）のため、サブゼミを開くことがあります。
- ◇ゼミ生全員で協議し、学外でのゼミ行事（ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門演習 I	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Specialized Seminar I	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：消費者心理と行動、マーケティング戦略

消費者行動のさまざまな理論について学び、消費者の心理や行動について分析・考察を行ったうえで、効果的な企業のマーケティング戦略についての立案を行う。春学期は、輪読形式で文献レビューを行っていくとともに、班別での研究活動を進める。秋学期は、実際の消費者行動を分析するとともに、企業側の視点に立ち、マーケティング戦略を立案することを中心的課題とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者の心理や行動について理解し発表することができる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。輪読の担当箇所のレジュメを作成し、実際の商品例等を挙げながら他者にわかりやすく内容を説明することができる。	20%
消費者の心理や行動を分析し、マーケティング戦略を立案することができる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。他者の発表内容を聞いたうえで、消費者の心理や行動を分析し、マーケティング戦略の立案や改善案などを提案できるようになる。	25%
消費者行動やマーケティング戦略にまつわる意見交換や議論に積極的に参加し貢献できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。自分の意見をわかりやすく伝え、他者との意見交換や議論を通し、より効果的なマーケティング戦略を提案できるようになること。	25%
研究発表のためのリサーチや資料作成、議論等に積極的に参加し貢献できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。研究テーマにもとづいたリサーチ、資料作成、調査活動、ディスカッション等に積極的に参加し貢献すること。	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、個人発表の内容20%、授業や班別研究への参加度と貢献度50%とする。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	授業のガイダンス	16	班別研究の途中経過報告
2	・個人研究テーマの選定と研究法	17	・班別研究についての調査分析
3	・最新のビジネスの話題に基づくディス	18	・ゼミ発表大会準備
4	カッションと戦略立案	19	
5	・班別研究テーマの選定	20	
6		21	
7		22	
8		23	
9		24	
10		25	
11		26	・最新ビジネスの話題に基づくディス
12		27	カッションと戦略立案
13		28	
14	研究報告準備	29	
15	研究報告準備	30	

【使用教材】

◇教科書：使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【履修条件等】

◇消費者の購買行動や心理に興味を持ち、個人の発表や班別研究に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の自分や他者の購買行動に興味を持ち、ニュース等で企業や商品情報をチェックしておくこと。

【その他の注意事項】

◇演習には、極力休まずに出席すること。

◇ユニークなアイデアを出す努力をすること。

専門演習I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Specialized Seminar I	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：広告と企業のコミュニケーション活動、スマートフォンを用いたマーケティング・コミュニケーション活動、CSR広告

広告やマーケティングの理論を学び、企業が展開する実際の活動を対象に学習をする。データの収集、分析、発表といったリテラシーについても学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つけられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルやSPSSなどのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度50%、課題50%		

【授業計画】

<春学期>

アカデミックリテラシーの獲得。資料収集、レポート作成を中心に行う。

<秋学期>

設定した課題について、文章やスライドにまとめ発表する。

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

- ◇広告やマーケティングに興味を持っていること。
- ◇他人との共同作業ができること。
- ◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習 I	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Specialized Seminar I	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：国境を越えたビジネスを学ぶ

近年、日米欧をはじめとした先進諸国の小売・流通企業は自国の市場の成熟化を受け、新興諸国市場への国際展開を積極的に行っている。本演習では、コンビニエンス・ストアやスーパーマーケットなどの小売・流通企業を中心に、グローバルな視点でこれら企業のマーケティング戦略に関する諸処の問題についての基礎的知識の習得を目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究発表に必要な基本的スキルを身につけていること	演習におけるプレゼンテーション姿勢やレジメの充実度で評価。具体的には学術書や研究論文の検索方法を理解し、文献を自力で収集できること、ワード、エクセル、パワーポイントの使用方法を理解しレジメを作成できることが要請される。	20%
マーケティング、流通、グローバルビジネスに関する学術書を読み、文献レビューを行えること	演習におけるプレゼンテーションによって評価。学術書および論文の内容を理解し、それを他のメンバーに分かりやすく説明することができることが要請される。レジメ内容の充実度に加え、発表内容、発表姿勢が評価基準となる。	20%
グローバルな視野で企業が直面している諸問題について発見し説明できること	演習におけるプレゼンテーションによって評価。グローバルビジネスに関する学術書、論文、ニュースから問題点を探り出し、他のメンバーと共有できることが要請される。レジメ内容の充実度に加え、発表内容、発表姿勢が評価基準となる。	20%
ディスカッションにおいて相手の意見を理解したうえで自分の意見を発言できること	演習におけるディスカッションによって評価。マーケティング、流通、グローバルビジネスに関して研究報告者が提示した問題について理解し、それに対する自分の意見を整理し発言しているかが評価基準となる。	40%
評価の方法	全30回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、レジメ発表などの分担貢献度50点、演習中の質疑応答およびコメントの発言の積極性50点を基準に評価する。	

【授業計画】

<春学期>

- ・ 研究発表レジュメの作成およびそのプレゼンテーションの練習
- ・ 国際流通論、国際マーケティング論に関する基本的文献の輪読
- ・ 各種データおよび資料の調査方法の習得
- ・ 小売・流通企業の国際展開に関する現状と課題の把握

<秋学期>

- ・ 春学期の基本的文献の輪読からの学習、レジュメ作成およびプレゼンテーションから培った能力をベースに、研究レポートを学内および学外に向けて発信することを目的とする。

【使用教材】

◇教科書：授業中に指示する。

◇参考書：矢作敏行著『現代流通—理論とケースで学ぶ』有斐閣アルマ、1996年

諸上茂登・藤澤武史著『グローバル・マーケティング』中央経済社、1997年

【履修条件等】

◇グローバルビジネスに興味や関心があり、なおかつ積極的にゼミ活動に参加できることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇研究発表の際には、惜しみなく時間をかけて事前学習し準備する。

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどのビジネス誌に日頃から目を通し問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇演習中は積極的な質疑応答およびコメントの発言が強く求められる。

専門演習 I	フジモリ ダイスケ 藤森 大祐
Specialized Seminar I	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：企業による社会問題の解決について考える

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

- ・ 企業による環境問題の解決、環境ビジネス
- ・ 企業によるSDGs への取り組み
- ・ ビジネスによる地域活性化

場合によっては、外部に演習に出かけることもある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
持続可能な観光に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ソーシャルビジネスに関する理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ディスカッションとプレゼンテーション力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%
評価の方法 問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ゼミ発表大会のテーマ検討
2	研究テーマの検討	17	ゼミ発表大会への準備
3	研究テーマの設定	18	
4	調査およびディスカッション	19	
5		20	
6	プレゼンテーション、振り返り	21	
7	プレゼンテーション、振り返り	22	
8	研究テーマの検討	23	
9	研究テーマの設定	24	
10	調査およびディスカッション	25	
11	プレゼンテーション準備	26	ゼミ発表大会の振り返り
12		27	研究テーマの設定
13		28	プレゼンテーション準備
14		29	
15	プレゼンテーション、振り返り	30	プレゼンテーション、振り返り

【使用教材】

◇教科書：とくに使用しないが研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。

その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

◇あらゆるゼミ活動に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各自が自発的に調査研究をする。

【その他の注意事項】

◇他のゼミメンバーを尊重し、自身が能力を高めるとともに、ゼミ全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

専門演習 I	マツダ タカシ 松田 岳
Specialized Seminar I	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：「経済・金融問題の分析」

本専門演習は「経済・金融」をテーマに研究を行います。「世を経（おさ）め、民を済（すく）う」のが「経済（学）」の役割です。社会的な課題を発見し、その課題の根本理由を考え抜き、解決策（施策）の提案を行うのが本専門演習の目標です。また、文化祭（模擬店）に参加し、発想力、協働力、問題解決能力なども養います。履修者には「経済・金融の『今』を知りたい」という積極的な姿勢を求めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
真摯にかつ主体的に物事に取り組むことができる	研究・課題に真摯に取り組んでいるか否か、積極的に課題に取り組んでいるか否か、主体的に取り組めているか否かによって評価を行う。研究・課題には文化祭への参加を含む。	60%
論理的思考力を身につけ、論理的な発言をしたり、文章を書けたりする	レポートやプレゼンテーション、ディスカッションでのパフォーマンスを見ることで、論理的に思考できるか否か、論理的な発言ができていないか否か、論理的な文章が書けるか否かの評価を行う。	40%
評価の方法 平常点100%（演習における振る舞い、取り組む姿勢を評価する）。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ゼミ論文確認
2	論文作成の基礎 1 (問題意識と目的)	17	プレゼン準備 1
3	論文作成の基礎 2 (先行研究の探し方)	18	プレゼン準備 2
4	文献輪読 1 (情報生産者になる)	19	プレゼン演習 1
5	文献輪読 2 (情報生産者になる)	20	プレゼン修正 1
6	先行研究サーベイプレゼン 1	21	プレゼン修正 2
7	先行研究サーベイプレゼン 2	22	プレゼン演習 2
8	研究計画書作成 1	23	プレゼン修正 2
9	研究計画書作成 2	24	プレゼン演習 3
10	研究計画書作成 3	25	プレゼン修正 3
11	研究計画書プレゼン	26	卒業論文執筆 1
12	研究計画書修正 1	27	卒業論文執筆 2
13	研究計画書修正 2	28	卒業論文執筆 3
14	研究計画書修正 3	29	卒業論文執筆 4
15	研究計画書 (完成版) 提出	30	卒業論文執筆 5

【使用教材】

◇教科書：ガイダンス時に指示する。

【履修条件等】

◇松田の「プロフェッショナル・セミナーⅠ」・「プロフェッショナル・セミナーⅡ」の単位を取得していることが望ましい（必須ではない）。

◇5回以上欠席すると評価対象外になる。

◇遅刻、欠席、私語、無関心な姿勢などは一切許さない。

◇Googleアプリ、Microsoft Officeのリテラシーを要する。

◇ゼミ活動の一環としてのイベント（夏合宿、文化祭の模擬店など）への参加は必須。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の演習を通じて指示する。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

◇授業計画（臨時ゼミの開催など）の変更に対応できるゼミ生を求める。

◇本演習の通算学修時間は180時間である（授業内60時間、授業外120時間）。

専門演習 I	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Specialized Seminar I	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：財務会計

このゼミでは、財務会計をテーマに、4年次の専門演習の基礎固めとして、より高度な専門性を獲得したうえで、現代会計における様々なテーマについて研究活動を展開することを目的としている。

春学期では、わが国の企業会計制度のなかから自身が興味を持ったトピックを選び、その概要、会計上の論点をまとめて報告してもらったうえで、全員でディスカッションをする。秋学期では、前半はゼミ発表大会に向けて研究・調査活動と報告を重ねる。後半は個別にテーマを選定し、卒業論文の作成を視野に入れて個人研究活動を行う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基礎的な知識の習得	ゼミ活動およびレポートにより評価。 簿記（日商2級程度）、会計理論（「財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」程度）の知識を有しているか。 ゼミで取り上げるテーマについて専門用語・基礎概念を理解しているか。	20%
資料の収集・整理・分析能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 図書館やインターネットを利用して、必要な資料を収集し、それを整理・分析することができるか。	10%
プレゼンテーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自らが調査・分析した結果を、分かりやすくまとめて他者に伝えることができるか。	10%
コミュニケーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自己の意見をまとめ、他者に分かりやすく伝えることができるか。実のある議論ができるか。	10%
論理的思考力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 グループ研究活動および個人研究活動において、テーマの設定から結論に至るまでの論理展開が適切になされているか。文献引用が適切になされているか。自分の意見と異なる見解に対する反証やその論拠など論理的な思考の構築ができているか。	50%
評価の方法 ゼミ活動への積極的な参加（出席状況および発表・ディスカッションにおける態度）および研究成果により評価。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容	
1	オリエンテーション	16	オリエンテーション	
2	報告およびディスカッション	17	報告およびディスカッション	
3		18		
4		19		
5		20		
6		21		ゼミ発表大会準備
7		22		
8		23		
9		24		
10		25		ゼミ発表大会振り返り
11		26		個人研究テーマの報告
12		27		個人研究活動
13		28		
14		29		
15	まとめとゼミ発表大会テーマ決定	30	個人研究報成果告	

【使用教材】

- ◇教科書：使用しない。
- ◇参考書：必要に応じて適宜紹介する。

【履修条件等】

- ◇演習に積極的に参加する学生の履修を望む。
- ◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」、「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」を履修済みであること。
- ◇「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」、「財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」、「管理会計論Ⅰ」、「管理会計論Ⅱ」等、関連する専門科目を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇演習開始までに、簿記の基礎（日商簿記3級程度）および会計の基礎（「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」）の知識を確認しておくこと。
- ◇次の演習へ向けての準備は必須。具体的には、発表担当者は、プレゼンテーションの資料（PPおよび配布資料）を作成し当日の発表に備える。それ以外の学生は、当日の討論に備えてテキストの該当箇所を熟読したうえで、不明な点については各自下調べをする。

【その他の注意事項】

- ◇無断での欠席・遅刻は厳禁。大人の自覚をもってゼミに臨むこと。
- ◇発言・質問等、積極的・自発的に参加すること。
- ◇私語や他者への迷惑となる行為は厳禁。とくに携帯電話（スマートフォン）の使用・メール等SNSの閲覧は授業の妨害とみなし、退席してもらう。

専門演習 I	ヤマカワ サトル 山川 悟
Specialized Seminar I	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：文化創造とデザイン思考のマーケティング

春期においては、ビジネスの場における情報の収集、分析、創出、表現、伝達の技術を磨き、マーケティングプランニング（商品開発、広告企画、プロモーション企画、新事業創出など）を行なえるようなスキル獲得を目指します。秋期には、ゼミとしての独自の研究設計～実践を行います。企業との連携授業(PBL)や各種コンテストへの参加、企業訪問、学外視察・見学、卒業生との交流、外部講師の招聘なども随時行いたいと思います。

本ゼミが過去に取り組んだ連携学習としては、次のようなものがあります。

「地域のキャラクターと物語の創造」「監視カメラの用途開発」「消費者がECOを実感できるプロダクト提案」「こども環境絵画を活用した環境啓発ゲームの開発」、「ボードゲームが育む社会的スキルに関する調査研究」、「手塚コンテンツを活用した地域活性化の可能性に関する研究」、「Social Smile Business（ユーモアで社会を変える方法）に関する研究」、「紅茶の新ビジネス創造」等。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケッターとしての基本的なリテラシーを取得していること	講義中の受講姿勢、質疑応答、グループワーク、提出物等により評価。 「情報の収集、分析、創出、表現、伝達についての技術力」を評価ポイントとする。	50%
マーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキルを獲得していること	講義中の受講姿勢、質疑応答、グループワーク、提出物、企画書等のアウトプット等により評価。 「発想力、企画書作成能力、グループワーク推進能力、他者や社会に働きかける力」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法		
評価の配分：80%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度・協調性・リーダーシップ50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋期オリエンテーション
2	相互理解プログラム	17	秋学期研究活動の準備
3	ビジネスリテラシートレーニング①	18	研究方向の確認と役割分担
4	ビジネスリテラシートレーニング②	19	個人研究と発表①
5	ビジネスリテラシートレーニング③	20	個人研究と発表②
6	ビジネスリテラシートレーニング④	21	グループワーク①
7	創造的思考法トレーニング①	22	グループワーク②
8	創造的思考法トレーニング②	23	グループワーク③
9	創造的思考法トレーニング③	24	グループワーク④
10	創造的思考法トレーニング④	25	グループ研究発表①
11	消費者理解トレーニング①	26	グループ研究発表②
12	消費者理解トレーニング②	27	グループ研究発表③
13	消費者理解トレーニング③	28	グループ研究発表④
14	消費者理解トレーニング④	29	流通視察・ショールーム見学
15	総括と達成度の確認	30	総括と達成度の確認

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：山川悟、他著『応援される会社』光文社 等

【履修条件等】

- ◇マーケティング、商品開発、広告宣伝などの分野に興味があること。
- ◇PCである程度のドキュメント作成ができること。
- ◇好きでこだわりを持っている分野があり、それをビジネスやマーケティングと結びつけてみたいと思っている人が望ましい。
- ◇「マーケティング」を受講していること。
- ◇受講生同士で積極的な人間関係をつくろうとする人。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等）、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒に。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

- ◇ゼミは学生が能動的に学習する場です。自分たちでテーマを決め、推進していくくらいの能動的な参加姿勢が求められます。

専門演習Ⅱ	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：管理会計

「管理会計」は、経営管理に役立つデータ（＝企業内部における業績評価や意思決定に資する）を提供するための会計です。本演習においては、実際の経営活動に的を絞り、これら経営活動に惹起する諸問題に対し「管理会計」をどのように把握し、使いこなしていくかを、経営者の立場に立って主体的に考え、管理会計上必要な問題探求能力と問題解決能力を養うことまでを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的前提に関する知識の修得の有無の確認する。	管理会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認	30%
管理会計に関する基礎的な理解の確認	管理会計に関する基礎的な知識について、毎回の基礎的な理解の程度 授業での質疑応答により、その修得の確認をする。	30%
管理会計に対する理解の深度の程度の確認	管理会計の意義、必要性、現状においての問題点の把握とその解決のための素養を修得しているか否かにつき、毎回のディスカッションと課題レポートにより確認する。	40%
<p>評価の方法 授業への参加度60%、課題レポート30%、試験10%により総合的に評価する。</p>		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	管理会計の基礎(1)オリエンテーション	16	管理会計の応用(4) ケーススタディ(3)
2	管理会計の基礎(2) 会計の意義(1)財務会計&管理会計	17	管理会計の応用(5) ケーススタディ(4)
3	管理会計の基礎(3) 会計の意義(2)財務会計&管理会計	18	管理会計の応用(6) ケーススタディ(5)
4	管理会計の基礎(4) 会計の意義(3)財務会計&管理会計	19	管理会計の応用(7) ケーススタディ(6)
5	管理会計の基礎(5) 管理会計の役割&機能(1)	20	管理会計の応用(8) ケーススタディ(7)
6	管理会計の基礎(6) 管理会計の役割&機能(2)	21	管理会計の応用(9) ケーススタディ(8)
7	管理会計の基礎(7) 管理会計の役割&機能(3)	22	管理会計の応用(10) テーマ別発表準備(1)
8	管理会計の基礎(8) 管理会計の役割&機能(4)	23	管理会計の応用(11) テーマ別発表準備(2)
9	管理会計の基礎(9) 管理会計の役割&機能(5)	24	管理会計の応用(12) テーマ別発表準備(3)
10	管理会計の基礎(10) 管理会計の役割&機能(6)	25	管理会計の応用(13) テーマ別発表(1)
11	管理会計の基礎(11) ケーススタディにむけての準備(1)	26	管理会計の応用(14) テーマ別発表(2)
12	管理会計の基礎(12) ケーススタディにむけての準備(2)	27	管理会計の応用(15) テーマ別発表(3)
13	管理会計の応用(1) 応用に向けてのオリエンテーション	28	管理会計の総まとめ(1)
14	管理会計の応用(2) ケーススタディ(1)	29	管理会計の総まとめ(2)
15	管理会計の応用(3) ケーススタディ(2)	30	演習の振り返り

【使用教材】

- ◇教科書：演習中に指示します。
- ◇参考書：とくになし。

【履修条件等】

- ◇会計の基本（授業としては、「会計学概論」）科目は、履修していることが望ましい。履修していない場合には、会計全般に関する基本的な知識を会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予習をすべき事前学習の内容
- ◇基礎1～12までは、管理会計の基礎について基本的論点、課題を提示する。
- ◇応用1～15では、ゼミ生各自（グループ別）研究テーマの決定、各テーマについての調査、中間発表、レポートの作成および秋学期のゼミ発表大会への準備を中心に作業する。
- ◇履修者は、あらかじめ、少なくとも、会計に関する基礎的知識を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇成績評価としては、出席状況とゼミディスカッションにおける「貢献度」を重視する。

専門演習Ⅱ	イナミ カズエ 伊波 和恵
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：心理学、ストレス・マネジメント、コミュニケーション

本演習では、心理学、とくに心理社会的適応を基本テーマに知識習得を進めます。成人期～壮年期のビジネスパーソンが置かれている職場・家族を含む社会的対人的環境についての知識と理解を深め、ストレス・マネジメント、心理カウンセリングやコミュニケーションスキルについて学びます。

春学期はよりよい論文執筆ならびにチーム・プロジェクトのマネジメント方法についての学びを深めます。

秋学期は、グループワークやプレゼンテーションを通じて、各種調査法や企画立案を覚えるとともに、質疑応答やディスカッションのマナーと方法を身につけられるようにします。年間を通じて、多様なプレゼンテーションやディスカッション、資料作成が展開できるように学習を進めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ゼミ論文① (推敲・企画と作成)	①昨年度執筆のゼミ論文の相互見直し(推敲)作業のスキルについて評価する。②テーマ設定から文献研究、調査、論文執筆といったプロセスならびに最終的なレポート報告まで、一定の水準で自律的に達成できていること。ゼミ合宿時の中間報告・中間提出(推敲含む)を評価する。	20%
ゼミ論文② (執筆)	体裁、テーマ、構成、論考等の複数の観点から、期日までに提出されたレポートの完成度をみる。	20%
グループワーク (ディスカッション、プレゼンテーション)	①チーム・プロジェクトにおいて何らかの役割をどのように果たしているか、そのプロセスと成果を評価する。(たとえば、資料の収集、レジュメやプレゼンテーション資料の作成、自己表現や意見交換の方法など) ②チーム・マネジメントを評価する。 ②日頃のプロジェクトへの参加態度、完成したプレゼンテーションについて評価する。	40%
チームワークとゼミ運営・参加 (コミュニケーション)	日頃の演習授業ならびに運営への参加態度から、コミュニケーションスキルやボランティア・スピリッツという観点で、ゼミへの貢献度を評価する。	20%
評価の方法 ・ゼミ論文40% ・課題・グループワークへの取り組みとプレゼンテーション40% ・授業参加度・平常点(行事参加等含む)20%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ顔合わせ	15	グループワーク②-1
2	プレゼンテーション	16	グループワーク②-2
3	ゼミ論文①-1	17	グループワーク②-3
4	ゼミ論文①-2	18	グループワーク②-4
5	ゼミ論文①-3	19	グループワーク②-5
6	ゼミ論文①-4	20	ゼミ論文 中間提出
7	ゼミ論文①-5	21	グループワーク②-6
8	ゼミ論文①総括・グループワーク準備	22	グループワーク②-7
9	グループワーク①-1	23	グループワーク②-8
10	グループワーク①-2	24	グループワーク②-9 *ゼミ発表大会
11	グループワーク①-3	25	グループワーク②-10
12	グループワーク①-4	26	グループワーク②総括
13	グループワーク①-5	27	ゼミ論文②-1
14	グループワーク①-6・総括	28	ゼミ論文②-2
15	ゼミ合宿準備 *夏期休暇中ゼミ合宿	30	ゼミ論文②提出

【使用教材】

- ◇参考書：吉田健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』
ナカニシヤ出版

【履修条件等】

- ◇演習科目ですので、受講に際しては、グループメンバーでの協調性や社会性も重要です。その前提として、遅刻・無断欠席は厳禁です。
◇学年合同で行う自主ゼミ（縦ゼミ）にも参加するように予定してください。
◇心理検査等の教材、ゼミ合宿（夏期休暇中に実施予定、全員参加行事）その他のゼミ関連行事にそれぞれ相応の費用がかかりますので、各自で備えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇週の課題は必ず準備してから演習に臨むこと。
◇課題は遅延なく確実に提出すること。

【その他の注意事項】

- ◇一人ひとりの自由意思と全体的なチームワーク、どちらも尊重すること。折り合いがつかない場合は、各自、最善解を求めよう努力すること。
◇ゼミの要としての自覚を持ち、お互いにコミュニケーションを大事にすること。
◇ゼミ行事には積極的に参加し、他学年ゼミ生とも積極的に交流するよう努めること。
◇メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種程度の基礎知識を身につけること。
◇ボランティア活動など、課外での主体的かつ積極的な社会参加にチャレンジすること。

専門演習Ⅱ	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

「情報システム学」

情報化社会と言われる昨今、企業において情報をどのように収集、解析、活用していくかが大変重要となってきています。本専門演習では、情報システムを切り口として「会社では何をしているのか?」「何が求められているのか?」「どのように問題を解決していくのか?」などを議論し、企業社会についての理解を深めていきます。

また、グループ学習などを通じて情報の収集力、発想力、プレゼンテーション能力などを身に付けていき、選定したテーマについて考察、発表することにより、問題探究能力と問題解決能力を養うことを目標とします。

基本的には、ゼミ生によるディスカッションとプレゼンテーションを中心に演習を進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムに関する基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける用語の定義、概念を理解し、説明できること。	20%
チームで考える力の育成	グループワークにおけるチームへの貢献度、積極性、ディスカッション能力等を評価する。	30%
問題解決に向けた発想力の向上	課題を見つける力、解決策を考える力、解決への実行力を評価する。新しい発想力をつける力も養っていく。	20%
プレゼンテーション力の向上	発表や質疑応答の内容で評価を行う。ゼミ発表大会や演習の中での発表において、その進行、態度、発表資料の完成度などが評価のポイントとなる。	30%
<p>評価の方法 演習態度（発言、積極性など）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。</p>		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	先行文献調査
2	情報の集め方、扱い方について学ぶ	17	アジェンダ作成
3	論文の作成法について学ぶ	18	現状分析
4	プレゼン技術について学ぶ	19	データの検索
5	関心のあるテーマについて発表	20	データの信頼性確認
6	〃	21	改善案策定
7	〃	22	〃
8	〃	23	ゼミ発表大会に向けた資料作成
9	論文テーマ選定	24	発表練習
10	テーマに関する情報検索	25	発表
11	〃	26	論文作成
12	〃	27	〃
13	〃	28	論文発表会
14	〃	29	〃
15	まとめ（気づき、反省、決意）	30	まとめ（気づき、反省、決意）

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）を使うことがあります。

【履修条件等】

◇演習ですので基本全回出席をお願いします。積極的、継続的に参加してください。

◇多くのことに関心を持ち、発想力の向上に努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出た時には、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇学外でのゼミ行事（企業訪問、ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門演習Ⅱ	サトウ エミ 佐藤 恵美
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：【人事アセスメントからみた企業に必要な人材とその能力】

企業で働く人間の能力やパーソナリティ、興味、動機づけを企業別に明らかにし、組織の中で働く人をどのように活かしていくのかを考える。ここから、組織の中での対人関係や組織での行動について演習の中で考えていく。前半はテキストの輪読を中心に、専門的な基礎知識や論理的な思考能力の習得を目指します。後半は文献や資料を講読し、各種調査を行い、データ処理の基礎的な方法とプレゼンテーション能力を身につけ、企業でのデータ処理能力を高めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テキストの輪読	産業・組織心理学、社会心理学、パーソナリティ心理学等の専門的な基礎知識の習得と同時に、レジュメの作成を通して、論理的な思考能力の習得を目指しく。各人が章を担当し、レジュメによる発表を行い、これに基づいた質疑応答と討論を行っていく。	20%
個人論文の作成	個人の興味ある経営心理学の研究テーマに沿って、文献や資料を講読し、資料収集を行う。データ結果のまとめ方と考察を行うことで、企業におけるデータを読み取る力を高めることを目的とする。	30%
共同研究	自分たちが考えた共同研究のテーマに沿って調査を行う。文献や資料を講読し、各種調査を行い、概念説明、データ収集、データ処理の基礎的な方法とプレゼンテーション能力を身につけ、主体的に共同研究テーマの課題について取り組む。	20%
個人論文の作成	個人の興味ある経営心理学の研究テーマに沿って、文献や資料を講読し、資料収集や調査を行ってもら。データ結果のまとめ方と、客観的データに基づいたデータの考察を行えるようにすることで、企業でのデータ処理能力を高めることを目的とする。	30%
評価の方法 発表と発言量50%、授業での課題と共同研究・個人論文50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	15	
2	テキストの輪読（社会心理学、パーソナリティ心理学）	16	共同調査研究
3		17	
4		18	調査データ収集と分析
5	19		
6	20		
7	テキストの輪読（産業心理学）	21	調査論文の作成
8		22	
9	個人論文の作成	23	調査論文の発表
10		24	
11		25	
12	個人論文の発表と討論	26	まとめ、来年度に向けたテーマ設定
13		27	
14		28	
15		30	

【使用教材】

◇＜教科書＞初回演習時にテーマを決め、それに沿った教科書を指定する。

【履修条件等】

◇欠席や遅刻は認めない。やむを得ず欠席する場合には、必ず連絡をすること。

◇各自の分担に責任を持って、積極的に参加することを望みます。同学年のみならず、学年をこえてコミュニケーションをとり、グループでの共同作業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

◇指定された日に、自分で選んだ分担のレジюмеやPPT資料を作成してくること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習Ⅱ	シミズ タイヨウ 清水 太陽
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：企業の経営戦略とプロセスの研究

グローバル競争のなかで、企業が生き残っていくためには、経営資源を検討したうえで、情勢に合った経営戦略を選択し、実行することが大切です。また、そのプロセスについても見ていくことで理解を深めることができるでしょう。以上の認識の下で、本専門演習では、企業の経営戦略とプロセスについて考えていきます。

この授業は、演習科目ですので、ゼミ生の授業への主体的な取り組みが不可欠となります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける基本的な用語の定義、概念を理解し、説明できるか	20%
協働して論理的に考える力の育成	グループで一緒に考え、議論しながら、論理的に考察することができるか	30%
プレゼンテーション力の向上	研究内容をわかりやすく伝える能力があるか。 それにより、聴衆を引きつける能力があるか	20%
論文として完成させること	論文の書き方を理解し、その形式に沿って論文（ゼミ論）を完成させることができるか。	30%
評価の方法	演習態度（積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポート・発表などで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期ガイダンス	16	秋学期ガイダンス
2	関心のあるテーマ設定①	17	中間報告①
3	関心のあるテーマ設定②	18	中間報告②
4	輪読①	19	中間報告③
5	輪読②	20	テーマ決定
6	輪読③	21	ゼミ大会準備①
7	輪読④	22	ゼミ大会準備②
8	輪読⑤	23	ゼミ大会準備③
9	輪読⑥	24	ゼミ大会準備④
10	輪読⑦	25	ゼミ論作成①
11	輪読⑧	26	ゼミ論作成②
12	中間報告①	27	ゼミ論作成③
13	中間報告②	28	ゼミ論作成④
14	中間報告③	29	ゼミ論提出
15	春学期総括	30	秋学期総括

【使用教材】

- ◇教科書：最初の演習時に指示します。
- ◇参考書：適宜指示します

【履修条件等】

- ◇出席を重視します。演習には主体的に参加してください。
- ◇幅広いことに関心を持つように努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇課題が出された時には、必ずこなしてください。

【その他の注意事項】

- ◇とくにありません。

専門演習Ⅱ	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

(内容)

- ・投資ポートフォリオを自ら組み、運用結果を報告
- ・オシレーターの利用方法についてレクチャー
- ・グループワークによる企業の分析
- ・各グループによる分析結果報告
- ・個人の資産形成を振り返り

(教授法)

- ・グループワーク
- ・課題の提出

(研究テーマ)

- ・個人の資産形成

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経済に関する知識は現代社会で活躍する人材として必要な能力である。広く経済問題を取扱い、世界経済・日本経済の知識を深め、問題意識の形成、論理的思考力の養成、プレゼンテーション能力の向上を目指す	授業および各種ゼミ関連行事に対する意欲・取り組み方・提出された課題を教員が評価する。	平常点20%、ゼミ発表大会での報告内容30%、レポート点50%
評価の方法 平常点20%、ゼミ発表大会での報告内容30%、レポート点50%		

【授業計画】

テーマ・内容	テーマ・内容
<春学期> (1) 投資ポートフォリオの組成 (2) テポートフォリオの検証 (3) 運用途中経過報告 (4) 夏合宿（実施するかどうかは履修者数等の状況から判断する）	<秋学期> (1) レポートテーマを決定 (2) ゼミ発表大会用の報告を聴き、アドバイスをを行う (3) 報告主体の3年生をフォロー (4) レポートの仕上げ（締切：卒業論文締切日）

【使用教材】

◇教科書：初回の演習時において話し合う。

◇参考書：必要に応じて適宜指示する。

【履修条件等】

- ①考慮すべき理由のない欠席、無断欠席をした場合、ペナルティー（追加レポートの提出）を課す。
- ②学習意欲のない者の履修は認めない。
- ③全ての行事に全力で取り組むこと。ゼミに関連した大学行事において無断欠席をした場合は単位取得を認めない。
- ④3分の1以上の欠席（考慮すべき理由がない欠席）をした場合、履修登録を取り消してもらう。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇対面授業を前提としていますが、状況次第でオンライン（Zoomやmeetによるリアルタイム配信）を実施する。

専門演習Ⅱ	スミダ コウジ 隅田 浩司
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

このゼミでは、経済法、国際経済法そして交渉学について学びます。経済法では、経済法（競争法、ともいいます）に関する最新論点について学び、国際経済法では、貿易・通商法の基礎について学びます。そして、交渉学では、模擬交渉を中心とした交渉力強化トレーニングを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識の習得	経済法、国際経済法および交渉学の基礎知識を適切に習得し、理解できているかどうかについて課題とディスカッション内容によって評価します。	20%
論点発見能力	経済法、国際経済法および交渉学の論点を適切に抽出し、その論点の射程範囲を理解しているかどうかについて課題とディスカッション内容によって評価します。	20%
プレゼンテーション能力	自分たちが調査した内容をわかりやすく、プレゼンテーションとしてまとめて発表できるかどうかについて課題とディスカッション内容によって評価します。	20%
コミュニケーション能力	ゼミメンバー同士での兆候なコミュニケーション、基礎的なマナーや社会人になるためにふさわしい振る舞い・態度ができるかどうかについて、課題とディスカッション内容によって評価します。	40%
<p>評価の方法 ゼミへの積極的参加姿勢と、ゼミの仲間と協力して課題に取り組み姿勢を重視します。評価は、参加姿勢が80%、提出物、成果物が20%です。</p>		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	ビジネス関係法務に関する文献演習
2	ビジネス関係法務に関する文献演習	17	ビジネス関係法務に関する文献演習
3	ビジネス関係法務に関する文献演習	18	ビジネス関係法務に関する文献演習
4	ビジネス関係法務に関する文献演習	19	ビジネス関係法務に関する文献演習
5	ビジネス関係法務に関する文献演習	20	ビジネス関係法務に関する文献演習
6	ビジネス関係法務に関する文献演習	21	ビジネス関係法務に関する文献演習
7	ビジネス関係法務に関する文献演習	22	ビジネス関係法務に関する文献演習
8	ビジネス関係法務に関する文献演習	23	ビジネス関係法務に関する文献演習
9	ビジネス関係法務に関する文献演習	24	ビジネス関係法務に関する文献演習
10	ビジネス関係法務に関する文献演習	25	ビジネス関係法務に関する文献演習
11	ビジネス関係法務に関する文献演習	26	ビジネス関係法務に関する文献演習
12	ビジネス関係法務に関する文献演習	27	ビジネス関係法務に関する文献演習
13	ビジネス関係法務に関する文献演習	28	ビジネス関係法務に関する文献演習
14	ビジネス関係法務に関する文献演習	29	ビジネス関係法務に関する文献演習
15	ビジネス関係法務に関する文献演習	30	総括

【使用教材】

◇教科書は指定しません、ただし、経済法、国際経済法、交渉学に関する参考文献を演習中、指示します。必要に応じて書籍は各自、購入する必要があります。

◇参考書は、演習中に指示します。

【履修条件等】

◇「3年時に、私が担当する専門演習を受講し、単位を取得していることが必須条件です。4年時から履修することはできません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ほぼ毎回、予習課題が指示されますので、課題の提出が必要です。

【その他の注意事項】

◇参加意欲が乏しい場合、専門演習の履修を取りやめてもらう場合があります。

専門演習Ⅱ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

テーマ：ワークモチベーション ～「楽しく仕事する」を考える～

この専門演習では「働くこと」について様々な角度から考えていきます。まず企業において働くことの現状を知ることから始めたいと思います。この分野は「人的資源管理論」と呼ばれ、雇用について考える上で重要な領域となっています。その中でも「楽しく仕事をする」ためにはどのような方法があるのかについて考え、将来に向けて楽しく頑張れる理論について学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テキストを読みこなし、要約する	テキストの担当箇所についてのレジュメを作成してもらいます。評価基準は、テキストの要約が適切に行われているか、筆者の意見に対して的を射たコメントが行われているか、になります。	20%
テキスト要約内容を他者に伝達する	テキストの要約内容を口頭にて発表してもらいます。評価基準は、言葉の用い方は適切か、オーディエンスの理解を促進するような発表を行っているか、になります。	20%
グループワークへの参加	グループディスカッションやゼミ発表大会への報告資料や発表を行ってもらいます。評価基準は、全員がそれぞれの役割を果たし、高いパフォーマンスを発揮してもらう点になります。	40%
協働の実践	ゼミ運営への積極的な関わりを求めます。日々のゼミ活動およびゼミ行事などでの貢献度合いについて評価します。評価基準は、積極性と真摯さになります。	20%
評価の方法 個人作業の内容：40% 集団作業の貢献度：40% 授業態度およびゼミ運営：20%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ顔合わせ	16	秋学期テーマ設定会議
2	春学期テーマ設定会議	17	ゼミ発表大会準備
3	テキスト講読①	18	・テーマに沿った資料の輪読
4	・テーマ設定会議で決定した内容に関	19	・テーマについてのディスカッション
5	連するテキストの輪読	20	・パワーポイント作成
6	・レジュメ作成・発表	21	・パワーポイント発表練習
7		22	・振り返り
8		23	
9	グループワーク設定会議	24	
10	グループワーク	25	テキスト講読②
11	・テキスト講読を通じて発見した課題	26	・レジュメ作成・発表
12	の解決	27	・学期末レポート作成
13	・グループディスカッション	28	
14		29	
15		30	年間フィードバック

【使用教材】

- ◇教科書：授業時に指示します。
- ◇参考書：授業時に指示します。

【履修条件等】

- ◇遅刻・無断欠席を絶対にしないこと。ゼミは協働作業の場ということを意識してください。
- ◇与えられた課題を放置しないこと。ゼミは成長の場であり、成長のプロセスこそ重要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇レジュメの担当箇所には責任を持って対応してもらいます。
- ◇日頃より社会問題（とくに労働問題）に対してアンテナを張っておくようにしよう。

【その他の注意事項】

- ◇ゼミ行事（合同ゼミ、ゼミ合宿などを予定）への積極的な参加を求めます。
- ◇プロフェッショナルセミナーで訓練を受けていない場合は別途相談が必要です。

専門演習Ⅱ	ドイ ミツル 土井 充
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

このゼミでは、株主など企業に利害関係を持っている外部の人たちに情報を提供するための会計、すなわち財務会計を中心テーマとします。企業は、この財務会計を一定のルールに従って行っています。ゼミでは、この会計ルール（複式簿記、会計基準など）や、ルールに従い作成された情報を読み解くための知識（経営分析など）を習得するとともに、こうした知識を用いて、現代経済社会において財務会計がどのようなはたらきを持っているのかを探究していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基本的な知識を有していること	ゼミ活動やゼミレポートの内容によって評価。 簿記（2級程度）、会計理論（「財務会計Ⅰ」、「財務会計Ⅱ」、「管理会計Ⅰ」、「管理会計Ⅱ」、「税務会Ⅰ」、「税務会計Ⅱ」、「経営分析」程度）、および個別研究テーマに関する知識を有している。	40%
アカデミックリテラシーを修得していること	ゼミ活動によって評価。 「専門演習Ⅰ」で取得したリテラシーをもちいて、(a)問題を発見し、解決法を模索し、グループを目標達成に導くことができる。	20%
レポートを作成することができること	レポートによって評価。 (a)問題を自ら発見し、(b)適切な科学的手法を用いて、(c)レポートの形式要件を満たしつつ、(d)「(a)」に対する答えを論証することができる	20%
ゼミ活動の方針を理解していること	ゼミ活動によって評価。 (a)自主的・積極的な姿勢でゼミに出席している。(b)サブゼミ、ゼミコンパ、合宿へ貢献する。(c)理論が仮説であること理解し、「なぜ」「どうして」という問題意識をもって課題に取り組むことができる。	20%
評価の方法	発表や討論などへの参加度合や出席状況など、演習への取り組む姿勢や貢献度などから総合的に評価します。	

【授業計画】

<春学期>

春学期は、財務会計の基本原則に関することを全員で討議する形で進めていきます。具体的には、毎回、報告者が担当範囲についてレジュメを作成し、演習で発表します。この発表を基に、全員で討論を行い全体の理解を深めていきます。

<秋学期>

秋学期は、演習で協議し決定した幾つかのテーマについて、討論を行い演習の意見を形成し、報告を行います。春学期同様、演習では、レジュメを作成し全員で討論を行い、アドバイスや報告の問題点を指摘し、テーマの理解を深めていきます。

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

- ◇常に積極的・継続的に参加する学生の履修を望みます。
- ◇「商業簿記Ⅰ／Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ／Ⅱ」、「税務会計Ⅰ／Ⅱ」、「管理会計Ⅰ／Ⅱ」、「経営分析」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇簿記（3級程度）、会計理論（「会計学Ⅰ／Ⅱ」、「財務会計Ⅰ／Ⅱ」）の知識を確認すること。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇本ゼミの準備（予習・事前学習）のため、サブゼミを開くことがあります。
- ◇研究テーマによって、「専門演習Ⅰ」と合同でゼミを行うことがあります。
- ◇ゼミ生全員で協議し、学外でのゼミ行事（ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門演習Ⅱ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：消費者心理と行動、マーケティング戦略

消費者行動のさまざまな理論について学び、消費者の心理や行動について分析・考察を行ったうえで、効果的な企業のマーケティング戦略についての立案を行う。春学期は、輪読形式で文献レビューを行っていくとともに、班別での研究活動を進める。秋学期は、実際の消費者行動を分析するとともに、企業側の視点に立ち、マーケティング戦略を立案することを中心的課題とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者の心理や行動について理解し発表することができる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。輪読の担当箇所のレジュメを作成し、実際の商品例等を挙げながら他者にわかりやすく内容を説明することができる。	20%
消費者の心理や行動を分析し、マーケティング戦略を立案することができる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。他者の発表内容を聞いたうえで、消費者の心理や行動を分析し、マーケティング戦略の立案や改善案などを提案できるようになる。	25%
消費者行動やマーケティング戦略にまつわる意見交換や議論に積極的に参加し貢献できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。自分の意見をわかりやすく伝え、他者との意見交換や議論を通し、より効果的なマーケティング戦略を提案できるようになること。	25%
研究発表のためのリサーチや資料作成、議論等に積極的に参加し貢献できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。研究テーマにもとづいたリサーチ、資料作成、調査活動、ディスカッション等に積極的に参加し貢献すること。	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、個人発表の内容20%、授業や班別研究への参加度と貢献度50%とする。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	授業のガイダンス	16	班別研究の途中経過報告
2	・個人研究テーマの選定と研究法	17	・班別研究についての調査分析 ・ゼミ発表大会準備
3	・最新のビジネスの話題に基づくディス	18	
4	カッションと戦略立案	19	
5	・班別研究テーマの選定	20	
6		21	
7		22	
8		23	
9		24	
10		25	
11		26	
12		27	
13		28	
14		29	
15	研究報告準備	30	

【使用教材】

◇教科書：授業時に指定する。

【履修条件等】

◇消費者の購買行動や心理に興味を持ち、個人の発表や班別研究に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の自分や他者の購買行動に興味を持ち、ニュース等で企業や商品情報をチェックしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇演習には、極力休まずに出席すること。
- ◇ユニークなアイデアを出す努力をすること。

専門演習Ⅱ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：広告と企業のコミュニケーション活動

広告やマーケティングの学習理論を学び、企業が展開する実際の活動を対象に学習をする。データの収集、分析、発表といったリテラシーについても学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つめられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルやSPSSなどのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度50%、課題50%		

【授業計画】

<春学期>

アカデミックリテラシーの獲得。資料収集、レポート作成を中心に行う。

<秋学期>

設定した課題について、文章やスライドにまとめ発表する。

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

- ◇広告やマーケティングに興味を持っていること。
- ◇他人との共同作業ができること。
- ◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習Ⅱ	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：国境を越えたビジネスを学ぶ

近年、日米欧をはじめとした先進諸国の小売・流通企業は自国の市場の成熟化を受け、新興諸国市場への国際展開を積極的に行っている。本演習では、コンビニエンス・ストアやスーパーマーケットなどの小売・流通企業を中心に、グローバルな視点でこれら企業のマーケティング戦略に関する諸処の問題についての基礎的知識の習得を目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究発表に必要な基本的スキルを身につけていること	演習におけるプレゼンテーション姿勢やレジメの充実度で評価。具体的には学術書や研究論文の検索方法を理解し、文献を自力で収集できること、ワード、エクセル、パワーポイントの使用方法を理解しレジメを作成できることが要請される。	20%
マーケティング、流通、グローバルビジネスに関する学術書を読み、文献レビューを行えること	演習におけるプレゼンテーションによって評価。学術書および論文の内容を理解し、それを他のメンバーに分かりやすく説明することができることが要請される。レジメ内容の充実度に加え、発表内容、発表姿勢が評価基準となる。	20%
グローバルな視野で企業が直面している諸問題について発見し説明できること	演習におけるプレゼンテーションによって評価。グローバルビジネスに関する学術書、論文、ニュースから問題点を探り出し、他のメンバーと共有できることが要請される。レジメ内容の充実度に加え、発表内容、発表姿勢が評価基準となる。	20%
ディスカッションにおいて相手の意見を理解したうえで自分の意見を発言できること	演習におけるディスカッションによって評価。マーケティング、流通、グローバルビジネスに関して研究報告者が提示した問題について理解し、それに対する自分の意見を整理し発言しているかが評価基準となる。	40%
評価の方法	全30回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、レジメ発表などの分担貢献度50点、演習中の質疑応答およびコメントの発言の積極性50点を基準に評価する。	

【授業計画】

＜春学期＞

- ・ 研究発表レジュメの作成およびそのプレゼンテーションの練習
- ・ 国際流通論、国際マーケティング論に関する基本的文献の輪読
- ・ 各種データおよび資料の調査方法の習得
- ・ 小売・流通企業の国際展開に関する現状と課題の把握

＜秋学期＞

- ・ 春学期の基本的文献の輪読からの学習、レジュメ作成およびプレゼンテーションから培った能力をベースに、研究レポートを学内および学外に向けて発信することを目的とする。

【使用教材】

◇教科書：授業中に指示する。

◇参考書：矢作敏行著『現代流通—理論とケースで学ぶ』有斐閣アルマ、1996年

諸上茂登・藤澤武史著『グローバル・マーケティング』中央経済社、1997年

【履修条件等】

◇グローバルビジネスに興味や関心があり、なおかつ積極的にゼミ活動に参加できることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇研究発表の際には、惜しみなく時間をかけて事前学習し準備する。

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどのビジネス誌に日頃から目を通し問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇演習中は積極的な質疑応答およびコメントの発言が強く求められる。

専門演習Ⅱ	フジモリ ダイスケ 藤森 大祐
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

- ・ 企業による環境問題の解決
- ・ 企業によるSDGs への取り組み

場合によっては、外部に演習に出かけることもある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
SDGsに関する基礎的な知識の理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ソーシャルビジネスに関する理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ディスカッションとプレゼンテーション力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%
評価の方法	問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ゼミ発表大会のテーマ検討
2	研究テーマの検討	17	ゼミ発表大会への準備
3	研究テーマの決定	18	
4	調査およびディスカッション	19	
5	プレゼンテーション準備	20	
6		21	
7	プレゼンテーション、振り返り	22	
8	研究テーマの検討	23	
9	研究テーマの決定	24	
10	調査およびディスカッション	25	
11	プレゼンテーション準備	26	ゼミ発表大会の振り返り
12		27	個人研究のテーマ決定
13		28	プレゼンテーション準備
14		29	
15	プレゼンテーション、振り返り	30	プレゼンテーション、振り返り

【使用教材】

◇教科書：とくに使用しないが、研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。

その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

◇あらゆるゼミ活動に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各自が自発的に調査研究をする。

【その他の注意事項】

◇個々人が力をつけるよう努力するとともに、ゼミのメンバーを尊重し、ゼミ全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

専門演習Ⅱ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：財務会計

このゼミでは、財務会計をテーマに、特に現代会計の理論について研究を行う。春学期では、IFRS（国際財務報告基準）を題材にいくつかトピックを取り上げ、原文での輪読およびディスカッションを行う。秋学期では、個人研究テーマを決定し、前半はテーマに関連する文献調査・資料収集などの個人研究活動とその報告を行い、後半は卒業論文の作成と報告および指導を行っていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基礎的な知識の習得	ゼミ活動およびレポートにより評価。 簿記（日商2級程度）、会計理論（「財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」程度）の知識を有しているか。 ゼミで取り上げるテーマについて専門用語・基礎概念を理解しているか。	20%
資料の収集・整理・分析能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 図書館やインターネットを利用して、必要な資料を収集し、それを整理・分析することができるか。	10%
プレゼンテーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自らが調査・分析した結果を、分かりやすくまとめて他者に伝えることができるか。	10%
コミュニケーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自己の意見をまとめ、他者に分かりやすく伝えることができるか。実のある議論ができるか。	10%
論理的思考力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 グループ研究活動および個人研究活動において、テーマの設定から結論に至るまでの論理展開が適切になされているか。文献引用が適切になされているか。自分の意見と異なる見解に対する反証やその論拠など論理的な思考の構築ができているか。	50%
評価の方法	ゼミ活動への積極的な参加（出席状況および発表・ディスカッションにおける態度）および研究成果により評価。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容	
1	オリエンテーション	16	研究進捗報告	
2	報告およびディスカッション	17	個人研究活動および報告	
3		18		
4		19		
5		20		
6		21		中間報告（章立て、参考文献等）
7		22		卒論作成および報告
8		23		
9		24		
10		25		
11		26		
12		27		最終報告（論文の提出）
13		28		自由課題研究（または論文の校正）
14		29		
15		まとめと卒業論文研究テーマ報告		30

【使用教材】

- ◇教科書：使用しない。
- ◇参考書：必要に応じて適宜紹介する。

【履修条件等】

- ◇演習に積極的に参加する学生の履修を望む。
- ◇「入門簿記Ⅰ・Ⅱ」、「会計学Ⅰ・Ⅱ」（「会計学概論」）を履修済みであること。
- ◇「商業簿記Ⅰ・Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ・Ⅱ」、「財務会計Ⅰ・Ⅱ」、「管理会計Ⅰ・Ⅱ」等、関連する専門科目を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇演習開始までに、簿記の基礎（日商簿記3級程度）および会計の基礎（「会計学Ⅰ・Ⅱ」）の知識を確認しておくこと。
- ◇次の演習へ向けての準備は必須。具体的には、発表担当者は、プレゼンテーションの資料（PPおよび配布資料）を作成し当日の発表に備える。それ以外の学生は、当日の討論に備えてテキストの該当箇所を熟読したうえで、不明な点については各自下調べをする。

【その他の注意事項】

- ◇無断での欠席・遅刻は厳禁。大人の自覚をもってゼミに臨むこと。
- ◇発言・質問等、積極的・自発的に参加すること。
- ◇私語や他者への迷惑となる行為は厳禁。とくに携帯電話（スマートフォン）の使用・メール等SNSの閲覧は授業の妨害とみなし、退席してもらう。

専門演習Ⅱ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：文化創造とデザイン思考のマーケティング

春期においては、ビジネスの場における情報の収集、分析、創出、表現、伝達の技術を磨き、マーケティングプランニング（商品開発、広告企画、プロモーション企画、新事業創出など）を行なえるようなスキル獲得を目指します。秋期には、ゼミとしての独自の研究設計～実践を行います。企業との連携授業(PBL)や各種コンテストへの参加、企業訪問、学外視察・見学、卒業生との交流、外部講師の招聘なども随時行いたいと思います。

本ゼミが過去に取り組んだ連携学習としては、次のようなものがあります。

「地域のキャラクターと物語の創造」「監視カメラの用途開発」「消費者がECOを実感できるプロダクト提案」「こども環境絵画を活用した環境啓発ゲームの開発」、「ボードゲームが育む社会的スキルに関する調査研究」、「手塚コンテンツを活用した地域活性化の可能性に関する研究」、「Social Smile Business（ユーモアで社会を変える方法）に関する研究」、「紅茶の新ビジネス創造」等。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケッターとしての基本的なリテラシーを取得していること	講義中の受講姿勢、質疑応答、グループワーク、提出物等により評価。 「情報の収集、分析、創出、表現、伝達についての技術力」を評価ポイントとする。	50%
マーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキルを獲得していること	講義中の受講姿勢、質疑応答、グループワーク、提出物、企画書等のアウトプット等により評価。 「発想力、企画書作成能力、グループワーク推進能力、他者や社会に働きかける力」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法		
評価の配分：80%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度・協調性・リーダーシップ50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋期オリエンテーション
2	相互理解プログラム	17	秋学期研究活動の準備
3	ビジネスリテラシートレーニング①	18	研究方向の確認と役割分担
4	ビジネスリテラシートレーニング②	19	個人研究と発表①
5	ビジネスリテラシートレーニング③	20	個人研究と発表②
6	ビジネスリテラシートレーニング④	21	グループワーク①
7	創造的思考法トレーニング①	22	グループワーク②
8	創造的思考法トレーニング②	23	グループワーク③
9	創造的思考法トレーニング③	24	グループワーク④
10	創造的思考法トレーニング④	25	グループ研究発表①
11	消費者理解トレーニング①	26	グループ研究発表②
12	消費者理解トレーニング②	27	グループ研究発表③
13	消費者理解トレーニング③	28	グループ研究発表④
14	消費者理解トレーニング④	29	流通視察・ショールーム見学
15	総括と達成度の確認	30	総括と達成度の確認

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：山川悟、他著『応援される経営』光文社 等

【履修条件等】

- ◇マーケティング、商品開発、広告宣伝などの分野に興味があること。
- ◇PCである程度のドキュメント作成ができること。
- ◇好きでこだわりを持っている分野があり、それをビジネスやマーケティングと結びつけてみたいと思っている人が望ましい。
- ◇「マーケティング」を受講していること。
- ◇受講生同士で積極的な人間関係をつくろうとする人。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等）、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒に。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

- ◇ゼミは学生が能動的に学習する場です。自分たちでテーマを決め、推進していくくらいの能動的な参加姿勢が求められます。

専門演習Ⅱ	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Specialized Seminar II	演習科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：社会構築主義から見た企業倫理

今年度は、現実を社会的に構築されたもの（絶対的存在ではなく、みんなが主観的に作り上げていくもの）として見る、社会構築主義を考える。そして、現実を社会的に構築されたものとして考えた場合に、企業の倫理はどう作られていくかを考える。

それぞれの企業で、現実はどうとらえられ、それに基づいてどのような倫理水準が設定されるのかを考える。できれば実験をしてその過程を明らかにしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会構築主義が説明できる	演習内での積極的な発言。	25%
社会構築主義と客観的な現実との違いを説明できる	演習内での積極的な発言。 客観的な現実の例を挙げられる。 社会構築された現実の例を挙げられる。	25%
シンボリックな見方を理解できる	演習内での積極的な発言。 シンボルの例を挙げられる。	25%
シンボルを応用できる	演習内での積極的な発言。 実際にシンボルをどのように利用できるかの例を挙げて説明できる。	25%
評価の方法	自分で考え、積極的に発言でき、他人の意見もよく聞け、自分の意見を修正できるか。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	はじめに	16	実験準備
2	客観的現実とは	17	実験
3		18	
4		19	
5	社会的に構築された現実とは	20	シンボルを探す
6		21	
7		22	
8		23	
9	社会的に構築された現実を探してみる	24	シンボルの影響を探る
10		25	
11		26	
12	シンボリックな世界	27	まとめ
13		28	
14		29	
15		30	

【使用教材】

◇教科書：1回目の授業で指示します。

【履修条件等】

◇まじめに出席し、他のゼミの仲間と仲よくでき、山口ゼミに楽しくかつアカデミックな現実を構築できる人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇コマーシャル、新聞、ニュースに常に関心を持ち疑問を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

プロフェッショナル・セミナー I	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Professional Seminar I	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

会計は、社会人にとって必須の常識であるにもかかわらず、そのなじみにくさから（高校時代に勉強した一部の学生を除いて）一般の学生諸君には敬遠される科目でもある。しかし、ビジネスパーソンとなってからは、必ず、会計のセンスを会得しているか否かが問われることになる。営業職、開発企画担当、広告担当、PR（パブリックリレーションズ）担当…その他もろもろの会社の活動の前提として、会計的ものの考え方（センス）は、不可欠の要素となる。なぜなら、会社のどのような活動も、資金の裏付けが必要であり、会社にとって有限な資金をどのように確保し、有効に活用するかに関する客観的な数値の情報を把握するための「用具＝手段」が、会計であるからである。

春学期では、まず、会計の基本的スタンスを理解してもらおうと考えている。会計へのイメージづくりを眼目とし、会計の考え方（理論）を中心に、講義を進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の習得の有無の確認	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
会計に関する基礎的な知識の習得の確認	会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
会計に関する理解の深度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

春学期は、会計へのイメージづくりのために、会計の意義（必要性、目的、簿記との関係、実務上の役割、会計をめぐる制度、会計報告の内容）について、15回にわたり解説する。

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それによって講義を行う。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

プロフェッショナル・セミナー I	イナミ カズエ 伊波 和恵
Professional Seminar I	演習科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

研究テーマ：心理学、ストレスと心理社会的適応、コミュニケーション

本演習では、心理学、とくに心理社会的適応を基本テーマに知識習得を進めます。成人期～壮年期のビジネスパーソンが置かれている職場・家族を含む社会的対人的環境についての知識と理解を深め、ストレス・マネジメント、心理カウンセリングやコミュニケーションスキルについて学びます。

そのために、グループワーク、プレゼンテーション、レポート作成を通じて、各種調査法やチームプロジェクトの企画立案の基本を学習します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
レポート作成① (まとめ)	レポート執筆のために必要な基礎的な作法を理解し、実践できているかどうか。体裁、テーマ、構成、論考等の観点から、期日までに提出されたレポートの完成度をみる。	20%
グループワーク (ディスカッション、プレゼンテーション)	チームプロジェクトで役割をどのように果たしているか、そのプロセスと成果を評価する (たとえば、資料の収集、レジュメやプレゼンテーション資料の作成、自己表現や意見交換の方法など)。日頃のプロジェクトへの貢献態度、完成したプレゼンテーションについて評価。	40%
チームワークとゼミ運営・参加 (コミュニケーション)	日頃の演習授業ならびに運営への参加態度から、コミュニケーションスキルやボランティア・スピリットという観点で、ゼミへの貢献度を評価する。	20%
レポート作成② (まとめ)	チームプロジェクトの報告書の執筆。体裁、テーマ、構成、論考等の観点から、期日までに提出されたレポートの完成度をみる。	20%
評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート課題 40% ・ 課題・グループワークへの取り組みとプレゼンテーション 40% ・ 授業ならびにゼミ運営への関与・平常点 (行事参加等含む) 20% 		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	
2	ワーク	
3	グループワーク①	グループでの基礎的なワーク（全5回）
4	〃	
5	〃	
6	〃	
7	〃	
8	レポート作成①	グループワークのまとめレポート作成（提出）
9	グループワーク②	グループでの調べ学習＋調査ワーク（全5回）
10	〃	
11	〃	
12	〃	
13	〃	
14	レポート作成②	グループワークでのまとめレポート作成（提出）
15	総括・達成度の確認	レポート課題提出（夏季休暇中にゼミ合宿行事実施予定）

【使用教材】

- ◇参考書：吉田健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』
ナカニシヤ出版

【履修条件等】

- ◇受講に際しては、グループメンバーでの協調性や社会性も重要です。
- ◇その前提として、遅刻・無断欠席は厳禁です。
- ◇学年合同で行う自主ゼミ（縦ゼミ）に適宜参加するように予定してください。
- ◇心理検査等の教材、ゼミ合宿（夏期休暇中に実施予定、全員参加行事）その他のゼミ関連行事にそれぞれ相応の費用がかかりますので、各自で備えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇週の課題は必ず準備してから演習に臨むこと。
- ◇課題は遅延なく確実に提出すること。

【その他の注意事項】

- ◇一人ひとりの自由意思と全体的なチームワーク、どちらも尊重すること。折り合いがつかない場合は、各自、最善解を求めよう努力すること。
- ◇お互いにコミュニケーションを大事にすること。
- ◇ゼミ行事には積極的に参加し、他学年ゼミ生とも積極的に交流するよう努めること。
- ◇メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種程度の基礎知識を身につけること。
- ◇ボランティア活動など、課外での主体的かつ積極的な社会参加にチャレンジすること。

プロフェッショナル・セミナー I	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Professional Seminar I	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

円城寺ゼミでは、企業はいかにして持続的な発展を遂げることができるのかを考えていきたいと思えます。本セミナーでは上記のテーマをゼミ生各自身で考えられるようになるために、以下の点を中心にセミナー I・II を通じて学ぶ予定です。

- ① 経営学の基礎的な理論と知識を学ぶ～ゼミ員皆で議論しながら学べば、学習効果は高まると思えます。管理論、組織論、戦略論、企業論など、経営学の中核となる基礎的な理論や知識を学んでいきます基礎的なテキスト(具体的な事例も含め)を選択し、輪読および発表という形式で進めていきます。
- ② 研究の方法を学ぶ～大学4年生になると卒業論文やゼミ論文(2年や3年次とは異なる)を書く必要が出てきます。自ら研究テーマを見つけ、そのテーマに対して適切なアプローチをとって、何らかの研究成果を出していく必要があります。テーマの見つけ方や研究の方法、さらには書き方などの基本を学んでいきます。なお、本セミナーでは、事例研究の方法を中心に学ぶ予定です。
- ③ 議論や発表の仕方を学ぶ～社会人になれば、仕事を進めていく上で、上司や同僚と議論したり、自分がつくった企画をプレゼンして、内容を相手に分かりやすく伝えていく必要性が出てきます。本セミナーでは輪読や発表、そして議論をしながら進めていくこととなりますので、自然と社会人に求められる能力を身に付けることができると考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎理論と知識の修得	戦略論、企業論、組織論、管理論などの基礎理論と知識を修得できたか。	30%
研究方法の修得(主として事例研究)	研究方法(主として事例研究)を修得できたか。	30%
議論や発表の方法の修得	議論や発表の方法を修得できたか。	40%
評価の方法	セミナーへの貢献度(発表や発言等)50%、課題(レジュメや個人論文等)50%で評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	
2	輪読、レジュメ作成、 発表の方法等について	輪読の仕方やレジュメの作成について学ぶ
3		発表の方法について学ぶ
4	輪読①②	上記【授業概要】の①②③を輪読形式で学ぶ
5	輪読③④	
6	輪読⑤⑥	
7	輪読⑦⑧	
8	輪読⑨⑩	
9	輪読⑪⑫	
10	輪読⑬⑭	
11	輪読⑮⑯	
12	輪読⑰⑱	
13	輪読⑲⑳	
14	バッファ	
15	総括	セミナー I の総括

【使用教材】

◇初回演習時に提示

【履修条件等】

◇本セミナーは上記【授業概要】①②③を主として学んでいくこととなりますが、これらの学びは、学生の主体的な学びの姿勢があつてはじめて可能となりますので、その点を十分に留意して履修してください。また当然、遅刻・欠席は厳禁です。大人としての自覚を持ってセミナーに望んでください

【予習をすべき事前学習の内容】

◇輪読担当者は必ずレジュメ作成すること。担当者以外の学生も必ず事前に該当章を熟読すること。何かを事前に調べるときはWEBだけに頼らずに、関連書籍等に当たるなど能動的な資料集めに努めること

【その他の注意事項】

◇担当教員の指示に従わない場合や無断遅刻・欠席を一回でもした場合単位が出ない可能性があるため十分注意してください。

プロフェッショナル・セミナーI	オガワ タツヤ 小川 達也
Professional Seminar I	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

「プロフェッショナル・セミナーI」では、AI（人工知能）とロボット技術を用いた“おもてなしとサービス戦略の未来”を考察します。事例分析やフィールドワーク（訪問調査）を行い、理解を深めることが目標です。その際、専門誌や経済新聞等から得られる情報を通して、刻一刻と変化するサービス産業の動向や経営環境の潮流を的確に把握するテクニックを身につけます。演習中にインタラクティブな議論を重ねることで、自分のことばで表現できるスキルを磨き、大学生や社会人に必要な思考力・洞察力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
演習で取り上げた理論や用語を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた理論や用語の定義・概念、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた企業組織の実践的知識を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げたハイテク・サービス関連企業や業界についての実践的知識や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた理論と知識を広く理解し、応用して説明・議論できる	ハイテク・サービス関連企業や業界についての実践的知識を複数把握し、演習で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明でき、諸課題に対する解決策をしっかりと議論できること。	20%
プレゼンテーション・スキルが身についている	演習の時間やレポート発表会におけるプレゼンテーションで、しっかりと報告できること。	20%
レポートやレジюмеを作成するスキルが身についている	演習の時間やレポート発表会で担当したセクションのレポート・レジюмеをしっかりと作成し、期限内に提出できること。	20%
<p>評価の方法 演習の実施回数に対して出席回数が3分の2以上に限り評価します。なお、2回連続して欠席したり、レジюме発表時に欠席した場合には厳しく評価し、単位取得が困難となるので注意してください。演習への積極的な参加姿勢を前提として、総合的な学習・研究成果に基づいて評価します。</p>		

【授業計画】

「プロフェッショナル・セミナーⅠ」では、個々の履修者が関連した話題やテーマに基づき、専門雑誌や経済新聞等から得られる情報を収集し、その内容を読み解く能力を徐々に身につけていきます。研究対象とする領域は、AI（人工知能）やロボット技術といったハイテク関連企業の事業活動、おもてなしのサービス産業の動向と変化、市場のトレンド等、幅広く検討し、背後にある競争環境の把握に努めます。

演習の進め方は、担当教員が準備した資料を熟読し、記述内容の要点を確認します。経営学やサービス産業で必須の専門用語の把握も忘れてはなりません。資料で指摘している重要な箇所や問題点、あるいは考察が必要な論点を見出します。各人が上記のプロセスで得られた知見を要約し、追究すべき論点を考察の上、レジュメを発表します。

履修者全員が質疑応答と議論に参加し、建設的かつ有意義な議論ができるよう十分に資料収集を行い、各人が深く検討できるような姿勢で臨む必要があります。

こうした学習をつうじて、サービス関連企業や業界が直面している重要なトピックを発見し、フィールドワーク（訪問調査）の内容を絞り込んでいきます。

その上で、履修者は個々人で研究テーマを設定し、学期の最後に「ゼミ単位取得レポート」を作成します。字数は3,000字以上とやや多目ですが、充実した研究成果が得られるはずで、完成したレポートは履修者全員がパワーポイントで発表する「レポート発表会」で披露し、質疑応答を経て担当教員に提出します。

「プロフェッショナル・セミナーⅠ」は半期の演習となりますが、その後、秋学期の「プロフェッショナル・セミナーⅡ」へ移行可能な能力水準に引き上げることを目的に指導します。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：議論や考察に必要な文献・資料は適宜紹介・配付します。

【履修条件等】

◇レジュメとレポートはWordで作成し、発表はPowerPointのスキルが必要です。

◇単位を取ることが目的ではなく、大学生として充実した成果を残すために、継続して「プロフェッショナル・セミナーⅡ」を履修する方にお勧めします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出します。わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、演習内での議論に備える必要があります。また、日頃から専門雑誌や経済新聞等をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇プロフェッショナル・セミナーは通常の講義形式の授業と異なり、履修者が自ら疑問を見出し、調査分析し、その疑問をどのように解決するのか、モノの考え方を学び、発表し議論を行う場です。その主体は、履修者自身にあることを認識してください。常に向上心と修学意欲を高め、積極的な参加姿勢が不可欠となります。

プロフェッショナル・セミナー I	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Professional Seminar I	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

「情報システム学」

情報化社会と言われる昨今、企業において情報をどのように収集、解析、活用していくかが大変重要となってきています。本セミナーでは、情報システムを切り口として「会社では何をしているのか?」「何が求められているのか?」「どのように問題を解決していくのか?」などを議論し、企業社会についての理解を深めていきます。

また、Word、Excel、PowerPoint などを用い、コンピュータの基本操作も学びます。グループ学習などを通じて情報の収集力、発想力、プレゼンテーション能力などを身につけることを目標とします。

基本的には、ゼミ生によるディスカッションとプレゼンテーションを中心に演習を進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムに関する基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける用語の定義、概念を理解し、説明できること。	20%
チームで考える力の育成	グループワークにおけるチームへの貢献度、積極性、ディスカッション能力等を評価する。	30%
問題解決に向けた発想力の向上	課題を見つける力、解決策を考える力、解決への実行力を評価する。新しい発想力をつける力も養っていく。	20%
プレゼンテーション力の向上	発表や質疑応答の内容で評価を行う。プレゼンテーションの方法を学び、演習における態度などが評価のポイントとなる。	30%
評価の方法 セミナーでの態度（発言、積極性など）、貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ、内容
1	ガイダンス
2	情報の集め方、扱い方について学ぶ
3	プレゼン技術について学ぶ
4	関心のあるテーマについて発表
5	〃
6	〃
7	グループ発表のテーマ選定
8	グループワーク
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	グループごとに発表
15	まとめ（気づき、反省、決意）

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）を使うことがあります。

【履修条件等】

◇演習ですので基本全回出席をお願いします。積極的、継続的に参加してください。

◇多くのことに興味を持ち、発想力の向上に努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出た時には、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇学外での行事（企業訪問、合宿など）に参加することがあります。

<p>プロフェッショナル・セミナー I</p> <p>異文化理解・語学検定対応力の向上</p>	<p>キムラ ナオキ 木村 直樹</p>
<p>Professional Seminar I</p> <p>Understanding Cultural Differences & Improving Skills for Various EFL Tests</p>	<p>演習科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

この授業は①Microsoft Office 等を含む ICT スキル、②レポートの書き方、③プレゼンの仕方、といった、初年次でカバーする学習内容の発展、および3年次以降の「専門演習」で扱う、より専門的な実務思考トレーニング（経営／経済・法／会計／経営心理／マーケティング）の橋渡しとなる科目です。

春学期の「プロフェッショナル・セミナー I」では主に初年次「基礎演習」の延長・応用となる内容をカバーしつつ、「第2言語習得理論」「異文化理解」をテーマとしてゼミを進めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1. ICT スキルの養成	パソコンや iPad の使用法や Office ソフトなどの応用スキルを身につけ、よりアカデミックな内容に応用するための土台固めを行う。	20%
2. レポート執筆能力の養成	主張を支える根拠（数値データや先行研究）を駆使して、より説得的な文章を書けるようになるための手法を身につける。	20%
3. プレゼン能力の養成	オーディエンスにわかりやすく伝えるための根本的な「考え方（姿勢）」と、実際にスライドをわかりやすく見せる「技術」の基礎を習得する。	20%
4. アカデミック・リテラシーの養成	与えられたテーマについて考え、仮説の立て方やその検証方法、データの妥当性について批判的に考えられるようになる。	40%
評価の方法	上記の4項目について、授業での貢献度や積極性などを合わせて考慮し、評価する。授業への出席は3分の2以上を前提とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	コース概要や成績評価についての説明
2	ICT ツールの基礎	PC の基礎；メールの書き方のマナーについて復習
3	第2言語習得：文化と個人	左記のテーマについてゼミ内で考えながら、Office ソフト（WORD / EXCEL / PowerPoint）の使い方についての復習、およびその応用方法を学ぶ
4	第2言語習得：適応カーブ	
5	第2言語習得：他言語副作用	
6	第2言語習得：言語転移	
7	異文化理解：北米	左記のテーマについてゼミ内で考えながら、レポートの書き方（レポートの形式や文体についての基礎／参考文献の探し方やその引用法／与えられたテーマで実際にレポートを書く）を学ぶ
8	異文化理解：アジア	
9	異文化理解：ヨーロッパ	
10	異文化理解：南半球	
11	異文化体験シミュレーション：実際に計画を立ててみる	左記のテーマについてゼミ内で考えながら、プレゼンの方法（スライド作り／発表原稿／与えられたテーマでの実際の発表）を学ぶ
12		
13		
14		
15	春学期のまとめ	渡航計画についての発表

【使用教材】

◇参考図書については初回の授業で指示し、以降の読書課題については適宜指示する。

【履修条件等】

◇「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を履修・修得済みであることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇PCを持参して受講することが望ましい。

プロフェッショナル・セミナー I	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Professional Seminar I	演習科目／半期／2単位

【授業概要】**●テーマ「貯蓄から投資へ～副収入の作り方～」**

「老後資金2000万円必要」という文言が金融庁の報告書に載ったことは知っていますよね。これをきっかけに「年金だけではダメだ」、「ちゃんと自分でお金を管理しないと」という機運が高まりました。大学生の皆さんはどうしますか？ お金は使えば減りますが、使うことで増えるお金の使い方があります。それが投資です。投資の基本は長期運用です。したがって、早く投資を始めるほど良いということです。しかし、投資を始めるといってもどうしていいかわかりませんよね。投資に必要なスキルや知識の総称を『金融リテラシー』と言います。ゼミナール活動を通じて、お金のプロフェッショナルを目指しましょう！

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門書を読む力、レジュメ作成力、プレゼン能力、ディベート力、分析力を身に付ける。	プレゼンテーションの内容とセミナーにおけるアクティビティへの取り組みを総合的に判断する。	プレゼン評価60%、各種アクティビティの平常点40%。
評価の方法 プレゼン評価60%、各種アクティビティ等の平常点40%により総合的に判断して成績を評価します。 ただし、全講義の3分の1以上（5回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。		

【授業計画】

- ▶ 履修者による講義（株式、投資信託、FXについて）
- ▶ レジюме作成（要約報告）
- ▶ スライド資料作成（事前にグーグルスライドの使い方を教えます）
- ▶ プレゼンテーション

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義のなかで適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。セミナー活動に真剣に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から新聞やニュースをチェックすること。

【その他の注意事項】

- ◇グループワークを基本とします。無断欠席等は他のメンバーに迷惑がかかるので絶対にしないでください。
- ◇対面授業を前提としていますが、状況次第でオンライン（Zoomやmeetによるリアルタイム配信）を実施する。

プロフェッショナル・セミナー I	ナガキ イクヤ 長岐 郁也
Professional Seminar I	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

社会に出ると様々な課題を自ら解決することが求められます。でも、その選択した解決方法が本当にうまく解決できるのか、不安になることもあるでしょう。

そのようなときは、他の人も交え、考えた解決方法が適切な方法なのかを検討してみることがとても役立つことがあります。

そこでこの講義では、ディベートとディスカッションという手法を用いて、こうした問題解決能力を育むことを目的としています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報の収集と管理能力の醸成	毎回の討議に必要な情報を国内だけでなく海外も視野に入れて事前に収集し、取捨選択し、各自で私見としてまとめることができているかを評価する。	30%
私見の構築と他者の意見の受容	討議を成立させるためには、他者の意見に耳を傾け、時として自らの意見を修正することなどが求められる。こうした事象の変化への即応性を評価の対象とする。	30%
私見の提示	自らの考えを説得力をもって、その妥当性を論じることができるかを評価する。	40%
評価の方法 毎回の講義での積極的な討議への参加（60%）と課題への取り組み（40%）		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ディベートとディスカッションとはなにか？
2	情報の扱い	情報の集め方など
3	ディベート	
4	&	
5	ディスカッション	
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇学生と話し合って決定します。

【履修条件等】

◇「法学Ⅰ」および「法学Ⅱ」の履修を終えていることが望ましいが、毎回休まずにゼミに出席することの方が重要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ニュースは必ず毎日確認してください。

【その他の注意事項】

◇無断欠席3回でゼミを除籍とします。残念ながら、ゼミへの欠席は他のゼミ生のやる気をそぐ傾向にあるので、この点は厳格に判断します。

プロフェッショナル・セミナー I	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Professional Seminar I	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

研究テーマ：消費者行動、マーケティング

〔内容、到達、教授法〕

消費者行動やマーケティング理論を理解したうえで、効果的な企業戦略についてディスカッションを行う。ユニークなアイデアを出す練習、他者の前での発言方法、プレゼンテーション技術などについても学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動とマーケティングの理論を理解し説明できる	授業時の発言内容と課題提出によって評価する。	20%
消費者行動とマーケティングの理論を応用し、現実のビジネスモデルを分析できる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。理論をただ理解するだけでなく、その理論を応用して、現実の現象を分析し、説明することができる。	20%
消費者行動やマーケティングに関する意見交換や議論に積極的に参加できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。自分の意見をわかりやすく伝え、他者との意見交換や議論を通し、より効果的なマーケティング戦略を提案できる。	30%
研究発表のためのリサーチや資料作成、議論等に積極的に参加し貢献できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。研究テーマにもとづいたリサーチ、資料作成、調査活動、ディスカッション等に積極的に参加できる。	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、個人研究の内容50%、授業や班別研究への参加度と貢献度50%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方と授業内容について
2	グループ研究の実施	・ テーマ選定 ・ リサーチ計画作成 ・ 調査分析の実施 ・ 資料作成 ・ 発表準備
3		
4		
5		
6		
7		
8	企業および商品に関するケーススタディ	実際の企業や商品の現状を分析し、問題点や改善点を探る。効果的なマーケティング戦略を立案する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

【使用教材】

- ◇教科書：なし。
- ◇必要に応じて資料等を配布する

【履修条件等】

- ◇「消費者行動論Ⅰ」および「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」を履修していることが望ましい。
- ◇消費者の購買行動や心理に興味を持ち、発表や班別研究に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日常の自身の購買行動に興味を持ち、ニュース等で企業や商品情報の入手を心がけること。

【その他の注意事項】

- ◇授業には、極力休まず出席すること。

プロフェッショナル・セミナー I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Professional Seminar I	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

このプロフェッショナル・セミナーでは、さまざまなマーケティング活動のなかでもテレビやオンラインの広告、クーポンなどの販売促進、SNS やオンラインサイトにおける口コミといったマーケティング・コミュニケーション活動を中心にして、マーケティングについて学ぶと同時に、研究をするための基本的な技術の習得を目指す。

マーケティングは、身近にあるビジネス活動であり、学生もマーケティング活動のターゲットとして企業から注目されている。企業がどのようなマーケティング活動を行っているのかを理解することは、企業のマーケティングについて理解するだけでなく、消費者としてマーケティング活動に向き合えばよいのかという知識も得ることになる。

本セミナーでは、マーケティングの学習を通じて、図書館やオンラインでの情報検索、パソコンでの文章や資料の作成、学習内容の発表といったアカデミックリテラシーも高めていく。研究テーマは、受講生と相談して決める予定だが、オンラインのマーケティング活動を考えている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つけられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルや SPSS などのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業への参加50%、課題50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの運営方針の説明と参加者の自己紹介
2	学内施設の使用方法	学内施設の使用方法について確認する
3	同上	同上
4	研究テーマの設定	研究テーマの設定
5	同上	同上
6	同上	同上
7	資料の検索	資料の検索方法について確認し、実施する
8	同上	同上
9	オンラインシステムについて	学内のオンラインシステムについて確認する
10	同上	同上
11	コンピュータリテラシー	コンピュータリテラシーについて確認する
12	同上	同上
13	同上	同上
14	プレゼンテーション	テーマについてまとめたものを発表する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

- ◇広告やマーケティングに興味を持っていること。
- ◇他人との共同作業ができること。
- ◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

プロフェッショナル・セミナー I	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Professional Seminar I	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

本セミナーでは、最終的にグローバル・マーケティングに関する問題を解決・提案する能力を養成することを目的とします。グローバル・マーケティングとは、国境を越えて行われるマーケティング活動を意味します。それは、自国とは異なった制度環境でマーケティングを行うということです。本「プロフェッショナル・セミナー I」では、先に述べた最終的な目標に向けて、まずはグローバル・マーケティングに関する基礎理論を学び、また研究調査に必要となる統計学の知識も学び、研究を行うための基礎知識の習得を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究発表に必要な基本的スキル（文献検索・PCスキル）を身につけていること	授業におけるプレゼンテーション姿勢やレジメの充実度で評価。具体的には学術書や研究論文の検索方法を理解し、文献を自力で収集できること、ワード、エクセル、パワーポイントの基本的な使用方法を理解しレジメを作成できることが評価基準となる	20%
研究発表に必要な理論的知識、統計学の基礎を身につけていること	授業における輪読で、内容を自らが説明することができる、また、統計演習の実践から、自らがデータを用いて分析を行えることが評価基準となる。	20%
マーケティング、流通、グローバルビジネスに関する学術書を読み、文献レビューを行えること	授業におけるプレゼンテーションによって評価。学術書および論文の内容を理解し、それを他のメンバーに分かりやすく説明することができることが要請される。レジメ内容の充実度に加え、発表内容、発表姿勢が評価基準となる。	20%
ディスカッションにおいて相手の意見を理解したうえで自分の意見を発言できること	授業におけるディスカッションによって評価。マーケティング、流通、グローバルビジネスに関して研究報告者が提示した問題について理解し、それに対する自分の意見を整理し発言しているかが評価基準となる。	40%
評価の方法	学習態度50点、演習中の質疑応答およびコメントの発言などの積極性50点を基準に評価する。	

【授業計画】

＜履修者の理解度と興味に応じて調整＞

- ・ 国際経営論、国際マーケティング論に関する基本的文献の輪読
- ・ マイクロソフトのオフィスソフト（Word、Excel、PowerPoint）の活用方法の習得
- ・ 統計学の基本知識の習得
- ・ 各種データおよび文献検索方法の習得

【使用教材】

- ◇教科書：授業中に指示する。
- ◇参考書：授業中に指示する。

【履修条件等】

- ◇とくに設けない。
- ◇以下に記載の「その他の注意等」を熟読し、理解できる学生ならば、歓迎する。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業計画に記載した事項（授業中に指示）。
- ◇日本経済新聞や日経ビジネスなどのビジネス誌に日頃から目を通し問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

- ◇本「プロフェッショナル・セミナーⅠ」は、履修生の自発的な学習が重要になります。毎週履修者が分担して、課題報告をすることが求められますので、出席はもちろんのこと、そうした課題をこなす自信とやる気がある履修者でなければ単位修得は困難かと思われます。ただし、やる気のある学生、将来海外で働いてみたい、国内で就職しても海外に携わる仕事をしてみたいという学生はこのセミナーで得るものは大きいでしょう。通常の授業とは異なりますので、自ら学習の意思がある学生のみ履修を求めます。

プロフェッショナル・セミナー I	フジモリ ダイスケ 藤森 大祐
Professional Seminar I	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

研究テーマ：企業による社会問題の解決について考える

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

- ・ 企業の環境問題対策について
- ・ 企業によるSDGs への取り組み
- ・ 地域活性化

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
SDGsに関する基礎的な知識の理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ソーシャルビジネスに関する理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
上記のテーマに関する問題発見能力の開発とプレゼン能力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%
評価の方法	問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	進め方について、メンバー間のコミュニケーション
2	研究テーマの検討	テーマについてのレクチャーと各自のテーマ検討
3	研究テーマの決定	各自の研究テーマを決定
4	プレゼンの準備	それぞれが調査、研究を行いプレゼンの準備を進める
5		
6		
7	研究発表、振り返り	それぞれの間発表と振り返りを行う
8	研究テーマの検討	テーマについてのレクチャーと各自のテーマ検討
9	研究テーマの決定	各自の研究テーマを決定
10		
11		
12		
13	研究発表	それぞれの研究発表
14	発表の振り返り	ディスカッション、振り返り
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

- ◇とくに指定しないが、研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。
その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

- ◇あらゆる活動に積極的に参加することができる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇各自が自発的に調査・研究をする。

【その他の注意事項】

- ◇個々人が力をつけるよう努力するとともに、ゼミのメンバーを尊重し、ゼミ全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

プロフェッショナル・セミナー I	マツダ タカシ 松田 岳
Professional Seminar I	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

研究テーマ：研究法

本演習では、研究の基礎を身につけることを目標としている。研究を行うに当たっての基礎的なイロハ（手順）を知ることなくしては、どんな研究（学び）も深めることができないであろう。履修者が3年次以降にどのような専門領域に興味を持ったとしても通用する普遍的な研究の基礎を、本演習を通じて身につけてもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テキストの内容を理解し、まとめ、報告できる	教科書の担当部分の内容をA4二枚程度のレポートにまとめ、30分程度でプレゼンする。レポートとプレゼンを通じて、テキストの理解度で評価する。	25%
研究計画書の作成と提出	卒業論文の研究計画書をA4二枚程度にまとめる。計画書の正確性、網羅性に加え、作成された計画書を通じてテキストの理解度を評価する。	25%
コメント力を身につける	発表者以外は必ず1回の演習につき、1回以上の発言・質問を求める。演習内での発言回数、発言内容でコメント力を評価する。	25%
最終レポート作成	卒業論文の目次をA4二枚程度にまとめる。目次の正確性、網羅性に加え、作成された目次を通じてテキストの理解度を評価する。	25%
<p>評価の方法 各種レポート課題（75%）、演習内での発言回数・内容（25%）。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報とは何か？	オリジナリティとは何か／学問とは何か
2	問いを立てる	答えの出る問いを立てる／私の問題を私が解く
3	先行研究の批判的検討	批判的であるということ／指導教官などいない
4	研究計画書を書く	研究を予告する／研究計画書の書式
5	方法論とは何か	「仮説」を立てる／理論仮説から作業仮説へ
6	対象と方法の選択	エスノグラフィ／事例研究／データ分析
7	質的情報とは何か	語、言説、物語／質的情報の分析法
8	インタビューの仕方	半構造化自由回答法／対象者のサンプリング
9	質的情報の分析	分析と総合／チャート化／メタメタ情報の生産
10	目次を書く	設計図を書く／何度でも書き換える
11	論文を書く	論文の作法／本文と引用／剽窃・盗用とは／論文の宛先
12	コメント力をつける	内在的コメントの仕方／ディフェンス力／司会の役割
13	論文の書き方を学ぶ	テーマの設定／論文の形式／現実の制約／表現の技術
14	プレゼン力をつける	プレゼンの重要性/時間資源の希少性/ライブと対面性
15	最終レポートの提出	最終レポート（卒業論文の目次）の提出／プレゼン

【使用教材】

- ◇教科書：ガイダンス時に指示する。
- ◇参考書：演習の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇演習への遅刻・欠席は禁止している。
- ◇履修者の報告（演習）が授業内容であるため、報告者の遅刻・欠席は厳禁である。
- ◇「プロフェッショナル・セミナーⅡ」（松田岳）の同時履修を強く推奨する。
- ◇授業を妨害する行為（私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。
- ◇演習内外で積極的な発言・質問を高く評価する。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ガイダンス時に指示する。
- ◇自分が報告者でない時も事前にテキストを読み込み、質問を考えておくこと。
- ◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

- ◇演習で2単位を修得するために必要な学修時間は通算90時間である。
- ◇授業での学修時間は通算30時間程度である。
- ◇よって、授業時間外（事前・事後）の学修時間は通算60時間程度である。

プロフェッショナル・セミナー I	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Professional Seminar I	演習科目／半期／2単位

【授業概要】**【研究テーマ】 財務会計**

このゼミでは、財務会計をテーマに、3年次および4年次の専門演習の基礎固めとして、初歩的専門性の獲得および専門研究の手法の基礎を習得することを目的としている。

「プロフェッショナル・セミナー I」（春学期）では、専門書の輪読を通じて財務会計の初歩的専門性を獲得してもらう。具体的にはテキストを分担して、毎回担当者が内容を要約しレジュメを作成したうえで発表し、ディスカッションを行う。「プロフェッショナル・セミナー II」（秋学期）へ向けた予備段階として、専門書を読み解く力を養い、専門性を深めることを目的としている。なお、発表にはパワーポイントを使用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基礎的な知識の習得	ゼミ活動およびレポートにより評価。 簿記（日商3級程度）、会計理論（「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」）の知識を有しているか。ゼミで取り上げるテーマについて専門用語・基礎概念を理解しているか。	20%
資料の収集・整理・分析能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 図書館やインターネットを利用して、必要な資料を収集し、それを整理分析することができるか。	20%
プレゼンテーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自らが調査・分析した結果を、分かりやすくまとめて他者に伝えることができるか。	20%
コミュニケーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自己の意見をまとめ、他者に分かりやすく伝えることができるか。実のある議論ができるか。	20%
専門書の読解力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 専門性の高い文献を読み解き、内容を理解することができるか。専門書に出てくるよりレベルの高い専門用語を理解し説明できるか。	20%
評価の方法 ゼミ活動への積極的な参加（出席状況および発表・ディスカッションにおける態度）およびレポートにより評価。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの進め方、発表分担の割り当てなど。
2	輪読①～⑥【第1部】	各発表担当者による発表およびディスカッション
3		
4		
5		
6		
7		
8	振り返り	【第1部】の復習
9	輪読⑦～⑪【第2部】	各発表担当者による発表およびディスカッション
10		
11		
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括、レポート

【使用教材】

- ◇教科書：未定。
- ◇参考書：必要に応じて適宜紹介する。

【履修条件等】

- ◇演習に積極的に参加する学生の履修を望む。
- ◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」を履修済みであること。
- ◇「会計学Ⅰ・Ⅱ」、「商業簿記Ⅰ・Ⅱ」、「財務会計Ⅰ・Ⅱ」等、関連する専門科目を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇演習開始までに、簿記の基礎（日商簿記3級程度）および会計の基礎（「会計学Ⅰ・Ⅱ」）の知識を確認しておくこと。
- ◇次の演習へ向けての準備は必須。具体的には、発表担当者は、プレゼンテーションの資料（PPTおよび配布資料）を作成し当日の発表に備える。それ以外の学生は、当日の討論に備えてテキストの該当箇所を熟読したうえで、不明な点については各自下調べをする。

【その他の注意事項】

- ◇無断での欠席・遅刻は厳禁。大人の自覚をもってゼミに臨むこと。
- ◇発言・質問等、積極的・自発的に参加すること。
- ◇私語や他者への迷惑となる行為は厳禁。とくに携帯電話（スマートフォン）の使用・メール等SNSの閲覧は授業の妨害とみなし、退席してもらう。

プロフェッショナル・セミナー I	ヤマカワ サトル 山川 悟
Professional Seminar I	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

研究テーマ：実践的マーケティングプランニング

マーケティングには「商品開発」「販売促進」「広告宣伝」「ブランディング」などさまざまな領域があり、その裾野は非常に広いものです。本講座は単に知識としてのマーケティングではなく、「自分たちで考えてみる」「自分たちでやってみる」ことを通じて、マーケティングの仕事の楽しさを体感してもらえたいと考えています。また、実際の企業から具体的なテーマをもらって企画に取り組むことも想定しています。

以下にシラバスを示しますが、研究テーマや運営方法については受講生の志向を確認しながら進めていきたいと思ひます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会人としてのマナーやビジネスリテラシーの確立	授業にはきちんと出席する、遅刻しない、メールには返信する、課題は提出する、約束は守る、学生同士互いに助け合う、きちんとしたメール文が出来る…といった社会人としての基礎能力を評価ポイントとする。	50%
マーケティング企画の実践を通じた基礎学力の向上	企画書作成を通じてパワーポイントの扱い方を、調査分析を通じて統計的な思考法を、消費者行動の観察を通じて心理学を、ネーミングを通じて外国語を…というように、実務的な作業によって基礎的な能力も磨いていこうとする姿勢があるかどうかを評価ポイントとする。	50%

評価の方法

評価の配分：80%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度50%

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	概要説明
2	相互理解プログラム	参加者同士のコミュニケーション
3	創造性開発トレーニング①	マーケッターとしてビジネスの現場でクリエイティブな仕事のできる基礎的能力を身につける。
4	創造性開発トレーニング②	
5	創造性開発トレーニング③	
6	創造性開発トレーニング④	
7	マーケティングプランニング①	マーケティングプランニングの方法論についての理解に努める。
8	マーケティングプランニング②	
9	マーケティングプランニング③	
10	マーケティングプランニング④	
11	プランニング作業①	企業との連携等による具体的なマーケティングプランの作成にチャレンジする。
12	プランニング作業②	
13	プランニング作業③	
14	プランニング作業④	
15	総括と達成度の確認	

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で紹介予定。

【履修条件等】

- ◇マーケティング、商品開発や広告などに興味があること。
- ◇PCである程度のドキュメント作成ができ、eメールでの連絡ができること。
- ◇好きでこだわりを持っている分野があり、それらをビジネスやマーケティング、自分の進路と結びつけてみたいと思っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等）、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒です。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

- ◇ゼミは学生主体で運営するものです。無連絡で欠席、遅刻をしないこと。
- ◇担当講師からの連絡・メールには、きちんと返信すること。
- ◇履修者同士の良好で長期的な人間関係をつくりあげていってください。

プロフェッショナル・セミナーⅡ	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Professional Seminar II	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

秋学期では、春学期に引き続き会計の基本的スタンスの把握を目的とする。

会計によって把握された情報を必要としている人々（利害関係者という）に対して、具体的な計算を通して、会計をめぐるどのような問題があるのか、会社の活動の良し悪しはどのような数値となって現れ、どのように理解すればよいのか、経営にとっての将来的に有効な経営活動の方向性の指針となる数値はどのように把握されるのかといった会社にとって必須の事柄について、具体的なケーススタディに言及していく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の習得の有無の確認	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
会計に関する基礎的な知識の習得の確認	会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
会計に関する理解の深度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

秋学期は、春学期での会計の意義と役割についての理解を深めるために、履修者自らが「自分の手」で実践することを眼目とする。利害関係者への適切な会計報告のために、企業の活動、状況を、どのように、計算するかについて15回にわたり具体的に、想定問題を解いて理解を深める。

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

プロフェッショナル・セミナーⅡ	イナミ カズエ 伊波 和恵
Professional Seminar II	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

研究テーマ：心理学、ストレスと心理社会的適応、コミュニケーション

本演習では、心理学、とくに心理社会的適応を基本テーマに知識習得を進めます。成人期～壮年期のビジネスパーソンが置かれている職場・家族を含む社会的対人的環境についての知識と理解を深め、ストレス・マネジメント、心理カウンセリングやコミュニケーションスキルについて学びます。

「プロフェッショナル・セミナーⅡ」では、春学期の学習成果を踏まえ、グループワーク、プレゼンテーション、レポート作成を通じて、各種調査法や企画立案の習熟を一層進めるとともに、質疑応答やディスカッションのマナーと方法を身につけられるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
レポート作成① (調べ学習)	テーマ設定から文献研究、レポート執筆のプロセスならびに最終的な報告まで、一定の水準で自律的に達成できていること。	20%
グループワーク(ディスカッション、プレゼンテーション)	チームプロジェクトで役割をどのように果たしているか、そのプロセスと成果を評価する(たとえば、資料の収集、レジュメやプレゼンテーション資料の作成、自己表現や意見交換の方法など)。日頃のプロジェクトへの参加態度、完成したプレゼンテーションについて評価。	40%
チームワークとゼミ運営・参加(コミュニケーション)	日頃の演習授業ならびに運営への参加態度から、コミュニケーションスキルやボランティア・スピリットという観点で、ゼミへの貢献度を評価する。	20%
レポート作成② (グループワーク報告書作成)	チームプロジェクトのまとめレポートの執筆。体裁、テーマ、構成、論考等の観点から、期日までに提出されたレポートの完成度をみる。	20%
評価の方法 ・ レポート課題40% ・ 課題・グループワークへの取り組みとプレゼンテーション40% ・ 授業ならびにゼミ運営への関与・平常点(行事参加等含む) 20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミ合宿での成果の振り返り
2	グループワーク	グループワーク（全10回）
3	〃	
4	〃	
5	〃	
6	〃	
7	〃	グループワークのレポート作成①（中間提出）
8	〃	
9	〃	
10	〃	*ゼミ発表大会
11	〃	まとめ
12	レポート作成	グループワークでのまとめレポート作成（全2回：提出）
13	〃	
14	〃	
15	総括・達成度の確認	レポート課題提出

【使用教材】

- ◇参考書：吉田健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』
ナカニシヤ出版

【履修条件等】

- ◇受講に際しては、グループメンバーでの協調性や社会性も重要です。
◇その前提として、遅刻・無断欠席は厳禁です。
◇学年合同で行う自主ゼミ（縦ゼミ）にも適宜参加するように予定してください。
◇心理検査等の教材、ゼミ合宿（夏期休暇中に実施予定、全員参加行事）その他のゼミ関連行事にそれぞれ相応の費用がかかりますので、各自で備えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇週の課題は必ず準備してから演習に臨むこと。
◇課題は遅延なく確実に提出すること。

【その他の注意事項】

- ◇一人ひとりの自由意思と全体的なチームワーク、どちらも尊重すること。折り合いがつかない場合は、各自、最善解を求めよう努力すること。
◇お互いにコミュニケーションを大事にすること。
◇ゼミ行事には積極的に参加し、他学年ゼミ生とも積極的に交流するよう努めること。
◇メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種程度の基礎知識を身につけること。
◇ボランティア活動など、課外での主体的かつ積極的な社会参加にチャレンジすること。

プロフェッショナル・セミナーⅡ	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Professional Seminar II	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

円城寺ゼミでは、企業はいかにして持続的な発展を遂げることができるのかを考えていきたいと思えます。本セミナーでは上記のテーマをゼミ生各自身で考えられるようになるために、以下の点を中心にセミナーⅠ・Ⅱを通じて学ぶ予定です。

- ①経営学の基礎的な理論と知識を学ぶ～ゼミ員皆で議論しながら学べば、学習効果は高まると思えます。管理論、組織論、戦略論、企業論など、経営学の中核となる基礎的な理論や知識を学んでいきます基礎的なテキスト(具体的な事例も含め)を選択し、輪読および発表という形式で進めていきます。
- ②研究の方法を学ぶ～大学4年生になると卒業論文やゼミ論文(2年や3年次とは異なる)を書く必要が出てきます。自ら研究テーマを見つけ、そのテーマに対して適切なアプローチをとって、何らかの研究成果を出していく必要があります。テーマの見つけ方や研究の方法、さらには書き方などの基本を学んでいきます。なお、本セミナーでは、事例研究の方法を中心に学ぶ予定です。
- ③議論や発表の仕方を学ぶ～社会人になれば、仕事を進めていく上で、上司や同僚と議論したり、自分がつくった企画をプレゼンして、内容を相手に分かりやすく伝えていく必要性が出てきます。本セミナーでは輪読や発表、そして議論をしながら進めていくこととなりますので、自然と社会人に求められる能力を身に付けることができると考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎理論と知識の修得	戦略論、企業論、組織論、管理論などの基礎理論と知識を修得できたか。	30%
研究方法の修得(主として事例研究)	研究方法(主として事例研究)を修得できたか。	30%
議論や発表の方法の修得	議論や発表の方法を修得できたか。	40%
評価の方法	セミナーへの貢献度(発表や発言等)50%、課題(レジュメや個人論文等)50%で評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	
2	輪読①②	セミナーⅡでは、上記【授業概要】の①②③を輪読形式と各自の研究発表形式で学ぶ
3	輪読③④	
4	研究発表①	
5	輪読⑤⑥	
6	輪読⑦⑧	
7	輪読⑨⑩	
8	輪読⑪⑫	
9	輪読⑬⑭	
10	輪読⑮⑯	
11	輪読⑰⑱	
12	研究発表②	
13	研究発表③	
14	バッファー	
15	総括	セミナーⅡの総括

【使用教材】

◇初回演習時に提示

【履修条件等】

◇本セミナーは上記【授業概要】①②③を主として学んでいくこととなりますが、これらの学びは、学生の主体的な学びの姿勢があってはじめて可能となりますので、その点を十分に留意して履修してください。また当然、遅刻・欠席は厳禁です。大人としての自覚を持ってセミナーに望んでください

【予習をすべき事前学習の内容】

◇輪読担当者は必ずレジュメ作成すること。担当者以外の学生も必ず事前に該当章を熟読すること。何かを事前に調べるときはWEBだけに頼らずに、関連書籍等に当たるなど能動的な資料集めに努めること

【その他の注意事項】

◇担当教員の指示に従わない場合や無断遅刻・欠席を一回でもした場合単位が出ない可能性があるため十分注意してください。

プロフェッショナル・セミナーⅡ	オガワ タツヤ 小川 達也
Professional Seminar II	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

「プロフェッショナル・セミナーⅡ」では、AI（人工知能）とロボット技術を用いた“おもてなしとサービス戦略の未来”を考察します。事例分析やフィールドワーク（訪問調査）を行い、理解を深めることが目標です。その際、専門誌や経済新聞等から得られる情報を通して、刻一刻と変化するサービス産業の動向や経営環境の潮流を的確に把握するテクニックを身につけます。演習中にインタラクティブな議論を重ねることで、自分のことばで表現できるスキルを磨き、大学生や社会人に必要な思考力・洞察力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
演習で取り上げた理論や用語を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた理論や用語の定義・概念、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた企業組織の実践的知識を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げたハイテク・サービス関連企業や業界についての実践的知識や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた理論と知識を広く理解し、応用して説明・議論できる	ハイテク・サービス関連企業や業界についての実践的知識を複数把握し、演習で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明でき、諸課題に対する解決策をしっかりと議論できること。	20%
プレゼンテーション・スキルが身についている	演習の時間やレポート発表会におけるプレゼンテーションで、しっかりと報告できること。	20%
レポートやレジюмеを作成するスキルが身についている	演習の時間やレポート発表会で担当したセクションのレポート・レジюмеをしっかりと作成し、期限内に提出できること。	20%
評価の方法	演習の実施回数に対して出席回数が3分の2以上に限り評価します。なお、2回連続して欠席したり、レジюме発表時に欠席した場合には厳しく評価し、単位取得が困難となるので注意してください。演習への積極的な参加姿勢を前提として、総合的な学習・研究成果に基づいて評価します。	

【授業計画】

「プロフェッショナル・セミナーⅡ」では、「プロフェッショナル・セミナーⅠ」で個々の履修者が興味を抱いた研究テーマに基づいて考察を深めていきます。

演習で取り上げる研究領域は、引き続き、AI（人工知能）やロボット技術といったハイテク関連企業の事業活動や、おもてなしのサービス産業の動向と変化の他、新しいビジネスチャンスの可能性を検討します。また、学外演習活動の一環でAIやロボットをテーマにした国際展示会を訪問する予定です。

演習の進め方は、担当教員が準備した資料を熟読し、記述内容の要点を確認します。経営学やサービス産業で必須の専門用語の把握も忘れてはなりません。資料で指摘している重要な箇所や問題点、あるいは考察が必要な論点を見出します。各人が上記のプロセスで得られた知見を要約し、追究すべき論点を考察の上、レジュメを発表します。

履修者全員が質疑応答と議論に参加し、建設的かつ有意義な議論ができるよう十分に資料収集を行い、各人が深く検討できるような姿勢で臨む必要があります。

こうした学習をつうじて、サービス関連企業や業界が直面している重要なトピックを発見し、フィールドワーク（訪問調査）の内容を絞り込んでいきます。

その上で、履修者は個々人で研究テーマを設定し、学期の最後に「ゼミ単位取得レポート」を作成します。字数は3,000字以上とやや多目ですが、充実した研究成果が得られるはずです。完成したレポートは履修者全員がパワーポイントで発表する「レポート発表会」で披露し、質疑応答を経て担当教員に提出します。

「プロフェッショナル・セミナーⅡ」は半期の演習となりますが、最終的には次年度以降の専門演習Ⅰ・Ⅱへ移行可能な能力水準に引き上げることを目的に指導します。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：議論や考察に必要な文献・資料は適宜紹介・配付します。

【履修条件等】

◇レジュメとレポートはWordで作成し、発表はPowerPointのスキルが必要です。

◇単位を取ることが目的ではなく、大学生として充実した成果を残すために次年度以降も継続して「専門演習Ⅰ・Ⅱ」を履修する方にお勧めします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出します。わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、演習内での議論に備える必要があります。また、日頃から専門雑誌や経済新聞等をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇プロフェッショナル・セミナーは通常の講義形式の授業と異なり、履修者が自ら疑問を見出し、調査分析し、その疑問をどのように解決するのか、モノの考え方を学び、発表し議論を行う場です。その主体は、履修者自身にあることを認識してください。常に向上心と修学意欲を高め、積極的な参加姿勢が不可欠となります。

プロフェッショナル・セミナーⅡ	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Professional Seminar II	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

「情報システム学」

情報化社会と言われる昨今、企業において情報をどのように収集、解析、活用していくかが大変重要となってきています。本セミナーでは、情報システムを切り口として「会社では何をしているのか?」「何が求められているのか?」「どのように問題を解決していくのか?」などを議論し、企業社会についての理解を深めていきます。

また、グループ学習などを通じて情報の収集力、発想力、プレゼンテーション能力などを身につけていき、選定したテーマについて考察、発表することにより、問題探究能力と問題解決能力を養うことを目標とします。

基本的には、ゼミ生によるディスカッションとプレゼンテーションを中心に演習を進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムに関する基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける用語の定義、概念を理解し、説明できること。	20%
チームで考える力の育成	グループワークにおけるチームへの貢献度、積極性、ディスカッション能力等を評価する。	30%
問題解決に向けた発想力の向上	課題を見つける力、解決策を考える力、解決への実行力を評価する。新しい発想力をつける力も養っていく。	20%
プレゼンテーション力の向上	発表や質疑応答の内容で評価を行う。演習中での発表において、その進行、態度、発表資料の完成度などが評価のポイントとなる。	30%
評価の方法	セミナーでの態度（発言、積極性など）、貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ、内容
1	研究テーマ出し
2	テーマに関するディスカッション
3	テーマ選定
4	テーマに関する研究
5	〃
6	〃
7	発表に向けた資料作成
8	〃
9	予行演習
10	発表
11	発表に関する振り返り
12	論文研究
13	今後に向けたディスカッション
14	次年度ゼミテーマ探索
15	まとめ（気づき、反省、決意）

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）を使うことがあります。

【履修条件等】

◇演習ですので基本全回出席をお願いします。積極的、継続的に参加してください。

◇多くのことに関心を持ち、発想力の向上に努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出た時には、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇学外での行事（企業訪問、合宿など）に参加することがあります。

<p>プロフェッショナル・セミナーⅡ 異文化理解・語学検定対応力の向上</p>	<p>キムラ ナオキ 木村 直樹</p>
<p>Professional Seminar II Understanding Cultural Differences & Improving Skills for Various EFL Tests</p>	<p>演習科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

この授業は①Microsoft Office 等を含む ICT スキル、②レポートの書き方、③プレゼンの仕方、といった、初年次でカバーする学習内容の発展、および3年次以降の「専門演習」で扱う、より専門的な実務思考トレーニング（経営／経済・法／会計／経営心理／マーケティング）の橋渡しとなる科目です。

秋学期の「プロフェッショナル・セミナーⅡ」は春学期の内容を土台として、2023年春休みの短期海外研修渡航と、2022年度内でのTOEICや英検、TOEFL、IELTSなどの語学検定試験合格を目指した準備期間になります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1. 「専門演習」のゼロレベルとしての2年次ゼミ	経営学科の各コース（経営／経済・法／会計／経営心理／マーケティング）の専門的な内容につながるような、幅広い教養と知識を身につける。	20%
2. ゼミ発表大会（発表者側）を見据えたグループワークの基礎	ある1つのプロジェクトにグループで取り組むうえで必要となる、「ワーキンググループ」内の役割分担とリーダーシップについて、ゼミ内で実際に体験する。また、先行研究の調査方法について学ぶ。	20%
3. 専門的内容について自ら発信する能力の養成	各コースに関連する何らかの新しいテーマについて考えて、問題提起を行い、それをレポートやプレゼン資料にまとめられるようになる。また、その調査結果について、個人ないしグループで発表できるようになる。	20%
4. アカデミック・リテラシーの養成	与えられたテーマについて考え、実際に仮説を立て、それを検証し、データとしてまとめた上で、分析と考察ができるようになる	40%
<p>評価の方法 上記の4項目について、授業での貢献度や積極性などを合わせて考慮し、評価する。授業への出席は3分の2以上を前提とする。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初回ガイダンス	コース概要や成績評価についての説明
2	様々な語学試験の分析	ことばとその表現法について、掘り下げて考えてみる
3	短期海外研修の分析	とともに、ことばと文化の関係を考える
4	TOEIC Bridge①	TOEIC Bridgeの演習＋解説形式で基礎を学ぶ / 留学について話し合う & 渡航先で起こり得るトラブルについて理解する
5	TOEIC Bridge②	
6	TOEIC Bridge③	
7	TOEIC①	TOEICの問題に触れてみる / 留学のプランを実際に練る
8	TOEIC②	
9	英検①	英検の問題を解いてみる / 年明け春渡航の具体的な準備開始
10	英検②	
11	英検③	
12	IELTS①	IELTSの問題を解いてみる / 海外の空港（入管）や現地のレストラン、買い物、公共交通機関の利用時などで、実際に使える会話表現を勉強する
13	IELTS②	
14	IELTS③	
15	秋学期のまとめ	秋学期に扱った内容について、プレゼンを行う

【使用教材】

◇参考図書については初回の授業で指示し、以降の読書課題については適宜指示する。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇PCを持参しての受講が望ましい。

プロフェッショナル・セミナーⅡ	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Professional Seminar II	演習科目／半期／2単位

【授業概要】**テーマ「貯蓄から投資～副収入の作り方～」**

「老後資金2000万円必要」という文言が金融庁の報告書に載ったことは知っていますよね。これをきっかけに「年金だけではダメだ」、「ちゃんと自分でお金を管理しないと」という機運が高まりました。大学生の皆さんはどうしますか？ お金は使えば減りますが、使うことで増えるお金の使い方があります。それが投資です。投資の基本は長期運用です。したがって、早く投資を始めるほど良いということです。しかし、投資を始めるといってもどうしていいかわかりませんよね。投資に必要なスキルや知識の総称を『金融リテラシー』と言います。ゼミナール活動を通じて、お金のプロフェッショナルを目指しましょう！

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門書を読む力、レジュメ作成力、プレゼン能力、ディベート力を身につける	期末に課すレポートの内容とセミナーにおけるアクティビティへの取り組みを総合的に判断する。	レポート評価60%、各種アクティビティの平常点40%
評価の方法 レポート評価60%、各種アクティビティ等の平常点40%により総合的に判断して成績を評価します。 ただし、全講義の3分の1以上（5回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。		

【授業計画】

- ▶ 投資先の選定および分析
- ▶ 注目企業のチャート分析とファンダメンタルズ分析
- ▶ スライド資料を使って分析結果を報告
- ▶ 投資実践
- ▶ 報告会
- ▶ 振り返り

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。セミナー活動に真剣に取り組むこと。欠席等の連絡は当日ではなく事前にすること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇投資に関して書籍やYouTubeで独学をしておくが良い。

【その他の注意事項】

- ◇グループワークを基本とします。無断欠席等は他のメンバーに迷惑がかかるので絶対にしないでください。
- ◇対面授業を前提としていますが、状況次第でオンライン（Zoomやmeetによるリアルタイム配信）を実施する。

プロフェッショナル・セミナーⅡ	ナガキ イクヤ 長岐 郁也
Professional Seminar II	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

社会に出ると様々な課題を自ら解決することが求められます。でも、その選択した解決方法が本当にうまく解決できるのか、不安になることもあるでしょう。

そのようなときは、他の人も交え、考えた解決方法が適切な方法なのかを検討してみることがとても役立つことがあります。

そこでこの講義では、ディベートとディスカッションという手法を用いて、こうした問題解決能力を育むことを目的としています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報の収集と管理能力の醸成	毎回の討議に必要な情報を国内だけでなく海外も視野に入れて事前に収集し、取捨選択し、各自で私見としてまとめることができているかを評価する。	30%
私見の構築と他者の意見の受容	討議を成立させるためには、他者の意見に耳を傾け、時として自らの意見を修正することなどが求められる。こうした事象の変化への即応性を評価の対象とする。	30%
私見の提示	自らの考えを説得力をもって、その妥当性を論じることができるかを評価する。	40%
評価の方法 毎回の講義での積極的な討議への参加（80%）と課題への取り組み（20%）		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ディベート	各回のテーマの担当者を決め、討議をファシリテートしてもらい、議論を進める。
2	&	
3	ディスカッション	
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇学生と話し合って決定します。

【履修条件等】

◇「法学Ⅰ」および「法学Ⅱ」の履修を終えていることが望ましいが、毎回休まずにゼミに出席することの方が重要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ニュースは必ず毎日確認してください。

【その他の注意事項】

◇無断欠席3回でゼミを除籍とします。残念ながら、ゼミへの欠席は他のゼミ生のやる気をそぐ傾向にあるので、この点は厳格に判断します。

プロフェッショナル・セミナーⅡ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Professional Seminar II	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

研究テーマ：消費者行動、マーケティング

消費者行動およびマーケティングについての理論を応用し、効果的な企業戦略について立案する。企業側の視点に立ち、消費者の心理や行動分析をもとにしたマーケティング戦略を立案することを中心的課題とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動とマーケティングの理論を理解し説明できる	授業時の発言内容と課題提出によって評価する。	20%
消費者行動とマーケティングの理論を応用し、現実のビジネスモデルを分析できる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。理論をただ理解するだけでなく、その理論を応用して、現実の現象を分析し、説明することができる。	20%
消費者行動やマーケティングに関する意見交換や議論に積極的に参加できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。自分の意見をわかりやすく伝え、他者との意見交換や議論を通し、より効果的なマーケティング戦略を提案できる。	30%
研究発表のためのリサーチや資料作成、議論等に積極的に参加し貢献できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。研究テーマにもとづいたリサーチ、資料作成、調査活動、ディスカッション等に積極的に参加できる。	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、個人研究の内容50%、授業や班別研究への参加度と貢献度50%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方と授業内容について
2	グループ研究の実施	・ テーマ選定 ・ リサーチ計画作成 ・ 調査分析の実施 ・ 資料作成 ・ 発表準備
3		
4		
5		
6		
7		
8	企業および商品に関するケーススタディ	実際の企業や商品の現状を分析し、問題点や改善点を探る。効果的なマーケティング戦略を立案する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	これまでの授業についての総括および学習達成度の確認する

【使用教材】

- ◇教科書：なし。
- ◇必要に応じて資料等を配布する

【履修条件等】

- ◇「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」および「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」を履修していることが望ましい。
- ◇消費者の購買行動や心理に興味を持ち、発表や班別研究に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日常の自身の購買行動に興味を持ち、ニュース等で企業や商品情報の入手を心がけること。

【その他の注意事項】

- ◇授業には、極力休まず出席すること。

プロフェッショナル・セミナーⅡ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Professional Seminar II	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

このプロフェッショナル・セミナーでは、さまざまなマーケティング活動のなかでもテレビやオンラインの広告、クーポンなどの販売促進、SNS やオンラインサイトにおける口コミといったマーケティング・コミュニケーション活動を中心にして、マーケティングについて学ぶと同時に、研究をするための基本的な技術の習得を目指す。

マーケティングは、身近にあるビジネス活動であり、学生もマーケティング活動のターゲットとして企業から注目されている。企業がどのようなマーケティング活動を行っているのかを理解することは、企業のマーケティングについて理解するだけでなく、消費者としてマーケティング活動に向き合えばよいのかという知識も得ることになる。

本セミナーでは、マーケティングの学習を通じて、図書館やオンラインでの情報検索、パソコンでの文章や資料の作成、学習内容の発表といったアカデミックリテラシーも高めていく。研究テーマは、受講生と相談して決める予定だが、オンラインのマーケティング活動を考えている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つけられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルや SPSS などのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業への参加50%、課題50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの運営方針の説明と参加者の自己紹介
2	研究テーマの設定	研究テーマの設定
3	同上	同上
4	研究方法の検討	研究方法の検討
5	同上	同上
6	資料の検索と収集	資料の検索と収集
7	同上	同上
8	分析方法の検討	分析方法について検討
9	同上	同上
10	データの収集と分析	データの収集と分析
11	同上	同上
12	同上	同上
13	研究のまとめ	テーマについてまとめる
14	同上	まとめたものについて発表する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

- ◇広告やマーケティングに興味を持っていること。
- ◇他人との共同作業ができること。
- ◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

プロフェッショナル・セミナーⅡ	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Professional Seminar II	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

本セミナーでは、最終的にグローバル・マーケティングに関する問題を解決・提案する能力を養成することを目的とします。グローバル・マーケティングとは、国境を越えて行われるマーケティング活動を意味します。それは、自国とは異なった制度環境でマーケティングを行うということです。本「プロフェッショナル・セミナーⅡ」では、「プロフェッショナル・セミナーⅠ」で習得した知識をもとに、研究テーマを発見し、研究方法を検討し、研究を完成するという、ゼロから完成までの全てのプロセスを、履修生自身が主体的に関与し研究能力を養成することを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング、流通、グローバルビジネスに関する学術書を読み、文献レビューを行えること	授業におけるプレゼンテーションによって評価。学術書および論文の内容を理解し、それを他のメンバーに分かりやすく説明することができることが要請される。レジメ内容の充実度に加え、発表内容、発表姿勢が評価基準となる。	20%
ディスカッションにおいて相手の意見を理解したうえで自分の意見を発言できること	授業におけるディスカッションによって評価。マーケティング、流通、グローバルビジネスに関して発表者の発表内容を理解し、それに対する自分の意見を整理し発言しているかが評価基準となる。	20%
研究レポート・論文を執筆できること	研究レポートおよび論文の基本的体裁（参考文献の記載方法、章立て、論理展開など）について学び、自らが執筆した研究レポート・論文の完成度が評価基準となる。	20%
研究レポート・論文の内容を、プレゼンテーションツールなどを使って発表できること	自らが執筆した研究レポート・論文をパワーポイントなどのプレゼンテーションツールを効果的に活用し、聴衆にわかりやすく発表できることが評価基準となる。	40%
評価の方法	研究への取り組み態度50点、演習中の質疑応答およびコメントの発言などの積極性50点を基準に評価する。	

【授業計画】

＜履修者の理解度と興味に応じて調整＞

- ・ マイクロソフトのオフィスソフト（Word、Excel、PowerPoint）の実践的活用
- ・ 統計ソフトの実践的活用
- ・ 研究テーマ設定
- ・ 研究方法の検討
- ・ 研究調査のプランニングと実践
- ・ 研究発表

【使用教材】

- ◇教科書：授業中に指示する。
- ◇参考書：授業中に指示する。

【履修条件等】

- ◇とくに設けない。
- ◇以下に記載の「その他の注意等」を熟読し、理解できる学生ならば、歓迎する。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業計画に記載した事項（授業中に指示）。
- ◇日本経済新聞や日経ビジネスなどのビジネス誌に日頃から目を通し問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

- ◇本「プロフェッショナル・セミナーⅡ」は、履修生の自発的な学習が重要になります。毎週履修者が分担して、課題報告をすることが求められますので、出席はもちろんのこと、そうした課題をこなす自信とやる気がある履修者でなければ単位修得は困難かと思われます。ただし、やる気のある学生、将来海外で働いてみたい、国内で就職しても海外に携わる仕事をしてみたいという学生はこのセミナーで得るものは大きいでしょう。通常の授業とは異なりますので、自ら学習の意思がある学生のみ履修を求めます。

プロフェッショナル・セミナーⅡ	フジモリ ダイスケ 藤森 大祐
Professional Seminar II	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

- ・ 企業の環境問題対策について
- ・ 企業によるSDGsへの取り組み
- ・ 地域活性化

場合によっては、外部に演習に出かけることもある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
SDGsに関する基礎的な知識の理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ソーシャルビジネスに関する理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ディスカッションとプレゼンテーション能力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%
評価の方法 問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	進め方についての説明、メンバー間のコミュニケーション
2	研究テーマの検討	テーマについてのレクチャーと各自のテーマの検討
3	研究テーマの決定	各自の研究テーマを決定。
4	プレゼンの準備	それぞれが調査、研究を行いプレゼンの準備を進める
5		
6		
7	研究発表、振り返り	それぞれの中間発表と振り返りを行う
8	研究テーマの検討	テーマについてのレクチャーと各自のテーマ検討
9	研究テーマの決定	各自の研究テーマを決定
10	プレゼンの準備	それぞれが調査、研究を行いプレゼンの準備を進める
11		
12		
13	研究発表	それぞれの研究発表
14	振り返り	ディスカッション、振り返り
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

- ◇とくに指定しないが、研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。
その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

- ◇あらゆる活動に積極的に参加することができる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇各自が自発的に調査・研究をする。

【その他の注意事項】

- ◇他のメンバーを尊重し、自身が能力を高めるとともに、全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

プロフェッショナル・セミナーⅡ	マツダ タカシ 松田 岳
Professional Seminar II	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

研究テーマ：調査法

本演習では、研究の基礎を身につけることを目標としている。研究を行うに当たっての基礎的なイロハ（手順）を知ることなくしては、どんな研究（学び）も深めることができないであろう。履修者が3年次以降にどのような専門領域に興味を持ったとしても通用する普遍的な研究の基礎を、本演習を通じて身につけてもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
実習レポートの作成①	単純集計／クロス集計／仮説検定／相関分析を用いたレポートの提出を求める。分析の正確性、分析内容と手法の適合性などで評価する。	25%
実習レポートの作成②	回帰分析／重回帰分析／多変量解析を用いたレポートの提出を求める。分析の正確性、分析内容と手法の適合性などで評価する。	25%
最終レポート作成	演習で学修した調査手法を用い、各自の研究テーマに関連するレポートの作成を求める。分析の正確性、分析内容と手法の適合性などで評価する。	25%
最終レポートのプレゼン	最終レポートを用いたプレゼンを求める（報告15分、質疑応答5分）。プレゼンの外形（報告時間の遵守度合い）および内容（説得性、論理性）で評価する。	25%
評価の方法 各種レポート課題（75%）、プレゼンテーションの内容（25%）。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	調査法とは何か？	さまざまな調査手法/本演習で取り扱う範囲
2	経済統計の基礎	経済統計データの基礎知識/統計データの加工
3	社会調査の方法	社会調査の設計/質問紙調査の設計/質問票の作成
4	調査結果の集計・表現	単純集計/クロス集計/グラフ
5	統計基礎	平均/分散/標準偏差/分布
6	統計的仮説検定	カイ二乗検定/t検定/F検定
7	相関分析	変数と変数の関係を明らかにする
8	回帰分析	説明変数と被説明変数の関係を明らかにする
9	重回帰分析	複数の説明変数から被説明変数の値を予測する
10	ロジスティック回帰分析	説明変数から質的な被説明変数の確率を予測する
11	主成分分析	データの情報量を削減し、特徴を可視化する
12	因子分析	多変量データに潜む、共通因子を導き出す
13	統計分析演習①	調査法で学んだ手法を用いてデータ分析演習を行う
14	統計分析演習②	データ分析演習の結果を用いて、最終レポートにまとめる
15	レポート提出/発表	最終レポートの内容をプレゼンテーションする

【使用教材】

- ◇教科書：ガイダンス時に指示する。
- ◇参考書：演習の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇Excelの基礎操作を習得している前提で演習は行われる。
- ◇「プロフェッショナル・セミナーⅠ」（松田岳）の同時履修を強く推奨する。
- ◇演習への遅刻・欠席は禁止している。
- ◇演習開始前にWindows OSもしくはMac OSのPCを準備しておくこと。
- ◇演習開始後、PCにR/RStudioをインストールして使用する。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ガイダンス時に指示する。
- ◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

- ◇演習で2単位を修得するために必要な学修時間は通算90時間である。
- ◇授業での学修時間は通算30時間程度である。
- ◇よって、授業時間外（事前・事後）の学修時間は通算60時間程度である。

プロフェッショナル・セミナーⅡ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Professional Seminar II	演習科目／半期／2単位

【授業概要】**【研究テーマ】 財務会計**

このゼミでは、財務会計をテーマに、3年次および4年次の専門演習の基礎固めとして、初歩的専門性の獲得および専門研究の手法の基礎を習得することを目的としている。

「プロフェッショナル・セミナーⅡ」（秋学期）では、「プロフェッショナル・セミナーⅠ」（春学期）の専門知識を前提に、前半はグループごとに財務会計に関するテーマを選定し、グループワークを、後半は個別にテーマを選定し、個人研究活動を行う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基礎的な知識の習得	ゼミ活動およびレポートにより評価。 簿記（日商3級程度）、会計理論（「会計学Ⅰ・Ⅱ」）の知識を有しているか。ゼミで取り上げるテーマについて専門用語・基礎概念を理解しているか。	20%
資料の収集・整理・分析能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 図書館やインターネットを利用して、必要な資料を収集し、それを整理分析することができるか。	20%
プレゼンテーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自らが調査・分析した結果を、分かりやすくまとめて他者に伝えることができるか。	20%
コミュニケーション能力の向上	ゼミ活動およびレポートにより評価。 自己の意見をまとめ、他者に分かりやすく伝達することができるか。実のある議論ができるか。	20%
研究活動の手法の基礎の確立	ゼミ活動およびレポートにより評価。 グループ研究活動および個人研究活動において、テーマの設定、文献・資料の調査・収集・整理、論理的文章の執筆が適切にできているか。	20%
評価の方法 ゼミ活動への積極的な参加（出席状況および発表・ディスカッションにおける態度）および研究成果により評価。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	グループ分けとグループ研究のテーマ選定
2	グループワーク	グループごとに選定したテーマについての調査・研究活動。 (必要であれば図書館やPCルームを利用)
3		
4		
5	中間報告	レジュメ・PPTを用いて、問題意識(テーマ)、章立て、研究手法などを報告。質疑応答。
6	グループワーク	中間報告において明らかになった問題点などを踏まえ、引き続きグループごとに調査・研究を行う。
7		
8		
9	研究成果報告	最終報告。
10	個人研究の進め方について	個人研究の手法について。
11	個人研究テーマ報告	研究テーマ、章立て、研究手法などを報告。
12	個人研究活動	各自、調査・研究。(必要であれば図書館やPCルームを利用)
13		中間報告。質疑応答。
14		調査・研究。
15	総括・達成度の確認	個人研究成果報告

【使用教材】

- ◇教科書：使用しない。
- ◇参考書：必要に応じて適宜紹介する。

【履修条件等】

- ◇演習に積極的に参加する学生の履修を望む。
- ◇「入門簿記Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであること。
- ◇「会計学Ⅰ・Ⅱ」、「商業簿記Ⅰ・Ⅱ」、「財務会計Ⅰ・Ⅱ」等、関連する専門科目を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇演習開始までに、簿記の基礎(日商簿記3級程度)および会計の基礎(「会計学Ⅰ・Ⅱ」)の知識を確認しておくこと。
- ◇次の演習へ向けての準備は必須。具体的には、発表担当者は、プレゼンテーションの資料(PPおよび配布資料)を作成し当日の発表に備える。それ以外の学生は、当日の討論に備えてテキストの該当箇所を熟読したうえで、不明な点については各自下調べをする。

【その他の注意事項】

- ◇無断での欠席・遅刻は厳禁。大人の自覚をもってゼミに臨むこと。
- ◇発言・質問等、積極的・自発的に参加すること。
- ◇私語や他者への迷惑となる行為は厳禁。とくに携帯電話(スマートフォン)の使用・メール等SNSの閲覧は授業の妨害とみなし、退席してもらう。

プロフェッショナル・セミナーⅡ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Professional Seminar II	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

研究テーマ：実践的マーケティングプランニング

マーケティングには「商品開発」「販売促進」「広告宣伝」「ブランディング」などさまざまな領域があり、その裾野は非常に広いものです。本講座は単に知識としてのマーケティングではなく、「自分たちで考えてみる」「自分たちでやってみる」ことを通じて、マーケティングの仕事の楽しさを体感してもらえたいと考えています。また、実際の企業から具体的なテーマをもらって企画に取り組むことや、企業訪問インタビューなどもカリキュラムのひとつに想定しています。

以下にシラバスを示しますが、授業運営については受講生とともに話し合いながら進めていきたいと思っています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会人としてのマナーやビジネスリテラシーの確立	授業にはきちんと出席する、遅刻しない、メールには返信する、課題は提出する、約束は守る、学生同士互いに助け合う、きちんとしたメール文が作れる…といった社会人としての基礎能力を評価ポイントとする。	50%
マーケティング企画の実践を通じた基礎学力の向上	企画書の作成を通じてパワーポイントの扱い方を、調査分析を通じて統計的な思考法を、消費者行動の観察を通じて心理学を、ネーミングを通じて外国語を…というように、実務的な作業によって基礎的な能力も磨いていこうとする姿勢があるかどうかを評価ポイントとする。	30%
連携授業を通じた社会的体験づくり	企業訪問や連携授業に対する意義を理解して積極的に取り組み、高い成果を目指そうとする姿勢があるかどうかを評価ポイントとする。	20%

評価の方法

評価の配分：80%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度50%

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	概要説明
2	相互理解プログラム	参加者同士のコミュニケーション
3	プランニング作業①	企業との連携による具体的なマーケティングプランの作成。
4	プランニング作業②	
5	プランニング作業③	
6	プランニング作業④	
7	連携学習①業界研究	企業や地域社会が抱えている経営課題を解決するために、ゼミとして調査研究を行い、具体的な提案を行う。
8	連携学習②経営理念研究	
9	連携学習③顧客研究	
10	連携学習④商品・サービス研究	訪問またはオンラインでマーケッターにインタビューを行ったり、プレゼンテーションをしたりしながら、実践力を鍛えていく。
11	連携学習⑤企業人インタビュー	
12	連携学習⑥課題に対する考察	
13	連携学習⑦プレゼンテーション	
14	連携学習⑧まとめとフィードバック	
15	総括と達成度の確認	

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で紹介予定。

【履修条件等】

- ◇マーケティング、商品開発や広告などに興味があること。
- ◇PCである程度のドキュメント作成ができること。
- ◇好きでこだわりを持っている分野があり、それをビジネスやマーケティング、自らの進路と結びつけてみたいと思っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等）、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒です。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

- ◇ゼミは学生主体で運営するものです。無連絡で欠席、遅刻をしないこと。
- ◇担当講師からの連絡・メールには、きちんと返信すること。
- ◇履修者同士の良好で長期的な人間関係をつくりあげていってください。

プロフェッショナル・セミナーⅢ 地域マネジメント	イシワタ マサト 石渡 正人
Professional Seminar III Local management	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

インターネットの普及やコロナ禍における在宅ワークの浸透など、私たちの生活様式は大きく変化しています。都市と地方の関係も大きく見直され、これから地域マネジメントが重要視されます。地域マネジメントは行政だけが行うものではありません。企業にとっても地域ブランド商品やサービスの開発、観光やイベントなど沢山のビジネスチャンスに溢れています。またCSRが重要視される今日、企業市民として地域にどうかかわるかは大事な課題であり、地域ブランドの創出では企業のもつノウハウも含め大いに期待されています。

本講義では、事例検証を交え、地域ブランドビジネスの特性やビジネスモデルなどを学びます。更に、後半の講義は実務IQの観点から、高田馬場を題材に地域デザイン（ここでいうデザインは目的をもって具体的に立案・設計することの意）についてフィールドワークを交え学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
地域社会の問題点や解決のための施策について理解できる	講義中に解説する地域社会の問題点や必要とされる施策について理解しようと努め、積極的に興味を持てるか。講義中の質疑や討論で客観的に評価。	20%
地域社会での問題点からビジネスを構築するための手法を理解する	地域ブランドビジネスの特性や、商品（サービス）の開発方法、問題点などを理解しているかを、授業中の質疑応答やテストで評価。	40%
地域社会での問題点を解決するために自分なりのビジネスプランをまとめる	地域を対象にしたビジネスプランを指定フォーマットの企画書にまとめる。地域の問題点への考察と課題解決に向けたプランを戦略的に組み立てられているかを評価ポイントとする。実現性は問わない。	40%
評価の方法 70%以上の出席を条件に、出席評価（受講態度も含む）20%、中間テスト40%、本試験（指定フォーマット企画書）40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地方を取り巻く状況	人口減少社会、高齢化、産業空洞化、地域コミュニティの分断など現状の問題点を解説
2	地域活性化について 社会学的アプローチ	地域コミュニティとソーシャルキャピタル、地域の個性、差別化など
3	地域活性化について 経済学的アプローチ	地域ブランドの考え方、手法などの解説 地域商業（商店街）活性化など
4	地域ブランド開発①	地域ブランド商品、食文化、B級グランプリなど
5	地域ブランド開発②	文化・環境ブランド＝テーマ型集客施設、道の駅など
6	地域ブランド開発③	観光ブランド＝コンテンツツーリズム、インバウンド
7	地域ブランド開発④	キャラクター住民、ゆるきゃら、ご当地ヒーローなど
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	高田馬場の地域デザインを考える①	地域デザイン（目的をもって具体的に立案・設計すること）のためのフィールドワークの手法を学ぶ
10	高田馬場の地域デザインを考える②	地域の問題点の洗い出しと文献調査
11	高田馬場の地域デザインを考える③	フィールドワーク～調査対象：高田馬場周辺の商店街や企業施設、自治体など
12	高田馬場の地域デザインを考える④事例紹介	手塚キャラクター発想支援カードを使い、フィールドワークで学んだことを活かしたブレインストーミング
13	高田馬場の地域デザインを考える⑤事例紹介	高田馬場発祥、日本で一番発行額の多い地域通貨「アトム通貨」に見るソーシャルキャピタルの醸成
14	高田馬場の地域デザインを考える⑥事例紹介	江戸伝統野菜「内藤とうがらし」再興プロジェクトとまちバルイベント「バル辛フェスタ」に見る地域ネットワーク
15	学習達成度の確認	学習達成度確認のための地域デザインをテーマにした、指定フォーマットによる企画書の作成

【使用教材】

◇教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

【履修条件等】

◇みなさんの身の回りにあることが題材になります。

そのため講義中に質問や議論を行うことがあり、能動的な出席態度で望んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業終了時に次回の授業内容を予告します。その観点から自分の住んでいる街や、大学のある高田馬場の街を眺めておくと授業の理解度が増すでしょう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

プロフェッショナル・セミナーⅢ 展示会・会議イベント	<small>キタハラ ユタカ</small> 北原 隆
Professional Seminar III	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

展示会という分野のイベントはシステムがかなり確立されています。

そのシステムを知り、展示会場の仕組みを知り、出展要綱を読み込み、展示会独特のルールを知ることで展示会というイベントを理解します。

さらに、その出展目的と出展位置に合わせた効果的なブース作りを提案し、最適な運営を行なえる知識とスキルを身につけます。

また、外に向けたものとしての会議やセミナー、講習会。企業が内に向けて行なうコンベンションや表彰イベントなどの特徴を知り、効果的に計画できる技術を身につけます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
展示会・会議イベントに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 技術や手法・道具を基礎から知り、理解し説明することが出来る。	15%
さまざまな展示会・会議イベントの特徴を理解する	設問に対する回答によって評価。 さまざまな展示会・会議イベントのケーススタディにふれ、その特徴を理解し、説明できる。	15%
展示会・会議イベントの構成要素を知り理解する	設問に対する回答によって評価。 出展要項を読むことができ、理解し、クライアントに対し必要な条件を説明し、提出書類を選ぶことができる。	40%
自らの展示会・会議イベントを組み立てる力を身につける	課題とレポートによって評価。 オリジナル企画のイベントをデザインし表現して相手に提案し、実現することができる。	30%
評価の方法 日々の課題70%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	様々な展示会、様々な会議
2	展示会の基礎 会議の基礎	展示会とは 会議とは
3	展示会場の仕組み	展示会に特化した会場作りの秘密
4	出展要綱について-1	展示会ならではのルール
5	出展要綱について-2	提出書類の意味 電気と備品
6	ビジネスDAYと一般DAY	来場者の目的の違いと展示手法
7	施工時撤収時の注意	搬入搬出 車両 施工電源
8	リースとシステム	目的別システムの選び方
9	効果的なブース作り	導線計画 サイン計画 展示計画 ポストとシフト
10	名刺交換と管理	何のために出展しているのか 展示会後の対応
11	外部向け会議イベント	講習会 セミナー 発表会
12	内部向け会議イベント	キックオフミーティング アワード
13	システムと演出のトレンド	同通と中継 プレゼンスタイル
14	主要出演者がプロじゃない	式典 コンベンション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず、授業時に資料を配布する。
- ◇巻尺および三角スケール。

【履修条件等】

- ◇幅広くイベントに興味を持ち、その仕組みを知りたいと考えていること。
- ◇1年以内に展示会を最低1つは見ていること。
- ◇「イベントキャリア」を受講済みであることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇イベントに関する情報について、常にアンテナを張り興味と関心を持つこと。
- ◇なるべく多くのイベントに参加し、プロの目を養う訓練をすること。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

プロフェッショナル・セミナーⅢ (グローバル経済と競争法)	スミダ コウジ 隅田 浩司
Professional Seminar III (Global Competition Law and Policy) 演習科目／半期／2単位	

【授業概要】

本講義は、グローバル経済で進む市場の寡占化の問題、巨大IT企業（GAFA）による独占問題に対して、果たして有効な歯止め、規制は可能かどうか、について学ぶことを目的としています。本講義では、企業同士のカルテル、独占の問題、そして合併の3つの視点から、日米欧の競争法・競争政策を比較参照し、市場経済や新自由主義が完全に行き詰まっている現状について解説します。この講義を受講することによって、グローバル経済についての理解が深まり、現代の経済、社会問題について新しい視点を得ることができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 競争政策について理解する	日米欧の競争法、競争政策について理解しているかどうか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2) 独占・寡占市場について理解する	独占・寡占市場について、理解しているかどうか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3) グローバル経済の論点を理解する	学習・到達目標(1)、(2)を前提としてグローバル経済の最新論点の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
4) 競争政策の視点からの分析ができる	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提としてグローバル経済と競争政策全般の理解について、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の10%
評価の方法 評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	グローバル経済の現実	グローバル経済で何が起きているのかについて解説
2	分析枠組み	市場分析のフレームワークについて解説
3	市場	市場とはなにか、について解説
4	カルテル 1	カルテル・談合の論点について解説)
5	カルテル 2	国際カルテル・談合の事例分析
6	事業提携	事業提携と反競争的行為について解説
7	独占はなぜ問題か	独占はなぜ、問題なのかについて解説
8	ライバル排除	競争社の排除による独占の問題について解説
9	濫用行為	搾取的濫用、支配行為と独占について解説
10	再販売価格維持	再販売価格維持行為について解説
11	IT企業と競争	グローバルエコノミーにおけるIT企業と競争について解説
12	企業結合総論	企業結合規制について解説
13	水平合併	競争者間の合併の諸問題について解説
14	垂直・混合合併	垂直合併、混合合併の諸問題について解説
15	総括・達成度の確認	授業の総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇各教科書：教科書は使用せず、CoursePowerを通じて資料を配布します。
- ◇参考書：講義中に適宜、紹介します。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇講義の中で予習課題を指示します。

【その他の注意事項】

- ◇私語は厳禁です、違反者は、履修停止とします。
- ◇受講生の講義理解度に応じて、授業計画の順序を変更する場合があります。

<p>プロフェッショナル・セミナーⅢ（春学期） 文化芸術イベント</p>	<p>セーンジャー 賽音 吉雅</p>
<p>Professional Seminar III</p>	<p>演習科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

プロフェッショナル・セミナーとは何か。

首都圏に集まる若年層（大学・短大・専門学校生、社会人）がどのような考えで、どのようなプロへの志向性を持っているかについて解析する。そして、若者にとって魅力ある学習環境や共感を呼ぶフィールドスタディーのあり方を提案する。フィールドスタディーで実践の根底にあるパラダイム（概念的枠組）や、関連する学習環境の課題についても多角的に考察する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
キャリアデザインを楽しむ	①芸術、エンタメ、ミュージックなど企画・実施（キャリアデザイン）し、その内容を評価する。	15%
自由かつ闊達な思考を醸成する	②プロとは何か、について基本的な知見と方法を学び、さらに個性（オリジナリティー）を評価する。	15%
文芸（概論）と実習を連携する	③芸術・文化の基礎を学習し、音楽やプロの演奏との連携を評価する。	40%
イベントを企画・実施する	④芸術性（アーティスティック）を課題としたイベントを企画し、実施する能力を評価する。	30%
<p>評価の方法 授業への参加率・レポートの出来映えなどから授業への積極性を評価する。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要	オリエンテーション（自己紹介を含む）
2	デザイン論	美術・芸術とキャリアデザインとは何か
3	文化交流論①	東西文化交流の方法
4	文化交流論②	アジア文化交流の特色
5	文化交流論③	日本モンゴル文化交流の意義
6	エンタメについて分析	エンタメイベントプロデュースの課題
7	エンタメ論①	映画テレビ企画、制作の課題
8	エンタメ論②	テレビ・ラジオ制作の課題
9	エンタメ論③	インターネット動画制作の方法
10	エンタメ論④	フェスティバル・プロデュースの課題
11	音楽のジャンルについて	クラシック～民族音楽の楽しみ方
12	伝統音楽①	馬頭琴の多文化性A（和楽器との共演）
13	伝統音楽②	馬頭琴の多文化性B（日本舞踊との共演）
14	伝統音楽③	馬頭琴の多文化性C（朗読との共演）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教材は文献資料、DVD、写真、パワーポイントなどを利用する。参考文献等は、その都度、授業中に紹介する。

【履修条件等】

◇芸術・音楽・演奏を楽しみ、好きな課題を見つけられる人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇様々なツールを用いてプロの演奏と社会的な役割を考える。

【その他の注意事項】

◇この授業（スタディー）をプロフェッショナルへの入口にするという意欲を高めること。

<p>プロフェッショナル・セミナーⅢ（秋学期） 文化芸術イベント</p>	<p>セーンジャー 賽音 吉雅</p>
<p>Professional Seminar III</p>	<p>演習科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

プロフェッショナル・セミナーとは何か。

首都圏に集まる若年層（大学・短大・専門学校生、社会人）がどのような考えで、どのようなプロへの志向性を持っているかについて解析する。そして、若者にとって魅力ある学習環境や共感を呼ぶフィールドスタディーのあり方を提案する。フィールドスタディーで実践の根底にあるパラダイム（概念的枠組）や、関連する学習環境の課題についても多角的に考察する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
キャリアデザインを楽しむ	①芸術、エンタメ、ミュージックなど企画・実施（キャリアデザイン）し、その内容を評価する。	15%
自由かつ闊達な思考を醸成する	②プロとは何か、について基本的な知見と方法を学び、さらに個性（オリジナリティー）を評価する。	15%
文芸（概論）と実習を連携する	③芸術・文化の基礎を学習し、音楽やプロの演奏との連携を評価する。	40%
イベントを企画・実施する	④芸術性（アーティスティック）を課題としたイベントを企画し、実施する能力を評価する。	30%
<p>評価の方法 授業への参加率・レポートの出来映えなどから授業への積極性を評価する。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要	オリエンテーション（自己紹介を含む）
2	デザイン論	美術・芸術とキャリアデザインとは何か
3	文化交流論①	東西文化交流の方法
4	文化交流論②	アジア文化交流の特色
5	文化交流論③	日本モンゴル文化交流の意義
6	エンタメについて分析	エンタメイベントプロデュースの課題
7	エンタメ論①	映画企画、制作の課題
8	エンタメ論②	テレビ・ラジオ制作の課題
9	エンタメ論③	インターネット動画制作の方法
10	エンタメ論④	フェスティバル・プロデュースの課題
11	音楽のジャンルについて	クラシック～民族音楽の楽しみ方
12	伝統音楽①	馬頭琴の多文化性A（和楽器との共演）
13	伝統音楽②	馬頭琴の多文化性B（日本舞踊との共演）
14	伝統音楽③	馬頭琴の多文化性C（朗読との共演）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教材は文献資料、DVD、写真、パワーポイントなどを利用する。参考文献等は、その都度、授業中に紹介する。

【履修条件等】

◇芸術・音楽・演奏を楽しみ、好きな課題を見つけられる人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇様々なツールを用いてプロの演奏と社会的な役割を考える。

【その他の注意事項】

◇この授業（スタディー）をプロフェッショナルへの入口にするという意欲を高めること。

プロフェッショナル・セミナーⅢ コミュニケーション囲碁	ハラ アキコ 原 晶子
Professional Seminar III	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

《自己実現のためのコミュニケーション能力向上と人間力アップ講座》

この授業では、囲碁の簡単なルールを用いて、コミュニケーション能力を高めていくスキルを学びます。

囲碁は、世界中の人々が楽しんでいるゲームです。

囲碁を通してさまざまな人と関わり、互いに学び合い、視野を広げ、自己実現に向けてディスカッションをしていきます。

グループワークを中心とした、体験型授業です。

さまざまな立場のゲスト、プロの囲碁棋士を招き、受講生と共に授業に参加していただきます。

囲碁で楽しく、コミュニケーション能力向上、人間力アップを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「囲碁」を通じた対人関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講生全員との対戦 ・ 受講生以外の人に、囲碁でコミュニケーションを取る実践 	30%
ディスカッション ・ 発表のスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマに即した発言や発表 ・ 内容 ・ 聞き手に伝わる話し方 	30%
話を聞く姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義・ディスカッションでの人の話を聞き理解する力 	20%
レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の感じたこと意見を記述する 	20%

評価の方法 正解、不正解はありません。

一人一人の考えや意見を尊重しながら進めていきます。

グループワーク、ディスカッション、発表、レポート全てにおいて、積極的な参加度を重視します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	囲碁とコミュニケーション	受講生同士で囲碁対局 日本、海外での囲碁事情
2	なぜコミュニケーション囲碁 なのか	講義 ディスカッション
3	囲碁を楽しむ①	囲碁の基本ルールを学ぶ
4	囲碁を楽しむ②	囲碁の基本ルールを学ぶ
5	自分史	自分の過去を振り返る
6	違いを認め合う	体験型グループワーク
7	ふるさと自慢	自分のふるさと自慢を発表
8	ゲスト自分史①	ゲストの人生体験を聞く
9	夢大会	夢を語り合う
10	囲碁大会①	囲碁大会①
11	囲碁大会②	囲碁大会②
12	ゲスト自分史②	ゲストの人生体験を聞く
13	未来予想図	自分の未来を考える
14	発表	テーマ発表
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：囲碁セットとテキスト 2冊 1,500円

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇必要な場合、その都度伝える。

【その他の注意事項】

◇グループワークが基本で段階を追って構成しているプログラムです。

グループメンバーに迷惑をかけないためにも、遅刻や欠席は極力しないようお願い
します。止むを得ず欠席の場合は事前連絡をしてください。

プロフェッショナル・セミナーⅢ	ミヨシ ヨウスケ 三好 陽介
Professional Seminar III	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネスを進める際には、さまざまな場面で適切な意思決定が求められます。この授業は、企業経営の現場において適切な意思決定を行うための基礎知識の習得と理解を目的としています。

具体的には、意思決定の根幹である「判断」について、論理の側面から1)情報の収集と選別 2)リスクと現在価値 3)推定を、また心理の側面から1)合理的決定と感情 2)期待とバイアス 3)信頼、等のテーマを取り上げます。講義のほか実際のビジネスシーンをもとにしたゲーム形式の簡単な演習を行い、意思決定の実践方法を学ぶことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 合理的判断のための情報処理と推定についての理解	講義内容を理解し、合理的判断のための手法についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する	25%
2) 判断に対する感情の影響についての理解	講義内容を理解し、合理的判断のための手法についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する	25%
3) 評価についての実践的な理解	上記、学習・教育目標の1)および2)をふまえ、市場や社会の評価について、自らの状況と関連付けて考えることができたか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する	25%
4) 基本的な意思決定手法の取得	上記、学習・教育目標の1)2)および3)をふまえ基本的な意思決定手法について、自らの状況と関連付けて考えることができたか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する	25%
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席：最低でも70%（10回）以上出席すること。 ・ 評価配分は、期末試験およびレポートを50%、受講態度および授業への貢献を50%とします。 	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	
2	意思決定とは	論理的に決めるとはどのようなことか
3	情報の収集と選択(1)	情報の収集とその方法
4	模擬交渉(1): 準備	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
5	模擬交渉(2): 交渉	
6	情報の収集と選択(2)	不確実な状況での情報収集
7	リスクのもとでの判断	メリットとデメリット、リスクとダメージの違い
8	合理的決定と感情(1)	先入観による認知のバイアス
9	合理的決定と感情(2)	アンカリングとフレーミング
10	価値共有と信頼(1)	価値共有とそれによる信頼の醸成
11	価値共有と信頼(2)	信頼醸成のためのコミュニケーション
12	模擬交渉(3)	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
13	模擬交渉(4)	
14	まとめ	これまでの授業で学んだ内容を各自総括し、学習目標の達成度について自己評価し、理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇とくに教科書は指定せず、随時参考資料を紹介します。また、オリエンテーションにて参考図書を紹介します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業において、資料やウェブサイト等を指定し、予習課題を提示する場合があります。詳細は授業中の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- ◇最低出席率(70%)を満たすこと。不正出席者は履修停止とします。
- ◇授業中の私語は厳禁。これを守れない者には退席を命じ、履修停止とします。
- ◇30分以上の遅刻は50%欠席とします。

プロフェッショナル・セミナーⅣ キャラクターイベントにおける意思決定	イズハラ タカシ 出原 隆史
Professional Seminar IV	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

アニメ作品等のキャラクターを利用したイベントは多種多様な形態で企画・開催され、今後発展・拡大するエンタテインメントコンテンツとして期待されています。そのキャラクターイベントを企画・開催する上で必要な権利処理を学ぶとともに、キャラクターイベントの企画書・収支計画の作成方法や主催者が決定するイベント要件について疑似体験を通じて学んでいきます。

本講義は、前半では事例を題材とした講義形式を進めます。後半はケーススタディとし、プロデューサーの立場に立ち、キャラクターイベントの基本事項（料金・会場・開催期間等）に関して発表・討議形式で授業を進めます。実務においては、合理的な意思決定だけでなく“勘と経験”が必要なことも伝えていきたいと思えます。

最終的には、自分が好きなキャラクターイベント（形態問わず）の企画書を作成し、発表会を開催いたします。本講義を通じて、キャラクターイベントの企画の楽しさ、面白さを伝えていくことを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントプロデューサーの基礎スキルの習得	講義に出席し、宿題を行えば身に付くことを前提に、出席率及び宿題の提出率をベースに採点し、基礎点とします。	30%
イベントプロデューサーとして、深く考える習慣の会得	ケーススタディにおける発表・討議に積極的に参加し、その発言回数・内容により加点します。	35%
キャラクターイベントプロデューサーの総合的なプロデュース力	ワークショップにおける発表・討議に積極的に参加し、その発言回数・内容により加点します。	35%
評価の方法	イベントやヒットビジネスに正解はないので、筆記試験は行いませんが、ワークショップでの発表（必須）が試験の代わりとなります。実務ではチームメンバーと協力し、より良いディスカッションを行うことがイベントの成否を決定するので、なるべく実態に沿った評価を行います。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	キャラクターの著作権	アニメキャラクターの著作権とは。著作権保有の仕組み（原作モノ・製作委員会）の理解
2	キャラクターの利用と権利処理	著作権ビジネスの仕組みとキャラクターイベントにおける権利処理の方法（行使・許諾）／商慣習
3	キャラクターイベントの事例①	キャラクターイベントの事例紹介。 上映会／ヒーローショー／原画展／コンサート
4	キャラクターイベントの事例②	キャラクターイベントの事例紹介。 2.5次元／舞台／キャラクター混載イベント
5	キャラクターイベントにおける物販	物販イベント／キャンペーンコラボ／スタンプラリー。イベント限定グッズ企画の留意点
6	ワークショップ①	キャラクターイベントのスキーム分析発表
7	イベントの損益分析	ケーススタディ：原画展 損益分岐点の計算方法、開催期間の決定
8	プロデューサーの意思決定①	ケーススタディ：脱出ゲーム① ターゲットの設定、動員目標と入場料の決定
9	プロデューサーの意思決定②	ケーススタディ：脱出ゲーム② ターゲットの設定、動員目標と入場料の決定
10	プロデューサーの意思決定③	ケーススタディ：周年イベント 開催場所の決定／スポンサー営業
11	キャラクターイベントの企画書作成	イベント企画書の作成方法
12	プロデューサーの意思決定④	ケーススタディ：Go!Go!5!FES 予算計画の作成／収益改善事例
13	プロデューサーの意思決定⑤	ケーススタディ：C3 香港 予算計画の作成／海外イベント事例
14	ワークショップ②	キャラクターイベントの企画発表
15	ワークショップ③	キャラクターイベントの企画発表

【使用教材】

◇教科書は使用せず、必要に応じて用意します。

【履修条件等】

◇キャラクターイベントに興味がある方。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次回に取り上げるケースを分析し、自分なりの意思決定を行った上で出席願います。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

プロフェッショナル・セミナーⅣ 人間学	カミワタリ リョウヘイ 神 渡 良 平
Professional Seminar IV	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

私たちは事業を取り巻く外的環境を俯瞰し、的確に判断して、状況を切り拓いていかなければなりません。開拓者は環境を開拓することができる主体性を持っていてこそ、開拓者たり得ます。

その意味で、自分の主体性を培う学問である「人間学」は、これから人生に立ち向かう者にとって不可欠の学問といえます。この授業では先人がつかみ取った人生の知恵を学び、自分の人生に活用できるようにしていくつもりです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
意見をまとめる	平常点により評価します。 授業に取り組む姿勢や、質問の内容で判断します。	20%
論点を整理する	毎週提出してもらうレポートで評価します。 書くことで自分の思考は深められていきます。 従ってレポートは重大視します。	60%
ディスカッション 能力	小試験によって評価します。	20%
評価の方法 授業中の態度、質問内容、レポートなどから行います。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	人間とは何か	自分とは何か？人生最大のテーマを古来どの人も真摯に追求してきた。それを人生の達人たちが自分の人生で表現した。それを俯瞰して再度自己実現の方策を探る。
2	内観—いのちのルーツにつながる	自分の“いのち”のルーツである父母とのつながりの中で再発見し、自分を再構築する。
3	四国遍路が教えてくれた宇宙の本質	闘病生活の後、四国遍路1200キロを行脚し、88か所の札所で祈った日々を通して、それまで見えなかった世界が見えるようになった。その宇宙の本質とは。
4	安岡正篤が鼓舞した「志」（その1）	昭和20年8月15日、昭和天皇が終戦を宣言した詔勅を刪修し、なおかつ「平成」の年号を推薦した碩学安岡正篤の思想を問う。
5	安岡正篤が鼓舞した「志」（その2）	吉田松陰が「志を立て万事の源となす」と鼓舞して弟子たちを奮い立たせたように、志がその人の人生を決める！安岡はそれをどう語ったのか。
6	中村天風が説く「幸せを呼び込める思考」（その1）	安岡正篤に並んで今もっとも人気のある中村天風の実践哲学を概観し、自己実現するための方策を学ぶ。
7	中村天風が説く「幸せを呼び込める思考」（その2）	言葉が持っている不思議な自己暗示力を活用して、自分の能力を引き上げる。
8	森信三が説く「宇宙の大法」	「心理は現実のただ中にあるんです」と謙虚に説いて人々に勇気を与え続け、多くの教職者を育てた森信三が見つかった「宇宙の大法」は私たちの目を開いてくれる
9	祈りの詩人坂村真民の風光	仏教詩人と呼ばれた坂村真民は「言葉をもてあそんだだけの詩人ではなく、やむにやまれぬ求道を詩に表現した求道者だった。宮沢賢治と類される詩人の本質を探る。
10	アッシジのフランチェスコとマザー・テレサに学ぶ人間の生き方	イエス以後、もっともイエスを髣髴させる人だったといわれる12世紀のアッシジのフランチェスコと20世紀のマザー・テレサの生き方からヒントを学ぶ。
11	『夜と霧』のV・ルランクルが見つかった生きる力	アウシュビッツやダッハウなどナチの強制収容所で生き延びたV・フランクルに「それでも人生にイエスと言う」と言わしめた強靱さはどこから来たのか・その秘訣を学ぶ。
12	一燈園の創始者・西田天香が目覚めたもの	この名曲の歌詞を書き、「私はかつて奴隷船の船長をやっている、人の道を踏み外した男だったけれども、再起する道を与えられた」というニューートン市債の波乱万丈な人生から、人生を貫いている心理を学ぶ。
13	「教え子はみな吾か師」と言った徳永康起の生き方	小学校卒業後15年たってもなお教え子たちが文集を出して徳永先生を慕った理由は何か？そこに人と人とのきずなが育つ理由が見てとれる。
14	西田天香と下坐に降りた生活	苦海に沈んでいた京都の飲み屋街の女性たちが慕った一燈園の西田天香さん。誰よりも下に降りて生活した天香さんの人生が語っているものは何か
15	試験	

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくにありません

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

プロフェッショナル・セミナーⅣ メディアミックスイベント	サノ タカユキ 佐野 孝行
Professional Seminar IV	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

主にゲームを中心に展開するメディアミックスを例に挙げながら、エンターテインメントビジネスの基礎知識＋その応用を学びます。

現代において、一つの作品世界を軸に様々な形でその世界観を共有する表現がイベントとして組み立てられていくのが当たり前になっています。テレビドラマ化や映画化のみに留まらず、舞台化や脱出ゲームなどのアトラクション化、さらには VR 化など新しいメディアの登場に合わせてその展開も広がりを見せています。

その歴史や成り立ち、展開の仕組み、世界観の構築やその意味、仕事の構成を基本から知ることで、作品世界に合わせて的確な企画提案ができるスキルを身につけます。

またなるべく多くのケーススタディに触れることでその範囲の広がりを知り、未知なるものにそれを応用する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ゲームビジネスに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 意味や手法を基礎から知り、理解し説明することができる。	25%
様々なメディアミックスイベントの特徴を理解する	設問に対する回答によって評価。 様々なメディアミックスイベントのケーススタディにふれ、その特徴を理解し説明できる。	25%
メディアミックスイベントの構成要素を知り理解する	設問に対する回答によって評価。 作品内容に合わせたメディア選びができ、必要な機材及びスタッフを理解し構成することができる。	20%
メディアミックスイベントを企画する力を身につける	課題とレポートによって評価。 オリジナル企画のメディアミックスイベントを計画して相手に提案し、実現することができる。	30%
評価の方法 日々の課題70%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアミックスの基礎
2	世界観の共有-01	世界観とは、らしい&らしくないはどこできるか
3	世界観の共有-02	その作品のファンを増やす&リピーター
4	世界観の共有-02	作品の隙間を埋めるイベント作り
5	ケーススタディー	映像化の例
6	ケーススタディー	グッズ化の例
7	ケーススタディー	書籍化の例
8	ケーススタディー	ファッション化の例、本物のコスチューム
9	ケーススタディー	コラボカフェ化の例
10	ケーススタディー	アトラクション化の例
11	ケーススタディー	舞台化の例
12	ケーススタディー	ミリタリー展開の例
13	ケーススタディー	隠された仕掛け&広告
14	今後のメディアミックス	新技術の登場とイベント化、VR など
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず、授業時に資料を配布する。
- ◇参考商品サンプルなどは授業時に参考展示する。

【履修条件等】

- ◇幅広くイベントに興味を持ち、その仕組みを知りたいと考えていること。
- ◇ゲームを中心としたアニメやコミックなど、エンターテインメントビジネスに興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇イベントに関する情報について、常にアンテナを張り興味と関心を持つこと。
- ◇なるべく多くのイベントに参加し、プロの目を養う訓練をすること。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

<p>プロフェッショナル・セミナーⅣ(春学期) プロジェクトマネジメント</p>	<p>ナンバ トシキ 難波 俊樹</p>
<p>Professional Seminar IV</p>	<p>演習科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

イベントはもちろんのこと、社会に出て行われる「仕事」は「プロジェクト」と呼ばれる活動の連続です。この「プロジェクトを進める力」＝「プロジェクトマネジメント」は、エンターテインメント産業、流通業、製造業、不動産業など、すべての業種で重要です。この講義では、イベントの立案、実行力を身につけるだけでなく、社会人として必要な、様々な問題解決力、分析力、発想力、コミュニケーション能力を身につけることを狙いとしています。特に難しい概念的な事項については、コンサートや映画、ゲームなど身近な事例を通じて実践的知識を獲得できるように配慮しています。

また、時間中は講義だけでなく、実際にプロジェクトの実施を行うためのグループワークを実施します。（イベントの実施時期によって、各項目の実施時期がシラバスと異なることがあります）

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<p>基本的な問題解決の枠組みの習得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践的に活用できる様々な問題解決力、分析力、発想力が身についたか。 ・ <記憶><理解><活用>のレベルでの評価 	<p>30%</p>
<p>プロジェクトをマネジメントする能力の習得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトをマネジメントするための様々な技法や考え方が身についたか。 ・ <記憶><理解><活用>のレベルでの評価 	<p>50%</p>
<p>プランの発想・立案力の習得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ プランを発想し、それを他人に分かりやすく説明する能力は身についたか。 ・ <記憶><理解><活用>のレベルでの評価 	<p>20%</p>
<p>評価の方法 講義中の参加状況20%、課題提出50%、最終確認テスト30%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入講義	本講義の目的と概要の説明 プロジェクトとは何か 社会の中のプロジェクト イベントのプランニング
2	プロジェクト基礎 ①	目的と目標 アウトプットとアウトカム
3	問題解決思考 ①	具体と抽象、一般と特殊 分析・問題解決のフレームワーク
4	問題解決思考 ②	課題分析 ワークショップ
5	プロジェクト基礎 ②	スコープ リソース
6	プランニング演習	イベント企画を立案する。
7	プロジェクト基礎 ③	プロジェクトの「ヒト」 リーダーシップ、責任と権限、ステークホルダー
8	プロジェクト基礎 ④	PDCA 作業分担、スケジュールと進捗管理、クリティカルパス
9	プロジェクト基礎 ⑤	リスクの分析と対策
10	プロジェクト実践 ①	様々なプロジェクトのケーススタディ コンサート、ゲーム開発、イベント、メディア制作などから 実例をあげて行う。
11	プロジェクト実践 ②	コミュニケーション コミュニケーション計画、会議、SNS 議論
12	プロジェクト実践 ③	戦略的意思決定
13	失敗の科学 ①	失敗を自分のエネルギーに変える 失敗の原因分析
14	失敗の科学 ②	失敗のリカバリー法、立ち直り方
15	総括・達成度の確認 リフレクション	・これまでの振り返りと気づきの確認 ・今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト を実施する

【使用教材】

- ◇教科書：オリジナルテキスト
その他の資料は随時配布する。

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくにありません。

【その他の注意事項】

- ◇とくにありません。

<p>プロフェッショナル・セミナーⅣ(秋学期) プロジェクトマネジメント</p>	<p>ナンバ トシキ 難波 俊樹</p>
<p>Professional Seminar IV</p>	<p>演習科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

イベントはもちろんのこと、社会に出て行われる「仕事」は「プロジェクト」と呼ばれる活動の連続です。この「プロジェクトを進める力」＝「プロジェクトマネジメント」は、エンターテインメント産業、流通業、製造業、不動産業など、すべての業種で重要です。この講義では、イベントの立案、実行力を身につけるだけでなく、社会人として必要な、様々な問題解決力、分析力、発想力、コミュニケーション能力を身につけることを狙いとしています。特に難しい概念的な事項については、コンサートや映画、ゲームなど身近な事例を通じて実践的知識を獲得できるように配慮しています。

また、時間中は講義だけでなく、実際にプロジェクトの実施を行うためのグループワークを実施します。（イベントの実施時期によって、各項目の実施時期がシラバスと異なることがあります）

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<p>基本的な問題解決の枠組みの習得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践的に活用できる様々な問題解決力、分析力、発想力が身についたか。 ・ <記憶><理解><活用>のレベルでの評価 	<p>30%</p>
<p>プロジェクトをマネジメントする能力の習得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトをマネジメントするための様々な技法や考え方が身についたか。 ・ <記憶><理解><活用>のレベルでの評価 	<p>50%</p>
<p>プランの発想・立案力の習得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ プランを発想し、それを他人に分かりやすく説明する能力は身についたか。 ・ <記憶><理解><活用>のレベルでの評価 	<p>20%</p>
<p>評価の方法 講義中の参加状況20%、課題提出50%、最終確認テスト30%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入講義	本講義の目的と概要の説明 プロジェクトとは何か 社会の中のプロジェクト イベントのプランニング
2	プロジェクト基礎 ①	目的と目標 アウトプットとアウトカム
3	問題解決思考 ①	具体と抽象、一般と特殊 分析・問題解決のフレームワーク
4	問題解決思考 ②	課題分析 ワークショップ
5	プロジェクト基礎 ②	スコープ リソース
6	プランニング演習	イベント企画を立案する。
7	プロジェクト基礎 ③	プロジェクトの「ヒト」 リーダーシップ、責任と権限、ステークホルダー
8	プロジェクト基礎 ④	PDCA 作業分担、スケジュールと進捗管理、クリティカルパス
9	プロジェクト基礎 ⑤	リスクの分析と対策
10	プロジェクト実践 ①	様々なプロジェクトのケーススタディ コンサート、ゲーム開発、イベント、メディア制作などから 実例をあげて行う。
11	プロジェクト実践 ②	コミュニケーション コミュニケーション計画、会議、SNS 議論
12	プロジェクト実践 ③	戦略的意思決定
13	失敗の科学 ①	失敗を自分のエネルギーに変える 失敗の原因分析
14	失敗の科学 ②	失敗のリカバリー法、立ち直り方
15	総括・達成度の確認 リフレクション	・これまでの振り返りと気づきの確認 ・今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト を実施する

【使用教材】

- ◇教科書：オリジナルテキスト
その他の資料は随時配布する。

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくにありません。

【その他の注意事項】

- ◇とくにありません。

プロフェッショナル・セミナーⅣ 将棋	ホリグチ コウジ 堀口 弘治
Professional Seminar IV	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

将棋のゲームとしての面白さ・奥深さはもちろん、伝統文化としての位置付けとして、世界における日本、日本文化自体を興味深く紹介していきます。

また将棋は次の一手を誰にも頼らず盤面の情報処理をして、自分なりに結論を出していくプロセスの連続です。対局の実技のみならず、授業全般にわたっても「自分の頭で考える」をテーマに展開していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
実技（主に対局）に集中することによりじっくり考える楽しみを知る	受講者同士の対戦を基に評価 受講当初より、どれくらい将棋に対する理解度が高まったか。	40%
課題やレポートに取り組み、自分が納得するまで考える力を養う	将棋関連のテーマに対する受講者のレポートの内容や詰将棋・将棋パズル等の課題への理解がどれだけ深まったか。	30%
評価の方法 出席100%を前提として授業参加度30%、上記の学習内容70%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	駒遊び	五角形の駒で様々な遊び方を創造できることを知る
2	入門用将棋	駒を少なくして、ルールや駒の運用の理解を深める
3	将棋とは?	将棋界の基礎知識を習得する
4	駒・盤作りDVD鑑賞	職人技を鑑賞し、実際の駒に触れ、伝統文化の理解を深める
5	将棋の歴史(1)日本	平安～江戸時代にかけての将棋歴史を知る
6	将棋の歴史(2)世界	世界のキングハンティングゲームの歴史を知る
7	青空将棋	歩のない激しい将棋でルール習得の促進を図る
8	スミワケ将棋	彼我の駒の利きを即時認識する能力を養成する
9	寄せ将棋	ゲームの最終目的である、王様を追い詰める技を習得する
10	プロ棋士の礼儀作法	プロ棋士の礼儀作法を学び、正しい駒の扱い方を習得する
11	プロ棋士の考え方	羽生善治のDVDを鑑賞し、プロ棋士の勝負哲学を学ぶ
12	棋譜を取る	将棋を指しながら、自分で棋譜を書く
13	同時指導対局	プロ棋士が同時に数人の生徒に解説しながら直接指導する
14	対局の大盤解説	生徒代表同士の対局を講師が大盤解説する
15	将棋トーナメント	真剣勝負の雰囲気を楽しむ、集中力を高める

【使用教材】

◇将棋の教科書ならびに各種プリント。

【履修条件等】

◇とくにありませんが、敢えて言えば、初心者程本講座に適しています。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇受講期間中、対面やネット、対局ソフトで対戦をしたり、情報を取得したりするよう
に心がけるようにしてください。

【その他の注意事項】

◇遅刻や欠席には気をつけてください。止むを得ず欠席の場合は事前連絡を必ずしてく
ださい。

プロフェッショナル・セミナーIV エリアマネジメント	ミヨウチン リョウコ 明珍 令子
Professional Seminar IV	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

魅力的な地域づくりの手法として、エリアマネジメント（官民連携によるまちづくり）が注目されています。まちの課題を解決するエリアマネジメントの活動は多岐に渡りますが、地域のにぎわい創出として、イベントの開催は大切な取組みの一つです。

エリアマネジメント活動におけるイベントは、収益等を目的とした商業型イベントとは異なる企画と運営が求められます。

エリアマネジメントの特徴を知り、まちづくりとしてのイベントの企画から実施までのプロジェクトマネジメント力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
エリアマネジメントに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 エリアマネジメントの定義を知り、理解し説明することが出来る。	15%
エリアマネジメントの特徴を理解する	設問に対する回答によって評価。 国内外のエリアマネジメントの事例にふれ、その特徴を理解し説明することが出来る。	15%
エリアマネジメントにおけるイベントの特徴を理解する	設問に対する回答によって評価。 個々の状況（課題、目的等）に応じたイベントの主旨を理解し、テーマ別に整理し説明することが出来る。	30%
エリアマネジメントにおけるイベント企画力を身につける	ワークショップへの取組みと成果、試験によって評価。 演習想定地域における課題を理解し、解決のためのイベントを企画し提案することが出来る。	40%
評価の方法 講義中の実施する演習への参加、発言などに対する評価が70%、 最終試験が30%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本講義の目的と概要
2	エリアマネジメント概要	エリアマネジメントとは（背景・特徴・内容等）
3	エリアマネジメント Step ①	エリアマネジメントの制度・ルール
4	エリアマネジメント Step ②	エリアマネジメントの進め方
5	エリアマネジメント Step ③	エリアマネジメントの3つのフェーズ
6	エリアマネジメント事例Ⅰ	国内・海外の事例
7	エリアマネジメント事例Ⅱ	国内・海外の事例
8	エリアマネジメントとイベント	開発型・地方活性化型のイベント
9	エリアマネジメント事例Ⅲ	国内・海外の事例
10	エリアマネジメントとイベントⅠ	事例に学ぶ＜都市編＞
11	ワークショップ（グループワーク）Ⅰ＜討議＞	地域賑わい創出のためのイベント企画・討議
12	ワークショップ（グループワーク）Ⅰ＜発表＞	地域賑わい創出のためのイベント企画・発表
13	エリアマネジメントとイベントⅡ	事例に学ぶ＜地方編＞
14	ワークショップ（グループワーク）Ⅱ＜討議＞	地域賑わい創出のためのイベント企画・討議
15	ワークショップ（グループワーク）Ⅱ＜発表＞	地域賑わい創出のためのイベント企画・発表

【使用教材】

◇教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に題材となる地域（まち）に関して紹介するので、事前に調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

プロフェッショナル・セミナーV 戦略営業論	オガタ ヨシト 緒方 義人
Professional Seminar V	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

テーマ：戦略営業論

大卒（文系）の7割以上が営業職に就くと言われていています。本講座を通じ企業活動にとって最も重要で本質的な営業の仕事とはどういったものなのか、どのようなスキルが求められているかを理解し、その上で「企業の現状」を把握する上で有効なフレームワークやクライアントが抱える「問題解決」のプロセス・方法を学びます。また、営業に求められる重要なコミュニケーションスキルのひとつに交渉力が挙げられます。「交渉術」といった場当たりのなものではなく体系的に「交渉学」の理論を学び、演習（模擬交渉）を通じそのスキル学びます。受講生はペアワーク・グループワークに積極的に参加することで、傾聴することの大切さ、自分の意見をわかりやすく伝えながらメンバーを巻き込み協働するプロセスを学びます。

2019年度に開講した本講座では、東京信用金庫様と連携で授業を行ってまいりました。授業後半では、「信金の営業の立場から顧客の経営課題を解決する」というテーマで、受講生たちは信金の方からご指導を受けながら議論や調査を重ね、同金庫のお客様の抱える課題解決に取り組みます。プレゼンテーションではお客様にも同席いただき、本番さながらの環境で実践的能力を磨きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識を習得する	営業に関する基本的な概念や用語、問題解決のプロセス、企業研究を行うためのフレーム、交渉学の論理を理解しているか	30%
他者と協力しながら、主体的に取り組む	グループで決めた役割を意識しながら、目標達成に向け主体的に課題に取り組んでいるか	40%
問題解決のプロセスを理解し、実践する	問題解決のプロセスを理解し、その知識を活用してロールプレイや演習を通じ実践しているか 交渉学の理論・知識を活用して演習を実践しているか	30%

評価の方法 この授業は演習が主となるので、知識の習得のみならずセミナーへの積極的な参加を求めます。そして他の受講生と協働で課題に取り組む姿勢を重視します。評価の配分はテスト30%、授業中の取り組み姿勢40%、アウトプット物（ワークシート、アンケート）40%です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	概要（授業内容、評価方法）説明、アンケート
2	営業の仕事を知る①	映像や記事を元に、営業の仕事を理解する
3	営業の仕事を知る②	
4	問題解決について学ぶ	問題解決のプロセスを学び、演習を通じ理解する
5	営業視点で企業を研究する①	企業の現状を把握する上で有効な3つのフレームワークを学び、演習を通じて理解する
6	営業視点で企業を研究する②	
7	営業に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ①②③	交渉学における理論を学ぶ
8		交渉について演習を通じて理解する①
9		交渉について演習を通じて理解する②
10	営業の仕事を経験する①	企業研究を行うためのフレームを学び、企業の現状と課題を整理し、解決策を考え、プレゼンテーションする
11	営業の仕事を経験する②	
12	営業の仕事を経験する③	
13	営業の仕事を経験する④	
14	振り返り	授業の振り返りとアンケート
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇講義資料は、授業で毎回配布します。

【履修条件等】

- ◇必須とする条件はありませんが、以下のいずれかに関心のある学生を歓迎いたします。
- ◇営業の仕事に興味・関心があるが、実態がよくわからないので、授業を通じ「営業」について学びたい学生。
- ◇グループワーク、ペアワーク、プレゼンテーションなどを通じコミュニケーション能力を磨き、就職活動に備えたいと考えている学生。
- ◇新たな「気づき」や「学び」を得ようと、授業に積極的に参加できること。
- ◇金融業界に関心がある学生

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業の際、予習範囲を指示します。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

<p>プロフェッショナル・セミナーV 社会貢献イベント論</p>	<p>ハママツ トシヒロ 濱松 敏廣</p>
<p>Professional Seminar V</p>	<p>演習科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

ボランティアの経験を就職面接で学生に問う企業が増えています。なぜでしょうか？

大きな責任を伴う企業では、責任感がなく根性がない人の採用は、よほどのコネでもない限りしません。

そこで彼ら是对価性が低いボランティア活動のなかで、与えられた仕事を継続し責任の伴う役割を果たすことができたのか、書類や面接で引き出そうとするのです。

当論では社会貢献団体におけるイベント運営や歴史、企画書の書き方、スポンサー獲得への営業体験などを提供し、社会の即戦力として期待される学生を育成します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<p>社会課題の種類を知り、なぜその問題に興味を持つのか、自分の気持ちを確認すること</p>	<p>授業態度で評価。さまざまな社会課題を学びながら、企画書作成に向けたマーケティング手法を学ぶ。課題アンケートを実施。</p>	<p>30%</p>
<p>企画書の作成を通じて、他者からの評価を体験すること</p>	<p>成果物によって評価。チーム単位でイベントの企画書を作成し、プレゼンテーションでお互いを評価し合う。</p>	<p>30%</p>
<p>既存イベントを通じて自分のやりたいイベントとは何かを見定め、形にすること</p>	<p>ボランティア証明書の発行を行う外部協力団体のオンラインゴミ拾いイベント参加に伴うアンケートによって評価。 他大学の学生や社会人とのコミュニケーションを通じてどのような意識変化を感じることができたかを問う。</p>	<p>30%</p>
<p>思考の整理</p>	<p>試験によって評価。SWOTを理解し、自分の思考を企画書に落とし込むことができるか諮る。</p>	<p>10%</p>
<p>評価の方法 授業態度30%、成果物30%、外部協力団体・企業等のアンケート30%、試験10%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション&イントロダクション	主宰イベントの意義とブランディングの必要性について
2	主宰イベントを行うために、運営者が考えること	企画の立案・分析・予算・広報(内部/外部)・スタッフ・スケジュールについて
3	スポンサー獲得の準備と協賛の種類	NPO法人維新隊ユネスコクラブでの事例紹介
4	要素分析とデザイン	スポンサーを獲得できる企画書とは？
5	思考の整理術	6W2HとPDCAについて。自分を商品に例えてみよう
6	企画書を書く前に～SWOT分析①～	マーケティング手法「SWOT」の具体的な分析方法を学ぶ。学ぶ。Ex) 自分SWOT
7	企画書を書く前に～SWOT分析②～	自分SWOTを使った相互プレゼンテーションの体験
8	清掃イベントへの参加・体験	既存イベントへの参加を通じたSWOT分析、企画書への落とし込み方を学ぶ
9	チーム別・企画書の作成	テーマ決定およびチーム分けを行い、スポンサー企業をイメージ
10	企画書の相互チェック・俯瞰	プレゼンテーションへの準備。企業アポイントメントを行う場合、何が必要か想像してみよう
11	相互プレゼンテーション①	チーム対抗プレゼンテーションの実施。優秀チームの選定および講評
12	企画書のブラッシュアップ	優秀チームの企画書を、より良くするためにできること
13	相互プレゼンテーション②	優秀チームの企画書を用いた相互営業体験
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認
15	テスト	テストの実施

【使用教材】

- ◇使用せず。
各テーマごと、必要に応じて用意します。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇他校の学生や社会人と連絡をとることがあるため、対外的に使えるメールアドレスを
◇ご用意ください。

<p>プロフェッショナル・セミナーVI エンターテインメントイベント</p>	<p>キタハラ ユタカ 北原 隆</p>
<p>Professional Seminar VI</p>	<p>演習科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

主にステージ（舞台）を使ったイベントの基礎知識＋その応用を学びます。
 同じ空間を使用するイベントでも、ライブと演劇ではその手法も意味も違ってきます。
 使う道具も、場合によっては専門用語も違います。

その歴史や成り立ち、会場の仕組み、演出技術やその意味、仕事の構成を基本から知る
 ことで、好みで偏らない的確で安全な企画提案ができるスキルを身につけます。

またなるべく多くのケーススタディに触れることでその範囲の広がり＆その違いを知
 り、未知なるものにそれを応用する力を養います。

その上で、様々なイベントへの応用と展開を知ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<p>エンタイベント に関する基礎知識 を理解する</p>	<p>設問に対する回答によって評価。 技術や手法・道具を基礎から知り、理解し説明す ることができる。</p>	<p>15%</p>
<p>さまざまなエンタ イベントの特徴 を理解する</p>	<p>設問に対する回答によって評価。 さまざまなエンタイベントのケーススタディに ふれ、その特徴を理解し、説明できる。</p>	<p>15%</p>
<p>エンタイベント の構成要素を知り 理解する</p>	<p>設問に対する回答によって評価。 イベント内容に合わせた会場選びができ、必要な 機材及びスタッフを理解し構成していることができ る。</p>	<p>40%</p>
<p>自らのエンタメイ イベントを組み立て る力を身につける</p>	<p>課題とレポートによって評価。 オリジナル企画のイベントをデザインし表現して 相手に提案し、実現することができる。</p>	<p>30%</p>
<p>評価の方法 日々の課題70%、期末試験30%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	様々な舞台、様々なステージ
2	エンターテインメントの基礎	企画から撤収まで 予算配分
3	舞台とステージ	舞台空間とライブ空間の違い
4	色と光について	なぜそう見えるのか 色の出し方 照明効果
5	ライブとデッド	音について 音響効果
6	演出&効果	映像 電飾 特効
7	舞台機構	舞台の構成 奈落 すのこ せり
8	電気について	電気の種類 容量
9	セット&美術	大道具 小道具 映像装置
10	リハーサル	スタジオリハ・テクリハ・ブロックリハ・ゲネプロ
11	搬入計画と搬入口問題	どの順番で、どう入れるか
12	導線計画	バックエリア・ゲストエリア・アクトエリア
13	ファンクラブ運営	その重要性 会報 特典
14	グッズ制作について	世界観の共有 会場販売 ネット販売
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず、授業時に資料を配布する。
- ◇巻尺および三角スケール。

【履修条件等】

- ◇幅広くイベントに興味を持ち、その仕組みを知りたいと考えていること。
- ◇1年以内にライブ&演劇を最低1本ずつは見ていること。
- ◇「イベントキャリア」を受講済みであることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇イベントに関する情報について、常にアンテナを張り興味と関心を持つこと。
- ◇なるべく多くのイベントに参加し、プロの目を養う訓練をすること。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

プロフェッショナル・セミナーVI “好き”を見つける教室”	ハリヤ カズヨシ 針谷 和昌
Professional Seminar VI	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

イベント企画を通じて／自分自身を知りイベントプロデュースを学ぶ

人生で起こる出来事、それ自体ほとんどすべてがイベントである。イベントには、自分がワクワクしたり、興奮したり、愛おしいと思ったりするものが隠れている。それらの感情を浮き彫りにすることで、本当に好きなこと、本当にやりたいことが見えてくる。この授業では、イベントを企画する過程において、なぜそれがいいのか、なぜこれはしっくりこないのか、対話と議論の中で自分自身を深掘りしていきながら、自分の奥深いところを発見する。そして、実際に、イベントを企画し、イベントプロデュースの実践を体験的に学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自分が好きなことが「言語化」できるか？	講義内容であるポジティブ心理学、幸福学、コーチングについて理解し、自分の方向性を言語化できるかについて、レポートおよび授業中の発言で評価する。	15%
イベント実施の意義（自分がやりたいこと）を理解し、企画立案できるか？	講義内容であるインタビュー、フロー研究、キャリアメンシップについて理解し、企画立案を文書化できるかについて、レポートで評価する。	15%
イベント企画に関する手順、方法論を理解し、応用できるか？	講義の中で実施するイベントプロデュースに関するアクティブラーニング、演習に参加し上で、グループワークおよびグループ発表内容で評価する。	15%
イベント企画案を立案し、適切な運用について文書化できるか？	自分自身が企画したイベントプロデュース企画案に関する最終レポートの提出が必要であり、そのレポート内容、および授業における積極的な参加姿勢を加味して総合的に評価する。	55%
評価の方法	授業中に実施する演習への参加、発言などに対する評価が40%、授業中および最終的に提出するレポートの評価が60%とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	・授業の全体像と自己紹介 ・グループ討議（各自長所等）
2	セッション	
3	1) 好きなことを探す	（・好きなこと概論 ・対話と議論 ・web心理テスト）
4	2) アクティブラーニング	（・ゲームの紹介 ・ゲームの実施 ・タイプ診断）
5	3) コーチング	（・コーチング概論 ・コーチング実践）
6	4) インタビュー	（・インタビュー概論 ・インタビュー実践）
7	5) フロー	（・フロー概要 ・フローエクササイズ実践）
8	6) キャプテンシップ	（・キャプテンシップ概論 ・キャプテンシップ実践）
9	7) イベントの基礎知識	（・イベント全体概論 ・イベント企画概論）
10	8) イベントの作り方	（・イベント企画実践 ・イベント）
11	9) レポートに向けた準備	（・対話と議論 ・質疑）
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇ドラマチックロールプレーイングゲーム。
- ◇教科書は指定しません。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇適宜予習課題を指示します適宜予習課題を指示します。

【その他の注意事項】

- ◇事業開発として企画中のものを使用するため、そのような資料については、内容を外部に口外しないこと（機密保持）を守ってください。

プロフェッショナル・セミナーⅦ 就職	ノザワ マキコ 野沢 牧子
Professional Seminar VII	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、就職に当たっては早い段階での主体的行動が求められようになってきました。本講義では、自立を目的として「話す・聴く・書く」というコミュニケーション力と対人関係構築力を、グループワークやディスカッションを通じ体感的に学びます。自信を持って就職活動に臨めるよう、進路決定にあたってしておくべき自己分析や業界理解、企業理解を進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くある選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対応する力を身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
評価の方法	職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	・就職活動の現状理解、全体スケジュールと準備事項 ・大学3年生の過ごし方 ～この環境でできること
2 3 4 5	社会人基礎力の理解	・社会で求められるコンピテンシーを理解する ～社会人基礎力に基づくグループワーク
6 7 8	自己理解 ～入門編	・社会人基礎力から強みを考える ・自己PRの書き方理解 ・自己PRの作成
9 10	仕事理解 ～入門編	・産業構造理解 ・業界、職種理解
11 12 13 14	グループワーク及びプレゼンテーション	・テーマに基づきチームでプレゼンテーションを企画し発表する
15	活動計画策定・発表	・夏のインターンシップ、秋学期の活動計画策定

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇3年生で民間企業等への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義は連続性があるため、一度の欠席が大きなハンデとなることもある。

また社会人となるための準備講座のため、講義のルールおよびマナーを守って受講するようお願いしたい。

プロフェッショナル・セミナーⅦ 就職	ミヤジ ユカ 宮地 由夏
Professional Seminar VII	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、就職に当たっては早い段階での主体的行動が求められようになってきました。本講義では、自立を目的として「話す・聴く・書く」というコミュニケーション力と対人関係構築力を、グループワークやディスカッションを通じ体感的に学びます。自信を持って就職活動に臨めるよう、進路決定にあたってしておくべき自己分析や業界理解、企業理解を進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くある選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対応する力を身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
評価の方法	職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	・就職活動の現状理解、全体スケジュールと準備事項 ・大学3年生の過ごし方 ～この環境でできること
2 3 4 5	社会人基礎力の理解	・社会で求められるコンピテンシーを理解する ～社会人基礎力に基づくグループワーク
6 7 8	自己理解 ～入門編	・社会人基礎力から強みを考える ・自己PRの書き方理解 ・自己PRの作成
9 10	仕事理解 ～入門編	・産業構造理解 ・業界、職種理解
11 12 13 14	グループワーク及びプレゼンテーション	・テーマに基づきチームでプレゼンテーションを企画し発表する
15	活動計画策定・発表	・夏のインターンシップ、秋学期の活動計画策定

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇3年生で民間企業等への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義は連続性があるため、一度の欠席が大きなハンデとなることもある。

また社会人となるための準備講座のため、講義のルールおよびマナーを守って受講するようお願いしたい。

プロフェッショナル・セミナーⅦ 就職（留学生対象）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Professional Seminar VII	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

日本では外国人就労者の活躍が期待されるようになり、大学卒業後、日本で働きたい外国人留学生も増えています。企業が留学生に求めるのは、高い日本語力です。就活までに日本語力を高めておくことは重要です。また就職活動には、業界企業を研究した上で、留学生が自分自身について自己分析し、日本語でより効果的に自己アピールできるということも重要です。この授業は、このような日本の就職活動に必要な日本語能力を高めることを目的とした授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
就職活動に必要な文章力を身につける	日本での就職活動に必要な、業界企業研究、自己分析などに基づいて、日本語で適切に文章を書くことができるか、文章力を評価する。	40%
就職活動に必要な口頭表現力を身につける	日本での就職活動に必要な、面接対策や電話連絡など、日本語の口頭表現が適切にできるか、その能力を評価する。	40%
就職活動に必要な情報を得る	日本での就職活動に必要なことがらを理解し、行動計画をもとに就職活動を進める準備ができているかどうかを評価する。	20%
評価の方法	提出された課題の内容によって成績を評価する。 授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、単位を認めない。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、卒業後の進路調査、メールの書き方
2	日本の就職事情	留学生の就職の実態を知る 必要な日本語能力
3	自分を知る 1	自己分析について
4	自分を知る 2	自分史を作る
5	自分を知る 3	自己PRを書く エントリーシートについて
6	自分を知る 4	ガクチカを書く
7	自分を知る 5	面接練習をする 敬語を使う
8	自分を知る	面接練習をする ビジネスマナー
9	就職試験	SPI 対策
10	企業業界を知る 1	業界分析
11	企業業界を知る 2	企業分析
12	企業業界を知る 3	職種について
13	インターンシップ	アルバイトとインターンシップについて
14	就職活動計画	活動計画を立てる
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は特に指定しない。

◇参考図書：久保田学（2018）『留学生のための就職内定ワークブック』

日本能率協会マネジメントセンター

田村一也ほか（2020）『留学生のための就職筆記試験教科書』

日本能率協会マネジメントセンター

【履修条件等】

◇日本での就職、日本企業での就職を希望する外国人留学生のための授業です。それ以外の進路を予定している留学生は履修ができません。

◇秋学期には「就職特講（留学生対象）」を受講することが望ましいです。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各学習項目を学ぶに際し、情報収集をしたり、活動計画を立ててまとめたりする課題が課されます。事前学習をしなければ、授業内容を十分に理解できないので、必ず授業で指定される準備をしてください。

【その他の注意事項】

◇上記の授業計画は、受講人数や大学内行事日程などを勘案して、変更することがあります。

プロフェッショナル・セミナーⅧ	ウダガワ モトコ 宇田川 素子
Professional Seminar VIII	演習科目／半期／2単位

【授業概要】

テーマ：キャリアインタビュー

この授業では、社会人がどのような意識で仕事に取り組んでいるかを映像、記事、インタビューを通して理解し、その姿を参考にしながら自己理解を深め、今後のキャリアについて考えます。また、社会人へのキャリアインタビューを実践することで、マナーの理解、コミュニケーションに必要な傾聴力の向上を目指します。授業では毎回グループワークを行いますので、自分の意見をわかりやすく伝えながらメンバーを巻き込み、協働するプロセスも学べます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
他者と協力しながら、主体的に取り組む	グループで決めた役割を意識しながら、主体的に課題に取り組んでいるか。	30%
自己理解を深め、将来の見通しを持つ	自分に向き合い、自分を理解し、将来の見通しを考えているか。	30%
傾聴を心掛けキャリアインタビューを実践する	傾聴を心掛け、キャリアインタビューを実践しているか	40%
評価の方法 課題、ワークシート、試験、授業への参加姿勢を総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	概要（授業内容、評価方法）説明、アンケート
2	キャリアの理解①	映像・記事を通して社会人のキャリアを考え、理解する
3	キャリアの理解②	
4	キャリアの理解③	
5	インタビュー体験①	インタビューの体験を通して傾聴手法を理解する
6	インタビュー体験②	
7	キャリアインタビュー準備①	質問項目を検討し、計画を立てる
8	自己理解①	ワークを通して自分の価値観を知る
9	共有と振り返り①	各自が実践してきたキャリアインタビュー内容を共有し、振り返る
10	キャリアインタビュー準備②	対象者の勤務先・仕事内容など必要な情報を調べる、インタビューの練習をする
11	キャリアインタビュー実践	OBOGにキャリアインタビューを実践する
12	共有と振り返り②	前回のキャリアインタビュー内容を共有し、振り返る
13	自己理解②	ワークを通して仕事のやりがいについて考える
14	キャリアプランニング	目標を設定し、達成に向けた計画を考える
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず。
- ◇講義資料は授業で毎回配布。

【履修条件等】

- ◇自己理解を深め、今後のキャリアを考えたいと思っていること。
- ◇就職活動を控えた学生におすすめしたい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業の際、予習範囲を指示。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

<p>プロフェッショナル・セミナーⅧ 株式会社レイ寄付講座 イベント映像</p>	<p>オオヤマ トシエイ 大山 利栄</p>
<p>Professional Seminar VIII</p>	<p>演習科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

イベントにおいて、イメージや演出効果を高めるために映像の活用が大変有効な手段であると言っても過言では無い。近年では、プロジェクションマッピングやデジタルアートイベントなど、映像を主に置いたイベントも増えつつある。印象的な映像はイベント来場客の興味や関心を集め、新規来場客の獲得につながるだけでなく、イベントそのものの価値を高める効果もある。

本講義では、イベント映像分野の最大手、株式会社レイの協力の下、イベントにおける映像の重要性を理解するとともに、ワークショップを通じて実際に映像コンテンツや映像づくりなども行っていく。そのため、積極的なグループワークへの参加態度が求められる

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントにおける映像の役割や可能性を深める	レスポンスシートや期末レポートなどにおいて理解度を評価する。	30%
映像機材や映像によるプロモーション効果を理解する。	レスポンスシートや期末レポートなどにおいて理解度を評価する。	30%
映像の企画や制作のノウハウを把握する。	グループワークへの参加態度や、プレゼンテーション、成果物の内容によって評価する	40%
<p>評価の方法 授業毎で実施するレスポンスシート20%、課題プレゼンテーション30%、期末レポート20%。その他、講義やグループワークへの積極的な参加態度30%</p> <p>※グループでのワークが中心となるため、遅刻・欠席については厳しく評価する。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション&イントロダクション	イベントにおける映像の役割と現状・会社紹介
2	イベント映像の内訳	映像機材・上映素材・オペレーションの内容 イベントにおける映像領域の内訳
3	イベント機材の詳細① コンサート・展示会・発表会等	大型イベントや展示会、発表会等での映像機材の詳細 LED・プロジェクター・その他大型モニター等
4	イベント機材の詳細② プロモーション現場等での映像機材	街頭プロモーションやデジタルサイネージ記事の詳細 インタラクティブ映像、デジタルサイネージモニター等
5	ワークショップ①	開催イベントを選び、映像機材の面白い使い方を考えるコンサート、発表会、展示会、屋外・街頭プロモーション等
6	上映素材の種類	それぞれのシーンでの映像コンテンツの種類 コンサート・屋外プロジェクションマッピングから街頭イベントまで
7	上映素材の作り方①	映像の作り方詳細 構成・絵コンテ・撮影・CG制作・レンダリング・編集・MA等/PPT等
8	上映素材の作り方②	ムービーの作り方詳細（特別編） CM制作について
9	ワークショップ②	自分の設定したイベントで映像コンテンツを考える 自由に絵コンテを書いてみよう！
10	デジタルサイネージとは	デジタルサイネージの現状 アート作品から商品プロモーションまで
11	デジタルサイネージの詳細①	インタラクティブ映像とは インタラクティブ映像の様々な仕組み①
12	デジタルサイネージの詳細②	インタラクティブ映像とは インタラクティブ映像の様々な仕組み①
13	ワークショップ③	自由にインタラクティブ映像を考えてみる 自由な発想でアートからプロモーションまで面白い仕掛けの立案
14	ワークショップ作品の発表	3回のワークショップ作品からユニークなものを発表してもらう自由な意見交換と講評
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括及び学習達成度の確認

【使用教材】

◇適宜配付する。

【履修条件等】

◇授業内でおこなわれるグループワーク等に積極的に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに予習すべき教材はないが、イベントにおける映像について注意を払い、それらの現状や将来に対して想像力を働かせること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

中小企業論 I	サカモト タカシ 坂本 高士
Theory of Small Business I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

普段の生活の中で何気なく利用している飲食店、美容院などの多くが中小企業である。本講座では、我が国経済において多様な役割を果たす中小企業について、産業や社会における位置づけや役割を様々な切り口から学ぶとともに、その特性等を理解した上で、そこから立案・実行されている中小企業政策の考え方や効果等について理解を深めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
わが国における中小企業の社会・経済的な役割や課題を理解していること	設問に対する解答によって評価する。評価基準は以下のとおり（以下同じ）。 ・ 中小企業が産業や地域社会において果たす役割や位置づけについての基礎的知識・意見 ・ 中小企業の人材育成や資金調達に関する知識・意見	40%
中小企業の特性や課題を理解していること	・ 中小企業の存立条件等についての知識・意見 ・ 中小企業の存立を可能とする形態等についての知識・意見	40%
中小企業政策の考え方や政策の特徴 ・ 課題を理解していること	・ 日本の中小企業政策の理念、政策体系の概要についての知識・意見 ・ 政策の立案、推進過程および政策効果の達成状況についての知識・意見	20%
評価の方法 試験（定期試験）100%（規定された出席率を満たすことが前提）。 ただし、COVID-19の感染防止策として講義の実施に影響があった場合、試験を実施せず、毎回のレポート提出及び最終回の講義で全体のレポートにより評価を行うこともありうる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	・ 本講座の目的・ねらい、授業の進め方、成績評価についての説明 ・ 日本における中小企業の歴史的変遷(1)
2	中小企業の歴史的変遷と	・ 日本における中小企業の歴史的変遷(2)
3	中小企業政策	・ 中小企業政策の意義・役割と体系
4	中小企業の存立条件と役割	・ 産業構造・組織に見る中小企業の存立条件
5		・ 存立条件のまとめ
6	中小企業の存立形態	・ 存立形態の定義と区分・種類
7		・ 下請制の定義・動向
		・ 中小企業の様々な形態の動向と課題
8	中小企業の人材育成	・ 経営資源としてのヒトの重要性 ・ 最近の動向
9	中小企業の資金調達	・ 政策金融の累型と対応機関 ・ 最近の動向
10	地域産業集積	・ 産業集積の動向と課題
11	地域商業集積	・ 商業集積の動向と課題
12	中小企業のグローバル化	・ 中小企業のグローバル化の動向と課題
13	中小企業白書	・ これまでの中小企業政策と今後の中小企業政策
14	総括	授業の振り返り
15	達成度の確認	・ 学習達成度の確認テストを実施 ※ COVID-19の感染防止策として講義の実施に影響があった場合、試験を実施せず、全体の講義を通じたレポート提出に変えることもありうる。

【使用教材】

- ◇参考書：青山和正著『精解中小企業論』同友館
中小企業白書、その他

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇毎回の授業において、事前に指示した資料等の内容を調べておくことが望ましい。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

中小企業論 I	ヤマオカ ジュンイチロウ 山岡 淳一郎
Theory of Small Business I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義は、私がノンフィクション作家として取材、執筆、動画インタビュー等の対象とした企業と経営者、社員の方々とのやりとりや、調査資料をもとに社会の変化、ニーズの移り変わり、今後の方向性などを解説。メディアから眺めた中小企業論、リーダー論を展開し、現象の奥の構造を把握する力を養います。社会問題にも光を当て、日本語の文章の書き方や、コミュニケーションの力も磨きます。全国382万社のうち99.7%が中小企業(2016年)。身近な会社の活動や、経営者の「生き方」を手がかりに思考を深めましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会の変化を、論理的に把握して理解できる	講義中に解説する中小企業の問題や人物のエピソードなどを通して、社会の変化を論理的に整理し、理解できているか。講義中の質疑や討論、期末試験で客観的に評価。	20%
日本語で読み、書き、話すための基礎的な力を身につける	講義に使うテキスト、レジュメなどにそって、読み、書き、話すことに積極的にチャレンジし、自らの能力を高めようとしているか。ワークシート、試験等で客観的に評価。	35%
情報の読解力を高め、ものごとを複眼的にとらえられる力をつける	社会に氾濫する情報をうのみにせず、自分の頭で正確に理解しようと努め、さまざまな視点からの分析ができているか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	25%
経営に欠かせない先見性やリーダーシップが理解できているか	講義で触れる経営者たちの判断、選択について、その根底にある先見性やリーダーシップの基本概念が理解できるか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	20%
評価の方法	評価配分は授業参加の姿勢、態度を55%、期末試験を45%として評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入講義	講義の狙い、テーマなどの概要説明
2	震災を乗り越えて団結	気仙沼で被災した造船4社が一つに。「みらい造船」の躍進
3	働きがい自慢の会社	ヤッホーブルーイング(ビール醸造会社)のブランドづくり
4	クラウド・ファンディング(CF)の可能性	コロナ禍で打撃を受けた事業者をCFで支えるレディフォーのビジネスモデル
5	チームワークと育成	製造派遣業のUTグループ、起業から5千億企業への成長秘話
6	個の尊重と大家族主義	就活30連敗から焼肉やラーメンの外食企業・物語コーポレーションを起業、急成長させた創業者の突破力
7	航空機産業とドローン	町工場を率いる多摩川精機。ドローンがひらく未来とは?
8	かまぼこ会社のエネルギー革命	「老舗にあって、老舗にあらず」をモットーに社屋のゼロエネルギー化、地域の再エネ促進に取り組む、鈴廣かまぼこ
9	中小企業の落とし穴	金融機関の不正融資を読み解く
10	百年企業の底力	木下サーカスが浮沈の激しいエンタメ界で生き残った秘訣
11	元受刑者の就労支援	北海道の北洋建設。再チャレンジを応援する社長の信念
12	経営者との対話	中小企業経営者を招き、討論(変更の可能性あり)
13	宅急便が生まれた背景	ヤマト運輸で宅急便を考案し、物流革命を行なった小倉昌男
14	沖縄の観光業	コロナ禍をどう乗り越えるか。かりゆしグループ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメ、課題ワークシート、テキストなど準備し、教材とします。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中に次回の内容を予告し、予習を兼ねた課題レポート提出。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語、無断で教室の外に出たり、Zoom講義から退出したりすることは謹んでください。Zoom講義の場合、授業の最後にコースパワーから出席登録。

中小企業論 I	ヤマカワ サトル 山川 悟
Theory of Small Business I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本中小企業における大きな課題のひとつである「ブランド」の問題を考察します。ブランドとはネーミング・ロゴマーク等の表示体系に限らず、企業理念やビジョン、社内コミュニケーションとも深く関わるため、経営者自らが主導して構築すべきものです。

前半はブランド戦略のフレームワークと諸要素（ブランドマネジメント）について、後半は具体的な事例からブランド構築（ブランディング）の方法論について検討していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中小企業におけるブランドの役割や機能について理解する	毎回の課題および本試験（レポート）にて評価。 「講義で採り上げた理論やケースを理解したうえで、自分なりの言葉で記述できるか」を評価ポイントとする。	30%
ブランド管理の考え方や手法について理解する	毎回の課題および本試験（レポート）にて評価。 「講義で採り上げたブランド管理の方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	30%
ブランディング戦略の考え方や手法について理解する	毎回の課題および本試験（レポート）にて評価。 「講義で採り上げたブランディングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%
<p>評価の方法 約70%以上の出席を前提に評価。 毎回の課題のウエイト70%、本試験（レポート）のウエイト30%。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ブランドの定義と機能	ブランド管理の基本的な考え方とその手法
2	ブランド戦略の考え方	ブランド戦略13の手法について解説
3	ブランディングについて	ブランド力を強化する8つの方法論
4	ネーミングと商標	ネーミングによる差別化戦略の実例研究
5	ロゴタイプとシンボルマーク	シンボルマークによる差別化戦略の実例研究
6	ブランドステートメント	スローガンによる差別化戦略の実例研究
7	ブランドとデザイン	CI、商品やパッケージデザインとブランド
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	インターナルブランディング	社内活性化に向けたブランディング活動
10	地域ブランディングと中小企業	地域のブランディングと地域企業の役割
11	物語ブランディング	物語を活用したブランディングの方法論
12	技術ブランディング	技術ブランドの事例、技術の聖地化など
13	五感ブランディング	聴覚、嗅覚、味覚、触覚で伝えるブランド戦略
14	文化創造とブランディング	コンテンツやスポーツとブランドとの関わり
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

◇教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

【履修条件等】

◇「マーケティング」の受講、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていること。

◇新製品や広告、メディア、店舗、デザイン、アイデア開発などに興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

◇PC（最低でもタブレット）で、ある程度オフィス系ソフトの操作ができること。

【その他の注意事項】

◇講義資料の内容だけでなく、自分なりに事例を調べるなど、能動的な受講態度が望まれる。

中小企業論Ⅱ	アオヤマ カズマサ 青山 和正
Theory of Small Business II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

中小企業は大企業に比べヒト・モノ・カネの経営資源が乏しく、大企業（強者）とは異なる戦略や知恵と工夫により、新たな市場開拓を見出し、経済社会に貢献している。本講座では、大企業経営とは異なる中小企業の経営的な側面を経営戦略から財務までの基礎から応用まで学ぶ。講義を聴くだけでなく、事前に配布した演習を、自分ならどう解決していくかを考えることで中小企業経営をより深く解明する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業経営に関する基礎的な知識と考え方を理解していること	小テストを行い、企業経営に関する基礎的な用語や知識を習得しているかを評価する。	15%
中小企業経営に関するテーマごとの基礎的な知識と課題を理解していること	中小企業経営に関する基礎的な知識を習得しているかを評価する。中小企業経営の戦略ツールや思考体系の理解がされているかを小演習により評価する。	15%
中小企業経営に関する分野ごとの問題を深く理解し、自分で課題を理解していること	中小企業経営に関して、テーマごとにその内容と課題を把握しているかどうかを演習により評価を行う。論旨の体系化、内容、課題などが理解しているかを回答しているかを評価する。	30%
中小企業問題の全体像と各分野の関連を理解し、中小企業問題の基礎から応用まで理解していること	中小企業経営に関して、基礎から応用までの内容と課題を把握しているかどうかを論述試験により評価を行う。中小企業経営をテーマごとに、どの程度深く理解できたかを評価する。	40%
<p>評価の方法 70%以上の出席を前提として試験70%、演習20%、出席10% 試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 中小企業経営とは	本講座の目的と授業の進め方、評価基準等を説明。 中小企業経営の特性と独自性
2	中小企業経営者の条件	中小企業は経営者の条件とは何か
3	中小企業の経営戦略(Ⅰ)	中小企業の経営戦略の基本
4	中小企業の経営戦略(Ⅱ)	中小企業の差別化戦略の進め方
5	中小企業の経営戦略(Ⅲ)	中小企業のNO 1 戦略とは何か
6	中小企業のマーケティング(Ⅰ)	中小企業のマーケティングの進め方
7	中小企業のマーケティング(Ⅱ)	中小企業のブランドづくり
8	中小企業の組織づくり(Ⅰ)	組織づくりの基本と中小企業の組織形態
9	中小企業の組織・人材(Ⅱ)	中小企業に最適な組織づくり
10	中小企業の財務(Ⅰ)	中小企業の財務データの基本
11	中小企業の財務(Ⅱ)	中小企業の財務データの活用
12	ファミリービジネス(Ⅰ)	ファミリービジネスの特性と本質的ジレンマ
13	ファミリービジネス(Ⅱ)	ファミリービジネスの事業承継
14	中小企業経営のまとめ	中小企業経営のポイント
15	総括・達成度の確認	授業の総括・学習達成度の確認

【使用教材】

- ◇教科書：とくになし。
- ◇参考書：授業の中で参考図書を指示します。

【履修条件等】

- ◇モノづくり、小売業、サービス業などの経営に関心をもつこと。
- ◇毎回、小演習を実施、当日の復習をします。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前にレジメと演習を配布しますので、予め読んで授業に臨むこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

中小企業論Ⅱ	ヤマオカ ジュンイチロウ 山岡 淳一郎
Theory of Small Business II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義は、私がノンフィクション作家として取材、執筆、動画インタビュー等の対象とした企業と経営者、社員の方々とやりとりや、調査資料をもとに社会の変化、ニーズの移り変わり、今後の方向性などを解説。メディアから眺めた中小企業論、リーダー論を展開し、現象の奥の構造を把握する力を養います。社会問題にも光を当て、日本語の文章の書き方や、コミュニケーションの力も磨きます。全国382万社のうち99.7%が中小企業(2016年)。身近な会社の活動や、経営者の「生き方」を手がかりに思考を深めましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会の変化を、論理的に把握して理解できる	講義中に解説する中小企業の問題や人物のエピソードなどを通して、社会の変化を論理的に整理し、理解できているか。講義中の質疑や討論、期末試験で客観的に評価。	20%
日本語で読み、書き、話すための基礎的な力を身につける	講義に使うテキスト、レジュメなどにそって、読み、書き、話すことに積極的にチャレンジし、自らの能力を高めようとしているか。ワークシート、試験等で客観的に評価。	35%
情報の読解力を高め、ものごとを複眼的にとらえられる力をつける	社会に氾濫する情報をうのみにせず、自分の頭で正確に理解しようと努め、さまざまな視点からの分析ができているか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	25%
経営に欠かせない先見性やリーダーシップが理解できているか	講義で触れる経営者たちの判断、選択について、その根底にある先見性やリーダーシップの基本概念が理解できるか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	20%
評価の方法	評価配分は授業参加の姿勢、態度を55%、期末試験を45%として評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入講義	講義の狙い、テーマなどの概要説明
2	稲盛和夫の経営観	アジアで圧倒的な支持を集める経営者、稲盛氏の経営原則
3	「2025年問題」と医療・介護業界	超高齢化が進む日本。期待される医療・介護業界だが、一般企業とは成り立ちが違う。国民皆保険と事業のしくみを解説
4	清山会グループの成長	地域密着で医療と介護の垣根をとりはらった事業展開
5	健康機器の「タニタ」	「はかる」を通して世界の人びとの健康をつくる事例
6	塾から学校を創設	人を排除しない、人を認める、仲間をつくる—星槎グループ
7	「生命だけは平等だ」	ゼロから巨大病院グループを築いた徳田虎雄の生き方
8	災害に負けない農業	仙台市の農業法人「舞台ファーム」の農業改革
9	良い建物を長く使う	「再生建築」のリーダー、青木茂建築工房の挑戦
10	経営者との対話	中小企業経営者を招き、討論(変更の可能性あり)
11	ニーズ高まる医療通訳	ランゲージワン(株)の多言語コールセンターを立ち上げた日系ペルー人ビジネスマンの人生
12	NPOの若き起業家	アフリカの元テロリストの社会復帰を支える日本人青年
13	中小企業経営者から総理へ	戦後の歴代首相で、もっとも人気の高い田中角栄。その波乱に富んだ人生からリーダー像を探る
14	出版企画コンペ	各自がつくりたい本の企画案を持ち寄り、優秀案を決定
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：授業ごとにレジュメ、課題ワークシート、テキストなど準備します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中に次回の内容を予告。予習を兼ねた課題レポート提出。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語、無断で教室の外に出たり、Zoom講義から退出したりすることは謹んでください。Zoom講義の場合、授業の最後にコースパワーから出席登録。

中小企業論Ⅱ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Theory of Small Business II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義ではまず、現代の日本の中小企業の経営課題について理解を進めます。さらに、バルミューダ、マザーハウス、ベンチャーウイスキー、ヤッホーブルーイング、スノーピークなど、最近活躍が著しい企業の事例を通じて、これからの中小企業に必要と考えられる9つの経営戦略について学んでいきます。また、東京中小企業家同友会より3人の経営者を招聘し、講演会及び受講生との対話を通じて、リアルな経営の現場を知ってもらう機会を設けます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
現代の日本の中小企業の経営課題について理解する	授業時の課題および企業研究レポートにて評価。 「講義で採り上げた理論やケースを理解したうえで、自分なりの言葉で記述できるか」を評価ポイントとする。	15%
中小企業ならではの経営戦略について理解する	授業時の課題、企業研究レポート、本試験にて評価。 「講義で採り上げた中小企業の経営戦略の事例に基づいて、自分なりにケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	70%
顧客や社会に支持される中小企業のあり方について追究する	授業時の課題、本試験にて評価。 「講義で採り上げた中小企業の方法論・事例に基づいて、ポイントを捉えたうえで分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	15%
評価の方法 約70%以上の出席を前提に評価。 毎回の課題のウエイト70%、本試験（レポート）のウエイト30%。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中小企業概論	中小企業の現状と課題
2	戦略1 企業と顧客とが同じ目標を持つ	CSV経営の事例
3	戦略2 ローリスク経営システム	ファブレス経営の事例
4	戦略3 オンリーワン、ニッチトップ	価値競争の事例
5	企業研究レポート①	2～4で採り上げた企業を調査・分析
6	戦略4 弱みを強みとみなす	リフレーミングの事例
7	戦略5 業界の常識を覆す	アサンプションスマッシングの事例
8	戦略6 ユニークな社内制度を持つ	インターナルマーケティングの事例
9	企業研究レポート②	6～8で採り上げた企業を調査・分析
10	戦略7 地域社会と命運を共にする	ソーシャルビジネスの事例
11	戦略8 顧客と共に遊ぶ・創る	ブランドコミュニティの事例
12	戦略9 人を活かし、育てる	フォレット管理の事例
13	企業研究レポート④	10～13で採り上げた企業を調査・分析
14	応援される中小企業の条件	顧客コンピテンシーの事例
15	総括と達成度の確認	総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

- ◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。
- ◇参考文献として、山川悟著（2018）『応援される会社』など。

【履修条件等】

- ◇「マーケティング」の受講、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていること。
- ◇新製品や広告、メディア、店舗、デザイン、アイデア開発などに興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。
- ◇PC（最低でもタブレット）で、ある程度オフィス系ソフトの操作ができること。

【その他の注意事項】

- ◇講義資料の内容だけでなく、自分なりに事例を調べるなど、能動的な受講態度が求められる。

ベンチャービジネス論	アオヤマ カズマサ 青山 和正
Venture Business	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

ベンチャー企業概念、歴史の変遷を理解した上で、起業家の特性と行動、アイデア発想や事業機会の認識、ビジネスモデルのパターンと工夫、マーケティング、組織づくり、ベンチャーファイナンス、新興株式市場への上場、ベンチャー失敗などを学ぶ。

講義に加えて、ベンチャー企業に関わる事例研究や演習を行う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ベンチャー企業、起業家の基礎的な知識や進め方の考えを理解していること	ベンチャー企業の社会経済における重要性、特性、起業家の条件・行動などの基礎的な知識を理解しているかを評価する。	10%
ベンチャー企業のビジネスモデル形成のための基本的な要件やフレームワークを理解していること	ベンチャー企業の事業展開をする上でのビジネスモデルの形成とその要件やフレームワークが理解されているかどうかを演習による評価する。	10%
ベンチャー企業の成長段階での経営のあり方を理解していること	ベンチャー企業の成長段階（アーリー、ミドル、レーター）での、経営戦略、マーケティング、組織、ファイナンスの専門的知識を習得しているかを評価する。	20%
ベンチャー企業の基礎から応用までの成長ステップと各成長段階のベンチャー経営の専門知識を理解していること	起業家精神の涵養とベンチャービジネスの仕組みを十分に習得しているかを試験により評価する。	70%
<p>評価の方法 70%以上の出席を前提として試験70%、演習20%、出席10% 試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方
2	起業家の特性と行動	起業家の資質、条件、起業行動
3	ビジネスモデルの基本(1)	アイデア発想からビジネスモデルの構築
4	ビジネスモデルの基本(2)	優れたビジネスモデルのパターン
5	ビジネスモデルの基本(3)	ブルーオーシャン戦略とベンチャー企業
6	マーケティング①	ベンチャー企業のマーケティング活動
7	マーケティング②	サービスマーケティング活動
8	組織マネジメント①	ベンチャー企業の組織行動とマネジメント
9	組織マネジメント②	ベンチャー企業の人事労務
10	ファイナンス(1)	ベンチャー企業の多様な資金調達
11	ファイナンス(2)	ベンチャーキャピタルの仕組みと投資決定
12	ファイナンス(3)	企業価値と株価の決め方
13	ファイナンス(4)	株式公開と資本構成
14	新興市場への株式公開	株式公開までのステップ、新興市場の特徴
15	まとめ、試験	ベンチャービジネス論の総括

【使用教材】

- ◇教科書：事前にレジメを配布する。
- ◇参考書：忽那憲治・長谷川博和他著「アントレプレナーシップ入門」有斐閣

【履修条件等】

- ◇「新事業創造論」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に演習問題を配布するので学習しておくこと。
- ◇毎回、当日の講義の復習として小演習を行います。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

ベンチャービジネス論	カタヤマ ゲンジロウ 片山 源治郎 児玉陽平・松本薫
Venture Business	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

テーマ：「事業を授業に！」アイスクリーム事業からベンチャービジネスについて学ぶ

この講義では、本学五号館に設置されたアイスクリームラボ（株式会社ジャスビコ）を中心とするアイスクリーム事業の創業からその事業発展の進行に合わせて、起業するとはどのような意味を有するのか、ベンチャービジネスとは何か、そして事業展開を目指す上で経営学はどのように活用されているのかを実践的に学びます。したがって、この授業では、講義と演習が組み合わされる形の授業です。この講義を受講することによって、ベンチャービジネスに自分が参加する形で実践的に経営学のあらゆる要素について学ぶことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学に関する基礎知識を応用できる	経営学で学んだそして学んでいる知識を実践の中でどのように応用できているか否かを講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の20%
ベンチャービジネスの特徴を理解する	ベンチャービジネスとは何か、そしてそのビジネス上の特権、課題そして困難な問題について、経営戦略、マーケティング、ファイナンスなどが有機的に提携していることを理解しているか否かを講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の30%
創業のための創造性を身につける	ベンチャービジネスはゼロからの創業を含みます、最初のアイデアをどう実践し、事業創造につなげるための方法論を理解しているか否かについて、講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の20%
協調性を身につける	この講義は演習型の講義であり、他の受業生とのグループ学習を行います。他の受業生および講師と一体となってプロジェクトに取り組むという協働性を身につけているかどうかを、講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の30%
評価の方法	毎回の講義での受講態度、プレゼンテーション・レポート評価および期末試験の成績によって評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベンチャービジネス論 概要	授業計画の解説とベンチャービジネスにおけるの重要事項についての講義
2	アイスクリームのマーケティング	食育、アイスの市場調査についての解説講義
3	販売研修準備①	ダシースアイスの特徴と販売手法のディスカッション
4	販売研修準備②	販売スタッフ研修 ロールプレイング
5	販売研修	販売体験
6	販売研修のフィードバックと製造準備	収支報告と改善点の考察及び発表
7	製造準備「衛生管理、原材料、製造工程」	飲食店営業許可、食品衛生責任者の資格取得、ダシースアイスの原材料、製造工程について
8	製造実習①「原材料準備」	ダシースでの原材料準備と衛生管理についての解説講義
9	製造実習②「アイスクリームの製造」	アイス製造と提供、片付けまでの店舗実習
10	新フレーバー、店舗内外装の考案	新フレーバーと提供方法、店舗外装のディスカッション
11	営業実習準備①	ビジネスマナー基礎、営業の心得についての解説講義
12	営業実習準備②	ビジネスマナー、営業 ロールプレイング
13	営業実習準備③	営業先調査と提案資料の作成
14	営業実習	営業実習と営業日報の作成
15	最終講義	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教材はとくに使用しません、講義中に参考文献の指示、資料配布を行います。

【履修条件等】

◇原則として春学期の「新事業創造論（片山源治郎）」の履修が条件です。

◇この授業は単なる講義ではありません、遅刻、欠席はもとより授業途中で居眠りや講義と関係ない作業を行った学生は即時受講停止になります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中に課題が提出されますので、期日までに課題を実施してください。

◇課外学習を行う場合があります、詳細は講義で説明します。

【その他の注意事項】

◇この講義を履修すれば、ビジネスそのものに触れることができます。皆さんにとって大きなチャンスです。しかし単位取得だけを目的に履修する学生はこの講義は適していません。

新事業創造論	アオヤマ カズマサ 青山 和正
New Business Creation Theory	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

経済のグローバル化やIT化・AIの進展、少子高齢化社会の到来により、社会の価値観や生活スタイルも大きく変容してきている。そのため、既成の価値観や領域を超えた新たな発想での新ビジネスや新市場創出が強く求められている。本講義では、新事業のアイデア発想から事業化までの基本的なステップを理解し、各自のアイデアをもとにビジネスプラン作成を行い、起業疑似体験と新事業の構想からマネジメントなどを学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
新事業創出の重要性和基礎的な知識や進め方の考えを理解していること	新事業創出の必要性を認識し、新事業を生み出すための基礎的な知識や最近の市場のトレンドなどを理解しているかを評価する。	10%
新事業発想と事業化のための基本的な条件や事業化の進め方を理解していること	新事業創出の源泉となるアイデア発想の基礎的な知識や考え方、事業化のための経営資源の調達、マーケティングなどの基礎的な知識を習得しているかを、演習を通じて評価する。	10%
新事業創出の集大成としてビジネスプラン作成の基本から応用まで理解していること	各自のアイデアを事業化するために、経営資源の調達、市場開拓、組織体制などをベースに、ビジネスプランを作成し、それを評価する。	40%
新事業創出の基本からプラン作成までの各段階の専門知識と進め方を理解していること	新事業の創出のためのアイデアと、それを事業化するための条件、ビジネスプラン作成などを十分に習得しているかを試験により評価する。	40%
評価の方法	70%以上の出席を前提として試験75%、演習15%、出席10% 試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方
2	アイデアの発想	多角的な視点で事業アイデア発想
3	アイデアを磨く	身近なものからアイデアを構想
4	基本コンセプトづくり	演習によるアイデア発想とコンセプトづくり
5	外部環境の分析	新事業の市場環境・分析など、マーケティング視点の基本を理解
6	新事業の事業展開(1)	マーケティング戦略にもとづいた新事業の進め方
7	新事業の事業展開(2)	ビジネスモデル構築の進め方
8	新事業のビジネスプラン	ビジネスプランづくりの基礎
9	新事業の売上計画立案	新事業の売上予測、売上計画づくり
10	新事業の資金計画	新事業の資金計画の作成
11	新会社の設立	新事業の会社設立の進め方と留意点
12	ビジネスプラン作成・演習(Ⅰ)	各自でアイデア発想し、それをビジネスプランに落とし込み、プラン作成
13	ビジネスプラン作成・演習(Ⅱ)	ビジネスプラン作成の指導
14	ビジネスプラン作成・演習(Ⅲ)	ビジネスプランの作成と発表
15	試験・解説	

【使用教材】

- ◇教科書：随時、講義時間中に資料等を配布する。
- ◇参考書：渡邊卓（著）『事業計画書の作り方』（株あさ出版、その他
エリックリース著、井口耕二訳「リーンスタートアップ」日経BP

【履修条件等】

- ◇アイデア発想を豊かにしておくこと。
- ◇将来、自分でお店や会社を立ち上げたい人は、自分のプラン作成。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に演習を配布するので、その演習を自分なりに回答し、授業に臨むこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

新事業創造論	カタヤマ ゲンジロウ 片山 源治郎 児玉陽平・松本薫
New Business Creation Theory	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

テーマ：「事業を授業に！」アイスクリーム事業を創造する

この講義では、本学五号館に設置されたアイスクリームラボ（株式会社ジャスビコ）を中心とするアイスクリーム事業の創造からその事業展開の進行に合わせて、新事業の創造を実際に体験しながら、経営の現場で発生するさまざまな問題を皆さんと一緒に解決していきます。したがって、この事業では、講義と演習が組み合わさる形の授業です。この講義を受講することによって、新事業に自分が参加する形で実践的に経営学のあらゆる要素について学ぶことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1. 経営学に関する基礎知識を応用できる	経営学で学んだそして学んでいる知識を実践の中でどのように応用できているか否かを講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の20%
2. 事業創造の特徴を理解する	事業創造とは何か、そしてその特徴、課題そして困難な問題について、経営戦略、マーケティング、ファイナンスなどが有機的に連携していることを理解しているか否かを講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の30%
3. 創造性と継続性という事業創造の重要ポイントを身につける	事業は、立ち上げるだけでは意味がありません。事業継続の中で、日々事業の創造が求められます。事業創造や改善のアイデアをどう実践し、事業を継続するのか、その方法論を理解しているか否かについて、講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の20%
4. 協働性を身につける	この講義は演習型の講義であり、他の受業生とのグループ学習を行います。他の受業生および講師と一体となってプロジェクトに取り組むという協働性を身につけているかどうかを、講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の30%
評価の方法	毎回の講義の出席状況、受講態度、プレゼンテーション・レポート評価および期末試験の成績によって評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前期授業の概要と目的	新事業創造における重要事項の解説講義
2	ダシースについて	ダシースの目的とコンセプトの解説講義
3	ダシースオープンまでの道のり	新事業立ち上げの経緯を解説講義
4	ダシースのコンセプトとマーケティング	ダシースのコンセプト理解「健康」「食品・アイス市場について」
5	ダシースのコンセプトとマーケティング	ダシースのコンセプト理解「アスリートのセカンドキャリア」「今後の展開」
6	起業と企業のカタチ	新会社設立の流れ、様々な事業の実例の解説講義
7	企業の危機管理経営	具体的なリスク・危機とは？危機管理経営の解説講義
8	ITビジネスの可能性と未来	新事業における最新のビジネスモデルの活用についての解説講義
9	マーケティングとプロモーション	ネーミングとロゴ、映像と音楽のチカラによるマーケティング講義
10	映像プロモーション	映像の持つ力と映像プロモーションの活用についての解説講義
11	新規事業の立ち上げと継続	資金計画、損益計算の基礎知識講義
12	事業計画書の作成①	事業計画書の基礎知識と項目の解説講義
13	事業計画書の作成②	新店舗オープンの事業計画書作成演習
14	事業計画書の作成③	新店舗オープンの損益計算書作成演習
15	前期まとめ	前期授業についての総括、学習達成度の確認

【使用教材】

◇教材はとくに使用しません、講義中に参考文献の指示、資料配布を行います。

【履修条件等】

◇原則として秋学期の「ベンチャービジネス論（片山源治郎）」の履修が条件です。

◇この授業は単なる講義ではありません、遅刻、欠席はもとより授業途中で居眠りや講義と関係ない作業を行った学生は即時履修停止になります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中に課題が提示されますので、期日までに課題を実施してください。

◇課外学習を行います、詳細は講義で説明します。

【その他の注意事項】

◇この講義を履修すれば、ビジネスそのものに触れることができます。

皆さんにとっては大きなチャンスです。

しかし、単位取得だけを目的に履修する学生はこの講義は適していません。

新事業創造論	ノザワ ヒロムネ 野澤 弘宗
New Business Creation Theory	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネスは、創造であり、そして事業家は常に挑戦を続けなければなりません。「新事業創造論」は、起業家精神（アントレプレナーシップ）を発揮する上で不可欠となる新事業の創造をいかにして行うか、その具体的な方法論について学びます。

新事業は単なる思いつきだけでは創造できません。かといって、型にはまった方法に基づいて自動的に作り出されるものでもありません、この新事業創造を効果的にすすめていくための着眼点、基礎知識、そして具体的な方法論について学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1 経営学に関する基礎知識を応用できる	経営学の基礎知識を実践のなかでどのように応用できているか否かについて講義、授業での発言および期末試験によって評価します。	評価の25%
2 事業創造の特徴を理解する	事業創造における経営戦略、マーケティング、ファイナンスの有機的連携を理解しているか否かについて、講義、授業での発言および期末試験によって評価します。	評価の25%
3 事業創造の基礎的な方法論を習得する	事業創造において、さまざまな関連する発想や、市場動向を踏まえ、深い洞察に基づく事業創造力の基礎が習得できているか否かについて、講義、授業での発言および期末試験によって評価します。	評価の25%
4 新事業の事業継続性の方法論を理解する	新事業を創造するにとどまらず、持続的成長を目指す上で必要となる知識や方法論の基礎を理解しているか否かについて、講義、授業での発言および期末試験によって評価します。	評価の25%
評価の方法	毎回の講義での受講態度、プレゼンテーション・レポート評価および期末試験の成績によって評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入講義	開講に際して注意点および導入講義を実施
2	IoT と事業創造	IoT と事業創造について解説
3	IoT とセキュリティ	IoT を活用した実際の事業創造事例の分析
4	IoT、データと事業	IoT 関連事業創造におけるデータの重要性について解説
5	先端技術と事業創造	先端技術と事業創造について解説
6	産学連携	大学の知恵、知見から生み出す事業創造について解説
7	海外企業との連携	海外企業の技術、知見を生かした事業創造について解説
8	災害と事業創造	日本における地震・災害の復興に貢献する事業創造について解説
9	地震と事業創造	免震を軸とした事業創造について解説
10	津波と事業創造	シミュレーション技術を中心とした事業創造について解説
11	人命と事業創造	災害からの避難を改善する事業創造について解説
12	地方と事業創造	自治体と企業との協働による事業創造について解説
13	電波と事業創造	経済を支える電波の利活用と事業創造について解説
14	センサーと事業創造	21世紀の必須技術であるセンサーと事業創造について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇演習で取り扱う情報技術、事例は最新のものが多く、テキストの内容がすぐに陳腐化するため教科書を指定しない。その代わりに、関係資料、講義資料などを配付する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇演習において指示された資料やウェブサイトを必ず事前に調べ、その内容について簡単にまとめておくこと。なお、予習課題を提示する場合もあるので、授業中の指示に従うこと。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語、無断退席、私用でのスマートフォンなどの携帯端末の使用、内職は厳禁、これを守れない社会常識のない学生は履修停止とする。

経営史（春学期）	シミズ タイヨウ 清水 太陽
Business History	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、現代の経済活動の中枢を担う主体のうち、企業に焦点をあてて学んでいきます。企業の変貌と発展の歴史を見ていき、現代企業の抱える問題とその行く末を展望します。また、それぞれの「時代」についてもあわせて考えることで、経営史を多面的に理解できる授業にしたいと考えています。映像資料や動画などを活用することにより、経営史を学ぶことの楽しさと意義を理解できるような授業を行います。受講者の積極的な参加を期待します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の基礎知識を正確に理解し、説明することができる。	30%
内容の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の内容を正確に理解し、説明することができる。	30%
時代の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 時代の流れをとらえ、それぞれの時代と経営史の結びつきを理解し、説明することができる。	10%
知識の応用	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の知見を生かし、現代の企業が抱える諸問題に関して、自分の意見を論理的に説明することができる。	30%
評価の方法 期末試験70%、レポート20%、受講態度10%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容についての説明、経営史はなぜ必要か
2	戦略商品と経済覇権の変遷	市場と商品、第一次産業革命
3		第二次産業革命、第三次産業革命
4		企業と企業家、工場と会社の誕生
5	会社の誕生	重工業における技術革新と市場、エネルギー革命
6		パートナーシップから株式会社へ、取引コストの削減、イギリスにおける企業誕生の意義
7		第二次産業革命、インフラストラクチャーの整備、企業家精神と戦略
8	ビッグ・ビジネスの成立	垂直統合戦略と企業形態、アメリカ的組織と経営手法
9		競争戦略とマーケット・セグメンテーション、ビッグ・ビジネスの成立とその限界
10		先発国と後発国、財閥の形成と解体
11	大競争時代	日本的生産システムの確立、エレクトロニクス革命とグローバルイゼーション
12		IT革命、国際競争の象徴としての自動車産業
13		R&Dと大競争、サブプライム危機と金融革命
14		大企業、ベンチャーネットワーク、マネーの世界の現在
15	ものづくりとファイナンス	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：安部悦生（著）『経営史＜第2版＞』日経文庫、2010年

◇参考文献：中瀬哲史（著）『エッセンシャル経営史 生産システムの歴史的分析』中央経済社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ、教科書で、その日の授業内容を読んでおくと、授業での理解が深まるであろう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営史（秋学期）	シミズ タイヨウ 清水 太陽
Business History	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、現代の経済活動の中枢を担う主体のうち、企業に焦点をあてて学んでいきます。企業の変貌と発展の歴史を見ていき、現代企業の抱える問題とその行く末を展望します。また、それぞれの「時代」についてもあわせて考えることで、経営史を多面的に理解できる授業にしたいと考えています。映像資料や動画などを活用することにより、経営史を学ぶことの楽しさと意義を理解できるような授業を行います。受講者の積極的な参加を期待します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の基礎知識を正確に理解し、説明することができる。	30%
内容の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の内容を正確に理解し、説明することができる。	30%
時代の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 時代の流れをとらえ、それぞれの時代と経営史の結びつきを理解し、説明することができる。	10%
知識の応用	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の知見を生かし、現代の企業が抱える諸問題に関して、自分の意見を論理的に説明することができる。	30%
評価の方法 期末試験70%、レポート20%、受講態度10%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容についての説明、経営史はなぜ必要か
2	戦略商品と経済覇権 の変遷	市場と商品、第一次産業革命
3		第二次産業革命、第三次産業革命
4		企業と企業家、工場と会社の誕生
5	会社の誕生	重工業における技術革新と市場、エネルギー革命
6		パートナーシップから株式会社へ、取引コストの削減、イギリスにおける企業誕生の意義
7		第二次産業革命、インフラストラクチャーの整備、企業家精神と戦略
8	ビッグ・ビジネスの 成立	垂直統合戦略と企業形態、アメリカ的組織と経営手法
9		競争戦略とマーケット・セグメンテーション、ビッグ・ビジネスの成立とその限界
10		先発国と後発国、財閥の形成と解体
11	大競争時代	日本的生産システムの確立、エレクトロニクス革命とグローバルイゼーション
12		IT革命、国際競争の象徴としての自動車産業
13		R&Dと大競争、サブプライム危機と金融革命
14		大企業、ベンチャーネットワーク、マネーの世界の現在
15	ものづくりとファイ ナンス	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：安部悦生（著）『経営史＜第2版＞』日経文庫、2010年

◇参考文献：中瀬哲史（著）『エッセンシャル経営史 生産システムの歴史的分析』
中央経済社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ、教科書で、その日の授業内容を読んでおくと、授業での理解が深まるであろう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

人的資源管理論 I	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Human Resource Management I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

働く人間というのは生産のための手段であると同時に感情を持つ存在でもあります。人間を「資源」として捉えると、モノ扱いしてしまうように聞こえてしまいます。やはり感情を持つ存在という点を無視してはいけません。感情を持つ資源という認識のもとでいかに管理するのか、この点について講義していきます。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、DVDなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人的資源管理の「目的・歴史・制度」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「人的資源管理の目的・歴史・制度」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「終身雇用・年功序列・企業別労使」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「終身雇用・年功序列・企業別労使」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「多様な働き方・ワークライフバランス」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「多様な働き方・ワークライフバランス」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「バブル経済後の人的資源管理の状況」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「バブル経済後の人的資源管理の状況」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
評価の方法 期末試験65点、レポート・小テストなど20点、リアクションペーパー15点 ※レポート課題を1回行う予定		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など
2	人的資源管理の目的	人的資源管理の役割と目的とは何か
3	人的資源管理の歴史①	人的資源管理はどのように生まれてきたか
4	人的資源管理の歴史②	人的資源管理はどのように発達してきたか
5	人的資源管理の制度	人的資源管理の制度
6	日本の人的資源管理①	日本の人的資源管理はどのように発展してきたか
7	日本の人的資源管理②	終身雇用慣行とは何か
8	日本の人的資源管理③	年功序列慣行とは何か
9	日本の人的資源管理④	企業別労使関係とは何か
10	多様な働き方	パート・アルバイト・限定正社員
11	現代日本の人的資源管理	【レポート課題】
12	多様な職業人生	ワークライフバランス
13	現代の人的資源管理①	バブル経済後の人的資源管理
14	現代の人的資源管理②	経営戦略と人的資源管理
15	まとめ	試験および解説

【使用教材】

- ◇教科書：岩出博編著『従業員満足のための人的資源管理』中央経済社
- ◇資料等：レジュメを配布（教科書にない情報など）。

【履修条件等】

- ◇必ず「人的資源管理論Ⅱ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教科書の該当箇所を事前に目を通してくること。
- ◇配布資料に記載したキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

- ◇基本的にレジュメの再配布はしませんので注意してください。
- ◇授業内にてレポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

人的資源管理論 I	ホン ソンヒョブ 洪 聖協
Human Resource Management I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

働く人間というのは生産のための手段であると同時に感情を持つ存在でもあります。人間を「資源」として捉えると、モノ扱いしてしまうように聞こえてしまいます。やはり感情を持つ存在という点を無視してはいけません。感情を持つ資源という認識のもとでいかに管理するのか、この点について講義していきます。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、DVDなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人的資源管理の「目的・歴史・制度」について理解し、説明ができるようになる。	確認テストを行う。「人的資源管理の目的・歴史・制度」に関連する について理解し、用語とその意味を答えられること。	20%
「終身雇用・年功序列・企業別労使関係」について理解し、説明ができるようになる。	確認テストを行う。「終身雇用・年功序列・企業別労使」に関連する 」について理解し、用語とその意味を答えられること。	20%
「ダイバーシティマネジメント」、「ワークライフバランス」、「ハラスメント」について理解し、説明ができるようになる。	確認テストを行う。「ダイバーシティマネジメント」、「ワークライフバランス」、「ハラスメント」について理解し、用語とその意味を答えられること。	30%
労働CSRと人材リスクマネジメントについて理解し、説明ができるようになる。	確認テストを行う。労働CSRと人材リスクマネジメントについて理解し、用語とその意味を答えられること。	30%
評価の方法 ①平常点15%（授業内課題提出）②中間テスト25% ③期末テスト60%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	人的資源管理論とは。講義の概要と評価方法など。
2	人的資源管理の目的	人的資源管理の役割と目的とは何か
3	人的資源管理の歴史①	人的資源管理の歴史的な背景は。労働者とは何か。
4	人的資源管理の歴史②	人的資源管理の歴史的発展段階とは。
5	人的資源管理の制度	日本の人的資源管理の制度は。
6	日本の人的資源管理①	終身雇用慣行とは何か。
7	日本の人的資源管理②	年功賃金とは何か。
8	日本の人的資源管理③	企業別労使関係とは何か。
9	日本の人的資源管理④	バブル経済後の日本の人的資源管理の変化とは。
10	ダイバーシティマネジメント	ダイバーシティマネジメントとは何か。
11	ワークライフバランス	ワークライフバランスとは何か。
12	ハラスメント	ハラスメントとは何か。
13	労働CSR	労働における企業の社会的責任とは何か。
14	人材リスクマネジメント	人的資源管理におけるリスクマネジメントとは。
15	総括・テスト	全体の総まとめ及び確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：岩出博編著『従業員満足のための人的資源管理』中央経済社
- ◇資料等：毎回レジュメを配布。

【履修条件等】

- ◇必ず「人的資源管理論Ⅱ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇毎回、事前にレジュメを配布するので事前学習をすること。
- ◇テキストの該当箇所を事前に目を通してくること。

【その他の注意事項】

- ◇私語禁止。

人的資源管理論Ⅱ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Human Resource Management II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

働く人間というのは生産のための手段であると同時に感情を持つ存在でもあります。人間を「資源」として捉えると、モノ扱いしてしまうように聞こえてしまいます。やはり感情を持つ存在という点を無視してはいけません。感情を持つ資源という認識のもとでいかに管理するのか、この点について講義していきます。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、DVDなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「従業員の採用・雇用調整」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員の採用・雇用調整」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員の配置と育成」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員の配置と育成」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員能力の発揮と活用」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員能力の発揮と活用」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員の評価と処遇」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員の評価と処遇」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
評価の方法 期末試験65点、レポート・小テストなど20点、リアクションペーパー15点 ※レポート課題を1回行う予定		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など
2	人的資源管理の機能	経営における人的資源管理の機能
3	従業員の採用①	新卒採用の手続き
4	従業員の採用②	新卒者の早期離職と雇用のミスマッチ
5	雇用調整	従業員の離職・退職と雇用調整
6	従業員の配置と育成①	人事異動制度の内容
7	従業員の配置と育成②	教育訓練・能力開発
8	従業員能力の発揮と活用①	従業員業績の向上の公式とメカニズム
9	従業員能力の発揮と活用②	職場管理者のリーダーシップ
10	従業員能力の発揮と活用③	労働環境の快適化と新たな勤務形態
11	現代日本の人的資源管理	【レポート課題】
12	従業員の働きぶりの評価と処遇①	人事評価制度の手続き
13	従業員の働きぶりの評価と処遇②	処遇評価の成果主義化
14	従業員の働きぶりの評価と処遇③	今日の福利厚生
15	まとめ	試験および解説

【使用教材】

- ◇教科書：岩出博編著『従業員満足のための人的資源管理』中央経済社
- ◇資料等：レジュメを配布（教科書にない情報など）。

【履修条件等】

- ◇必ず「人的資源管理論Ⅰ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教科書の該当箇所を事前に目を通してくること。
- ◇配布資料に記載したキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

- ◇基本的にはレジュメの再配布はしませんので注意してください。
- ◇授業内にてレポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

人的資源管理論Ⅱ	ホン ソンヒョブ 洪 聖協
Human Resource Management II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本科目は、企業において労働力を有効利用するための基礎理論および制度を理解し、その社会的影響について考え、多様な雇用・労働問題の実態やその背景と取りうるべき解決策について理解することを目的としています。また、人的資源管理の基礎となる諸制度を紹介し、組織的の成果を追究する上で、人をどうすればよりよく活かすことができるか、また人と人との関わりから生じる諸問題にどうすれば対処できるかについて、全般的知識を獲得することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「従業員の採用・雇用調整」について理解し、説明ができるようにする	確認テストを行う。「従業員の採用・雇用調整」に関連する用語とその意味を答えられること。	20%
「従業員の配置と育成」について理解し、説明ができるようにする	確認テストを行う。「従業員の配置と育成」に関連する用語とその意味を答えられること	20%
「従業員能力の発揮と活用」について理解し、説明ができるようにする	確認テストを行う。「従業員能力の発揮と活用」に関連する用語とその意味を答えられること。	30%
「従業員の評価と処遇」について理解し、説明ができるようにする	確認テストを行う。「従業員の評価と処遇」に関連する用語とその意味を答えられること	30%
<p>評価の方法 ① 平常点15%（授業内課題提出）②中間テスト25% ③期末テスト60%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など。
2	現代の雇用問題	日本企業の雇用問題と何か。
3	従業員の採用①	新規学卒採用の実際。
4	従業員の採用②	新卒者の早期離職と雇用のミスマッチ。
5	雇用調整	従業員の離職・退職と雇用調整。
6	従業員の配置と育成①	従業員の配置と人事異動。
7	従業員の配置と育成②	教育訓練と能力開発。
8	従業員能力の発揮と活用①	従業員業績の向上とモチベーション。
9	従業員能力の発揮と活用②	職場管理者のリーダーシップ。
10	従業員能力の発揮と活用③	職場環境と能力発揮。
11	評価と処遇①	人事評価とは何か。
12	評価と処遇②	年俸制の実際。
13	評価と処遇③	成果主義の実際と今後の方向性。
14	評価と処遇④	企業内福利厚生とは何か。
15	総括・テスト	全体の総まとめ及び確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：岩出博編著『従業員満足のための人的資源管理』中央経済社
- ◇資料等：レジュメを配布（教科書にない情報など）。

【履修条件等】

- ◇必ず「人的資源管理論Ⅰ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教科書の該当箇所を事前に目を通してくること。
- ◇配布資料に記載したキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

- ◇基本的にはレジュメの再配布はしませんので注意してください。
- ◇授業内にてレポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

キャリア発達心理学（春学期）	イナミ カズエ 伊波 和恵
Career Development	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

一生涯を通じて、私たち人間はつねに発達し続ける存在です。この講義では、生涯発達心理学の観点から、胎生期から死に至るまでを範囲とし、とくに成人期に焦点をあて、人の心理社会的な変化のプロセスに関する知識と考え方を学びます。学習を通じて、人間理解の幅を世代的におし広げ、考察を深められるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生涯発達心理学の理論	試験の設問に対する解答によって評価。生涯にわたる心理社会的発達に関する概念の定義や用語について適切に答えることができ、また説明できる。	10%
各年代の固有の特徴	設問に対する解答によって評価。胎生期～成人期～老年期、死にいたる人生の各段階における心理的危機と社会的適応について理解が十分であること。	25%
成人期の課題と社会性の発達	レポート課題・設問に対する解答によって評価。働き盛りである成人期中期の心理社会的特徴を理解し、社会性に注目して考察を適切に行えること。	35%
キャリア発達	レポート課題ならびに設問に対する解答によって評価。とくに成人期の能力(キャリア)発達に関する基本的な枠組みや、それらの意義について理論や実践を通じて理解し、的確に答えられること。	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、平常点(ミニレポート・授業参加度等)20%・試験(持込一切不可)60%・レポート(中間試験に代わる課題)20%を勘案して、総合的に評価する。なお、対面以外の形式で講義を行う場合には、評価の配分は若干見直す。(修正版を受講者に通知する)	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生涯発達とは？	生涯発達心理学の考え方、発達段階説
2	胎生期	胎生期の発達
3	乳幼児期(1)	心身の発達、愛着関係、社会性／相互作用性の発達
4	乳幼児期(2)	認知的発達
5	乳幼児期(3)	情緒的発達
6	児童期(1)	認知的発達
7	児童期(2)	社会性の発達
8	中間試験	
9	青年期(1)	思春期と青年期、マージナルマンとしての青年
10	青年期(2)	アイデンティティと職業選択、モラトリアム、社会的ひきこもり
11	成人期(1)	職業的キャリア
12	成人期(2)	ワークライフバランス／ワークライフコンフリクト
13	成人期(3)	働き盛りとメンタルヘルス
14	老年期(1)	老年期の特徴、健康な老い、QOLとADL、認知症
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：藤村宣之 編著『発達心理学—周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本)』ミネルヴァ書房
- ◇参考書：菅野幸恵・他『エピソードで学ぶ赤ちゃんの発達と子育て—いのちのリレーの心理学』新曜社
岡本依子・他『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学—関係のなかでそだつ子どもたち』新曜社
岡村一成 監修『ゼロから学ぶ経営心理学』学文社、その他、講義中に紹介。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇テキストの関連箇所を熟読しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業中のスマートフォン、携帯電話等の電子機器類の使用は原則として認めない。
課題は期日どおりに提出すること。

キャリア発達心理学（秋学期）	イナミ カズエ 伊波 和恵
Career Development	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

一生涯を通じて、私たち人間はつねに発達し続ける存在です。この講義では、生涯発達心理学の観点から、胎生期から死に至るまでを範囲とし、とくに成人期に焦点をあて、人の心理社会的な変化のプロセスに関する知識と考え方を学びます。学習を通じて、人間理解の幅を世代的におし広げ、考察を深められるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生涯発達心理学の理論	試験の設問に対する解答によって評価。生涯にわたる心理社会的発達に関する概念の定義や用語について適切に答えることができ、また説明できる。	10%
各年代の固有の特徴	設問に対する解答によって評価。胎生期～成人期～老年期、死にいたる人生の各段階における心理的危機と社会的適応について理解が十分であること。	25%
成人期の課題と社会性の発達	レポート課題・設問に対する解答によって評価。働き盛りである成人期中期の心理社会的特徴を理解し、社会性に注目して考察を適切に行えること。	35%
キャリア発達	レポート課題ならびに設問に対する解答によって評価。とくに成人期の能力(キャリア)発達に関する基本的な枠組みや、それらの意義について理論や実践を通じて理解し、的確に答えられること。	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、平常点(ミニレポート・授業参加度等)20%・試験(持込一切不可)60%・レポート(中間試験に代わる課題)20%を勘案して、総合的に評価する。なお、対面以外の形式で講義を行う場合には、評価の配分は若干見直す。(修正版を受講者に通知する)	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生涯発達とは？	生涯発達心理学の考え方、発達段階説
2	胎生期	胎生期の発達
3	乳幼児期(1)	心身の発達、愛着関係、社会性／相互作用性の発達
4	乳幼児期(2)	認知的発達
5	乳幼児期(3)	情緒的発達
6	児童期(1)	認知的発達
7	児童期(2)	社会性の発達
8	中間試験	
9	青年期(1)	思春期と青年期、マージナルマンとしての青年
10	青年期(2)	アイデンティティと職業選択、モラトリアム、社会的ひきこもり
11	成人期(1)	職業的キャリア
12	成人期(2)	ワークライフバランス／ワークライフコンフリクト
13	成人期(3)	働き盛りとメンタルヘルス
14	老年期(1)	老年期の特徴、健康な老い、QOLとADL、認知症
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：藤村宣之 編著『発達心理学—周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本)』ミネルヴァ書房
- ◇参考書：菅野幸恵・他『エピソードで学ぶ赤ちゃんの発達と子育て—いのちのリレーの心理学』新曜社
岡本依子・他『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学—関係のなかでそだつ子どもたち』新曜社
岡村一成 監修『ゼロから学ぶ経営心理学』学文社、その他、講義中に紹介。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇テキストの関連箇所を熟読しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業中のスマートフォン、携帯電話等の電子機器類の使用は原則として認めない。
課題は期日どおりに提出すること。

メンタルヘルス・マネジメント	イナミ カズエ 伊波 和恵
Mental Health Management	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

こころの健康（メンタルヘルス）に関する心理学の理論と実践について、講義形式で学習します。私たちの日常生活における心理的ストレス、適応に関する基礎知識を、講義を通じて習得します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
健康心理学関連の専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	試験の設問に対する解答によって評価。概念の定義や種類に関する用語を適切に答えることができ、また、適切に説明できること。	20%
メンタルヘルスと職業生活・社会生活がどのように関連するかを理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。メンタルヘルス、ストレスが個人の身体の健康や職業生活、社会生活とどのように関わっているかについて説明できること。	20%
自己理解と性格分析を、ツールを用いて客観的に測定したうえで、適切に内省を行える	日々のミニレポート課題、ならびにレポート課題によって評価。心理検査類を用いた客観的測定と自己洞察を適切に行えること。	40%
メンタルヘルスの重要性について理解し、その知識や方法を知り、予防やケアに役立てられるようにする	設問に対する解答によって評価。メンタルヘルスケアの基本的な枠組みや方法、それらの意義について理解し、ケアや予防の方策について答えられること。	20%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、平常点(ミニレポート・授業参加度等)20%・試験(持込一切不可)60%・レポート(中間試験に代わる課題)20%を勘案して、総合的に評価する。なお、対面以外の形式で講義を行う場合には、評価の配分は若干見直す。(修正版を受講者に通知する)	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	メンタルヘルスとは？	メンタルヘルス・ストレスとは
2	ストレスの基礎理論①	心と身体の関係：セリエの汎適応症候群など
3	ストレスの基礎理論②	ストレスの捉え方：ラザラスのストレス理論など
4	ストレスの基礎理論③	ストレスと性格：防衛機制・ストレスコーピングなど
5	社会生活とストレス①	社会・対人関係：成人期の心理社会的発達とキャリア発達
6	社会生活とストレス②	社会的適応－不適応①：さまざまな生活の場での適応
7	社会生活とストレス③	社会的適応－不適応②：事例検討
8	職場のメンタルヘルス①	職場のメンタルヘルス：予防とケアの基本的な考え方
9	職場のメンタルヘルス②	セクシュアル・ハラスメント
10	職場のメンタルヘルス③	心身症、気分障害（うつ病）
11	ストレス・マネジメント①	ストレスのアセスメント、ストレス緩和とリラクゼーションなど
12	ストレス・マネジメント②	ストレス緩和とソーシャルサポートなど
13	職場環境と心理的ケア①	カウンセリングの理論と技法：受容と傾聴
14	職場環境と心理的ケア②	カウンセリング：対処－予防、セルフケア、専門家によるケア
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：とくに指定なし。
- ◇参考書：伊波和恵ほか『マネジメントの心理学』ミネルヴァ書房。
- その他、講義中に紹介。

【履修条件等】

- ◇「心理学」（教養科目）の単位を取得（見込）していること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇参考書の関連箇所を熟読しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業中のスマートフォン、携帯電話等の電子機器類の使用は原則として認めない。
- ◇課題は期日通りに提出すること。
- ◇授業の中で個人またはグループワーク課題を行うことがある。遅刻をしないこと。
- ◇民間資格である「メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種（大阪商工会議所）」の取得を念頭に置いて学習を進めるとよい。

経営心理学研究法	イナミ カズエ 伊波 和恵
Business Psychology Study Methods	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義では、人の心という目には見えないものを可視化し、測定する方法とその理論について学びます。経営心理学の学びをより深めるために必要な手段としての数値化や現象の記述方法について基礎的な手続きと方法を学び、受講学生が自分自身でそれらの方法を活用できるようにすることを目標とします。そのため、授業は講義を通しての知識の理解を求めるだけでなく、実習・レポート作成にも重点を置きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心理学研究方法における基礎知識への適切な理解	試験の設問に対する解答によって評価。心理検査や各種調査法について、①種類やツールとしての特性、②測定に関する基礎的用語、③調査法の特性等を適切に答えることができ、また説明できること。	20%
心理学研究方法を用いる際に必要となる基本的な統計技法への理解	レポート課題によって評価。Excel 等の表計算ソフトを用い、基本的な統計知識を正しく理解できているかどうかを評価する。	25%
実験法や面接法を用いた、適切な測定・結果や考察の記述（レポート作成）	レポート課題によって評価。実験法や面接法を用いて、簡単な心理学実験・調査を行い、その結果を統計的に分析し、考察できるかどうかを評価する。	25%
質問紙法を用いた、適切な測定・結果や考察の記述（レポート作成②）	レポート課題によって評価。質問紙調査法を用いて、簡単な質問紙（アンケート）調査を行い、その結果を統計的に分析し、考察できるかどうかを評価する。	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、平常点（ミニレポート・授業参加度等）20%・小テスト課題（2回）20%・レポート課題40%・本試験20%を勘案して、総合的に評価。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義概要と授業の進め方についての説明。心理学研究法とは何か
2	心理学研究法の基礎①	心理検査の種類・特性
3	心理学研究法の基礎②	質問紙の概念理解。妥当性・信頼性
4	心理学統計法の基礎①	数値化について。平均・分散・標準偏差
5	心理学統計法の基礎②	統計法実習①
6	心理学統計法の基礎③	統計法実習②
7	実験法①	レポートの書き方・計画の立て方
8	実験法②	測定実習
9	実験法③	レポートの作成①
10	面接法①	構造化面接法
11	面接法②	レポートの作成②
12	質問紙法①	質問紙法の測定実習
13	質問紙法②	結果の分析方法
14	質問紙法③	レポートの作成③
15	総括	総括と確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：とくに指定なし（配付資料を用意する）。
- ◇参考書：適宜、講義中に紹介する。

【履修条件等】

- ◇課題は多いです。
- ◇エクセル、ワード、パワーポイントが最低限使用できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇配布資料については、各自熟読し、その内容の理解に努めること。

【その他の注意事項】

- ◇授業中のスマートフォン、携帯電話等の電子機器類の使用は原則として認めない。
- ◇課題は期日どおりに提出すること。
- ◇授業の中で個人またはグループワーク課題を行うことがある。遅刻をしないこと。
- ◇実習・レポートといった課題が含まれるため、全出席を原則とする。

知的財産法	タカマル リヨウタ 高丸 涼太
Intellectual Property Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、知的財産法の概要と個別法の基礎的知識を理解・習得するとともに、それらを応用し、現実には生起する問題を発見・解決する能力を涵養することを目的とします。本講義では、知的財産法と総称される法律群のうち、特許法、著作権法、商標法、不正競争防止法を主な対象としますが、本学のカリキュラムの特性等に鑑み、それらのなかでも特に著作権法に重点を置くこととします。もっとも、「知的財産法」の講義である以上、個別法単独の知識等の解説にとどまらず、各個別法相互の関連性をも重視して講義を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
① 知的財産法の概要と各個別法の基本的知識の理解・習得	知的財産法の概要を理解するとともに、各個別法の基本的知識を習得できているかについて、学期末試験によって評価します。	40%
② 各個別法の特徴と相互関係の理解	各個別法の保護領域等の特徴と相互関係を理解できているかについて、学期末試験によって評価します。	30%
③ 上記①、②の各理解等に基づく、具体的な事例における問題発見	本講義で習得した知識等を元に、具体的な事例の下で知的財産法上の問題を正しく捉えることができるかについて、学期末試験によって評価します。	15%
④ 上記①、②の各理解等に基づく、上記③の問題の検討と解決	本講義で習得した知識等を元に、具体的な事例における知的財産法上の問題に対して適切な解決策を示すことができるかについて、学期末試験によって評価します。	15%
評価の方法 原則として学期末試験によって評価しますが、積極的な講義への参加等があった場合には、相応の加点をする場合があります。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、評価方法等の説明
2	知的財産法総論	知的財産法の全体像
3	コンテンツビジネス・エンターテインメントと知的財産法(1)	著作権法、パブリシティ権等の基礎
4	コンテンツビジネス・エンターテインメントと知的財産法(2)	著作権法、パブリシティ権等の基礎
5	コンテンツビジネス・エンターテインメントと知的財産法(3)	著作権法、パブリシティ権等の基礎
6	コンテンツビジネス・エンターテインメントと知的財産法(4)	著作権法、パブリシティ権等の基礎
7	コンテンツビジネス・エンターテインメントと知的財産法(5)	著作権法、パブリシティ権等の基礎
8	技術開発と知的財産法(1)	特許法、不正競争防止法等の基礎
9	技術開発と知的財産法(2)	特許法、不正競争防止法等の基礎
10	ブランド・デザインと知的財産法(1)	商標法、不正競争防止法、意匠法等の基礎
11	ブランド・デザインと知的財産法(2)	商標法、不正競争防止法、意匠法等の基礎
12	知的財産法の現代的課題(1)	実務的な事例等に見る知的財産法の現代的課題
13	知的財産法の現代的課題(2)	実務的な事例等に見る知的財産法の現代的課題
14	知的財産法の現代的課題(3)	実務的な事例等に見る知的財産法の現代的課題
15	総括・達成度の確認	今までの講義内容の総括と学習達成度の確認テストの実施

【使用教材】

◇教科書は指定しませんが、特許法、著作権法、商標法、不正競争防止法の4法については、手元で条文を参照できるようにしておいてください。

本講義の内容について理解を深めるための参考文献として、内田朋子ほか著＝桑野雄一郎監修『すごいぞ！はたらく知財 14歳からの知的財産入門』（晶文社、2019）を挙げておきます。

【履修条件等】

◇法学系科目の知識（特に民法の知識）があることが望ましいです。また、知的財産法は独占禁止法・競争法とも密接に関連しているので、「経済法」の履修も本講義の内容の理解に資すると思います。

◇講義は受講者を指名して発言を求める形で進めていきます。知的財産法に関心がない人の履修はおすすめしません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要がある場合は、その都度指示をします。

【その他の注意事項】

◇受講者の関心や要望等に応じて、授業計画を変更することがあります。

◇私語や正当な理由のない入退室等、講義に支障を来す行為があった場合は、受講をお断りすることがあります。

労働法（春学期）	クロイワ ヨウコ 黒岩 容子
Labor Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義では、労働法の基本的枠組みや考え方、基礎知識を学びます。現代社会では、人々の多くが雇用されて働き賃金を得て生活し、また、企業は人を雇うことによって営業活動をしています。人を雇うとき、雇われるときの基本的なワーキングルールやその考え方を知っておくことは、自らが尊厳をもって生きていくためにも、公正な社会を築くうえでも必要不可欠なことです。この授業で、是非、生きた労働法の知識を身につけてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
労働法の理念・基本的枠組み・考え方を理解する	基本的な理解ができているかを、テストおよび授業中の質疑の中で判定します。	40%
労働法の基礎的知識を習得する	基礎的知識を取得できているかを、テストおよび授業中の質疑の中で判定します。	40%
事実に基づいて論理的に思考する姿勢の習得	テストおよび授業中の質疑のなかで判定します。	20%
評価の方法 期末テスト50%の他、授業中に中間小テスト40%を行います また授業中の質疑等への貢献度10%も評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	労働法の特徴。労働法の学び方。
2	労働法の歴史と機能	雇用システムと労働法
3	労働法上の当事者。 労働条件の決定	労働者、使用者、労働組合。 労働法・労働契約・就業規則・労働協約
4	労働契約の成立	就職・採用に関する法的ルール
5	賃金	賃金に関する法的ルール
6	労働時間・休日・休暇	労働時間・休日・休暇に関する法的ルール
7	人事異動	配転、出向、移籍に関する法的ルール
8	労働契約の終了	退職、解雇、雇止めに関する法的ルール
9	差別・ハラスメント	職場の差別やハラスメントの撤廃と法
10	ワーク・ライフ・バランス	ワーク・ライフ・バランスに関する法的ルール
11	非正規雇用問題	パート・アルバイト・契約社員・派遣社員と法的ルール
12	集团的労使関係	労働組合、団体交渉と労働協約
13	職場の安全衛生	労働災害、過労死問題
14	労働をめぐる紛争	職場のトラブルとその解決方法
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用しません。授業の際にレジュメおよび資料を配付します。
- ◇参考書として、浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法 第8版』有斐閣アルマ、2020年。
- また、授業のなかで参考文献を紹介します。

【履修条件等】

- ◇とくに条件はありませんが、「法学Ⅰ」、「法学Ⅱ」等の法律科目をすでに履修済み、ないし同時に履修していることが望ましいです。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇現実の社会で、労働に関してどのような問題が生じているのか、新聞報道などに注意を払い、問題関心を持って授業に臨んでください。また、しっかり復習して、基本的知識を確実に習得してください。

【その他の注意事項】

- ◇進行状況および受講生の問題関心等によって、スケジュールを変更することがあります。
- ◇また、授業中は私語厳禁です。

労働法（秋学期）	クロイワ ヨウコ 黒岩 容子
Labor Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義では、労働法の基本的枠組みや考え方、基礎知識を学びます。現代社会では、人々の多くが雇用されて働き賃金を得て生活し、また、企業は人を雇うことによって営業活動をしています。人を雇うとき、雇われるときの基本的なワーキングルールやその考え方を知っておくことは、自らが尊厳をもって生きていくためにも、公正な社会を築くうえでも必要不可欠なことです。この授業で、是非、生きた労働法の知識を身につけてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
労働法の理念・基本的枠組み・考え方を理解する	基本的な理解ができているかを、テストおよび授業中の質疑の中で判定します。	40%
労働法の基礎的知識を習得する	基礎的知識を取得できているかを、テストおよび授業中の質疑の中で判定します。	40%
事実に基づいて論理的に思考する姿勢の習得	テストおよび授業中の質疑のなかで判定します。	20%
評価の方法 期末テスト50%の他、授業中に中間小テスト40%を行います。 また授業中の質疑等への貢献度10%も評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	労働法の特徴。労働法の学び方。
2	労働法の歴史と機能	雇用システムと労働法
3	労働法上の当事者。 労働条件の決定	労働者、使用者、労働組合。 労働法・労働契約・就業規則・労働協約
4	労働契約の成立	就職・採用に関する法的ルール
5	賃金	賃金に関する法的ルール
6	労働時間・休日・休暇	労働時間・休日・休暇に関する法的ルール
7	人事異動	配転、出向、移籍に関する法的ルール
8	労働契約の終了	退職、解雇、雇止めに関する法的ルール
9	差別・ハラスメント	職場の差別やハラスメントの撤廃と法
10	ワーク・ライフ・バランス	ワーク・ライフ・バランスに関する法的ルール
11	非正規雇用問題	パート・アルバイト・契約社員・派遣社員と法的ルール
12	集団的労使関係	労働組合、団体交渉と労働協約
13	職場の安全衛生	労働災害、過労死問題
14	労働をめぐる紛争	職場のトラブルとその解決手段
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用しません。授業の際にレジュメおよび資料を配付します。
- ◇参考書として、浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法 第8版』有斐閣アルマ、2020年。
- また、授業のなかで参考文献を紹介します。

【履修条件等】

- ◇とくに条件はありませんが、「法学Ⅰ」、「法学Ⅱ」等の法律科目をすでに履修済み、ないし同時に履修していることが望ましいです。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇現実の社会で、労働に関してどのような問題が生じているのか、新聞報道などに注意を払い、問題関心を持って授業に臨んでください。また、しっかり復習して、基本的知識を確実に習得してください。

【その他の注意事項】

- ◇進行状況および受講生の問題関心等によって、スケジュールを変更することがあります。
- ◇また、授業中は私語厳禁です。

流通論 I	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Channel Management I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、流通に関する基礎的な知識の習得を目指すとともに、上記環境下における小売・流通企業の戦略について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会における流通と商業に関する基本用語を正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通と商業の社会における役割に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態について説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態の特徴に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態が起こしたイノベーションについて説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態がこれまで起こしてきたイノベーションに関する設問に答えられること。	25%
流通理論に関して正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。流通や商業者の行動原理としての流通理論（売買集中の原理、延期と投機の理論など）に関する設問に答えられること。	25%
評価の方法	全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容説明、成績評価説明
2	流通とは	現代社会における流通の様相
3	各種小売業態の特徴（1）	食品スーパーとCVSについて
4	各種小売業態の特徴（2）	ディスカウント・ストアとSPAについて
5	各種小売業態の特徴（3）	商店街とショッピングセンターについて
6	変化する流通構造	流通構造の分析
7	小売業態とは何か	業態理論について
8	日本型取引慣行	日本型取引の特徴（流通系列化，建値，リベート）
9	ロジスティクス	現代流通を支える3PL
10	売買集中の原理と品揃え形成	商業の存在意義について
11	商業の外部性と商業集積	商業集積における競争と協調メカニズム
12	投機的流通から延期的流通へ	延期投機理論について
13	生産と流通の分業関係の変化	流通系列化から製販連携へ
14	総括	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	達成度の確認と解説	学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇講義ノートと参考資料を教員が作成しそれをもとに学習するスタイルです。以下参考書に依拠してシラバスが展開しますので、購入の必要性はありませんが、さらに学習したい場合や理解が不足している場合には参照すると有効的です。

◇＜参考書＞：石原武政・竹村正明編『1からの流通論』碩学舎、2008年

【履修条件等】

◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

流通論Ⅱ	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Channel Management II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、「流通論Ⅰ」で学習した内容をベースに、より専門度の高い流通理論のみならず、制度・実態・政策について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
流通と商業の社会的役割および流通機能の分類と機能について正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通機能の分類と機能に関する設問に答えられること。	25%
現代流通業の実態について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。オペレーションコスト、取引コスト、パワー関係、延期と投機SCMなどの理論に関する設問に答えられること。	25%
ICT化、国際化などの流通業を取り巻く今日的課題について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。流通におけるICT機能の役割、インターネット販売、流通業が国境を越える際に生じる課題に関する設問に答えられること。	25%
流通と公共政策との関連性について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。今日までになされてきた具体的な公共政策内容、およびそれが流通にいかなる影響を及ぼしてきたのかについての設問に答えられること。	25%
評価の方法	全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通を読み解く視点(1)	流通と商業
3	流通を読み解く視点(2)	流通機能の分類と機能
4	流通における機能分担(1)	垂直的分化と統合
5	流通における機能分担(2)	オペレーションコスト、取引コスト
6	流通における組織間関係(1)	チャネルの組織化とパワー関係
7	流通における組織間関係(2)	製販提携と延期型流通、SCMの進展
8	小売業の行動とダイナミクス(1)	小売業態の開発と競争
9	小売業の行動とダイナミクス(2)	小売業の製品開発とブランド・マネジメント
10	卸売業の現状と課題	卸売業界の再編成と“機能強化”競争
11	流通におけるICT活用の展開	ICTの導入、流通ICT化の進展と意義
12	インターネット販売の可能性	インターネット販売の特徴
13	流通と公共政策	まちづくり・公正競争
14	学習ポイントと質疑応答	秋学期の学習ポイントについての理解を深める
15	達成度の確認と解説	学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

- ◇参考書：渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二著『流通論をつかむ』有斐閣、
2008年

【履修条件等】

- ◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日本経済新聞や日経MJ、また日経ビジネスなどに日頃から目を通し、企業の流通活動について問題意識を持つ。ガイアの夜明けやカンブリア宮殿などのビジネス番組もたくさん観ることもおすすめします。

【その他の注意事項】

- ◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

商品論（春学期）	タグチ フユキ 田口 冬樹
Product Management	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

市場には多くの新しい商品が提供されているが、ヒット商品として支持され、ロングセラーにまで発展できる商品は限られている。この講義では、新商品の開発と提供のプロセスを中心に理解を深めることをねらいとしている。さらに最近の商品動向として所有から利用へ、モノからコトへ、ダウンロードからストーリーミングやサブスクリプションといったサービス化のトレンドについてもその変化の意味を考察し、またSDGsを含め商品の安全性確保・資源保全・環境保護の視点からも広く検討を加え、現代に求められる商品論を提案したい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商品とサービスの役割を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。商品とサービスの関係、商品の構成要件と分類、商品化の仕組み、サービスの商品特性について答えられること。	20%
新製品開発と製品ライフサイクルの両プロセスを関連づけて説明できること	設問に対する解答によって評価。消費者サイドのニーズと企業サイドのシーズの役割、新製品の市場導入による普及のプロセス（キャズムの意味）、コモディティ化について理解し、説明ができること。	20%
現代の商品に求められる社会的条件として、環境・資源・安全性について課題を考察し、理解を深める	設問に対する解答によって評価。現代の商品に求められる品質、エコや安全性、表示、食品ロス、下取りといった問題について、SDGsやEGSといったその背景になっている課題を整理し、製品開発や提供の問題点を指摘できること。	30%
商品に対する調査と課題発見および改善提案を行う	設問に対する解答によって評価。身近な商品を取り上げて、企業サイドからはSWOT分析、消費者サイドからは購入・利用・処分の問題点の発見を通してその商品の改善提案書が作成できること。	30%
評価の方法 定期試験60%、授業時の小テストやレポート30%、授業への貢献10%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義のねらいと進め方：なぜ商品論を学ぶのか
2	商品とは何か	商品の意味と商品化の仕組み、SDGsとESGの関係
3	現代の商品概念	商品とイノベーション：顧客が片づけたい仕事とは
4	消費財とビジネス財	使用目的・顧客対象の違いとは：ミシュランガイドの起源
5	サービス商品	サービス・ドミナント・ロジック：所有から利用の変化について
6	製品開発と開発主体	ニーズとシーズ、マーチャンダイジングとSPA
7	新製品開発の戦略	ケーススタディ：先発優位と後発優位、環境にやさしい商品とは
8	製品ライフサイクル	新製品の普及とコモディティ化、PPMとの接点
9	市場細分化	市場細分化と製品差別化、パーソナライゼーション
10	フリーのねらい	商品と価格の関係
11	ブランドと商品	ブランドの役割と戦略のタイプ、ブランドロイヤルティの意味
12	ブランド戦略	ケーススタディ：NBとPB、OEM、地域ブランドの展開
13	日本市場とブランド	日本のブランド、新興国のケース、インフルエンサーの役割
14	商品企画&改善提案	各自が考える商品企画および改善の提案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：田口冬樹（著）『マーケティング・マインドとイノベーション』白桃書房

◇参考書：田口冬樹（著）『流通イノベーションへの挑戦』白桃書房

授業開始時ならびに必要なに応じて紹介、とくに「リテールマーケティング（販売士）」受験の準備・参考資料なども授業時に紹介。

【履修条件等】

◇マーケティング関連科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「ブランドマーケティング論」、「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」、「販売管理論Ⅰ」、「販売管理論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「コンテンツビジネス論Ⅰ」、「コンテンツビジネス論Ⅱ」、など）を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書をよく読んで、次回テーマに関連する事例を調べ関心を高めておくこと。

【その他の注意事項】

◇身近な問題を取り上げるとはいつても、自分で課題を発見し、よく調べて授業に出席すること。

商品論（秋学期）	タグチ フユキ 田口 冬樹
Product Management	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

市場には多くの新しい商品が提供されているが、ヒット商品として支持され、ロングセラーにまで発展できる商品は限られている。この講義では、新商品の開発と提供のプロセスを中心に理解を深めることをねらいとしている。さらに最近の商品動向として所有から利用へ、モノからコトへ、ダウンロードからストーリーミングやサブスクリプションといったサービス化のトレンドについてもその変化の意味を考察し、またSDGsを含め商品の安全性確保・資源保全・環境保護の視点からも広く検討を加え、現代に求められる商品論を提案したい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商品とサービスの役割を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。商品とサービスの関係、商品の構成要件と分類、商品化の仕組み、サービスの商品特性について答えられること。	20%
新製品開発と製品ライフサイクルの両プロセスを関連づけて説明できること	設問に対する解答によって評価。消費者サイドのニーズと企業サイドのシーズの役割、新製品の市場導入による普及のプロセス（キャズムの意味）、コモディティ化について理解し、説明ができること。	20%
現代の商品に求められる社会的条件として、環境・資源・安全性について課題を考察し、理解を深める	設問に対する解答によって評価。現代の商品に求められる品質、エコや安全性、表示、食品ロス、下取りといった問題について、SDGsやEGSといったその背景になっている課題を整理し、製品開発や提供の問題点を指摘できること。	30%
商品に対する調査と課題発見および改善提案を行う	設問に対する解答によって評価。身近な商品を取り上げて、企業サイドからはSWOT分析、消費者サイドからは購入・利用・処分の問題点の発見を通してその商品の改善提案書が作成できること。	30%
評価の方法 定期試験60%、授業時の小テストやレポート30%、授業への貢献10%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義のねらいと進め方：なぜ商品論を学ぶのか
2	商品とは何か	商品の意味と商品化の仕組み、SDGsとESGの関係
3	現代の商品概念	商品とイノベーション：顧客が片づけたい仕事とは
4	消費財とビジネス財	使用目的・顧客対象の違いとは：ミシュランガイドの起源
5	サービス商品	サービス・ドミナント・ロジック：所有から利用の変化について
6	製品開発と開発主体	ニーズとシーズ、マーチャンダイジングとSPA
7	新製品開発の戦略	ケーススタディ：先発優位と後発優位、環境にやさしい商品とは
8	製品ライフサイクル	新製品の普及とコモディティ化、PPMとの接点
9	市場細分化	市場細分化と製品差別化、パーソナライゼーション
10	フリーのねらい	商品と価格の関係
11	ブランドと商品	ブランドの役割と戦略のタイプ、ブランドロイヤルティの意味
12	ブランド戦略	ケーススタディ：NBとPB、OEM、地域ブランドの展開
13	日本市場とブランド	日本のブランド、新興国のケース、インフルエンサーの役割
14	商品企画&改善提案	各自が考える商品企画および改善の提案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：田口冬樹（著）『マーケティング・マインドとイノベーション』白桃書房

◇参考書：田口冬樹（著）『流通イノベーションへの挑戦』白桃書房

授業開始時ならびに必要なに応じて紹介、とくに「リテールマーケティング（販売士）」受験の準備・参考資料なども授業時に紹介。

【履修条件等】

◇マーケティング関連科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「ブランドマーケティング論」、「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」、「販売管理論Ⅰ」、「販売管理論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「コンテンツビジネス論Ⅰ」、「コンテンツビジネス論Ⅱ」、など）を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書をよく読んで、次回テーマに関連する事例を調べ関心を高めておくこと。

【その他の注意事項】

◇身近な問題を取り上げるとはいつても、自分で課題を発見し、よく調べて授業に出席すること。

消費者行動論 I	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Consumer Behavior I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な考え方について学んだあと、購買行動に影響を及ぼす心理的要因について解説を行う。具体的には、商品を購入する際の意味決定プロセスや欲求との関わり、商品への関与度や態度形成が購買行動に与える影響などについて説明をする。自身の購買行動について理論的に理解できるようになるとともに、消費者行動と企業のマーケティング戦略との関わりについても理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになる	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、専門用語を答えられること。	20%
消費者の認知を理解し、購買行動に与える影響について説明できるようになる	設問に対する回答によって評価する。消費者の知覚が商品選択や情報理解に与える影響、商品知識の構造と購買行動へ与える影響などについての理論を理解し、答えられること。	25%
消費者の心理的要因について理解し、購買行動との関わりについて説明できる	設問に対する回答によって評価する。消費者の欲求と動機づけが購買行動に与える影響、商品に対する関与や態度の概念を正確に理解し、情報探索行動や購買行動に与える影響について答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できる	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	消費者行動の定義と基本的な考え方について
2	問題解決としての購買行動	購買行動の考え方と消費者行動のアプローチ方法
3	購買意思決定プロセス	消費者の購買意思決定プロセスについての解説
4	消費者の欲求と動機づけ	欲求が購買行動に与える影響と動機づけの形成
5	知覚のプロセスと特徴	知覚のメカニズムと知覚が消費者行動に与える影響
6	記憶の種類と役割	消費者の記憶の種類と記憶が消費者行動に与える影響
7	知識の種類と役割	消費者の知識の種類と知識が消費者行動に与える影響
8	知識の高低による違い	消費者の商品知識の高低が購買行動に与える影響
9	製品関与と購買への影響	製品関与が商品購入に与える影響
10	購買関与と広告関与	購買関与と広告関与が消費者に与える影響
11	消費者の態度形成	態度概念と購買行動との関わり
12	態度変容と説得	多属性態度モデル、態度変容とコミュニケーション
13	価格の心理	心理的財布、価格判断の状況依存性
14	購買後の心理	満足・不満足が生じ方、購買後評価の影響
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて、資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。
- ◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。
- ◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

消費者行動論Ⅱ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Consumer Behavior II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、購買行動に影響を及ぼす心理的な要因を学ぶとともに、消費者を取り囲む環境要因や状況要因など、消費者行動に影響を与える要因について多面的な視点から解説を行う。また、消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて考察できるようになるとともに、自身の購買行動について理論的に理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者行動に影響を与える環境要因について理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者を取り囲む環境要因である他者や社会が購買行動に与える影響、店舗内環境要因などの影響について理解し、答えられること。	25%
消費者行動のネットによる変化や消費者問題について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。インターネットの普及による消費者行動の変化、消費者問題の現状等を消費者心理とともに理解し、答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できる	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方と授業内容について
2	消費者の個人特性	個人特性による類型論と購買行動への影響
3	消費者のライフスタイル	新製品の普及過程理論とライフスタイルの変化
4	環境要因の影響	環境要因の考え方と環境が消費者行動に与える影響
5	店舗内消費者行動	計画購買と非計画購買、店舗内要因の影響
6	対人的影響(1)	口コミによる購買行動への影響
7	対人的影響(2)	オピニオンリーダー、口コミを利用した企業戦略
8	集団と社会の影響	社会的規範と準拠集団の影響
9	ネット上の購買行動(1)	インターネットの普及による購買行動の変化
10	ネット上の購買行動(2)	インターネットを利用したアプローチと広告戦略
11	カラーの心理と影響(1)	色やデザインが消費者行動に与える影響
12	カラーの心理と影響(2)	色やデザインの戦略的応用について
13	消費者問題(1)	近年の傾向と消費者が巻き込まれやすいトラブル
14	消費者問題(2)	近年の消費者問題対策とトラブル対応
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「消費者行動論Ⅰ」および「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。
- ◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。
- ◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

商業簿記 I	ツルオカ キヨジ 鶴岡 清司
Commercial Bookkeeping I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は企業活動を記録、計算、整理するための技術であり、財務諸表を作成するための手段であるといわれています。本講義では、「入門簿記 I」・「入門簿記 II」の履修を前提とし、応用的な簿記処理を学びます。

各授業は、講義テーマについて、座学の後、教科書についている練習問題を皆さんが解くことで理解を深める形式をとります。

したがって、講義への参加が重要となり、講義内では複数回、提出すべき課題が出されることがあります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商業簿記の意義を理解し、説明できるようにする	設問に対する理解度によって評価します。商業簿記の意義や目的を理解した上で、簿記についての説明が可能であること。	10%
商業簿記の体系を理解する	設問に対する理解度によって評価します。商業簿記のシステム、特に簿記一巡の体系を理解し、説明できるようになること。	10%
商業簿記に関する応用的な知識を習得し、企業活動を理解することができるようになる	設問に対する解答によって評価します。商業簿記の特徴として、株式会社会計を理解するうえで重要な仕訳ができるようになること。	80%
評価の方法	原則、期末試験の評点により判断しますが、平常点（講義への参加姿勢や課題等の提出状況）も加点要素とします。 全講義回数の3分の2以上の出席を成績評価の対象とします。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価の方法について説明します。
2	第1章	株式の発行、剰余金の配当と処分1
3		株式の発行、剰余金の配当と処分2
4	第2章	合併と無形固定資産
5	第3章	法人税等と消費税
6	第4章	商品売買等1
7		商品売買等2
8	第5章	手形と電子記録債権（債務）、その他の債権譲渡1
9		手形と電子記録債権（債務）、その他の債権譲渡2
10	第6章	銀行勘定調整表
11	第7章	固定資産1
12		固定資産2
13	第8章	リース取引
14	総括	今までの授業についての総括をします。
15	達成度の確認	学習達成度の確認テストを実施します。

【使用教材】

- ◇教科書：滝澤ななみ『スッキリわかる日商簿記2級』第14版 TAC出版
- ◇適宜資料等を配布する。

【履修条件等】

- ◇入門簿記Ⅰ・入門簿記Ⅱを履修し単位を修得済みであるか、それと同等以上の簿記の知識を有することを履修の条件とします。
簿記は、段階を踏んで学習をしなければ理解が深まらない分野です。
必ず、ご自身の簿記の知識を考慮して履修するようにしてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教科書には練習問題が付いています。また、講義の際には演習プリントを配布することがありますので、受講者は各自、講義で取り扱った内容について、その都度必ず復習をしてください。
上記の授業計画で進めていきたいと思いますが、受講生の理解度によっては予定が早まること（遅くなること）もありうるため、早めに教科書によく目を通しておいてください。

【その他の注意事項】

- ◇毎回、電卓を用意してください。（スマホの電卓機能は便利ですが、学年末試験や検定試験では使用が認められていないので、別途用意してください。）

商業簿記Ⅱ	ツルオカ キヨジ 鶴岡 清司
Commercial Bookkeeping II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は企業活動を記録、計算、整理するための技術であり、財務諸表を作成するための手段であると言われています。本講義では、「商業簿記Ⅰ」に引き続き、実際の企業活動を意識した、財務諸表作成のための簿記を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商業簿記に関する応用的な知識を習得	設問に対する解答によって評価します。商業簿記の応用的な論点について正しい仕訳ができるようになること。 結実として、財務諸表が作成できるようになること。	80%
簿記を通じて、実際の企業活動に関わる取引の具体例を挙げるができる	設問に対する解答によって評価します。商業簿記の取引を、企業活動として、具体例をもって相手に伝えることができる。	10%
企業活動を理解することができるようになる	設問に対する解答によって評価します。 商業簿記の特徴として、株式会社会計を理解でき、財務諸表が出来上がるまでの流れについて説明できること。	10%
評価の方法	原則、期末試験の評点により判断しますが、平常点（講義への参加姿勢や課題等の提出状況）も加点要素とします。 全講義回数の3分の2以上の出席を成績評価の対象とします。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価の方法について説明します。
2	第9章	研究開発費とソフトウェア
3	第10章	有価証券
4	第11章	引当金
5	第12章	外貨換算会計
6	第13章	税効果会計
7	第14章	精算表と財務諸表 1
8		精算表と財務諸表 2
9	第15章	帳簿の締め切り
10	第16章	本支店会計 1
11		本支店会計 2
12	第17章	連結会計①
13	第18章	連結会計②
14	総括	今までの授業についての総括をします。
15	達成度の確認	学習達成度の確認テストを実施します。

【使用教材】

◇教科書：滝澤ななみ『スッキリわかる日商簿記2級』第14版 TAC出版

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ・入門簿記Ⅱ・商業簿記Ⅰ」を履修し単位を修得済みであるか、それと同等以上の簿記の知識を有することを履修の条件とします。

簿記は、段階を踏んで学習をしなければ理解が深まらない分野です。

必ず、ご自身の簿記の知識を考慮して履修するようにしてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書には練習問題がついております。また講義の際には演習プリントを配布することがありますので、受講者は、各自講義で取り扱った内容について、その都度復習しておいてください。

上記の授業計画で進めていきたいと思いますが、受講生の理解度によっては予定が早まること（遅くなること）もありうるため、早めに教科書によく目を通しておいてください。

【その他の注意事項】

◇毎回、電卓を用意してください。（スマホの電卓機能は便利ですが、学年末試験や検定試験では使用が認められていないので、別途用意してください。）

工業簿記 I	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Industrial Bookkeeping I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、日商簿記3級等で勉強する商業簿記を、商品を自社で製造して販売する活動、つまり工業に当てはめた簿記の形態である、「工業簿記」を重点的に取り扱います。

工業簿記と名は打っていますが、工業簿記は突き詰めて言いますと、製品1個の原価を計算するということになりますので、原価計算と考えて頂いて結構です。

講義は、解説→演習の流れで行い、講義毎のテーマが講義中に理解できるように進めていきます。最終的に、日商簿記2級の工業簿記レベルの知識の習得が目標となります。初めて学習する内容になるかと思しますので、必ず講義中に行う演習を行える方は是非受講ください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
工業簿記に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 商業簿記と工業簿記の違いを理解してください。 特に工業簿記の計算一巡に関する手続きの理解に努めてください。	20%
費目計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 費目別計算を行う意義と製造間接費の配賦処理を理解してください。	20%
部門別計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 部門別計算を行う意義と補助部門費などの配賦処理を理解してください。	20%
製品別計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 製品別計算の意義と財務諸表との連動を理解してください。また、原価集計の視点を変えると様々な原価情報を作成できるということに関する理解が必要です。	40%
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点30%、期末試験60%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 ・ 課題および小テストは、テーマ毎に行うので3回の実施を予定しております。 ・ 貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。 	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	原価と原価計算(1)	原価計算の意義に関して説明
3	原価と原価計算(2)	原価計算の目的に関して説明
4	費目別計算(1)	原価要素の分類測定に関しての説明
5	費目別計算(2)	製造間接費の配賦に関しての説明
6	部門別計算(1)	個別費・共通費の集計に関しての説明
7	部門別計算(2)	補助部門費の配賦に関しての説明
8	部門別計算(3)	部門別計算の総まとめ
9	製品別計算(1)	個別原価計算に関しての説明
10	製品別計算(2)	総合原価計算に関しての説明①
11	製品別計算(3)	総合原価計算に関しての説明②
12	製品別計算(4)	個別と総合の違いに関しての説明
13	製品別計算(5)	製品別計算の総まとめ
14	前期のまとめ	総括
15	前期試験	

【使用教材】

- ◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。
- ◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。
- ◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

- ◇上述した授業概要は、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」と併せて受講することで達成されます。そのため、「工業簿記Ⅰ」と「工業簿記Ⅱ」を連続して受講して頂きたいです。「入門簿記Ⅰ」・「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記3級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇講義中だけでは問題演習をこなすことはできないため、必要に応じて講義終了後に課題を出します。必ず課題を行うようにしてください。。

【その他の注意事項】

- ◇電卓は、PCや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。
- ◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。
- ◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

工業簿記Ⅱ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Industrial Bookkeeping II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、「工業簿記」を重点的に取り扱っており、「工業簿記Ⅰ」の発展的講義となります。「工業簿記Ⅰ」と併せて受講することで日商簿記2級レベルの工業簿記の知識の習得を最終目標としております。また、講義初回に検定重視の講義にするか、会計学の知識とPCスキルがどのように連動するかに焦点を置いた講義にするか選択を行います。多数決で決まりますが、どちらにしても日商簿記2級レベルの知識の習得は実現されますのでご安心ください。会計学をPCで実装する楽しさを体験していただければ幸いです。また、初めて学習する内容になるかと思いますので、必ず講義中に行う演習を行える方は是非受講ください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
標準原価計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 標準原価計算を元にどのように管理活動が行われるかを理解してください。	20%
直接原価計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 直接原価計算の計算手続きに関する基本的な理解をしてください。	20%
CVP分析に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 直接原価計算を応用することで可能になる経営分析があることを理解ください。	20%
工業簿記をPC上で行うために必要なスキルを身につける	講義や検定試験では、会計学は電卓を用いて手書きでやるのが主流となっておりますが、実際に社会に出ると経理などの会計のお仕事はPC上で行うこととなります。企業によっては専門ソフトではなく、自身で会計手続きをPC上に実装することが求められます。その際に有用な知識を身につけてください。	40%
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、課題30%、期末試験60%で評価します。※課題・期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 ・ 課題は、Excel上に工業簿記を実装する課題を出します。講義を聞いていれば簡単な問題となると思います。 ・ 貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。 	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	工業簿記をPC上で行うための確認事項	受講者のPCスキルの確認と、基本的なPCスキルの講習を行います。
3	前期の内容をPC上でやってみる(1)	前期に学習した、費目別・部門別・製品別計算を第2回で学んだ内容を元の実装していきます。
4	前期の内容をPC上でやってみる(2)	簡便的なDBを用いることで第3回の内容をブラッシュアップします。
5	前期の内容をPC上でやってみる(3)	前期の内容をPC上で行うことの総まとめを行います。
6	標準原価計算(1)	基本思考に関する説明とスキーマの構築
7	標準原価計算(2)	原価差異分析を行うために必要なプロシージャ①
8	標準原価計算(3)	原価差異分析を行うために必要なプロシージャ②
9	標準原価計算(4)	Excelで原価計算関連の報告書を作ってみよう
10	標準原価計算(5)	標準原価計算総まとめ
11	直接原価計算(1)	直接原価計算の概要とスキーマ構築
12	直接原価計算(2)	直接原価計算を実装してみる
13	直接原価計算(3)	報告書関連を作ってみる
14	後期試験の説明	当期の総まとめと後期試験
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。
- ◇本講義ではPCを使用します。学務にITルーム活用の申請を出しておきます。
- ◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

- ◇上述した授業概要は、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」と併せて受講することで達成されます。そのため、「工業簿記Ⅰ」と「工業簿記Ⅱ」を連続して受講して頂きたいです。「入門簿記Ⅰ」・「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記3級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「工業簿記Ⅰ」の講義内容を復習しつつ講義に望んで頂けたら幸いです。復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

- ◇電卓は、PCや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。
- ◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。
- ◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

原価計算	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Cost Accounting	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

原価計算とは本来、原価・収益計算といった原価と収益を合わせて考える学問である。つまり、企業の儲けの仕組み(利益構造)を考えることは原価構造を考えるということと同義となり、営利目的の経営活動自体を会計的に知るための必須の専門領域だと言えます。本講義では、原価計算の様々な計算の手法を中心に原価情報作成方法の習得を目的とします。作成された原価情報がどの様に活用されるのかといった点にご興味をお持ちの方は併せて、管理会計の授業を受講することをお勧めします。

講義は、解説→演習の流れで行い、講義毎のテーマが講義中に理解できるよう進めていきます。また、本講義では Excel を用いて演習を行います。そのため、コロナ禍が収まっている場合はITルームで行います。また、ご家庭でも課題ができるように Excel を操作できる端末を有していることが望ましいです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
原価計算の意義に関して理解すること。	設問に対する回答により評価します。 必要な経営活動に関する原価情報を得るためにはどの様な計算手続きを用いればよいか説明できるようになること。	40%
様々な原価計算手法に関して理解すること。	設問に対する回答により評価します。 個別・総合原価計算や標準原価計算などの計算手続きをExcelなどで実装できるようになること。	20%
原価計算を Excel で行うための操作に関する理解	実際の現場ではPCを用いて会計を行うことが一般的であるため、マイクロソフトオフィスソフトである Excel で原価計算を行うために必要な操作を覚えること。	20%
原価に関するデータの応用的な活用に関する理解	原価に関するデータを統計処理することにより原価関数を作りシミュレーションを行うなど、PCを用いるからこそ得ることができる情報を作成できるようになる。	20%
評価の方法 ・ 3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点20%、期末試験70%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 ・ 課題および小テストは、テーマ毎に行うので3回の実施を予定しております。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	原価計算総論	原価計算基準や原価計算の目的などに関して
3	原価の費目別計算	材料費・労務費・経費に関して
4	製造間接費の配賦計算	製造間接費の配賦基準を中心に
5	原価の部門別計算	部門別計算の目的を実現する計算処理に関して
6	個別原価計算	仕損処理を中心に演習を行う
7	総合原価計算(1)	仕損とその配賦に関して
8	総合原価計算(2)	総合原価計算各論、様々な総合原価計算手法に関して
9	標準原価計算(1)	シングル・プラン、パーシャル・プランなど
10	標準原価計算(2)	標準原価差異の会計処理に関して
11	直接原価計算(1)	直接原価計算と全部原価計算の違いに関して
12	直接原価計算(2)	直接標準原価計算と予算実績差異分析に関して
13	直接原価計算(3)	価格決定や最適セールスマックスの決定に関して
14	CVP分析	損益分岐分析や多品種製品のCVP分析などに関して
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇授業ごとにレジュメファイルと Excel ファイルをメーリングリストにて配布し、配布したファイルを教材とします。
- ◇参考図書はガイダンス時に紹介いたします。

【履修条件等】

- ◇「入門簿記Ⅰ」・「入門簿記Ⅱ」や「会計学Ⅰ」・「会計学Ⅱ」を履修していることが望ましいです。
- ◇簡単な Excel 操作を知っていると講義内で行う演習での理解が深まります。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」・「入門簿記Ⅱ」の講義内容の復習、または日商簿記3級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強しつつ講義に望んで頂けたら幸いです。復習に重点を置いてください。
- ◇本学で学習するPCに関する講義内容でとくに Excel 操作に関する復習をしておくとうよいと思います。

【その他の注意事項】

- ◇講義中に詳しく説明します。

経営分析論	サカイリ リヨウ 坂入 遼
Financial Analysis Theory	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

経営分析に必要な資料や情報を見極めて正しく指標を算出し、総合的な分析を行える能力を身につけてもらう。これが本授業の目的である。具体的に本授業では、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の役割をそれぞれ理解するとともに、それら財務3表から各種の指標を導き出して総合的に企業の経営状況を分析するための学習、実践を行う。

企業の経営状況を分析する能力は、金融機関で働く人だけでなく、事業会社で働く多くの人々に求められる。本授業は、そうした必要スキルを身につけるための場となる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 経営分析に使われる資料の役割や指標の意味を理解する	授業中の演習、レポート課題、定期試験によって理解度を評価する。決められた時間内での正確な説明が求められる。	20%
2) 資料を正しく読み込み、分析に必要な指標を算出できるようになる	授業中の演習、レポート課題、定期試験によって到達度を評価する。決められた時間内での正しい指標算定が求められる。	30%
3) 資料から経営に影響する定性的な情報を読み取り、分析に生かせるようになる	授業中の演習、レポート課題、定期試験によって到達度を評価する。決められた時間内で、資料から必要な定性的情報を読み取り、分析に反映することが求められる。	10%
4) 学んだ分析手法を使い、総合的な経営分析をできるようになる	半期の総括として授業内に行う総合演習への取り組み状況、定期試験の結果にもとづき総合的に評価する。定量的、定性的な分析の両方を駆使し、論理的な結果を導くことが求められる。	40%
評価の方法	成績評価に占める割合は、授業中の演習への取組状況・レポート課題の結果が40%、期末の確認テスト（定期試験）の点数が60%である。ただし、出席回数が全回数の3分の2以上であることが、成績評価を受ける条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の全体像・進め方、成績評価方法に関して説明する
2	経営分析の手掛かり	分析に臨む上での基本姿勢を身につける
3	損益計算書 (P/L)	損益計算書 (P/L) の構造を理解する
4	貸借対照表 (B/S)	貸借対照表 (B/S) の構造を理解する
5	キャッシュフローとは	キャッシュフロー計算書の構造を理解する
6	収益性の分析	企業の収益性を評価するための指標について学ぶ
7	損益分岐点分析	利益の確保に必要な売上高を算出する方法などを学ぶ
8	生産性の分析	企業の生産性を評価するための指標について学ぶ
9	成長性の分析	企業の成長を評価するための分析手法を学ぶ
10	安全性の分析	企業の安全性を評価するための指標について学ぶ
11	キャッシュフロー分析	現金の動きに着目して事業の持続性を評価する手法を学ぶ
12	定性的な分析	数字以外の情報を分析に生かす姿勢を学ぶ
13	総合演習(1)	学習した内容を踏まえて実践にあたる
14	総合演習(2)	学習した内容を踏まえて実践にあたる
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇未定。教科書を使用する場合は、開講時にお知らせする。

【履修条件等】

◇履修に先立って、簿記や会計学の学習をすでに進めていることが求められる。

◇授業では、受講生にさまざまな計算を実施してもらうこととなる。そのため、筆記用具、ノート等の紙媒体、電卓を持参すること。

◇携帯電話やスマートフォン、タブレット端末などでの電卓の使用は、本授業では認めない。電卓は、12桁以上を表示可能なもので、かつ、印刷機能、音声機能、プログラム機能、辞書機能のないものを持参すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇レポート課題について前もって告知する。締切を守って提出すること。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。その他、授業態度は成績に影響することとなる。

財務諸表論	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Financial-Statements Theory	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、税理士や公認会計士の試験科目である「財務諸表論」の基本的な考え方を習得するために、各会計基準の背景にある会計原則や会計理論について学ぶ。したがって財務会計の全般的な知識を有している学生を対象としており、その内容は発展的なものであることに留意が必要である。各テーマについて、テキストを中心に講義形式で解説を行う。必要に応じてレジュメを配布する予定である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務3表の意義と内容を理解している	設問に対する回答によって評価。財務諸表の役割および国政を理解していること。また、その各財務諸表に記載される会計情報について、それらが示す意味を理解していること。	20%
会計を行う上での前提条件や諸概念について理解し、説明できる	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義といった内容を説明できること。	40%
会計基準や、会計手続きとその背景にある会計理論について説明できる	設問に対する回答によって評価。各種会計基準の理論的意義、	40%
評価の方法 授業への貢献度30%、本試験70%。「出席点」は設定しない。 ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法、財務諸表論の学び方
2	会計公準および一般原則	会計の目的、静態論と動態論、会計公準、企業会計原則
3	概念フレームワーク	資産負債アプローチと収益費用アプローチ、包括利益と純利益、
4	資産会計（1）	資産の意義と資産概念、資産の分類と評価、有価証券の評価、固定資産の減損
5	資産会計（2）	金銭債権と貸倒れの見積り、棚卸資産の原価配分、固定資産の原価配分、
6	資産会計（3）	無形固定資産の意義、のれんの取得と評価、ソフトウェアと研究開発費会計、繰延資産の意義
7	負債および純資産会計	負債の概念、負債の分類、引当金の意義と要件、純資産の概念と内訳、留保利益と剰余金の配当、自己株式
8	小テスト	第1回から第7回の小括
9	損益会計および財務諸表	3つの損益計算、発生原則・実現原則・対応原則、収益の認識基準、財務諸表の体系、財務諸表の作成原則
10	金融商品会計	金融商品の意義、デリバティブ取引、ヘッジ会計
11	減損会計	減損会計導入の背景、減損損失の認識と測定、共用資産の取扱い、のれんの取扱い
12	資産除去債務、退職給付会計	資産除去債務の意義と会計処理、引当処理との相違点、退職給付制度と会計手続き
13	連結会計	連結決算の意義、連結の範囲、連結財務諸表の作成
14	企業結合会計	組織再編、株式譲渡、事業譲渡、合併の処理、事業分割
15	総括・達成度の確認	授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

- ◇教科書：岩崎建久・平石智紀著『レクチャー財務諸表論』
- ◇参考書：田中弘著『財務諸表論の考え方—会計基準の背景と論点—』税務経理協会
- ◇参考書：田中弘著『新財務諸表論』税務経理協会、など

【履修条件等】

- ◇「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」、「財務会計論Ⅰ」および「財務会計論Ⅱ」をすでに履修済みであることを条件とする。また、本講義には日商簿記2級程度の簿記の知識を要する。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」、「財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」の復習をしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

租税概論 I	ミセキ キミオ 三関 公雄
Tax Introduction I	応用科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

生活の中に身近に存在するけれども、普段見過ごされている税金について興味を持っており、この機会に学んでみたいという方やこれから税の専門家を目指したいけれどもほとんど税について知識を持っていない方達を対象にして、租税法を体系的に学んでいける内容にしていきたいと考えています。とくに「租税概論 I」では、所得税と法人税の基本的な事項に関して理解を得ることを目標とします。

講義の中では、適宜教材を配布して理解度のアップに努めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
租税法の基本原則の理解	租税法の根底にある基本的な原則や法体系について理解する。 設問により評価する。	30%
所得税の基礎的知識の習得	所得税の基本的な考え方について理解する。 簡単な計算問題又は設問により評価する。	35%
法人税の基礎的知識の習得	法人税の基本的な考え方について理解する。 簡単な計算問題又は設問により評価する。	35%
評価の方法	受講状況と毎回行う試験結果により総合的に評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政の仕組みと役割
2	租税の意義	わが国における租税の発達、租税法の基本原則
3	租税法の体系	租税の分類、租税に関する述語、税法の法体系
4	税務行政の概要	税務行政、申告納税制度、納税者の権利救済
5	所得税(1)	所得税の基礎、所得の概念
6	所得税(2)	所得の分類
7	所得税(3)	所得の分類
8	所得税(4)	所得控除
9	所得税(5)	所得控除、課税所得の計算
10	法人税(1)	法人税の基礎、法人の概念
11	法人税(2)	法人税の益金概念、法人税と企業会計の相違点
12	法人税(3)	法人税の損益概念、法人税と企業会計の相違点
13	法人税(4)	法人税の損金概念、法人税と企業会計の相違点
14	法人税(5)	申告調整、課税所得の計算
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。必要に応じて教材を配布します。
- ◇参考書：イントロダクションの時に紹介します。

【履修条件等】

- ◇とくにありませんが、財務会計の知識があれば、理解し易いと考えます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に教材を読み、理解できない点をチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

- ◇教材等は、Course Powerに掲載します。

租税概論Ⅱ	ミセキ キミオ 三関 公雄
Tax Introduction II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

生活の中に身近に存在するけれども、普段見過ごされている税金について興味を持っており、この機会に学んでみたいという方やこれから税の専門家を目指したいけれどもほとんど税について知識を持っていない方達を対象にして租税法を体系的に学んでいける内容にしていきたいと考えています。とくに「租税概論Ⅱ」では、「租税概論Ⅰ」で学んだ所得税と法人税以外の税金の分野やシステムについて学んでいくことを目標とします。

講義の中では、適宜教材を配布して理解度のアップに努めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
相続税・贈与税の基礎的知識の習得	相続税・贈与税の概要を理解する。 設問により評価する。	50%
消費税の基礎的知識の習得	消費税の計算構造や概要について理解する。 設問により評価する。	50%
評価の方法 受講状況と毎回行う試験結果により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
2	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
3	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
4	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
5	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
6	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
7	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
8	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
9	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
10	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
11	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
12	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
13	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
14	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。必要に応じて教材を配布します。
- ◇参考書：イントロダクションの時に紹介します。

【履修条件等】

- ◇「租税概論Ⅰ」を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教材を読み、理解できない点をチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

- ◇教材等は、Course Powerに掲載します。

税務会計論 I	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Theory of Tax Accounting I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

税務会計は、租税法、会計学および財政学にまたがる、きわめて広範囲な領域を占める学問である。また、税務会計は、税を徴収する政府の視点ではなく、納税者である国民・企業の視点に立脚した「あるべき租税体系」を会計的アプローチに沿って探求する学問である。

講義では、当該会計的アプローチに従いながら「租税のあるべき姿」を探求する上で、問題となる論点を発見し、当該論点を解決していく素養を会得することを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	税務会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	税務会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	税務会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション 1	税務会計の概要等についての講義
2	税務会計の概要	税務会計の意義
3	租税と会計	税法と会計の関係性について
4	税務会計の種類	所得税務会計、財産税務会計、消費税務会計
5	税務会計の機能と実態	税務会計の機能・役割・実態
6	税務会計学	税務会計学の研究領域・学問的使命
7	税務会計の基礎理論(1)	税務会計の課題と役割
8	税務会計の基礎理論(2)	課税所得概念
9	税務会計の基礎理論(3)	税務会計に関する基準
10	課税所得の計算(1)	課税所得計算の通則
11	課税所得の計算(2)	課税所得計算の個別計算
12	課税所得の計算(3)	課税所得計算の基本構造
13	課税所得の計算(4)	申告書について その1
14	課税所得の計算(5)	申告書について その2
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇1年次に「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」を履修していることが望ましい。また、会計全般に対する基本的な知識をひと通り会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

税務会計論Ⅱ	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Theory of Tax Accounting II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

税務会計は、租税法、会計学および財政学にまたがる、きわめて広範囲な領域を占める学問である。また、税務会計は、税を徴収する政府の視点ではなく、納税者である国民・企業の視点に立脚した「あるべき租税体系」を会計的アプローチに沿って探求する学問である。

講義では、「税務会計論Ⅰ」で修得した税務会計総論の知識をもとに、典型的な各論の問題を取り上げる。各テーマでは、各人が実際に手を動かして、税法の趣旨に沿った計算に取り組み、税額算定のプロセスを理解することを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	税務会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	税務会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	税務会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	税務収益会計(1)	販売収益
2	税務収益会計(2)	役務収益
3	税務収益会計(3)	請負収益
4	税務収益会計(4)	譲渡収益
5	税務収益会計(5)	受取配当等
6	税務収益会計(6)	受贈益・債務免除益
7	税務収益会計(7)	受取利息他
8	税務収益会計(8)	給与
9	税務収益会計(9)	交際費等
10	税務収益会計(10)	販促費
11	税務収益会計(11)	寄付金
12	税務収益会計(12)	租税公課他
13	税務資産会計(1)	有価証券・棚卸資産・固定資産
14	税務資産会計(2)	その他資産
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇「税務会計論Ⅰ」を履修していることが望ましい。また、会計全般に対して応用的判断ができることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

法人税	タナカ トシヒサ 田中 俊久
Corporation Tax Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の経済社会では、法人形態での活動がその中心的な役割を担っています。法人が利益追求のため経済活動を行うにあたって、どのような租税負担を負うことになるのかを知ることは、ビジネスを行う上で極めて重要です。法人税では、法人に対する申告納税のしくみについて、身近に生じている課税問題等を通じながら、基本的な理解を得ることを目標とします。

講義では、簡単な設例等をあげて解説するなど、わかりやすく授業を進めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法人税の基礎的な知識の習得	法人税制における基礎的なしくみ、個人課税との違い、企業会計と税務会計、納税義務者について理解する。	25%
法人税における所得計算の理解	法人税に関する益金、損金について学ぶとともに、それぞれについての別段の定めを理解する。また、同族会社と中小企業税制、法人税の申告と納付までの流れを理解する。	60%
わが国の国際課税の基本的なしくみの理解	企業が海外へ進出した際のCFC税制のしくみや外国の企業が日本で活動した際に生じる外国法人税制などについて、その概要を理解する。	15%
評価の方法 講義への3分の2以上の出席を前提として、試験70%、受講態度などの授業への貢献度30%として、評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	法人税の概要
2	法人税の基礎	法人税の特色、個人課税との相違、納税義務者
3	法人所得の計算	法人の所得、企業会計と税務会計
4	益金(1)	益金の規定の構造、資産の販売等
5	益金(2)	無償取引
6	益金(3)	受取配当、評価益
7	損金(1)	損金の規定の構造、原価、費用
8	損金(2)	損失、資本等取引との区別
9	損金(3)	役員給与
10	損金(4)	寄附金、交際費
11	同族会社	同族会社の概要、中小企業税制
12	法人税申告	法人税の所得計算、税額計算
13	国際課税(1)	CFC税制、移転価格税制
14	国際課税(2)	租税条約、外国法人課税
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書は使用しません。講義で使う資料は、CoursePowerを通じて電子データで配布します。また、必要に応じて教室でプリントを配布します。

◇参考書：初回に示します。

【履修条件等】

◇法律の知識は問いませんが、財務会計の知識があれば、一層の理解が進むものと考えます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の講義資料は、事前にCourse Powerを通じて配布しますので、次回の授業に関する予習をお願いします。

【その他の注意事項】

◇講義資料や配布プリントを忘れずに、持参してください。

法人税	ワガツマ ジュンコ 我妻 純子
Corporation Tax Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

近時は、法人が利益追求の経済活動を行うにあたって、どれだけ租税負担があるかを考えることは避けられない状況になっています。さらに、グローバル化が進む中で、国境を越えて活動する法人・企業グループに対する課税が各国共通の問題にもなっています。

本講義では、以上のような状況にある法人に対する課税の問題を理解するためにも必要となる基礎知識が得られるように、わかりやすい講義を進めたいと考えております。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法人税の基礎的知識の習得	企業課税と個人課税の違い、企業会計と租税法会計、納税義務者について理解する。	30%
法人所得の計算の理解	益金、損金、それぞれについての別段の定めを理解する。	40%
法人株主間、法人相互間の取引に対する課税の理解	出資と分配、関連当事会社間の取引に関する課税制度の概要を理解する。また、外国親会社・外国子会社が関わる税制についても理解する。	30%
評価の方法 試験60%、授業態度40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	法人税法の概要	沿革、法人税法の構成
2	法人税の基礎	法人税の特色、個人課税との相違、納税義務者
3	法人所得の計算	法人の所得、企業会計と租税法会計
4	益金(1)	益金の規定の構造、資産の販売等
5	益金(2)	無償取引
6	損金(1)	損金の規定の構造、原価、費用
7	損金(2)	損失、資本等取引との区別
8	別段の定め(1)	収益認識の基準、受取配当、評価益、還付金
9	別段の定め(2)	役員給与
10	別段の定め(3)	寄附金、交際費
11	法人株主間取引(1)	出資
12	法人株主間取引(2)	分配
13	法人税制度の各論(1)	組織再編税制、グループ法人税制
14	法人税制度の各論(2)	国際取引と課税
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず、資料をコースパワーで配信します。
- ◇参考書：初回に示します。

【履修条件等】

- ◇法律の知識は問いませんが、法人税法に興味を持っていることを望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業の最後に次回の予告をしますので、該当箇所について確認してきてください。

【その他の注意事項】

- ◇配信した資料はすべて毎回手元に用意しておいてください。

所得税	タナカ トシヒサ 田中 俊久
Income Tax Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

所得税は、個人が得た所得に対して生じる税金で、個人の生活に密接に関係しています。どのような場合に所得税の納税義務が生じるかを知っておくことは、大切です。所得税の特色として、近年では4千万人を超える給与所得者が源泉徴収により所得税を納付していたり、2千万人を超える納税者が確定申告をしていたりと、人々の関心がとりわけ高い税金です。

講義では、簡単な設例等をあげて解説するなど、わかりやすく授業を進めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
所得税の基礎的な知識の習得	所得税の対象となる所得の概念や納税義務者について理解するとともに、給与所得や事業所得をはじめとする所得分類について学習する。	50%
所得計算の通則と税額算出の理解	収入金額と費用控除、所得の帰属、所得控除および所得税額算出の手順について理解する。	30%
所得税額の確定手続き、不服申立手続きの理解	所得税にかかわる税額確定手続き、修正手続きを理解するとともに、不服申立制度について学習する。	20%
評価の方法	講義への3分の2以上の出席を前提として、試験70%、受講態度などの授業への貢献度30%として、評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	所得税の概要
2	所得税の基礎	所得の概念、納税義務者
3	所得分類(1)	利子所得、配当所得
4	所得分類(2)	譲渡所得、山林所得
5	所得分類(3)	給与所得、退職所得
6	所得分類(4)	不動産所得、一時所得
7	所得分類(5)	事業所得、雑所得
8	所得計算の通則(1)	収入金額、課税のタイミング、所得の人的帰属
9	所得計算の通則(2)	必要経費、費用控除のタイミング、損失の扱い
10	所得税額の計算(1)	所得控除
11	所得税額の計算(2)	税率表の適用、税額計算の通則
12	所得税に関する手続	確定申告(給与所得者)、e-tax
13	所得税に関する手続	確定申告(事業者)、青色申告制度、決算書の作成
14	所得税に関する手続	税務調査、不服申立て、租税訴訟
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書は使用しません。講義で使う資料は、CoursePowerを通じて電子データで配布します。また、必要に応じて教室でプリントを配布します。

◇参考書：初回に示します。

【履修条件等】

◇法律の知識は問いませんが、「租税概論Ⅰ」を併せて受講するか、受講済であれば、理解が一層進むものと考えます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の講義資料は、事前にCourse Powerを通じて配布しますので、次回の授業に関する予習をお願いします。

【その他の注意事項】

◇配布プリントを忘れずに、持参してください。

所得税	ワガツマ ジュンコ 我妻 純子
Income Tax Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

所得税は、個人の生活に密接に関係している租税であり、どういうときにどのような課税がなされるのかを知っておくことは大切です。しかし、所得税について定めている所得税法を理解することは難しいといわれています。その理由としては、普段使わないような用語や、言い回しがみられること、法的思考に基づいて解釈する必要があることなどが挙げられます。

本講義では、法律の観点から見た所得税について、できるだけわかりやすい講義をしたいと考えております。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
所得税の基礎的知識の習得	所得の概念、納税義務者および所得分類について理解する。	50%
所得計算の通則と税額算出の手順の理解	収入金額と費用控除、所得の年度帰属および所得控除について理解する。	30%
所得税にかかわる手続の理解と判例の読み方の習得	税額確定手続、修正手続、源泉徴収制度および不服申立制度について理解するとともに、納税者と課税庁の争いに対する裁判所の判断の読み方を習得する。	20%
評価の方法 試験60%、授業態度40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	所得税法の概要	沿革、租税法の基本原則、
2	所得税の基礎	所得の概念、納税義務者
3	所得分類(1)	利子所得、配当所得
4	所得分類(2)	譲渡所得
5	所得分類(3)	給与所得、退職所得
6	所得分類(4)	事業所得、雑所得
7	所得分類(5)	不動産所得、一時所得、所得分類のまとめ
8	所得計算の通則(1)	収入金額、課税のタイミング
9	所得計算の通則(2)	必要経費、損失の扱い、費用控除のタイミング
10	所得計算の通則(3)	所得控除
11	手続法(1)	税額確定手続、修正手続、源泉徴収制度
12	手続法(2)	徴収手続、不服の申立て、租税訴訟
13	総合(1)	所得分類のまとめ
14	総合(2)	所得計算の通則のまとめ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず、資料をコースパワーに配信します。
- ◇参考書：初回に示します。

【履修条件等】

- ◇法律の知識は問いませんが、所得税法に興味を持っていることを望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業の最後に次回の予告をしますので、該当箇所について予習してきてください。

【その他の注意事項】

- ◇配信した資料はすべて毎回手元に用意しておいてください。

論文指導（卒業論文）	
Senior Thesis	応用科目／通年／2単位

【授業概要】

連続演習の研究の総まとめとしての卒業論文作成の指導を行う。

演習の学習過程で得られたテーマを卒業論文として完成させるため、資料・文献の検索から仮説構築や論理構成、論文形式での執筆などを個別に指導する。

1、2週間に1回程度、オフィス・アワーの時間帯に指導する。

【使用教材】

◇教科書：必要に応じて指示する。

◇参考書：必要に応じて指示する。

【評価方法】

◇論文執筆過程の努力および完成した卒業論文により評価する。

論文は20,000字（400字詰原稿用紙50枚）以上。

【履修条件・提出締切日】

◇連続演習の担当者が履修を認め、2・3年次（3年次編入生は3年次のみ）に「専門演習Ⅰ」の単位を修得したもの。

提出締切日：2023年1月13日（金） 15:00まで

提出先：学務部

【授業計画】

<春学期>

1. 卒業論文の作成概要指導
2. 各自のテーマ決定の確認・助言
3. 論文の形式、構成の指導
4. テーマに関する資料・情報の収集法指導
5. 論文作成（中間）の指導
6. 中間発表

<秋学期>

1. 夏期休暇中の研究成果の確認
2. 論文完成に向けての指導
3. 最新のデータとの照合
4. 論文要旨に対するディスカッション
5. 論文の完成・最終稿のチェック
6. 卒業論文発表会

簿記技能 I (日商 3 級)	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Bookkeeping I	応用科目 / 集中 / 2 単位

【授業概要】

本講義は、2022・2023年度日商簿記3級、6月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「入門簿記Ⅰ」・「入門簿記Ⅱ」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記3級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、及び素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行います。次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問1から問5までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること。	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
試算表に関して理解すること。	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
精算表に関して理解すること。	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
評価の方法 ・ 3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、期末試験90%で評価します。 ※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 ・ 貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。		

【授業計画】

回	日程	テーマ	内 容
1		問 1 対策講座	仕訳問題全般で、とくに注意が必要な仕訳に関して
2		問 2 対策講座	補助簿全般の解き方、T字勘定を使った解答法
3		問 3 対策講座	試算表全般の解き方
4		問 4 対策講座	伝票などの解き方
5		問 5 対策講座	精算表および財務諸表問題の解き方
6		問 1 問題演習	問 1 問題の演習徹底的にやります
7		問 2 問題演習	問 2 問題の演習徹底的にやります
8		問 3 問題演習	問 3 問題の演習徹底的にやります
9		問 4 問題演習	問 4 問題の演習徹底的にやります
10		問 5 問題演習	問5問題の演習徹底的にやります
11		過去問演習(1)	過去問は最低3年分はする必要があるので内1回を
12		過去問演習(2)	過去問は最低3年分はする必要があるので内1回を
13		予想問題演習	今回の6月試験に出そうな予想問題を演習
14		検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応
15		予備	スラック

* 授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」・「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記3級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

◇2022年度6月期に日商簿記検定三級を受験する方の履修をお待ちしております。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、PCや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記3級6月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。また、講義はオフィスアワー時間帯（16：30～）に行います。時間帯にご注意ください。

簿記技能Ⅱ（日商2級）	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Bookkeeping II	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

本講義は、2022・2023年度日商簿記2級、11月・2月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「商業簿記Ⅰ」・「商業簿記Ⅱ」および「工業簿記Ⅰ」・「工業簿記Ⅱ」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記2級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、及び素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行います。次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

2016年度から日商簿記2級の出題範囲が変更され、例年より難化する可能性が考えられます。出題変異の変更点等含めしっかり学習していきましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解すること	検定試験の問1から問5までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
原価計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 日商簿記2級は原価計算が分かればほぼ合格は間違いないと言えます。しっかりと勉強しましょう。	30%
精算表等に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 とくに本支店会計は慣れが必要です。よく理解しましょう。	30%
<p>評価の方法 ・3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、期末試験90%で評価します。 ※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 ・貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。</p>		

【授業計画】

回	日程	テーマ	内容
1		問1対策講座	仕訳問題全般で、とくに注意が必要な仕訳に関して
2		問2対策講座	特殊仕訳帳や伝票会計に関する解法
3		問3対策講座	精算表・本支店会計に関する解法
4		問4対策講座	費目別・部門別計算を中心とした解法
5		問5対策講座	総合原価計算・標準原価計算の解法
6		問1問題演習	問1問題の演習徹底的にやります
7		問2問題演習	問2問題の演習徹底的にやります
8		問3問題演習	問3問題の演習徹底的にやります
9		問4問題演習	問4問題の演習徹底的にやります
10		問5問題演習	問5問題の演習徹底的にやります
11		過去問演習(1)	過去問は最低3年分はする必要があるので内1回を
12		過去問演習(2)	過去問は最低3年分はする必要があるので内1回を
13		予想問題演習	今回の11月試験に出そうな予想問題を演習
14		検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応
15		検定試験後解説	今回の検定試験の解説

* 授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

- ◇ 授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。
- ◇ 本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

- ◇ 「商業簿記Ⅰ」・「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」・「工業簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記2級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。全く知識のないままの受講は控えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

- ◇ 電卓は、PCや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いしません。※とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記2級11月・2月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。
また、講義はオフィスアワー時間帯（16：30～）に行います。時間帯にご注意ください。



東京富士大学

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-1

入 試 広 報 部 TEL 03-3368-0351

キ ャ リ ア 支 援 部 TEL 03-3362-8479

学 生 支 援 部

学生支援担当 TEL 03-3362-2252

留学生担当 TEL 03-3368-1761

学 務 部

学務課 TEL 03-3368-2154

図書館 TEL 03-3368-8826